

講義概要・授業計画

令和4年度
(2022)

高野山大学

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和4年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

総 目 次

文学部・別科	1
シラバスを活用しよう!	2
履修登録と見方	3
◆目次について	
◆講義コードについて	
◆受講登録について	
◆出席票について	
◆報恩日(21日)の授業実施について	
◆GPAについて	
◆科目ナンバリングについて	
◆シラバス「他」欄について	
◆遠隔授業について	
入学から卒業までの履修について	
密教学科(2022年度からの入学生用)	8
◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)	
◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)	
◆必修科目◆選択科目◆自由科目	
カリキュラムマップ	
密教学科(2019年度から2021年度までの入学生用)	10
◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)	
◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)	
◆必修科目◆選択科目◆自由科目	
カリキュラムマップ	
僧侶実力養成プログラム	
人間学科	13
◆卒業認定・学位授与に関する方針(人間学科ディプロマ・ポリシー DP)	
◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)	
◆必修科目◆選択科目	
カリキュラムマップ	
科目目次	16
R4から文学部 密教学科	16
R3から文学部 密教学科	19
H31から文学部 密教学科	24
H31から文学部 人間学科	31
別 科	38
講義概要・授業計画	39
文学部	
別 科	
大学院	341
講義概要・授業計画	347
教員別索引(50音順)	395

文 学 部
别 科

シラバスを活用しよう！

副学長（密教）

この『高野山大学・大学院 講義概要・授業計画 令和4年度』は一般にシラバス（syllabus）と呼ばれています（以下、「シラバス」）。シラバスには今年度の高野山大学の文学部密教学科と人間学科で開講されるすべての科目に関する情報（授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点など）がコンパクトにまとめられています。シラバスは、今年度1年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度1年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切に、学修に役立ててください。

本学は、2019年度からGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。GPAについては後のページに載せてありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員にたずねてください。とても大事なことですから、よく理解をしてください。

また本学は、2019年度から新しいカリキュラムを導入しました。また、2022年度からは密教学科の中に従来密教学科を継承する密教学コースと、国際的視点から日本文化を学ぶ留学生のための日本文化コースを設けました。提供しているカリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するように設計されていることは、これまで通りです。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、様々な問題を抱える現代社会で活かしていける力を持った社会人のことです。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そういう人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められ、さらに語学力も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっていきます。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人、公務員を目指す人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業・公務員を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

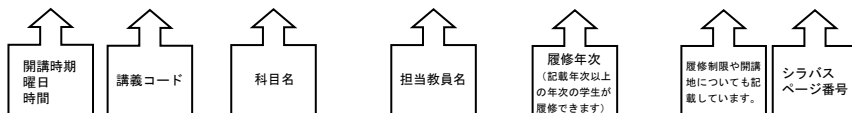
みなさんの健闘を期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

この『令和4年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	科目名	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添田 隆昭	2	1年次	—		1



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

5 2 1 0 2

5	2	1	0	2		
課程	曜日	時限	通し番号			
5 = 密教・人間学科共通	1 = 月曜日	1 = 1 講時	01 ~ 25 = 前期授業 おおよび通年授業 (高野山)			
6 = 教育学科	2 = 火曜日	2 = 2 講時				
8 = 別科生用	3 = 水曜日	3 = 3 講時				
9 = 大学院生用	4 = 木曜日	4 = 4 講時			26 ~ 49 = 前期授業 おおよび通年授業 (難波)	
	5 = 金曜日	5 = 5 講時				
	6 = 土曜日	6 = 6 講時				
	7 = 集中講義	7 = 7 講時			51 ~ 75 = 後期授業 (高野山)	
	8 = 実習					
	9 = 論文					

◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月11日(月)から4月18日(月)午後5時までに学務課教務係へ提出してください。
 - 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
 - ① 学籍番号(※身分証明書を参照)・氏名・所属学科・学年を記入してください。
 - ② 履修登録欄には、今年度受講するすべての授業科目を、『令和4年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名(卒業論文も含む)を記入してください。
- ※1年間に履修登録できるのは自由科目を除き50単位までです。
- 3 履修登録票を学務課教務係へ提出した学生は、4月25日(月)から4月28日(木)午後5時までに、学務課教務係で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。
この時に学生証(身分証明書)が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、学務課教務係へ提出してください。
 - 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
 - 5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月31日(火)まで、後期は10月31日(月)まで受け付けますので学務課教務係に申し出てください。(※ただし、一部の科目は履修取り消しができません。)
※論文を提出しなかった学生は、前期は7月末までに、後期は1月末までに必ず学務課教務係まで取り消しにきてください。
 - 6 後期(9月26日開講)授業科目の追加及び登録変更は、9月26日(月)から9月30日(金)午後5時までの後期履修登録変更期間に、学務課教務係へ申し出てください。ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999)になりますので留意してください。

◆報恩日(21日)の授業実施について

報恩日(21日)は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆GPAについて

1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことであります。

2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

3 対象

平成31年度入学生から対象となります。また3年次編入学生は令和3年度入学生からとなります。

4 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$GPA = \frac{\text{（履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

5 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

6 履修取り消し

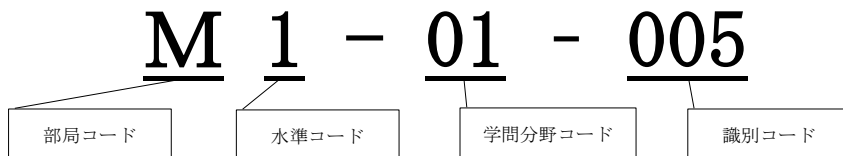
前期は5月31日（火）まで、後期は10月31日（月）までと履修取消期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続きを行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

※論文を提出しなかった学生は、**前期は7月末までに、後期は1月末まで**に必ず学務課教務係まで取り消しにきてください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

<高野山大学科目ナンバリングの形式>



<各コードの定義について>

1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

<部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。授業ではスマートフォンを利用した理解度把握システムを使用します。スマートフォンを必ず持ってきてください。また、持っていない学生は学務課教務係まで申し出てください。

◆遠隔授業について

授業の中には多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で行うものもあります。そのような授業科目には科目名の最後に、授業形態の略名が入っています。主な授業形態には、以下のものがあります。これらの授業は原則社会人学生（入学時に25歳以上の学生）のみ受講ができます。

授業形態	略名	解説
対面＋ライブ配信	HF	教室での授業をライブ配信する授業。対面・ライブ配信のどちらに参加してもよい
ライブ配信のみ	LS	ライブ配信の授業
オンデマンド	OD	学習管理システム（LMS）上でのみの授業（LMSの動画や資料で学習する）

入学から卒業までの履修について(密教学科) (2022 年度の入学生用)

◆卒業認定・学位授与に関する方針 (密教学科ディプロマ・ポリシー DP)

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2. 体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3. 真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4. 日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5. 現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

文学部密教学科では、卒業するためには 124 単位以上を取得する必要があります (履修規程第 3 条)。

密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計 64 単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から 60 単位を取得する必要があります。ただし、1 年間に履修できるのは 50 単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度の GPA が 3.0 以上の人は 58 単位まで履修可能です。)

密教学科の学生は、必修科目 64 単位と選択科目 60 単位の合計 124 単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

教養科目 36 単位	密教学科 コース	日本文化 コース	応用科目 28 単位	密教学科 コース	日本文化 コース
建学の精神科目	2 単位	2 単位	講 読	4 単位	0 単位
導入科目	2 単位	0 単位	キャリア科目	0 単位	4 単位
語学科目	6 単位	6 単位	特殊講義	4 単位	4 単位
基礎ゼミ	4 単位	4 単位	講読演習	4 単位	4 単位
教養基礎科目	6 単位	8 単位	演 習	8 単位	8 単位
キャリア科目	4 単位	8 単位	卒業論文	4 単位	4 単位
講 義	4 単位	4 単位		必修科目合計	64 単位
基礎科目	0 単位	0 単位		選択科目合計	60 単位
講 読	4 単位	4 単位		合 計	124 単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が 2 回生以上と指定されている科目は、1 回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず 64 単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択できるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を 64 単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの選択科目 60 単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目 (一部) を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2022年度からの入学生用）

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次		
	科目名	密教学	日本文	科目名	密教学	日本文	科目名	密教学	日本文	科目名	密教学	日本文
建学の精神科目	空海の思想入門	◎	◎									
導入科目	導入研修	◎	○									
語学科目	英語Ⅰ	◎	○									
				英語Ⅱ	◎	○						
	漢文	○	○									
	サンスクリット語	○	○									
	日本語	—	◎									
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	◎	◎									
教養基礎科目	常用経典	◎	○									
	声明	○	○									
	法式	○	○									
	布教	○	○									
	漢字Ⅰ	○	○									
	かなⅠ	○	○									
	梵字悉曇	○	○									
	伝統文化	○	○									
	宗教芸能	○	○									
	加行Ⅰ	○	○									
	加行Ⅱ	○	○									
	宗教思想Ⅰ	○	○									
	宗教思想Ⅱ	○	○									
	哲学	○	○									
	心理学Ⅰ	○	○									
心理学Ⅱ	○	○										
情報処理	○	○										
日本文化	—	○										
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	◎	◎									
	キャリアデザインⅡ	◎	◎									
講義				密教学概論	○	○						
				仏教学概論	○	○						
				密教史概説	○	○						
				仏教史概説	○	○						
基礎科目				歴史学	○	○						
				宗教学Ⅰ	○	○						
				宗教学Ⅱ	○	○						
				宗教史Ⅰ	○	○						
			宗教史Ⅱ	○	○							
講読			祖典講読Ⅰ	◎	◎							
キャリア科目				キャリアデザインⅢ	○	◎						
				キャリアデザインⅣ	○	◎						
講読						祖典講読Ⅱ	○	○				
						宗典講読	○	○				
キャリア科目						キャリアデザインⅤ	○	◎				
						キャリアデザインⅥ	○	◎				
特殊講義						密教学特別講義	○	○				
						仏教学特別講義	○	○				
						真言密教特別講義	○	○				
講読演習						密教学講読演習	○	○				
						仏教学講読演習	○	○				
						真言密教講読演習	○	○				
演習						密教学演習	◎	◎	密教学演習	◎	◎	
卒業論文									密教学科卒業論文	◎	○	
									密教学科卒業研究	—	○	
選択科目												

※◎は必修、○は選択必修、—は履修不可

入学から卒業までの履修について(密教学科) (2019年から2021年度の入学生用)

◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2. 体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3. 真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4. 日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5. 現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります(履修規程第3条)。

密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。(自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。)

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	基礎科目	4単位	特殊講義	4単位
導入科目	2単位	実技科目	10単位	講読演習	4単位
語学科目	6単位	講読	8単位	演習	8単位
基礎ゼミ	4単位	実習	4単位	卒業論文	8単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず64単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を64単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの60単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目(一部)を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2019年度からの入学生用）

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語 I	英語 II		
	漢文 ※1科目選択 サンスクリット語			
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ ※2科目受講			
基礎科目		密教学概論		
		仏教学概論	※2科目選択	
		密教史概説		
		仏教史概説		
実技科目	常用経典			
	声明			
	法式			
	布教			
	漢字 I ※1科目選択			
	かな I			
講読		祖典講読 I	祖典講読 II ※1科目選択	
			宗典講読	
実習	加行 I ※春期休業中	加行 II ※夏期休業中		
	ボランティア	※4単位選択		
	巡礼・遍路			
特殊講義			密教学特殊講義	
			仏教学特殊講義 ※2科目選択	
			真言密教特殊講義	
講読演習			密教学講読演習	
			仏教学講読演習 ※2科目選択	
			真言密教講読演習	
演習			密教学演習	密教学演習
卒業論文				密教学科卒業論文
選択科目				

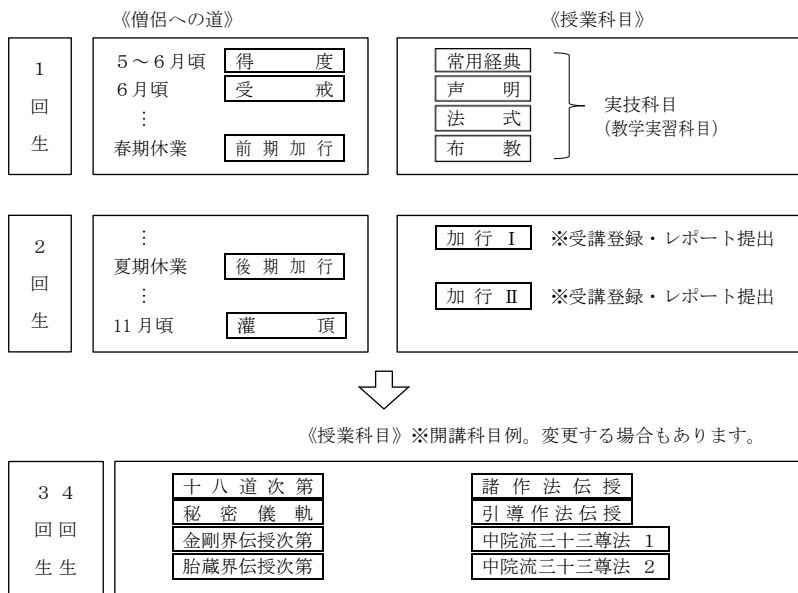
僧侶実力養成プログラム（2019年度からの入学生用）

密教学科主任

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、2回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

<モデルケース>



2年次において高野山専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

高野山専修学院（学外施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、高野山専修学院（学外施設）において開講の指定科目を履修することができます。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

入学から卒業までの履修について（人間学科）

◆卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー DP）

高野山大学文学部人間学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

1. 社会人として必要な一般教養を身に付けている。(DP1：社会人基礎力)
2. 他者を積極的に理解しようとする姿勢を身につけるとともに、自分の考えをまとめ、他者に適切に伝達するコミュニケーション能力を持っている。(DP2：コミュニケーション力)
3. 自らが置かれた現状を客観的に分析し、現状に働きかけるための対応を立案し、実行できる。(DP3：課題解決能力)
4. 大学での学びを社会のために、役立てようとする意識を持っている。(DP4：社会貢献意識)

◆教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部人間学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第3条）。

人間学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、キャリア科目、教養科目、実習、専門講義、実践演習、演習、卒業論文に区分されています。これらは必修ですが、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。

これらの科目では、必要単位が決められています。各科目の必要単位を合計62単位以上取得しなければ、卒業できません。

また、必修科目以外に、選択科目の中から62単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。）

人間学科の学生は、必修科目62単位と選択科目62単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	基礎科目	6単位	専門講義	4単位
導入科目	2単位	キャリア科目	10単位	実践演習	2単位
語学科目	4単位	教養科目	4単位	演習	8単位
基礎ゼミ	8単位	実習	4単位	卒業論文	8単位
				必修科目合計	62単位
				選択科目合計	62単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

◆必修科目

卒業するためには、必修科目を62単位以上取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、専門講義は4単位となっていますが、地域デザインや心理ケアの専門的な講義が複数開講されており、その中から4単位以上を選択することができます。

◆選択科目

人間学科の必修科目を62単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの62単位は、密教学科の必修科目（密教学演習を除く）や総合科目、企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した人間学科必修科目を充てることもできます。

カリキュラムマップ（人間学科）（2019 年度からの入学生用）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語 I	英語 II		
基礎ゼミ	基礎ゼミ I・II	基礎ゼミ III・IV		
基礎科目	心理学 I・II 社会学 社会福祉論 社会保障論			
キャリア科目	キャリアデザイン I・II	キャリアデザイン III・IV	キャリアデザイン V・VI	
		キャリア研修	インターンシップ	
教養科目	教養講義（社会科学） 教養講義（人文科学） 教養講義（数的処理） 教養講義（自然科学） 教養講義（数的処理） 教養講義（人権論）			
実習科目		人間学実習（社会調査） 人間学実習（コミュニケーション演習 I・II）		
	ボランティア 巡礼・遍路			
専門講義科目		人間学専門講義 社会調査入門 社会調査方法論 質的調査論 情報リテラシー論 基礎統計学 地方行政論 地方自治法 地域産業論 高野文化圏論 地域連携 こころのケアとは 発達心理学 家族心理学 学校心理学 社会心理学 深層心理学 災害心理学 カウンセリング論 もの語り心理学 メンタルヘルス 心理統計学 心理測定法 臨床心理学面接演習 I～IV 心理検査法演習 I・II 心理学基礎実験演習 I・II スピリチュアルケア実践論 スピリチュアルケア演習 I・II 臨床死生学 死生観 自殺学 悲嘆学 宗教学入門 世俗主義と宗教		
実践演習			人間学実践演習（学外研修 I） 人間学実践演習（聖地巡礼 I、II） 人間学実践演習（臨床実習 I・III・IV）	人間学実践演習（学外研修 II） 人間学実践演習（臨床実習 II・V）
人間学演習			人間学演習	人間学演習
人間学科卒業論文				人間学科卒業論文
選択科目				

※ 科目によって半期・通年・集中がある。

※ 開講科目については、隔年開講も含めて年度ごとに変更する。

※ 開講場所は、高野山キャンパスのみ、難波サテライト教室のみ、両方、学外で開講する科目がある。

文学部目次

R4から文学部 密教学科

「備考・履修条件」欄について
 難 波・・・難波サテライト教室にて開講
 社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
 留 学 生・・・外国人留学生に限る
 已 修 履 修・・・已修履修に限る
 科 目 名・・・科目名の選かれた科目と同年度に履修すること
 日 付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1 必修科目

1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52107	空海の思想入門A	添 田 隆 昭	2	1年次	-		40
前期	月	4	51427	空海の思想入門B	北 川 真 寛	2	1年次	-	難波	264

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57010	導入研修	学 科 主 任	2	1年次	-		41

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	3	52305	英語 I	伊 藤 佳 世 子	2	1年次	教職基礎		42
通年	木	1	54108	漢文	南 昌 宏	2	1年次	教免(国語)		46
通年	木	1	54109	サンスクリット語A	徳 重 弘 志	2	1年次	-		49
通年	金	3	55328	サンスクリット語B	前 谷 彰	2	1年次	-	難波	265
通年	水	4	53404	日本語A	藤 井 知 枝	2	1年次	-	留学生	50
通年	水	3	53306	日本語B	藤 井 知 枝	2	1年次	-	留学生	51

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53105	密教学基礎ゼミA1	南 昌 宏	2	1年次	-		52
後期	水	1	53153	密教学基礎ゼミA2	南 昌 宏	2	1年次	-		53
前期	水	1	53106	密教学基礎ゼミB1	櫻 木 潤	2	1年次	-		54
後期	水	1	53154	密教学基礎ゼミB2	櫻 木 潤	2	1年次	-		55
前期	水	1	53107	密教学基礎ゼミC1	森 本 一 彦	2	1年次	-		56
後期	水	1	53155	密教学基礎ゼミC2	森 本 一 彦	2	1年次	-		57
前期	水	1	53108	密教学基礎ゼミD1	佐 々 木 聡	2	1年次	-		58
後期	水	1	53156	密教学基礎ゼミD2	佐 々 木 聡	2	1年次	-		59
前期	水	1	53109	密教学基礎ゼミE1	北 川 真 寛	2	1年次	-		60
後期	水	1	53157	密教学基礎ゼミE2	北 川 真 寛	2	1年次	-		61
前期	水	1	53110	密教学基礎ゼミF1	鈴 木 晴 久	2	1年次	-		62
後期	水	1	53158	密教学基礎ゼミF2	鈴 木 晴 久	2	1年次	-		63

5) 教養基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次		僧階補任	74
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次		僧階補任	75
通年	月	1	51101	法式	加 藤 善 弘	2	1年次		僧階補任	76
通年	火	4	52407	布教A	橋 本 真 人	2	1年次		僧階補任	77
通年	木	3	54307	布教B(詠歌)	辻・西山・本間	2	1年次		僧階補任	78
通年	金	2	55201	漢字 I	野 田 悟	2	1年次		非正規職(後生(国語))	79
通年	木	2	54201	かな I	塩 野 三 恵 子	2	1年次		書道師範	80
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋 藤 天 譽	2	1年次	-		193
通年	金	5	55527	梵字悉曇B	添 野 了	2	1年次	-	難波	338
通年	火	4	52408	伝統文化(華道)	五 味 和 樹	2	1年次	-		196
通年	水	3	53308	伝統文化(茶道)	岡 本 文 音	2	1年次	-		197
通年	月	3	51306	宗教芸能(宗教舞踊)	高 祖 ・ 辻	2	1年次	-		198
通年	集中	集中	57005	加行 I	密教学科主任	1	1年次	-		99
通年	集中	集中	57008	加行 II	密教学科主任	1	2年次	-		100

後期	金	4	55452	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		205
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	-	難波	340
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	教免(宗教)		206
前期	金	4	55405	哲学	南昌宏	2	1年次	教免(宗教)		210
前期	金	2	55204	心理学ⅠA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		150
前期	金	2	55227	心理学ⅠA【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	150
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	290
後期	金	2	55252	心理学ⅡA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		151
後期	金	2	55277	心理学ⅡA【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	151
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	291
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		195
前期	月	3	51307	日本文化A	松本貴子	2	1年次	-	留学生	81
後期	月	3	51355	日本文化B	松本貴子	2	1年次	-	留学生	82
前期	月	4	51407	日本文化C	松本貴子	2	1年次	-	留学生	83
後期	月	4	51456	日本文化D	松本貴子	2	1年次	-	留学生	84
前期	月	5	51503	日本文化E	松本貴子	2	1年次	-	留学生	85
後期	月	5	51551	日本文化F	松本貴子	2	1年次	-	留学生	86

6) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52209	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅡ	155
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅠ	156

2 選択科目

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52502	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		179
後期	火	5	52551	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		180
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	331
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	332

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次	学芸員		181
前期	水	3	53305	企画科目(寺院運営入門)	藤本善光	2	1年次	-		182
後期	水	4	53452	企画科目(自然科学)	木地茂典	2	1年次	-		164
前期	水	4	53403	企画科目(数的処理)	木地茂典	2	1年次	-		163
後期	木	1	54154	企画科目(人文科学)	森本一彦	2	1年次	-		165
前期	木	1	54105	企画科目(社会科学)	森本一彦	2	1年次	-		166
通年	木	4	54402	企画科目(高野山国際観光入門)	松山典子	2	1年次	-	6月16日から毎週	184
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻・西山・本間	2	1年次	-		183
後期	集中	集中	57051	企画科目(密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	-		185
通年	月	3	51326	企画科目(仏教芸術実習仏画)	徐東軍	2	1年次	-	難波	333
前期	土	3	56028	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅰ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	334
後期	土	3	56078	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅱ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	335

3) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	1	52102	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	-		189
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	-		190

4) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	西 脇 仁	2	1年次	教職基礎		194
通年	集中	集中	57007	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	-		101
通年	集中	集中	57006	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	-		102
前期	木	2	54207	巡礼・遍路B	川 崎 一 洋	2	1年次	-		103
後期	木	2	54256	巡礼・遍路C	川 崎 一 洋	2	1年次	-		104

5) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	3	51309	社会学	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事		152
前期	月	3	51330	社会学【LS】	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事	社会人	152
後期	水	4	53451	現代の人権	竹 村 和 也	2	1年次	-		207
前期	火	5	52503	日本文学Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		218
前期	火	5	52527	日本文学Ⅰ【LS】	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	218
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		219
後期	火	5	52576	日本文学Ⅱ【LS】	溝 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	219
後期	水	3	53352	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	教職基礎		225

6) 社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51255	社会福祉論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		153
前期	月	2	51206	社会保障論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		154

7) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51504	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		
前期	木	4	54409	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		

3 自由科目(卒業要件には参入されません)

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52153	教育原論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		243
前期	水	2	53214	教職入門	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		244
後期	月	3	51354	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修		246
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		248

R3から文学部 密教学科

「備考・履修条件」欄について
 難波・・・難波サテライト教室にて開講
 社会人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
 留学生・・・外国人留学生に限る
 已修履修者・・・已修履修者に限る
 科目名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
 日付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1 必修科目

1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52107	空海の思想入門A	添田 隆 昭	2	1年次	-		40
前期	月	4	51427	空海の思想入門B	北川 真 寛	2	1年次	-	難波	264

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57010	導入研修	学 科 主 任	2	1年次	-		41

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語Ⅰ（再履修）	森 本 敦 子	2	2年次	教職基礎		43
通年	月	1	51104	英語Ⅱ	亀 位 卓 阿	2	2年次	教職基礎		44
通年	木	1	54108	漢文	南 昌 宏	2	1年次	教免（国語）		46
通年	木	1	54109	サンスクリット語A	徳 重 弘 志	2	1年次	-		49
通年	金	3	55328	サンスクリット語B	前 谷 彰	2	1年次	-	難波	265

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	53501	密教学基礎ゼミG1	密教学科主任	2	2年次	-		64
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミG2	密教学科主任	2	2年次	-		65

5) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52108	密教学概論A	北川 真 寛	2	2年次	教免（宗教）		66
後期	火	1	52154	密教学概論B	北川 真 寛	2	2年次	教免（宗教）		67
前期	金	4	55403	仏教学概論A	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免（宗教）		68
後期	金	4	55454	仏教学概論B	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免（宗教）		69
前期	月	3	51308	密教史概説A	徳 重 弘 志	2	2年次	学5科目/教免（宗教）		70
前期	月	3	51329	密教史概説A【LS】	徳 重 弘 志	2	2年次	学5科目/教免（宗教）	社会人	70
後期	月	3	51356	密教史概説B	櫻 木 潤	2	2年次	教免（宗教）		71
後期	月	3	51377	密教史概説B【LS】	櫻 木 潤	2	2年次	教免（宗教）	社会人	71
前期	木	3	54329	密教史概説C	奥 山 直 司	2	2年次	-	難波	266
前期	水	1	53103	仏教史概説A	前 谷 彰	2	2年次	学5科目/教免（宗教）		72
後期	水	1	53159	仏教史概説B	前 谷 彰	2	2年次	教免（宗教）		73
前期	金	4	55428	仏教史概説C	前 谷 彰	2	2年次	-	難波	267
後期	金	4	55477	仏教史概説D	前 谷 彰	2	2年次	-	難波	268

6) 実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		74
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次	僧階補任		75
通年	月	1	51101	法式	加 藤 善 弘	2	1年次	僧階補任		76
通年	火	4	52407	布教A	橋 本 真 人	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	3	54307	布教B（詠歌）	辻・西山・本間	2	1年次	僧階補任		78
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	1年次	学5科目/教免（国語）		79
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範		80

7) 講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52207	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免(宗教)		87
通年	火	2	52208	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免(宗教)		87
通年	月	2	51227	祖典講読ⅠC	土居夏樹	4	2年次	-	難波	269

8) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57005	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	-		99
通年	集中	集中	57008	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	-		100
通年	集中	集中	57007	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	-		101
通年	集中	集中	57006	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	-		102
前期	木	2	54207	巡礼・遍路B	川崎一洋	2	1年次	-		103
後期	木	2	54256	巡礼・遍路C	川崎一洋	2	1年次	-		104

2 選択科目

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52502	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		179
後期	火	5	52551	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		180
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	331
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	332

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51254	企画科目(高野文化圏論)	森本一彦	2	2年次	-		168
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次	学芸員		181
前期	火	3	52303	企画科目(カウンセリング論A)	上野和久	2	2年次	-		169
前期	火	3	52327	企画科目(カウンセリング論A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	169
後期	火	3	52352	企画科目(発達心理学A)	上野和久	2	2年次	-		170
後期	火	3	52377	企画科目(発達心理学A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	170
前期	水	3	53305	企画科目(寺院運営入門)	藤本善光	2	1年次	-		182
前期	水	4	53403	企画科目(数的処理)	木地茂典	2	1年次	-		163
後期	水	4	53452	企画科目(自然科学)	木地茂典	2	1年次	-		164
前期	木	1	54113	企画科目(悲嘆学A)	森崎雅好	2	2年次	-		171
前期	木	1	54105	企画科目(社会科学)	森本一彦	2	1年次	-		166
後期	木	1	54159	企画科目(自殺学A)	森崎雅好	2	2年次	-		172
後期	木	1	54154	企画科目(人文科学)	森本一彦	2	1年次	-		165
通年	木	3	54304	企画科目(社会調査)	森本一彦	2	2年次	-		167
前期	木	4	54406	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	2年次	-		173
通年	木	4	54402	企画科目(高野山国際観光入門)	松山典子	1	1年次	-	6月16日から毎週	184
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻・西山・本間	2	1年次	-		183
前期	金	4	55402	企画科目(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	-		174
通年	月	3	51302	企画科目(日本語留学生中級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	186
通年	月	5	51502	企画科目(日本語留学生上級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	187
前期	月	4	51408	企画科目(日本文化)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	187
後期	月	4	51457	企画科目(日本社会)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	84
通年	水	3	53302	企画科目(日本語留学生上級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留学生	51
通年	水	4	53402	企画科目(日本語留学生中級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留学生	50
後期	集中	集中	57051	企画科目(密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	-		185
通年	月	3	51326	企画科目(仏教芸術実習仏画)	徐東軍	2	1年次	-	難波	333
後期	火	3	52377	企画科目(発達心理学A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	難波	333
前期	土	3	56028	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅰ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	334
後期	土	3	56078	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅱ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	335

3) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52528	サンスクリット語上級	菊谷竜太	2	2年次	-	難波	336
通年	火	5	52505	サンスクリット語上級【LS】	菊谷竜太	2	2年次	-	社会人	336
通年	木	4	54403	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	-		188
通年	木	4	54427	チベット語A【LS】	テンジン・ウセル	2	2年次	-	社会人	188
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	-	難波	337
通年	火	1	52102	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	-		189
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	-		190

4) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	法式上級	加藤栄俊	2	2年次	-	已灌頂者	191
通年	金	3	55305	声明上級	辻秀道	2	2年次	-		192
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	-		193
通年	金	5	55527	梵字悉曇B	添野了	2	1年次	-	難波	338

5) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	西脇仁	2	1年次	教職基礎		194
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		195
通年	火	4	52408	伝統文化(華道)	五味和樹	2	1年次	-		196
通年	水	3	53308	伝統文化(茶道)	岡本文吉	2	1年次	-		197
通年	月	3	51306	宗教芸能(宗教舞踊)	高祖・辻	2	1年次	-		198

6) 歴史学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53215	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		199
後期	水	2	53253	古文書解説A	坂口太郎	2	2年次	学芸員		202
前期	火	4	52428	古文書解説B	坂口太郎	2	2年次	-	難波	339

7) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免(宗教)		203
後期	金	2	55253	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	教免(宗教)		204
後期	金	4	55452	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		205
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	-	難波	340
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	教免(宗教)		206
前期	金	2	55204	心理学ⅠA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		150
前期	金	2	55227	心理学ⅠA【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	150
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	290
後期	金	2	55252	心理学ⅡA	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		151
後期	金	2	55277	心理学ⅡA【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	151
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	291
前期	月	3	51309	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		152
前期	月	3	51330	社会学【LS】	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事	社会人	152
後期	水	4	53451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	-		207
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員/教免(宗教)		208
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員/教免(宗教)		209
前期	金	4	55405	哲学	南昌宏	2	1年次	教免(宗教)		210
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)		211
後期	木	4	54476	宗教学方法論【LS】	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)	社会人	211
前期	木	5	54501	国語学Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		212

後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴木 晴久	2	2年次	教免(国語)		213
前期	月	4	51405	国文法Ⅰ	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		214
後期	月	4	51455	国文法Ⅱ	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		215
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		216
前期	火	4	52427	日本文学史概説Ⅰ【LS】	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)	社会人	216
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)		217
後期	火	4	52477	日本文学史概説Ⅱ【LS】	満 端 悠 朗	2	2年次	教免(国語)	社会人	217
前期	火	5	52503	日本文学Ⅰ	満 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		218
前期	火	5	52527	日本文学Ⅰ【LS】	満 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	218
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	満 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)		219
後期	火	5	52576	日本文学Ⅱ【LS】	満 端 悠 朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	219
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		220
前期	木	3	54328	漢文学概論Ⅰ【LS】	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)	社会人	220
後期	木	3	54352	漢文学概論Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)		221
後期	木	3	54378	漢文学概論Ⅱ【LS】	南 昌 宏	2	2年次	教免(国語)	社会人	221
後期	水	3	53352	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	教職基礎		225

8) 書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		226
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範		227
通年	火	1	52106	篆刻	野 田 悟	2	2年次	書道師範		228
通年	金	1	55102	書道史(中国)	野 田 悟	4	2年次	—		233

9) 社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51255	社会福祉論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		153
前期	月	2	51206	社会保障論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		154

10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52209	キャリアデザインⅠ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	155
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	156
前期	火	4	52409	キャリアデザインⅢ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	157
後期	火	4	52454	キャリアデザインⅣ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	158
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就 職 担 当	2	2年次	—		161
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就 職 担 当	2	3年次	—		162

11) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51504	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		234
前期	木	4	54409	博物館概論	坂 口 大 郎	2	1年次	学芸員		235
後期	木	4	54453	博物館経営論	山 口 文 章	2	2年次	学芸員		236
前期	金	3	55306	博物館資料論	坂 口 大 郎	2	2年次	学芸員		237
後期	木	3	54353	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		238
後期	集中	集中	57055	博物館展示論	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		239
前期	木	3	54310	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		240
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		241

3 自由科目（卒業要件には参入されません）

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52153	教育原論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修/社会福祉1専		243
前期	水	2	53214	教職入門	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		244
後期	木	1	54156	教育心理学	佐々木聡	2	2年次	教免必修		245
後期	月	3	51354	教育社会学	森本一彦	2	1年次	教免必修		246
通年	集中	集中	57009	特別支援教育	宮本直美	1	2年次	教免必修		247
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		248
前期	木	1	54114	道徳教育指導論	佐々木聡	2	2年次	教免必修		249
前期	火	1	52109	総合的な学習の時間・特別活動	鈴木晴久	2	2年次	教免必修		250
前期	木	2	54205	教育方法論	佐々木聡	2	2年次	教免必修		251
後期	木	2	54255	生徒指導・進路指導	佐々木聡	2	2年次	教免必修		252
前期	月	2	51203	宗教科教育法Ⅰ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		254
後期	月	2	51253	宗教科教育法Ⅱ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		255
前期	火	3	52304	国語科教育法Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		258
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		259

H31・R2文学部 密教学科

「備考・履修条件」欄について
 難波・・・難波サテライト教室にて開講
 社会人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
 留学生・・・外国人留学生に限る
 已灌頂者・・・已灌頂者に限る
 科目名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
 付・・・集中講義開部日（詳細は掲示確認）

1 必修科目

1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52107	空海の思想入門A	添田 隆 昭	2	1年次	—		40
前期	月	4	51427	空海の思想入門B	北川 真 寛	2	1年次	—	難波	264

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57010	導入研修	学 科 主 任	2	1年次	—		41

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語Ⅰ（再履修）	森 本 敦 子	2	2年次	教職基礎		43
通年	月	5	51501	英語Ⅱ（再履修）	森 本 敦 子	2	3年次	教職基礎		45
通年	木	1	54108	漢文	南 昌 宏	2	1年次	教免（国語）		46
通年	木	1	54109	サンスクリット語A	徳 重 弘 志	2	1年次	—		49
通年	金	3	55328	サンスクリット語B	前 谷 彰	2	1年次	—	難波	265

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	53501	密教学基礎ゼミG1	密教学科主任	2	2年次	—		64
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミG2	密教学科主任	2	2年次	—		65

5) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52108	密教学概論A	北川 真 寛	2	2年次	教免（宗教）		66
後期	火	1	52154	密教学概論B	北川 真 寛	2	2年次	教免（宗教）		67
前期	金	4	55403	仏教学概論A	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免（宗教）		68
後期	金	4	55454	仏教学概論B	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免（宗教）		69
前期	月	3	51308	密教史概説A	徳 重 弘 志	2	2年次	学5科目/教免（宗教）		70
前期	月	3	51329	密教史概説A【LS】	徳 重 弘 志	2	2年次	学5科目/教免（宗教）	社会人	70
後期	月	3	51356	密教史概説B	櫻 木 潤	2	2年次	教免（宗教）		71
後期	月	3	51377	密教史概説B【LS】	櫻 木 潤	2	2年次	教免（宗教）	社会人	71
前期	木	3	54329	密教史概説C	奥 山 直 司	2	2年次	—	難波	266
前期	水	1	53103	仏教史概説A	前 谷 彰	2	2年次	学5科目/教免（宗教）		72
後期	水	1	53159	仏教史概説B	前 谷 彰	2	2年次	教免（宗教）		73
前期	金	4	55428	仏教史概説C	前 谷 彰	2	2年次	—	難波	267
後期	金	4	55477	仏教史概説D	前 谷 彰	2	2年次	—	難波	268

6) 実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		74
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次	僧階補任		75
通年	月	1	51101	法式	加 藤 善 弘	2	1年次	僧階補任		76
通年	火	4	52407	布教A	橋 本 真 人	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	3	54307	布教B（詠歌）	辻・西山・本間	2	1年次	僧階補任		78
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	1年次	学5科目/教免（国語）		79
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範		80

7) 講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52207	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免(宗教)		87
通年	火	2	52208	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免(宗教)		87
通年	月	2	51227	祖典講読ⅠC	土居夏樹	4	2年次	-	難波	269
通年	木	3	54308	祖典講読ⅡA	川崎一洋	4	3年次	教免(宗教)		90
通年	木	3	54330	祖典講読ⅡA【LS】	川崎一洋	4	3年次	教免(宗教)	社会人	90
通年	月	4	51406	祖典講読ⅡB	米田弘仁	4	3年次	教免(宗教)		91
通年	水	4	53427	祖典講読ⅡE	川崎一洋	4	3年次	-	難波	272
通年	水	3	53307	宗典講読A	徳重弘志	4	3年次	-		96
通年	水	3	53328	宗典講読A【LS】	徳重弘志	4	3年次	-	社会人	96
通年	木	2	54206	宗典講読B	T.ト'ライツイン	4	3年次	-	已灌頂者	97
通年	木	1	54110	宗典講読C	川崎一洋	4	3年次	-		98

8) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57005	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	-		99
通年	集中	集中	57008	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	-		100
通年	集中	集中	57007	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	-		101
通年	集中	集中	57006	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	-		102
前期	木	2	54207	巡礼・遍路B	川崎一洋	2	1年次	-		103
後期	木	2	54256	巡礼・遍路C	川崎一洋	2	1年次	-		104

9) 特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51102	密教学特殊講義A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		105
前期	火	4	52404	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	学芸員		106
後期	火	4	52451	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	学芸員		107
前期	木	4	54426	密教学特殊講義D	野田悟	2	3年次	-	難波	275
前期	金	2	55226	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	3年次	-	難波	276
前期	木	5	54526	密教学特殊講義G	野田悟	2	3年次	-	難波	277
前期	木	4	54405	仏教学特殊講義A	那須真裕美	2	3年次	教免(宗教)		110
前期	木	4	54428	仏教学特殊講義A【LS】	那須真裕美	2	3年次	教免(宗教)	社会人	110
前期	金	2	55202	仏教学特殊講義B	土居夏樹	2	3年次	教免(宗教)		111
前期	金	3	55303	仏教学特殊講義J	菊谷竜太	2	3年次	教免(宗教)		112
後期	金	3	55351	仏教学特殊講義K	菊谷竜太	2	3年次	教免(宗教)		113
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義C	岡田英作	2	3年次	-	難波	278
後期	火	3	52376	仏教学特殊講義I	櫻木潤	2	3年次	-	難波	279
前期	月	1	51103	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	114
後期	月	1	51152	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	115
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義D	T.ト'ライツイン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	116
後期	金	2	55251	真言密教特殊講義E	T.ト'ライツイン	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	117
前期	月	3	51304	真言密教特殊講義M	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	118
後期	月	4	51453	真言密教特殊講義N	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	119
前期	水	3	53326	真言密教特殊講義L	川崎一洋	2	3年次	-	難波	280

10) 講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	1	51151	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次	教免(宗教)		120
後期	火	3	52353	密教学講読演習B	北川真寛	2	3年次	教免(宗教)		121
前期	月	2	51202	密教学講読演習J	大柴清圓	2	3年次	教免(宗教)		124
後期	月	2	51252	密教学講読演習K	大柴清圓	2	3年次	教免(宗教)		125
前期	火	3	52326	密教学講読演習C	櫻木潤	2	3年次	-	難波	281
後期	金	2	55276	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	-	難波	282
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)		126
後期	木	5	54577	仏教学講読演習A【LS】	前谷彰	2	3年次	教免(宗教)	社会人	126
前期	木	2	54202	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)		127
前期	木	2	54226	仏教学講読演習B【LS】	櫻木潤	2	3年次	教免(宗教)	社会人	127
後期	木	2	54254	仏教学講読演習D	森崎雅好	2	3年次	教免(宗教)		128
後期	木	2	54276	仏教学講読演習D【LS】	森崎雅好	2	3年次	教免(宗教)	社会人	128
前期	木	1	54104	仏教学講読演習F	徐東軍	2	3年次	教免(宗教)		129
後期	木	1	54153	仏教学講読演習G	徐東軍	2	3年次	教免(宗教)		130
後期	集中	集中	57052	仏教学講読演習I	平岡宏一	2	3年次	教免(宗教)		131
後期	金	3	55376	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	-	難波	283
後期	火	4	52476	仏教学講読演習H	坂口太郎	2	3年次	-	難波	284
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D	T.T'ライトライ	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	134
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E	T.T'ライトライ	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	135
後期	月	3	51352	真言密教講読演習K	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗教)	已灌頂者	136
後期	月	4	51476	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	-	難波	285
後期	水	3	53376	真言密教講読演習J	川崎一洋	2	3年次	-	難波	286

11) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53201	密教学演習B	佐藤隆彦	4	3・4年次	-		137
通年	水	2	53202	密教学演習C	前谷彰	4	3・4年次	-		138
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻木潤	4	3・4年次	-		139
通年	水	2	53204	密教学演習E	土居夏樹	4	3・4年次	-		140
通年	水	2	53205	密教学演習F	松長潤慶	4	3・4年次	-		141
通年	水	2	53206	密教学演習G	菊谷竜太	4	3・4年次	-		142
通年	水	2	53207	密教学演習K	溝端悠朗	4	3・4年次	-		143
通年	火	1	52101	密教学演習M	溝端悠朗	4	4年次	-		144
通年	水	2	53208	密教学演習N	北川真寛	4	3・4年次	-		145
通年	月	4	51426	密教学演習H	南昌宏	4	4年次	-	難波	287
通年	金	4	55426	密教学演習I	岡田英作	4	3年次	-	難波	288
通年	火	2	52226	密教学演習L	櫻木潤	4	3年次	-	難波	289

12) 卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	4年次	-		-
通年	論文	論文	59003	密教学科卒業論文(前期)	密教学科主任	8	4年次	-		-

2 選択科目

1) 他学科学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55204	心理学I A	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		150
前期	金	2	55227	心理学I A【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	150
前期	月	6	51626	心理学I B	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	290
後期	金	2	55252	心理学II A	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事		151
後期	金	2	55277	心理学II A【LS】	佐々木聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	151
後期	月	6	51676	心理学II B	上野和久	2	1年次	社会福祉主事	難波	291

前期	月	3	51309	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		152
前期	月	3	51330	社会学【LS】	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事	社会人	152
後期	月	2	51255	社会福祉論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		153
前期	月	2	51206	社会保障論	城内龍玄	2	1年次	社会福祉主事		154
前期	火	2	52209	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅡ	155
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	-	キャリアデザインⅠ	156
前期	水	4	53405	教養講義(数的処理)	木地茂典	2	1年次	-		163
後期	水	4	53454	教養講義(自然科学)	木地茂典	2	1年次	-		164
後期	木	1	54157	教養講義(人文科学)	森本一彦	2	1年次	-		165
前期	木	1	54111	教養講義(社会科学)	森本一彦	2	1年次	-		166
前期	火	4	52409	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次	-	キャリアデザインⅣ	157
後期	火	4	52454	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次	-	キャリアデザインⅢ	158
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就職担当	2	2年次	-		161
通年	木	3	54309	人間学実習(社会調査)	森本一彦	2	2年次	-		167
後期	集中	集中	57086	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	292
後期	集中	集中	57087	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	293
後期	月	2	51256	人間学専門講義(高野文化圏論)	森本一彦	2	2年次	-		168
前期	火	3	52307	人間学専門講義(カウンセリング論A)	上野和久	2	2年次	-		169
前期	火	3	52328	人間学専門講義(カウンセリング論A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	169
後期	火	3	52356	人間学専門講義(発達心理学A)	上野和久	2	2年次	-		170
後期	火	3	52378	人間学専門講義(発達心理学A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	170
前期	木	1	54112	人間学専門講義(悲嘆学A)	森崎雅好	2	2年次	-		171
後期	木	1	54158	人間学専門講義(自殺学A)	森崎雅好	2	2年次	-		172
前期	木	4	54408	人間学専門講義(地域連携)	森本一彦	2	2年次	-	連携	173
前期	金	4	55404	人間学専門講義(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	-		174
前期	月	7	51727	人間学専門講義(発達心理学B)	小林奈緒美	2	2年次	-	難波	294
後期	月	7	51777	人間学専門講義(家族心理学)	小林奈緒美	2	2年次	-	難波	295
前期	火	6	52627	人間学専門講義(悲嘆学E)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	296
前期	火	7	53727	人間学専門講義(深層心理学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	297
前期	水	6	53627	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)	木下忠恭	2	2年次	-	難波	298
後期	水	6	53677	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)	木下忠恭	2	2年次	-	難波	299
後期	水	7	53777	人間学専門講義(福祉心理学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	300
後期	火	6	52677	人間学専門講義(自殺学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	301
前期	木	5	54528	人間学専門講義(宗教学入門)	小田龍哉	2	2年次	-	難波	302
後期	木	5	54578	人間学専門講義(世俗主義と宗教)	小田龍哉	2	2年次	-	難波	303
前期	木	6	54627	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅰ)	大河内大博	2	2年次	-	難波	304
後期	木	6	54677	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)	大河内大博	2	2年次	-	難波	305
前期	金	6	55628	人間学専門講義(心理統計学)	五明優介	2	2年次	-	難波	306
後期	金	6	55678	人間学専門講義(心理測定法)	五明優介	2	2年次	-	難波	307
前期	金	7	55727	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅰ)	五明優介	2	2年次	-	難波	308
後期	金	7	55777	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅱ)	五明優介	2	2年次	-	難波	309
前期	土	1	56030	人間学専門講義(カウンセリング論B)	佐々木聡	2	2年次	-	難波	310
後期	土	1	56080	人間学専門講義(社会心理学)	松下步睦	2	2年次	-	難波	311
前期	土	2	56031	人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅠB)	山添正	2	2年次	-	難波	312
後期	土	2	56081	人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡB)	山添正	2	2年次	-	難波	313
前期	土	4	56032	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)	山本和美	2	2年次	-	難波	314
後期	土	4	56082	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	315
後期	集中	集中	57089	人間学専門講義(学校心理学)	佐々木聡	2	2年次	-	難波	316
後期	集中	集中	57084	人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)	窪寺俊之	2	2年次	-	難波	317
後期	集中	集中	57088	人間学専門講義(もの語り心理学)	やまだようこ	2	2年次	-	難波	318
後期	集中	集中	57085	人間学専門講義(死生観B)	山本佳世子	2	2年次	-	難波	319
前期	火	3	52306	キャリアデザインⅤ	高田綾子	2	3年次	-	キャリアデザインⅥ	159
後期	火	3	52355	キャリアデザインⅥ	高田綾子	2	3年次	-	キャリアデザインⅤ	160
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就職担当	2	3年次	-		162

後期	集中	集中	57053	人間学実践演習(学外研修①)	森本一彦	2	3年次	-		175
後期	集中	集中	57054	人間学実践演習(学外研修②)	森本一彦	2	3年次	-		176
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習(臨床実習Ⅰ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	320
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習(臨床実習Ⅱ)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	321
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習(臨床実習Ⅲ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	322
通年	実習	実習	58034	人間学実践演習(臨床実習Ⅳ)	川口道雄	2	3年次	-	難波	323
通年	実習	実習	58035	人間学実践演習(臨床実習Ⅴ)	川口道雄	2	4年次	-	難波	324
後期	集中	集中	57090	人間学実践演習(聖地巡礼Ⅰ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	325
後期	集中	集中	57091	人間学実践演習(聖地巡礼Ⅱ)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	326

2) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52502	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		179
後期	火	5	52551	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		180
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	331
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	332

3) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次	学芸員		181
前期	水	3	53305	企画科目(寺院運営入門)	藤本善光	2	1年次	-		182
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻・西山・本間	2	1年次	-		183
通年	木	4	54402	企画科目(高野山国際観光入門)	松山典子	1	1年次	-	6月16日から毎週	184
後期	集中	集中	57051	企画科目(密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	-		185
通年	月	3	51302	企画科目(日本語留學生中級B)	松本貴子	2	1年次	-	留學生	186
前期	月	4	51408	企画科目(日本文化)	松本貴子	2	1年次	-	留學生	186
後期	月	4	51457	企画科目(日本社会)	松本貴子	2	1年次	-	留學生	84
通年	月	5	51502	企画科目(日本語留學生上級B)	松本貴子	2	1年次	-	留學生	187
通年	水	3	53302	企画科目(日本語留學生上級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留學生	51
通年	水	4	53402	企画科目(日本語留學生中級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留學生	50
通年	月	3	51326	企画科目(仏教芸術実習仏画)	徐東軍	2	1年次	-	難波	333
前期	土	3	56028	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅰ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	334
後期	土	3	56078	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅱ)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	335

4) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52528	サンスクリット語上級	菊谷竜太	2	2年次	-	難波	336
通年	火	5	52505	サンスクリット語上級【LS】	菊谷竜太	2	2年次	-	社会人	336
通年	木	4	54403	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	-		188
通年	木	4	54427	チベット語A【LS】	テンジン・ウセル	2	2年次	-	社会人	188
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	-	難波	337
通年	火	1	52102	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	-		189
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	-		190

5) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	法式上級	加藤栄俊	2	2年次	-	已灌頂者	191
通年	金	3	55305	声明上級	辻秀道	2	2年次	-		192
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋藤天響	2	1年次	-		193
通年	金	5	55527	梵字悉曇B	添野了	2	1年次	-	難波	338

6) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	西脇仁	2	1年次	教職基礎		194
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		195
通年	火	4	52408	伝統文化(華道)	五味和樹	2	1年次	-		196
通年	水	3	53308	伝統文化(茶道)	岡本文音	2	1年次	-		197
通年	月	3	51306	宗教芸能(宗教舞踊)	高祖・辻	2	1年次	-		198

7) 古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53215	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		199
前期	水	1	53104	書誌学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		200
後期	水	1	53160	古文書学	坂口太郎	2	3年次	学芸員		201
後期	水	2	53253	古文書解読A	坂口太郎	2	2年次	学芸員		202
前期	火	4	52428	古文書解読B	坂口太郎	2	2年次	-	難波	339

8) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免(宗教)		203
後期	金	2	55253	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	教免(宗教)		204
後期	金	4	55452	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	教免(宗教)		205
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥山直司	2	1年次	-	難波	340
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	教免(宗教)		206
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員/教免(宗教)		208
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員/教免(宗教)		209
前期	金	4	55405	哲学	南昌宏	2	1年次	教免(宗教)		210
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)		211
後期	木	4	54476	宗教学方法論【LS】	森本一彦	2	2年次	教免(宗教)	社会人	211
前期	木	5	54501	国語学Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		212
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		213
前期	月	4	51405	国文法Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		214
後期	月	4	51455	国文法Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		215
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		216
前期	火	4	52427	日本文学史概説Ⅰ【LS】	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)	社会人	216
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)		217
後期	火	4	52477	日本文学史概説Ⅱ【LS】	溝端悠朗	2	2年次	教免(国語)	社会人	217
前期	火	5	52503	日本文学Ⅰ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		218
前期	火	5	52527	日本文学Ⅰ【LS】	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	218
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)		219
後期	火	5	52576	日本文学Ⅱ【LS】	溝端悠朗	2	1年次	教免(国語)	社会人	219
前期	木	3	54306	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次	教免(国語)		220
前期	木	3	54328	漢文学概論Ⅰ【LS】	南昌宏	2	2年次	教免(国語)	社会人	220
後期	木	3	54352	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次	教免(国語)		221
後期	木	3	54378	漢文学概論Ⅱ【LS】	南昌宏	2	2年次	教免(国語)	社会人	221
後期	月	3	51353	日本文化特殊講義A	溝端悠朗	2	3年次	学芸員/教免(国語)		222
前期	木	5	54502	日本文化特殊講義C	坂口太郎	2	3年次	教免(国語)		223
後期	水	1	53161	中国文化講演習A	野田悟	2	3年次	学芸員/教免(国語)		224
後期	水	3	53352	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		225

9) 書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野田悟	2	2年次	書道師範		226
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		227
通年	火	1	52106	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		228

通年	火	3	52301	条幅制作A(漢字)	野田 悟	2	3年次	書道師範		231
通年	木	4	54404	条幅制作B(かな)	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		232
通年	金	1	55105	書道史	野田 悟	4	2年次	書道師範		233

10) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51504	生涯学習概論	櫻木 潤	2	1年次	学芸員		234
前期	木	4	54409	博物館概論	坂口太郎	2	1年次	学芸員		235
後期	木	4	54453	博物館経営論	山口文章	2	2年次	学芸員		236
前期	金	3	55306	博物館資料論	坂口太郎	2	2年次	学芸員		237
後期	木	3	54353	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		238
後期	集中	集中	57055	博物館展示論	山口隆介	2	2年次	学芸員		239
前期	木	3	54310	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		240
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻木 潤	2	1年次	学芸員		241
通年	実習	実習	58003	博物館実習	櫻木・坂口	3	3年次	学芸員		242

3 自由科目(卒業要件には参入されません)

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52153	教育原論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修(社会福祉士)		243
前期	水	2	53214	教職入門	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		244
後期	木	1	54156	教育心理学	佐々木聡	2	2年次	教免必修		245
通年	集中	集中	57009	特別支援教育	宮本直美	1	2年次	教免必修		247
後期	月	3	51354	教育社会学	森本一彦	2	1年次	教免必修		246
後期	水	2	53252	教育課程論	鈴木晴久	2	1年次	教免必修		248
前期	木	1	54114	道徳教育指導論	佐々木聡	2	2年次	教免必修		249
前期	火	1	52109	総合的な学習の時間・特別活動	鈴木晴久	2	2年次	教免必修		250
前期	木	2	54205	教育方法論	佐々木聡	2	2年次	教免必修		251
後期	木	2	54255	生徒指導・進路指導	佐々木聡	2	2年次	教免必修		252
前期	金	3	55304	教育相談	佐々木聡	2	3年次	教免必修		253
前期	月	2	51203	宗教科教育法Ⅰ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		254
後期	月	2	51253	宗教科教育法Ⅱ	松長潤慶	2	2年次	教免(宗教)		255
前期	木	5	54503	宗教科教育法Ⅲ	岡田英作	2	3年次	教免(宗教)		256
後期	火	4	52455	宗教科教育法Ⅳ	富田向真	2	3年次	教免(宗教)		257
前期	火	3	52304	国語科教育法Ⅰ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		258
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴木晴久	2	2年次	教免(国語)		259
前期	火	2	52206	国語科教育法Ⅲ	講端悠朗	2	3年次	教免(国語)		260
後期	金	4	55453	国語科教育法Ⅳ	南昌宏	2	3年次	教免(国語)		261
前期	木	4	54407	教育実習の研究	鈴木・佐々木	1	3・4年次	教免必修		262
後期	木	4	54452	教職実践演習(中・高)	鈴木・佐々木	2	4年次	教免必修		263

H31から文学部 人間学科

「備考・履修条件」欄について
 難 波・・・難波サテライト教室にて開講
 社 会 人・・・社会人学生に限る（入学時に25歳以上）
 留 学 生・・・外国人留学生に限る
 已 漙 頂 者・・・已漙頂者に限る
 科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
 日 付・・・集中講義開催日（詳細は掲示確認）

1 必修科目

1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52107	空海の思想入門A	添 田 隆 昭	2	1年次	—		40
前期	月	4	51427	空海の思想入門B	北 川 真 寛	2	1年次	—	難波	264

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57010	導入研修	学 科 主 任	2	1年次	—		41

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語Ⅰ（再履修）	森 本 敦 子	2	2年次	—		43
通年	月	5	51501	英語Ⅱ（再履修）	森 本 敦 子	2	3年次	—		45

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52202	人間学基礎ゼミⅠA	上 野 和 久	2	1年次	—		146
後期	火	2	52251	人間学基礎ゼミⅡA	上 野 和 久	2	1年次	—		147
前期	月	4	51402	人間学基礎ゼミⅢA	森 本 一 彦	2	2年次	—		148
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミⅣA	森 本 一 彦	2	2年次	—		149

5) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55204	心理学ⅠA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		150
前期	金	2	55227	心理学ⅠA【LS】	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	150
前期	月	6	51626	心理学ⅠB	上 野 和 久	2	1年次	社会福祉主事	難波	290
後期	金	2	55252	心理学ⅡA	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事		151
後期	金	2	55277	心理学ⅡA【LS】	佐 々 木 聡	2	1年次	社会福祉主事	社会人	151
後期	月	6	51676	心理学ⅡB	上 野 和 久	2	1年次	社会福祉主事	難波	291
前期	月	3	51309	社会学	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事		152
前期	月	3	51330	社会学【LS】	森 本 一 彦	2	1年次	社会福祉主事	社会人	152
後期	月	2	51255	社会福祉論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		153
前期	月	2	51206	社会保障論	城 内 龍 玄	2	1年次	社会福祉主事		154

6) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52209	キャリアデザインⅠ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅡ	155
後期	火	2	52255	キャリアデザインⅡ	高 田 綾 子	2	1年次	—	キャリアデザインⅠ	156
前期	火	4	52409	キャリアデザインⅢ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅣ	157
後期	火	4	52454	キャリアデザインⅣ	高 田 綾 子	2	2年次	—	キャリアデザインⅢ	158
前期	火	3	52306	キャリアデザインⅤ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅥ	159
後期	火	3	52355	キャリアデザインⅥ	高 田 綾 子	2	3年次	—	キャリアデザインⅤ	160
後期	集中	集中	57056	キャリア研修	就 職 担 当	2	2年次	—		161
後期	集中	集中	57057	インターンシップ	就 職 担 当	2	3年次	—		162

7) 教養科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	4	53405	教養講義（数的処理）	木 地 茂 典	2	1年次	—		163
後期	水	4	53454	教養講義（自然科学）	木 地 茂 典	2	1年次	—		164
後期	木	1	54157	教養講義（人文科学）	森 本 一 彦	2	1年次	—		165
前期	木	1	54111	教養講義（社会科学）	森 本 一 彦	2	1年次	—		166

8) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54309	人間学実習(社会調査)	森本一彦	2	2年次	-		167
後期	集中	集中	57086	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	292
後期	集中	集中	57087	人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)	橋本久仁彦	2	2年次	-	難波	293
通年	集中	集中	57007	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	-		101
通年	集中	集中	57006	巡礼・遍路A	密教学科主任	2	1年次	-		102
前期	木	2	54207	巡礼・遍路B	川崎一洋	2	1年次	-		103
後期	木	2	54256	巡礼・遍路C	川崎一洋	2	1年次	-		104

9) 専門講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	51256	人間学専門講義(高野文化圏論)	森本一彦	2	2年次	-		168
前期	火	3	52307	人間学専門講義(カウンセリング論A)	上野和久	2	2年次	-		169
前期	火	3	52328	人間学専門講義(カウンセリング論A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	169
後期	火	3	52356	人間学専門講義(発達心理学A)	上野和久	2	2年次	-		170
後期	火	3	52378	人間学専門講義(発達心理学A)【LS】	上野和久	2	2年次	-	社会人	170
前期	木	1	54112	人間学専門講義(悲嘆学A)	森崎雅好	2	2年次	-		171
後期	木	1	54158	人間学専門講義(自殺学A)	森崎雅好	2	2年次	-		172
前期	木	4	54408	人間学専門講義(地域連携)	森本一彦	2	2年次	-		173
前期	金	4	55404	人間学専門講義(地域産業論)	鈴木裕範	2	2年次	-		174
前期	月	7	51727	人間学専門講義(発達心理学B)	小林奈緒美	2	2年次	-	難波	294
後期	月	7	51777	人間学専門講義(家族心理学)	小林奈緒美	2	2年次	-	難波	295
前期	火	6	52627	人間学専門講義(悲嘆学E)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	296
前期	水	7	53727	人間学専門講義(深層心理学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	297
前期	水	6	53627	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)	木下忠恭	2	2年次	-	難波	298
後期	水	6	53677	人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)	木下忠恭	2	2年次	-	難波	299
後期	水	7	53777	人間学専門講義(福祉心理学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	300
後期	火	6	52677	人間学専門講義(自殺学)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	301
前期	木	5	54528	人間学専門講義(宗教学入門)	小田龍哉	2	2年次	-	難波	302
後期	木	5	54578	人間学専門講義(世俗主義と宗教)	小田龍哉	2	2年次	-	難波	303
前期	木	6	54627	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅰ)	大河内大博	2	2年次	-	難波	304
後期	木	6	54677	人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)	大河内大博	2	2年次	-	難波	305
前期	金	6	55628	人間学専門講義(心理統計学)	五明優介	2	2年次	-	難波	306
後期	金	6	55678	人間学専門講義(心理測定法)	五明優介	2	2年次	-	難波	307
前期	金	7	55727	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅰ)	五明優介	2	2年次	-	難波	308
後期	金	7	55777	人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅱ)	五明優介	2	2年次	-	難波	309
前期	土	1	56030	人間学専門講義(カウンセリング論B)	佐々木聡	2	2年次	-	難波	310
後期	土	1	56080	人間学専門講義(社会心理学)	松下步睦	2	2年次	-	難波	311
前期	土	2	56031	人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅠB)	山添正	2	2年次	-	難波	312
後期	土	2	56081	人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡB)	山添正	2	2年次	-	難波	313
前期	土	4	56032	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)	山本和美	2	2年次	-	難波	314
後期	土	4	56082	人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)	森崎雅好	2	2年次	-	難波	315
後期	集中	集中	57089	人間学専門講義(学校心理学)	佐々木聡	2	2年次	-	難波	316
後期	集中	集中	57084	人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)	窪寺俊之	2	2年次	-	難波	317
後期	集中	集中	57088	人間学専門講義(もの語り心理学)	やまだようこ	2	2年次	-	難波	318
後期	集中	集中	57085	人間学専門講義(死生観B)	山本佳世子	2	2年次	-	難波	319

10) 実践演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	集中	集中	57053	人間学実践演習(学外研修①)	森本一彦	2	3年次	-		175
後期	集中	集中	57054	人間学実践演習(学外研修②)	森本一彦	2	3年次	-		176
通年	実習	実習	58031	人間学実践演習(臨床実習Ⅰ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	320
通年	実習	実習	58032	人間学実践演習(臨床実習Ⅱ)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	321
通年	実習	実習	58033	人間学実践演習(臨床実習Ⅲ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	322
通年	実習	実習	58034	人間学実践演習(臨床実習Ⅳ)	川口道雄	2	3年次	-	難波	323
通年	実習	実習	58035	人間学実践演習(臨床実習Ⅴ)	川口道雄	2	4年次	-	難波	324
後期	集中	集中	57090	人間学実践演習(聖地巡礼Ⅰ)	森崎雅好	2	3年次	-	難波	325
後期	集中	集中	57091	人間学実践演習(聖地巡礼Ⅱ)	森崎雅好	2	4年次	-	難波	326

11) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53209	人間学演習ⅠA	森本一彦	4	3年次	-		177
通年	水	2	53210	人間学演習ⅠF	溝端悠朗	4	3年次	-		178
通年	月	5	51526	人間学演習ⅠC(臨床心理学演習)	上野和久	4	3年次	-	難波	327
通年	火	7	52726	人間学演習ⅠD(臨床心理学演習)	森崎雅好	4	3年次	-	難波	329
通年	水	2	53211	人間学演習ⅡA	森本一彦	4	4年次	-		177
通年	水	2	53212	人間学演習ⅡF	溝端悠朗	4	4年次	-		178
通年	月	5	51527	人間学演習ⅡC(臨床心理学演習)	上野和久	4	4年次	-	難波	328
通年	火	7	52727	人間学演習ⅡD(臨床心理学演習)	森崎雅好	4	4年次	-	難波	330

12) 卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	59002	人間学科卒業論文	人間学科主任	8	4年次	-		-
前期	論文	論文	59004	人間学科卒業論文(前期)	人間学科主任	8	4年次	-		-

2 選択科目

1) 他学科学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	54108	漢文	南昌宏	2	1年次	-		46
通年	木	1	54109	サンスクリット語A	徳重弘志	2	1年次	-		49
通年	金	3	55328	サンスクリット語B	前谷彰	2	1年次	-	難波	265
前期	火	1	52108	密教学概論A	北川真寛	2	2年次	-		66
後期	火	1	52154	密教学概論B	北川真寛	2	2年次	-		67
前期	金	4	55403	仏教学概論A	菊谷竜太	2	2年次	-		68
後期	金	4	55454	仏教学概論B	菊谷竜太	2	2年次	-		69
前期	月	3	51308	密教史概説A	徳重弘志	2	2年次	学芸員		70
前期	月	3	51329	密教史概説A【LS】	徳重弘志	2	2年次	学芸員	社会人	70
後期	月	3	51356	密教史概説B	櫻木潤	2	2年次	教免(宗教)		71
後期	月	3	51377	密教史概説B【LS】	櫻木潤	2	2年次	-	社会人	71
前期	木	3	54329	密教史概説C	奥山直司	2	2年次	-	難波	266
前期	水	1	53103	仏教史概説A	前谷彰	2	2年次	学芸員		72
後期	水	1	53159	仏教史概説B	前谷彰	2	2年次	-		73
前期	金	4	55428	仏教史概説C	前谷彰	2	2年次	-	難波	267
後期	金	4	55477	仏教史概説D	前谷彰	2	2年次	-	難波	268
通年	水	4	53401	常用經典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		74
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		75
通年	月	1	51101	法式	加藤善弘	2	1年次	僧階補任		76
通年	火	4	52407	布教A	橋本真人	2	1年次	僧階補任		77
通年	木	3	54307	布教B(詠歌)	辻・西山・木間	2	1年次	僧階補任		78
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野田悟	2	1年次	書道師範		79
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範		80

通年	火	2	52207	祖典講読ⅠA	松 長 潤 慶	4	2年次	-		87
通年	火	2	52208	祖典講読ⅠB	北 川 真 寛	4	2年次	-		87
通年	月	2	51227	祖典講読ⅠC	土 居 夏 樹	4	2年次	-	難波	269
通年	木	3	54308	祖典講読ⅡA	川 崎 一 洋	4	3年次	-		90
通年	木	3	54330	祖典講読ⅡA【LS】	川 崎 一 洋	4	3年次	-	社会人	90
通年	月	4	51406	祖典講読ⅡB	米 田 弘 仁	4	3年次	-		91
通年	水	4	53427	祖典講読ⅡE	川 崎 一 洋	4	3年次	-	難波	272
通年	水	3	53307	宗典講読A	徳 重 弘 志	4	3年次	-		96
通年	水	3	53328	宗典講読A【LS】	徳 重 弘 志	4	3年次	-	社会人	96
通年	木	2	54206	宗典講読B	T.ト`ライトライツ	4	3年次	-	已灌頂者	97
通年	木	1	54110	宗典講読C	川 崎 一 洋	4	3年次	-		98
通年	集中	集中	57005	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	-		99
通年	集中	集中	57008	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	-		100
前期	月	1	51102	密教学特殊講義A	松 長 潤 慶	2	3年次	-		105
前期	火	4	52404	密教学特殊講義B	和 田 圭 子	2	3年次	学芸員		106
後期	火	4	52451	密教学特殊講義C	和 田 圭 子	2	3年次	学芸員		107
前期	木	4	54426	密教学特殊講義D	野 田 悟	2	3年次	-	難波	275
前期	金	2	55226	密教学特殊講義F	松 長 潤 慶	2	3年次	-	難波	276
前期	木	5	54526	密教学特殊講義G	野 田 悟	2	3年次	-	難波	277
前期	木	4	54405	仏教学特殊講義A	那 須 真 裕 美	2	3年次	-		110
前期	木	4	54428	仏教学特殊講義A【LS】	那 須 真 裕 美	2	3年次	-	社会人	110
前期	金	2	55202	仏教学特殊講義B	土 居 夏 樹	2	3年次	-		111
前期	金	3	55303	仏教学特殊講義J	菊 谷 竜 太	2	3年次	-		112
後期	金	3	55351	仏教学特殊講義K	菊 谷 竜 太	2	3年次	-		113
前期	金	3	55327	仏教学特殊講義C	岡 田 英 作	2	3年次	-	難波	278
後期	火	3	52376	仏教学特殊講義I	櫻 木 潤	2	3年次	-	難波	279
前期	月	1	51103	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	2	3年次	-	已灌頂者	114
後期	月	1	51152	真言密教特殊講義B	中 西 雄 泰	2	3年次	-	已灌頂者	115
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義D	T.ト`ライトライツ	2	3年次	-	已灌頂者	116
後期	金	2	55251	真言密教特殊講義E	T.ト`ライトライツ	2	3年次	-	已灌頂者	117
前期	月	3	51304	真言密教特殊講義M	佐 藤 隆 彦	2	3年次	-	已灌頂者	118
後期	月	4	51453	真言密教特殊講義N	佐 藤 隆 彦	2	3年次	-	已灌頂者	119
前期	水	3	53326	真言密教特殊講義L	川 崎 一 洋	2	3年次	-	難波	280
後期	月	1	51151	密教学講読演習A	松 長 潤 慶	2	3年次	-		120
後期	火	3	52353	密教学講読演習B	北 川 真 寛	2	3年次	-		121
前期	月	2	51202	密教学講読演習J	大 柴 清 圓	2	3年次	-		124
後期	月	2	51252	密教学講読演習K	大 柴 清 圓	2	3年次	-		125
前期	火	3	52326	密教学講読演習C	櫻 木 潤	2	3年次	-	難波	281
後期	金	2	55276	密教学講読演習G	松 長 潤 慶	2	3年次	-	難波	282
後期	木	5	54551	仏教学講読演習A	前 谷 彰	2	3年次	-		126
後期	木	5	54577	仏教学講読演習A【LS】	前 谷 彰	2	3年次	-	社会人	126
前期	木	2	54202	仏教学講読演習B	櫻 木 潤	2	3年次	-		127
前期	木	2	54226	仏教学講読演習B【LS】	櫻 木 潤	2	3年次	-	社会人	127
後期	木	2	54254	仏教学講読演習D	森 崎 雅 好	2	3年次	-		128
後期	木	2	54276	仏教学講読演習D【LS】	森 崎 雅 好	2	3年次	-	社会人	128
前期	木	1	54104	仏教学講読演習F	徐 東 軍	2	3年次	-		129
後期	木	1	54153	仏教学講読演習G	徐 東 軍	2	3年次	-		130
後期	集中	集中	57052	仏教学講読演習I	平 岡 宏 一	2	3年次	-		131
後期	金	3	55376	仏教学講読演習C	岡 田 英 作	2	3年次	-	難波	283
後期	火	4	52476	仏教学講読演習H	坂 口 太 郎	2	3年次	-	難波	284
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D	T.ト`ライトライツ	2	3年次	-	已灌頂者	134
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E	T.ト`ライトライツ	2	3年次	-	已灌頂者	135
後期	月	3	51352	真言密教講読演習K	佐 藤 隆 彦	2	3年次	-	已灌頂者	136
後期	月	4	51476	真言密教講読演習H	北 川 真 寛	2	3年次	-	難波	285

後期	水	3	53376	真言密教講読演習J	川崎一洋	2	3年次	-	難波	286
通年	水	2	53201	密教学演習B	佐藤隆彦	4	3・4年次	-		137
通年	水	2	53202	密教学演習C	前谷彰	4	3・4年次	-		138
通年	水	2	53203	密教学演習D	櫻木潤	4	3・4年次	-		139
通年	水	2	53204	密教学演習E	土居夏樹	4	3・4年次	-		140
通年	水	2	53205	密教学演習F	松長潤慶	4	3・4年次	-		141
通年	水	2	53206	密教学演習G	菊谷竜太	4	3・4年次	-		142
通年	水	2	53207	密教学演習K	満端悠朗	4	3・4年次	-		143
通年	火	1	52101	密教学演習M	満端悠朗	4	4年次	-		144
通年	水	2	53208	密教学演習N	北川真寛	4	3・4年次	-		145
通年	月	4	51426	密教学演習H	南昌宏	4	4年次	-	難波	287
通年	金	4	55426	密教学演習I	岡田英作	4	3年次	-	難波	288
通年	火	2	52226	密教学演習L	櫻木潤	4	3年次	-	難波	289

2) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52502	総合科目(チベット仏教入門I B)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		179
後期	火	5	52551	総合科目(チベット仏教入門II B)	テンジン・ウセル	2	1年次	-		180
前期	金	6	55627	総合科目(チベット仏教入門I A)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	331
後期	金	6	55677	総合科目(チベット仏教入門II A)	テンジン・ウセル	2	1年次	-	難波	332

3) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次	-	学芸員	181
前期	水	3	53305	企画科目(寺院運営入門)	藤本善光	2	1年次	-		182
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻・西山・本間	2	1年次	-		183
通年	木	4	54402	企画科目(高野山国際観光入門)	松山典子	2	1年次	-	6月16日から毎週	184
後期	集中	集中	57051	企画科目(密教瞑想)	佐藤隆彦	2	1年次	-		185
通年	月	3	51302	企画科目(日本語留學生中級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	186
前期	月	4	51408	企画科目(日本文化)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	186
後期	月	4	51457	企画科目(日本社会)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	84
通年	月	5	51502	企画科目(日本語留學生上級B)	松本貴子	2	1年次	-	留学生	187
通年	水	3	53302	企画科目(日本語留學生上級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留学生	51
通年	水	4	53402	企画科目(日本語留學生中級A)	藤井知枝	2	1年次	-	留学生	50
通年	月	3	51326	企画科目(仏教芸術実習仏画)	徐東軍	2	1年次	-	難波	333
前期	土	3	56028	企画科目(伝統工芸実習彫刻I)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	334
後期	土	3	56078	企画科目(伝統工芸実習彫刻II)	森崎雅好	2	1年次	-	難波	335

4) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52528	サンスクリット語上級	菊谷竜太	2	2年次	-	難波	336
通年	火	5	52505	サンスクリット語上級[LS]	菊谷竜太	2	2年次	-	社会人	336
通年	木	4	54403	チベット語A	テンジン・ウセル	2	2年次	-		188
通年	木	4	54427	チベット語A[LS]	テンジン・ウセル	2	2年次	-	社会人	188
通年	金	5	55526	チベット語B	テンジン・ウセル	2	2年次	-	難波	337
通年	火	1	52102	中国語I	土生川正賢	2	1年次	-		189
通年	火	2	52201	中国語II	土生川正賢	2	1年次	-		190

5) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	51205	法式上級	加藤 栄 俊	2	2年次	-	已灌頂者	191
通年	金	3	55305	声明上級	辻 秀 道	2	2年次	-		192
通年	金	3	55302	梵字悉曇A	齋 藤 天 響	2	1年次	-		193
通年	金	5	55527	梵字悉曇B	添 野 了	2	1年次	-	難波	338

6) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	西 脇 仁	2	1年次	-		194
通年	水	3	53303	情報処理	木 地 茂 典	2	1年次	-		195
通年	火	4	52408	伝統文化（華道）	五 味 和 樹	2	1年次	-		196
通年	水	3	53308	伝統文化（茶道）	岡 本 文 音	2	1年次	-		197
通年	月	3	51306	宗教芸能（宗教舞踊）	高 祖 ・ 辻	2	1年次	-		198

7) 古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	53215	歴史学	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		199
前期	水	1	53104	書誌学	坂 口 太 郎	2	3年次	学芸員		200
後期	水	1	53160	古文書学	坂 口 太 郎	2	3年次	学芸員		201
後期	水	2	53253	古文書解説A	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		202
前期	火	4	52428	古文書解説B	坂 口 太 郎	2	2年次	-	難波	339

8) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55205	宗教学Ⅰ	奥 山 直 司	2	2年次	-		203
後期	金	2	55253	宗教学Ⅱ	奥 山 直 司	2	2年次	-		204
後期	金	4	55452	宗教思想史ⅠA	奥 山 直 司	2	1年次	-		205
後期	木	3	54376	宗教思想史ⅠB	奥 山 直 司	2	1年次	-	難波	340
後期	木	2	54252	宗教思想史ⅡA	櫻 木 潤	2	1年次	-		206
前期	金	1	55104	宗教史Ⅰ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員		208
後期	金	1	55152	宗教史Ⅱ	土 居 夏 樹	2	2年次	学芸員		209
前期	金	4	55405	哲学	南 昌 宏	2	1年次	-		210
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森 本 一 彦	2	2年次	-		211
後期	木	4	54476	宗教学方法論【LS】	森 本 一 彦	2	2年次	-	社会人	211
前期	木	5	54501	国語学Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	-		212
後期	木	5	54552	国語学Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	-		213
前期	月	4	51405	国文法Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	-		214
後期	月	4	51455	国文法Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	-		215
前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	2年次	-		216
前期	火	4	52427	日本文学史概説Ⅰ【LS】	溝 端 悠 朗	2	2年次	-	社会人	216
後期	火	4	52453	日本文学史概説Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	2年次	-		217
後期	火	4	52477	日本文学史概説Ⅱ【LS】	溝 端 悠 朗	2	2年次	-	社会人	217
前期	火	5	52503	日本文学Ⅰ	溝 端 悠 朗	2	1年次	-		218
前期	火	5	52527	日本文学Ⅰ【LS】	溝 端 悠 朗	2	1年次	-	社会人	218
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	溝 端 悠 朗	2	1年次	-		219
後期	火	5	52576	日本文学Ⅱ【LS】	溝 端 悠 朗	2	1年次	-	社会人	219
前期	木	3	54306	漢文学概説Ⅰ	南 昌 宏	2	2年次	-		220
前期	木	3	54328	漢文学概説Ⅰ【LS】	南 昌 宏	2	2年次	-	社会人	220
後期	木	3	54352	漢文学概説Ⅱ	南 昌 宏	2	2年次	-		221

後期	木	3	54378	漢文学概論Ⅱ【LS】	南 昌 宏	2	2年次	—	社会人	221
後期	月	3	51353	日本文化特殊講義A	溝 端 悠 朗	2	3年次	学芸員		222
前期	木	5	54502	日本文化特殊講義C	坂 口 太 郎	2	3年次	—		223
後期	水	1	53161	中国文化講読演習A	野 田 悟	2	3年次	学芸員		224
後期	水	3	53352	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	—		225

9) 書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52403	漢字Ⅱ	野 田 悟	2	2年次	書道師範		226
通年	木	3	54303	かなⅡ	塩 野 三 恵 子	2	2年次	書道師範		227
通年	火	1	52106	篆刻	野 田 悟	2	2年次	書道師範		228
通年	火	3	52301	条幅制作A（漢字）	野 田 悟	2	3年次	書道師範		231
通年	木	4	54404	条幅制作B（かな）	塩 野 三 恵 子	2	3年次	書道師範		232
通年	金	1	55105	書道史	野 田 悟	4	2年次	書道師範		233

10) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51504	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		234
前期	木	4	54409	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		235
後期	木	4	54453	博物館経営論	山 口 文 章	2	2年次	学芸員		236
前期	金	3	55306	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		237
後期	木	3	54353	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		238
後期	集中	集中	57055	博物館展示論	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		239
前期	木	3	54310	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		240
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		241
通年	実習	実習	58003	博物館実習	櫻 木 ・ 坂 口	3	3年次	学芸員		242

別 科 目 次

別科

1 必修科目

1) 基礎科目 (16)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
通年	火	1	82101	真言宗の教え (別)	密教学概論A	北 川 真 寛	4	1年次		66
					密教学概論B					66
後期	水	1	83151	釈尊の生涯 (別)	仏教史概説B	前 谷 彰	2	1年次		72
前期	火	1	82102	弘法大師空海の生涯 (別)	空海の思想入門A	添 田 隆 昭	2	1年次		40
通年	火	2	82201	真言宗典講読1 (別)	祖典講読 I A	松 長 潤 慶	4	1～2年次		87
通年	木	3	84301	真言宗典講読2 (別)	祖典講読 II A	川 崎 一 洋	4	1～2年次		90

2) 実習科目 (14)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
通年	金	3	85302	梵字悉曇 (別)	梵字悉曇A	齋 藤 天 馨	2	1年次		193
通年	金	1	85101	声明 (別)	声明	辻 秀 道	2	1年次		75
通年	水	4	83401	常用経典 (別)	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次		74
通年	月	1	81102	法式 (別)	法式	加 藤 善 弘	2	1年次		76
通年	火	4	82401	布教 (別)	布教	橋 本 真 人	2	1年次		77

3) 実習科目 (18)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振 替 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	備 考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉 (別)	現代の人権	竹 村 和 也	2	1～2年次		207
通年	金	2	85202	世界の宗教 (別)	宗教学 I	奥 山 直 司	4	1～2年次		203
					宗教学 II					203
通年	金	1	85102	宗教の歴史 (別)	宗教史 I	土 居 夏 樹	4	1～2年次		208
					宗教史 II					208
通年	金	2	85201	心の科学 (別)	心理学 I A	佐 々 木 聡	4	1～2年次		150
					心理学 II A					150
通年	月	4	81401	仏教芸術 (別)	企画科目 (仏画)	有 松 孝 雄	2	1～2年次		181
前期	月	3	81301	社会保障 A (別)	社会学	森 本 一 彦	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	152
前期	月	2	81202	社会保障 B (別)	社会保障論	城 内 龍 玄				154
後期	月	2	81251	地域福祉 A (別)	社会福祉論	城 内 龍 玄	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	153
前期	木	4	84402	地域福祉 B (別)	企画科目 (地域連携)	森 本 一 彦				173
通年	木	1	84101	サンスクリット語 (別)	サンスクリット語A	徳 重 弘 志	2	1～2年次		49
通年	木	4	84401	チベット語 (別)	チベット語A	テンジン・ウセル	2	1～2年次		188
通年	金	3	85301	声明上級 (別)	声明上級	辻 秀 道	2	1～2年次		192
通年	月	2	81201	法式上級 (別)	法式上級	加 藤 栄 俊	2	1～2年次		191
通年	月	1	81101	密教儀礼の理論と実習 (別)	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	4	1～2年次		114
					真言密教特殊講義B					114

講 義 概 要
•
授 業 計 画

科目名	空海の思想入門A／弘法大師空海の生涯(別)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	添田隆昭	
ナンバリング	G1-01-001	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し、日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察する。

授業の到達目標

弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解する。

授業計画

1. インド ヨーロッパ語族の広がり
2. ブッダの誕生
3. 部派仏教の成立
4. 大乘仏教の興起
5. 大乘経典 (維摩経 般若経 法華経 華嚴経 涅槃経)
6. 密教経典の深化
7. 大日経 金剛頂経の成立
8. 弘法大師の生涯 1
9. 弘法大師の生涯 2
10. 弘法大師の著作 1
11. 弘法大師の著作 2
12. 入定留身
13. 入定留身以後
14. 大師信仰の現在 1
15. 大師信仰の現在 2

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容について関心のあった部分について関連図書で調べておくこと (90分)

テキスト

必要に応じて プリントを配布する

参考書・参考資料等

添田隆昭「大師はいまだおられますか」(高野山出版社)

学生に対する評価

期末の筆記試験 (80%) と授業への積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を自分の言葉で表現できる。
- (A) 専門用語を理解し 自分の文章の中で駆使できる。
- (S) 興味のある部分について 自分で探求し 文章化できる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には授業中に対応する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	導入研修							学期	前期
副題	-					授業方法	講義	担当者	学科主任
ナンバリング	G1-26-002	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

合宿による集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

授業の到達目標

各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

授業計画

1. 高野山、高野山大学について
2. 宗教体験①金剛峯寺参拝
3. 宗教体験②奥之院参拝
4. 大学で学ぶ意義を考える
5. 大学生活を考える
6. 自己を理解する
7. ワークショップ①大学教育を考える
8. 宗教体験③勤行
9. 山内フィールドワーク
10. ワークショップ②将来像を考える
11. 宗教体験④写経
12. ワークショップ③大学での計画を立てる
13. ワークショップ④計画をプレゼンテーションする
14. 宗教体験⑦（報恩日）
15. 宗教体験⑧（宗祖降誕日）

準備学習(予習・復習)・時間

学習した内容、発表、討論やワークを踏まえて、内容について各自で整理する。(180分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

学生に対する評価

レポート(40%)、発表など授業参加の積極性(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことが理解できる。
 (B) 授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
 (A) グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
 (S) 大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

各回ごとに質問を受けるとともに、提出されたレポートを添削する。

その他

- ・本講義は、2019年度以降の密教学科密教学コース入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。
- ・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、7月までの宗教行事(報恩日、宗祖降誕日など)に3回以上に参加するとともに、レポートを提出することによって単位を認定する。
- ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行う。

科目名	英語 I						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	G1-07-003	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、リーディングで語彙力・文法力、リスニング力を伸ばしていく。また教材で使用したトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、意見を述べるようにする。

授業の到達目標

時事英語教材(Ablish)を使用して、基本的な英文法を再確認しながら意味理解ができるようになる。あわせて音声モデルに合わせてリスニング（主にシャドーイング練習）を実施し英語の内容が聞き取れるようにする。

授業計画

【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. 【Unit 1 Anti-Asian Hate Crimes Rising】Topic の読解/内容理解/リスニング
3. 【Unit 1 Anti-Asian Hate Crimes Rising】文法解説/グループワーク
4. 【Unit 2 Courthouse Facility Dog】topic の読解/内容理解/リスニング
5. 【Unit 2 Courthouse Facility Dog】文法解説/グループワーク
6. 中間テストと講評
7. 【Unit 3 New Zealanders Vote Yes for Euthanasia】Topic の読解/内容理解/リスニング
8. 【Unit 3 New Zealanders Vote Yes for Euthanasia】文法解説/グループワーク
9. 【Unit 4】Topic の読解/内容理解/リスニング
10. 【Unit 4 Japan Works to Make Paternity Leave More Flexible】文法解説/グループワーク
11. 【Unit 5 Deepfake Abuse Becomes Serious Problem】Topic の読解/内容理解/リスニング
12. 【Unit 5 Deepfake Abuse Becomes Serious Problem】文法解説/グループワーク
13. 【Unit 6 Emergency Number “118”】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
14. 前期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

【後期】

1. 後期の講義計画とプレゼンの説明
2. 【Unit 6 Emergency Number “118”】文法解説/グループワーク
3. 【Unit 7 Great Historical Figure Series: Shibusawa Eiichi】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
4. 【Unit7 Great Historical Figure Series: Shibusawa Eiichi】文法解説/グループワーク/文法解説/グループワーク
5. 【Unit 8 Hawker Culture in Singapore】Topic の読解/内容理解/リスニング
6. 中間テストと講評
7. 【Unit9 Help Mark】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
8. 【Unit 10 Debate Sparked over Same Surname for Married Couples】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
9. 【Unit 11 Video Translation】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
10. 【Unit 12 Opinions Divided on Vaccine Passports】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
11. 【Unit 13 Problems with Japan’s Technical Intern Training Program】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
12. 【Unit 14 Young Carers】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
13. 【Unit15 Genetically Modified Mosquito Project Given Green Light in Florida】Topic の読解/内容理解/リスニング/文法解説/グループワーク
14. 後期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として毎回担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。英語シャドーイング練習は自主学習として実施する。

テキスト

4月最初の講義で販売する。

参考書・参考資料等

参考書は、講義中に適宜紹介し、プリント教材は初回講義（オリエンテーション）で配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験、プレゼンテーションを加味して行う。テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) パラグラフ単位で英文を理解できる。
- (A) 短い会話のやり取りができるようになる。
- (S) ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ5回まで。講義開始30分を超えて入室した場合は欠席とする。

科目名	英語 I (再履修)						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	G2-07-004	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

基本的な英文法を学び直し、簡単な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の 4 技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標

初歩的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話ができるようになる。音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画

【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. Lesson 1① (Personal Information)
3. Lesson 1② (Meeting People)
4. Lesson 2① (Subject Pronouns), Book Flix①
5. Lesson 2② (Places and Nationalities), Book Flix②
6. Lesson 3① (Everyday Activities), Book Flix③
7. Lesson 3② (Titles, Names, Nicknames), Book Flix④
8. 中間テスト、解答と解説
9. Lesson 4① (Everyday Activities), Book Flix⑤
10. Lesson 4② (Possessive Adjectives), Book Flix⑥
11. Lesson 5① (Describing People and Things), Book Flix⑦
12. Lesson 5② (Weather), Book Flix⑧
13. 英語発表会① (Presentation)
14. 前期まとめテスト 解答と解説
15. 前期フィードバック

【後期】

1. Lesson 6① (Family Members), Book Flix⑨
2. Lesson 6② (Describing Activities and Events), Book Flix⑩
3. Lesson 7① (Places Around Town), True Flix①
4. Lesson 7② (Locating Places), True Flix②
5. Lesson 8① (Clothing), True Flix③
6. Lesson 8② (Colors), True Flix④
7. 英語発表会② (Presentation)
8. Lesson 9① (Languages and Nationalities), True Flix⑥
9. Lesson 9② (Everyday Activities), True Flix⑦
10. Lesson 10① (Habitual Actions), True Flix⑧
11. Lesson 10② (People's Interests and Activities), True Flix⑨
12. Lesson 11① (Describing Frequency of Actions), True Flix⑩
13. Lesson 11② (Describing People)、デジタルブックまとめ
14. 後期まとめテスト 解答と解説
15. 年間を通じた講義のフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、テキストの学習範囲の音読、デジタル絵本を視聴しておくこと。講義後は英語レポートを書き、学習した内容を復習しておくこと。

テキスト

Side by Side Level 1 Activity Workbook (Third Edition)、SCHOLASTIC Book Flix / True Flix (オンライン教材)、英語レポートシート (オンライン配信)

参考書・参考資料等

Side by Side Level 1 Extra Edition: Student Book and eText (Third Edition)、

学生に対する評価

講義中の積極性 (30%)、講義後の英語レポート (20%)、発表に対する評価 (20%)、試験 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) 基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をするができる。
- (A) 読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りをすることができる。
- (S) 豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他

欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ 5 回まで。オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスできる環境が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

元英会話スクール講師、元私立小学校英語専科教員として長年勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発表指導も行う予定である。

科目名	英語Ⅱ						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	亀位卓阿	
ナンバリング	G2-07-005	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」する。具体的には、時事英語や、読解系の日常社会英語の教材などで親和性のあるものを扱いたい。【後期】実用的なコミュニケーション英語に取り組む。前期後期とも受講生にカスタマイズした役に立つ授業にする。

授業の到達目標

【前期】時事英語、宗教英語、トピック等に親しむ。【後期】上記のことを生かして卒業後も末永く英語を生かせる思考を身につけてもらう。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 高野山についての英語説明 (1)・読み物
3. 高野山についての英語説明 (2)・読み物
4. 高野山についての英語説明 (3)・読み物
5. 高野山についての英語説明 (4)・読み物
6. 高野山についての英語説明 (5)・読み物
7. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (1)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
8. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (2)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
9. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (3)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
10. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (4)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
11. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (5)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
12. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (6)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
13. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (7)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
14. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (8)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
15. まとめ

【後期】

1. ガイダンス
2. 英字新聞解釈・トピック作業 (1)
3. 英字新聞解釈・トピック作業 (2)
4. 英字新聞解釈・トピック作業 (3)
5. 英字新聞解釈・トピック作業 (4)
6. 英字新聞解釈・トピック作業 (5)
7. 英字新聞解釈・トピック作業 (6)
8. 英字新聞解釈・トピック作業 (7)
9. 英字新聞解釈・トピック作業 (8)
10. 英字新聞解釈・トピック作業 (9)
11. 英字新聞解釈・トピック作業 (10)
12. まとめ①
13. まとめ②
14. まとめ③
15. 試験

準備学習(予習・復習)・時間

中学・高校で習った英語の英文法理解、読解、作文をおさらいしておく。(計 90 分以上)。リスニングも普段から親しんで欲しい。

テキスト

英文擅信徒必携 (@500)・英文高野山パンフレット (@50)。その他は授業中にコピーを配付する。自分の気に入っている英文法参考書などを持っておく。

参考書・参考資料等

授業を進める中で紹介する。

学生に対する評価

テスト (40%)、授業参加の積極性・態度 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 英文読解力をつけ、情報収集能力をつける。
- (B) 英語で高野山はもちろん、身の回りのことについて紹介できる。
- (A) 英会話ができるよう英語での情報収集能力をつける。
- (S) ビジネス英文を読解できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は授業時、または期間中にフィードバックする。

その他

役に立つ勉強を工夫する。ネットを利用した情報伝達も工夫し、進めていきたい。

科目名	英語Ⅱ(再履修)						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	G3-07-006	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

会話でよく使われる英文法を学び直し、基礎的な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標

基本的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話ができるようになる。音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画

【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. Lesson 1① (Simple Present, Simple Past)
3. Lesson 1② (Future: Going to, Like to)
4. Lesson 2① (Count Nouns), Book Flix①
5. Lesson 2② (Non/Count Nouns), Book Flix②
6. Lesson 3① (Partitives, Nouns), Book Flix③
7. Lesson 3② (Imperatives), Book Flix④
8. 中間テスト、解答と解説
9. Lesson 4①(Future Tense: Will), Book Flix⑤
10. Lesson 4②(Might), Book Flix⑥
11. Lesson 5①(Comparatives), Book Flix⑦
12. Lesson 5②(Should, Possessive Pronouns), Book Flix⑧
13. 英語発表会① (Presentation)
14. 前期まとめテスト 解答と解説
15. 前期フィードバック

【後期】

1. Lesson 6① (Superlatives 1), Book Flix⑨
2. Lesson 6② (Superlatives 2), Book Flix⑩
3. Lesson 7① (Imperatives), True Flix①
4. Lesson 7② (Directions), True Flix②
5. Lesson 8① (Adverbs, Comparative Adverbs), True Flix③
6. Lesson 8② (Agent Nouns, If-Clauses), True Flix④
7. 英語発表会②(Presentation)
8. Lesson 9① (Past Continuous Tense), True Flix⑤
9. Lesson 9② (Reflexive Pronouns, While-Clauses), True Flix⑥
10. Lesson 10① (Could, Be Able to), True Flix⑦
11. Lesson 10② (Have Got to, Too+Adjective), True Flix⑧
12. Lesson 11 (Review, Must, Should), True Flix⑨
13. Lesson 12 (Future Continuous Tense), True Flix⑩
14. 後期まとめテスト 解答と解説
15. 年間を通した講義のフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

予習としてテキストの学習範囲の音読、デジタル絵本を1冊視聴しておくこと。講義後は英語レポートを書き、学習した内容を復習しておくこと。

テキスト

Side by Side Level 2 Activity Workbook (Third Edition)、SCHOLASTIC Book Flix / True Flix (オンライン教材)、英語レポートシート (オンライン配信)

参考書・参考資料等

Side by Side Level 2 Extra Edition: Student Book and eText

学生に対する評価

講義中の積極性 (30%)、講義後の英語レポート (20%)、発表に対する評価 (20%)、試験 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) 基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話を行うことができる。
- (A) 読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りすることができる。
- (S) 豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他

欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ5回まで。オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスできる環境が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

元英会話スクール講師、元私立小学校英語専科教員として長年勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発表指導も行う予定である。

科目名	漢文						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-007	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおり読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などを修得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについても言及する。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

授業計画

【前期】

1. 送りがな・返り点 (テキスト第1日)
2. 書き下し文 (1) (テキスト第2日)
3. 書き下し文 (2) (テキスト第3日)
4. 熟語の構造 (テキスト第4日)
5. 漢文の構造 (テキスト第5日)
6. 再読文字 (1) (テキスト第7日)
7. 再読文字 (2) (テキスト第8日)
8. 否定の形 (1) (テキスト第10日)
9. 否定の形 (2) (テキスト第11日)
10. 否定の形 (3) (テキスト第12日)
11. 否定の形 (4) (テキスト第13日)
12. 疑問・反語の形 (1) (テキスト第15日)
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

【後期】

1. 疑問・反語の形 (2) (テキスト第16日)
2. 疑問・反語の形 (3) (テキスト第17日)
3. 使役・受身の形 (テキスト第19日)
4. 比較選択・願望の形 (テキスト第20日)
5. 仮定・抑揚の形 (テキスト第21日)
6. 限定・累加の形 (テキスト第22日)
7. 文字の整理 (1) (テキスト第24日)
8. 文字の整理 (2) (テキスト第25日)
9. 文字の整理 (3) (テキスト第26日)
10. 文字の整理 (4) (テキスト第27日)
11. 文字の整理 (5) (テキスト第28日)
12. 文字の整理 (6) (テキスト第29日)
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60分)

テキスト

佐藤雅一『発展30日完成 漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

学生に対する評価

定期試験が60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。前期試験40%・後期試験60%で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。授業中にスマホ・PCは必要ないので、使用したい者は退室すること。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティビティ・ラーニングである。

科目名	漢文 I						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-008	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおり読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて、理解する。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。

授業計画

1. 送りがな・返り点 (テキスト第1日)
2. 書き下し文 (1) (テキスト第2日)
3. 書き下し文 (2) (テキスト第3日)
4. 熟語の構造 (テキスト第4日)
5. 漢文の構造 (テキスト第5日)
6. 再読文字 (1) (テキスト第7日)
7. 再読文字 (2) (テキスト第8日)
8. 否定の形 (1) (テキスト第10日)
9. 否定の形 (2) (テキスト第11日)
10. 否定の形 (3) (テキスト第12日)
11. 否定の形 (4) (テキスト第13日)
12. 疑問・反語の形 (1) (テキスト第15日)
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60分)

テキスト

佐藤雅一『発展30日完成 漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。授業中にスマホ・PCは必要ないので、使用したい者は退室すること。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文Ⅱ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-07-009	実務経験の有無	無	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて理解する。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

授業計画

1. 疑問・反語の形 (2) (テキスト第16日)
2. 疑問・反語の形 (3) (テキスト第17日)
3. 使役・受身の形 (テキスト第19日)
4. 比較選択・願望の形 (テキスト第20日)
5. 仮定・抑揚の形 (テキスト第21日)
6. 限定・累加の形 (テキスト第22日)
7. 文字の整理 (1) (テキスト第24日)
8. 文字の整理 (2) (テキスト第25日)
9. 文字の整理 (3) (テキスト第26日)
10. 文字の整理 (4) (テキスト第27日)
11. 文字の整理 (5) (テキスト第28日)
12. 文字の整理 (6) (テキスト第29日)
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページの説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。(60分)

テキスト

佐藤雅一『発展30日完成 漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60点未満の場合は、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば、60点とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。授業中にスマホ・PCは必要ないので、使用したい者は退室すること。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語 I A / サンスクリット語 A / サンスクリット語(別)						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M1-07-010	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、学生がサンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、インド古典に対する読解力を高めることを目的とする。

授業の到達目標

・学術書におけるサンスクリット語の単語の意味を、辞書を使って調べることができるようになる。・サンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 文法（1）：文字と発音
3. 文法（2）：母音の曲用
4. 文法（3）：子音の曲用
5. 文法（4）：比較法・代名詞
6. 文法（5）：数詞・不変化詞
7. 文法（6）：動詞の活用（現在組織 1）
8. 文法（7）：動詞の活用（現在組織 2）
9. 文法（8）：連声法
10. 文法（9）：準動詞
11. 文法（10）：名称詞造語法
12. 文法（11）：合成語法
13. 文法（12）：韻律
14. 文法（13）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
15. 文法（14）：動詞の活用（第2次活用法）

【後期】

1. 前期の講義内容の再確認
2. 読解（1）：散文の翻訳（Pañcatantra 1）
3. 読解（2）：散文の翻訳（Pañcatantra 2）
4. 読解（3）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 1）
5. 読解（4）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 2）
6. 読解（5）：韻文の翻訳（Buddhacarita 1）
7. 読解（6）：韻文の翻訳（Buddhacarita 2）
8. 読解（7）：韻文の翻訳（Buddhacarita 3）
9. 読解（8）：韻文の翻訳（Buddhacarita 4）
10. 読解（9）：韻文の翻訳（Buddhacarita 5）
11. 読解（10）：韻文の翻訳（Buddhacarita 6）
12. 読解（11）：韻文の翻訳（Buddhacarita 7）
13. 読解（12）：韻文の翻訳（Buddhacarita 8）
14. 読解（13）：韻文の翻訳（Buddhacarita 9）
15. 読解（14）：韻文の翻訳（Buddhacarita 10）

準備学習(予習・復習)・時間

・【前期】事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・【前期】事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（90分）。・【後期】事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。

テキスト

吹田隆道、『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年（書店で購入）

参考書・参考資料等

辻直四郎、『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年。

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字の配列を理解し、辞書を引いて特定の単語の意味を調べることができる。
- (B) 基本的な文法事項を理解できている。
- (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
- (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・前期の第2回目の授業までに、上記のテキストを購入すること。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	企画科目(日本語留学生中級A)						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	G1-07-011	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

大学で学ぶために必要となる、日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。中級から中上級レベルの文法・語彙を学習し、日本の社会や文化などについて書かれた文章を読み、理解する。自分の考えを理由とともに表現する力を身につける。講義や口頭発表を聞く力を養う。

授業の到達目標

大学の講義内容を理解し、大学での基本的な活動ができる。日本の社会や文化を理解できるようになる。

授業計画

【前期】

- 自己紹介/ テーマ:たとえる一猫に小判 語彙・読解
- テーマ:たとえる一猫に小判 文法(〜ほど〜はない/いない他)・作文
- テーマ:たとえる一猫に小判 / 聴解「富士山」
- テーマ:あされる一満員電車 語彙・読解
- テーマ:あされる一満員電車 文法(〜たばかり 他)
- テーマ:あされる一満員電車 / 聴解「東京の温泉」
- テーマ:かざる一名刺 語彙・読解
- テーマ:かざる一名刺 文法(〜ことだ 他)・作文
- テーマ:かざる一名刺 / 聴解「津軽三味線」
- テーマ:おもいこむ一男の色・女の色 語彙・読解
- テーマ:おもいこむ一男の色・女の色 文法(〜たものだ 他)
- テーマ:おもいこむ一男の色・女の色 / 聴解「長寿の理由」
- 松下幸之助 理想の経営者
- 松下幸之助 理想の経営者
- 前期の復習

【後期】

- テーマ:つながる一タテとヨコ 語彙・読解
- テーマ:つながる一タテとヨコ 文法(〜ざるを得ない 他)・作文
- テーマ:つながる一タテとヨコ / 聴解「掃除」
- テーマ:みなおす一てるてるぼうず 語彙・読解
- テーマ:みなおす一てるてるぼうず 文法(〜上で 他)
- テーマ:みなおす一てるてるぼうず / 聴解「女性専用車両」
- テーマ:なおす一命 語彙・読解
- テーマ:なおす一命 文法(〜たきり 他)・作文
- テーマ:なおす一命 / 聴解「剣道」
- テーマ:おほえる一ものづくり 語彙・読解
- テーマ:おほえる一ものづくり 文法(〜割には 他)
- テーマ:おほえる一ものづくり / 聴解「そばをすする音」
- 坂東玉三郎 女性を演じる
- 坂東玉三郎 女性を演じる
- 後期の復習

準備学習(予習・復習)・時間

新出語彙を事前に調べておくこと。テキストの指定された文に目を通しておくこと。(計 60 分) 課終了後、小テストを行うので、十分に学習しておくこと。(60 分)

テキスト

松田浩志・亀田美保『テーマ別 中級から学ぶ日本語(三訂版)』研究社(2014)(書店で購入)

参考書・参考資料等

①ABK『TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語(改訂版)』アスク出版(2014) ②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型500(改訂版)』アルク(2010)

学生に対する評価

期末試験(50%)、課題(25%)、小テスト(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文法、語彙をある程度理解することができる。
- (B) 学習した文法、語彙をほぼ理解することができる。
- (A) 学習した文法、語彙を理解し、使うことができる。
- (S) 学習した文法、語彙を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回返却する。

その他

科目名	企画科目(日本語留学生上級A)						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	G1-07-012	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

大学で学ぶために必要となる日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。中上級から上級レベルの語彙や表現を学ぶ。社会的なテーマについて書かれたエッセイ、説明文、記事などを読み、自分の考えを詳しく具体的に表現する力を身につける。日本文化や日本人の考え方についての文を読み理解する。社会、生活、経済に関するニュースを聴く力を養う。

授業の到達目標

大学でのアカデミックな活動が円滑にできる。日本の社会や文化への理解を深めることができる。

授業計画

【前期】

1. 自己紹介 / テーマ: 自己紹介と本当の自分 性格を表す言葉
2. テーマ: 自己紹介と本当の自分 語彙・読解
3. テーマ: 自己紹介と本当の自分 重要表現 (〜ばかりで 他)
4. テーマ: 自己紹介と本当の自分 文法・語彙 / 聴解「無銭飲食の男、わざと捕まる」
5. テーマ: 自己紹介と本当の自分 文法・語彙 / 聴解「ペットも花粉症にご用心」
6. テーマ: 若者の自己評価 語彙・読解
7. テーマ: 若者の自己評価 関連記事 他
8. テーマ: 若者の自己評価 重要表現 (〜に関する/〜に関して 他)
9. テーマ: 若者の自己評価 文法・語彙 / 聴解「新たな広告場所に注目」
10. テーマ: 若者の自己評価 文法・語彙 / 聴解「肌着でメタボ予防」
11. テーマ: ジェンダーを考える 語彙・読解
12. テーマ: ジェンダーを考える アンケート結果 他
13. テーマ: ジェンダーを考える 重要表現 (〜限り 他)
14. テーマ: ジェンダーを考える 文法・語彙 / 本田宗一郎 技術者の誇り
15. テーマ: ジェンダーを考える 文法・語彙 / 本田宗一郎 技術者の誇り

【後期】

1. テーマ: ことばと文化 語彙・読解
2. テーマ: ことばと文化 読解 他
3. テーマ: ことばと文化 重要表現 (〜ようものなら 他)
4. テーマ: ことばと文化 文法・語彙 / 聴解「台風18号上陸」
5. テーマ: ことばと文化 文法・語彙 / 聴解「就職活動、厳しい状況続く」
6. テーマ: 心と体のバランス 語彙・読解
7. テーマ: 心と体のバランス 読解、意見文
8. テーマ: 心と体のバランス 重要表現 (〜と言っても 他)
9. テーマ: 心と体のバランス 文法・語彙 / 聴解「3D映画、本格化」
10. テーマ: 心と体のバランス 文法・語彙 / 聴解「自動車保険料、各社一斉値上げ」
11. テーマ: 食の共同性 語彙・読解
12. テーマ: 食の共同性 読解 他
13. テーマ: 食の共同性 重要表現 (〜を通して 他)
14. テーマ: 食の共同性 文法・語彙 / 村上春樹 ベストセラー作家
15. テーマ: 食の共同性 文法・語彙 / 村上春樹 ベストセラー作家

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの新出語彙を調べ、指定された文に目を通しておくこと。(計 60 分) ユニット終了後小テストを行うので、十分に学習しておくこと。(60 分)

テキスト

鎌田修・ボイクマン総子他『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』ジャパンタイムズ(2012) (書店で購入)

参考書・参考資料等

①友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型500』アルク(2010) ②石川智『The Great Japanese 30の物語(中上級)一人物で学ぶ日本語1』くろしお出版(2016)

学生に対する評価

期末試験(50%)、課題(25%) 小テスト(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文法・表現をある程度理解することができる。
 (B) 学習した文法・表現をほぼ理解することができる。
 (A) 学習した文法・表現を理解し、使うことができる。
 (S) 学習した文法・表現を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回返却する。

その他

科目名	密教学基礎ゼミA1							学期	前期
副題	—				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-01-013	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミA2							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M1-01-014	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミB1							学期	前期
副題	—				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-015	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年)
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
(B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
(A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
(S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミB2							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M1-01-016	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミC1							学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M1-01-017	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年)
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
(B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
(A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
(S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミC2							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M1-01-018	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミD1							学期	前期
副題	－				授業方法	演習	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-01-019	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年)
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
(B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
(A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
(S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミD2							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	M1-01-020	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミ1							学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M1-01-021	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミE2							学期	後期
副題	—					授業方法	演習	担当者	北川真寛
ナンバリング	M1-01-022	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミ1							学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	M1-01-023	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミF2							学期	後期
副題	—					授業方法	演習	担当者	鈴木晴久
ナンバリング	M1-01-024	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミG1							学期	前期
副題	－				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	D2-01-025	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年)
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
(B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
(A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
(S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミG2							学期	後期
副題	－				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	D2-01-026	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的な知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

- ①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。3分の1以上、欠席すると評価の対象とならない。②受講者を5クラス程度に編成する。④各回の授業テーマや担当者は変更することもある。

科目名	密教学概論 I A / 密教学概論 A / 真言宗の教え(別)1						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-027	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. 中国・朝鮮密教
4. 密教の聖典 (1) — 『大日経』 —
5. 密教の聖典 (2) — 『金剛頂経』 —
6. 密教の聖典 (3) — 論書 —
7. 密教の成仏論
8. 密教の仏身論
9. 密教のさとり
10. 密教の秘密
11. 顕教の神変
12. 密教の神変
13. 顕教における心
14. 密教における心
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと (30分)。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと (60分)。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』(大法輪閣、1989年)、②金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫、1989年)、③勝又俊教『密教入門』(春秋社、1991年)、④松長有慶『密教』(岩波新書、1991年)など。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、講義参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想を理解できる。
- (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、必ず予習・復習をしておくこと。

科目名	密教学概論ⅡB／密教学概論B／真言宗の教え(別)2						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-028	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国などのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、日本密教、特に弘法大師空海によって確立された真言密教の思想や実践行を中心に概観することで、日本密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

日本密教の思想や専門用語を学び、特に真言密教の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・日本密教総論
2. 弘法大師の著作
3. 弘法大師の教え (1) 一即身成仏一
4. 弘法大師の教え (2) 一十住心思想一
5. 真言密教の曼荼羅 (1) 一胎藏曼荼羅一
6. 真言密教の曼荼羅 (2) 一金剛界曼荼羅一
7. 真言密教の実践法
8. 真言密教の荘嚴一法具・衣体一
9. 真言密教の行法一護摩行一
10. 真言密教の回向一十三仏信仰一
11. 密教における灌頂
12. 密教における灌頂儀礼
13. 天台密教・修験
14. 神仏習合
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと (30分)。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと (60分)。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』(大法輪閣、1989年)、②金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫、1989年)、③勝又俊教『密教入門』(春秋社、1991年)、④松長有慶『密教』(岩波新書、1991年)など。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、講義参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な真言密教の思想を理解できる。
- (B) 基本的な真言密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な真言密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な真言密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、必ず予習・復習をしておくこと。

科目名	仏教学概論 I A / 仏教学概論 A							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-029	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッダの生涯
8. 初期仏教② ブッダの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・シヨベン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
 (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
 (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	仏教学概論ⅡB／仏教学概論B							学期	後期
副題	－				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-030	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乘思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乘思想① 般若思想① 般若経系聖典群
3. 大乘思想② 般若思想② 般若経注釈群
4. 大乘思想③ 浄土思想
5. 大乘思想④ 法華・華嚴・如来蔵思想
6. サンスクリット文化と仏教① 仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教② 菩薩の思想
8. 大乘思想⑤ 中観思想① ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乘思想⑥ 中観思想② 自律派と帰謬派
10. 大乘思想⑦ 唯識思想① マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乘思想⑧ 唯識思想② 有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③ 大僧院における詩作教師
13. 大乘思想⑨ 認識論と論理学① ナーガールジュナ
14. 大乘思想⑩ 認識論と論理学② ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①「シリーズ大乘仏教」全 10 巻、春秋社、2011-2014 年、②「仏教の思想」2・3・4 (角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』(法蔵館文庫)、2021 年、④船山徹『菩薩として生きる』(シリーズ実践仏教)、臨川書店、2020 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
 (A) いわゆる仏教四学派 (説一切有部・経量部・唯識・中観) の思想的特徴を説明できる。
 (S) 仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	密教史概説 I A / 密教史概説 A						学期	前期	
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M2-01-031	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれているが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・上座部仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）
3. インドにおける仏教の歴史（2）
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド中期密教（1）：『大日経』系の密教
7. インド中期密教（2）：『金剛頂経』系の密教（『真実摂経』）
8. インド中期密教（3）：『金剛頂経』系の密教（『理趣経』）
9. インド後期密教（1）：父タントラ系の密教
10. インド後期密教（2）：母タントラ系・不二タントラ系の密教
11. チベットの密教（1）：前伝仏教期
12. チベットの密教（2）：後伝仏教期
13. チベットの密教（3）：宗派の概説
14. チベットの密教（4）：近代の仏教
15. 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

松長有慶、『密教の歴史』、平楽寺書店、1969年 ※入手が困難な場合、担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編、『初期密教—思想・信仰・文化—』、春秋社、2013年 ・高橋尚夫 他編、『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・松長有慶 編、『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 上座部仏教、大乘仏教、密教の関係を理解できている。
 (B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解できている。
 (A) 主要な密教経典の特徴を理解できている。
 (S) インド・チベット密教史の流れを包括的に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	密教史概説ⅡB／密教史概説B						学期	後期	
副題	東アジア世界への密教の流伝と受容				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M2-01-032	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに起こった密教が、東アジア世界にどのように伝わり、受容されていくのかの過程について、歴史学の立場から、最新の研究成果をふまえて概観する。弘法大師空海によって体系化された密教が、その後の日本仏教のなかで、どのように社会の求めに応え、根付いていくのかを中心的なテーマとする。

授業の到達目標

①インドに生まれた密教が、唐代の中国で隆盛し、弘法大師空海によって日本に伝えられた後、日本仏教の中でどのように根付き、展開を遂げるのかについて、その歴史の変遷を理解する。②密教の歴史的展開を理解したうえで、これからの日本社会において密教がどのようにあるべきかについて、自分なりの考えを提示できるようになる。

授業計画

1. 密教史を学ぶことの意義
2. 中国への密教伝来
3. 奈良時代の日本における「密教的要素」
4. 唐代の密教隆盛
5. 最澄・空海による密教の請来
6. 空海による真言密教の確立
7. 天台宗の密教化
8. 密教修法の隆盛と真言密教の分派
9. 寛饒による革新
10. ユーラシア帝国・元とアジア諸国の密教受容
11. 密教と鎌倉仏教
12. 密教と戒律復興運動
13. 密教教学の発展
14. 江戸時代の戒律復興運動と密教
15. 近代社会と密教

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分）事後学習：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとに配布する講義資料（レジュメ）を用いる。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史（サラー叢書19）』（平楽寺書店、2007年。初版は1969年）②立川武蔵・頼富本宏編『中国密教〈シリーズ密教3〉』（春秋社、2005年。初版は1999年）③立川武蔵・頼富本宏編『日本密教〈シリーズ密教4〉』（春秋社、2005年。初版は2000年）その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 東アジア世界への密教の伝来と受容のあゆみを理解する。
 (B) 東アジア世界における密教の変容について論理的に説明できる。
 (A) 密教が東アジア、特に日本仏教の歴史の中でどのような役割を担ってきたのかを論理的に説明できる。
 (S) 東アジアにおける密教のあゆみを理解し、これからの密教のあり様について展望することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の授業テーマにおいては、中国密教や日本密教、真言宗にゆかりの深い寺院などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、日本密教や真言宗の歴史について理解を深めることを望む。

科目名	仏教史概説 I A / 仏教史概説 A / 釈尊の生涯(別)							学期	前期
副題	インド仏教史				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-033	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史の変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

授業の到達目標

仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史の変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

授業計画

1. 導入：仏教が興起する以前のインド
2. パラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3. ヴェーダの思想的特徴
4. 古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5. 古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6. 反ヴェーダ思想（六師外道）
7. ジャイナ教の思想
8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9. 初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 大乘諸派の（思想全般）
12. 『般若経』の特徴
13. 『法華経』の特徴
14. 『華嚴経』の特徴
15. 初期仏教と大乘の思想的相違点

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60分）

テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

参考書・参考資料等

授業時に必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

期末試験（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
(B) ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
(A) (B) の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
(S) (B)・(A) の理解に加え、初期仏教と大乘の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教史概説ⅡB／仏教史概説B							学期	後期
副題	東アジア仏教史				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-034	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

最初に「釈尊の生涯」を概観する。次に、仏教史の展開において、中国仏教史からはじめ、日本における仏教伝来期から奈良・平安・鎌倉と展開する仏教思想の特徴を概説し、特に平安期における最澄と空海の思想的相違点について理解する。

授業の到達目標

仏教史の中でも特に日本仏教の特徴について概説できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション 「釈尊の生涯」概観
2. 中国仏教の特徴（特に教相判釈を中心として）
3. 大乘非仏説論（富永仲基の『出定後語』を中心として）
4. 仏教伝来期の日本の様相
5. 奈良（南都）仏教の特徴について
6. 平安仏教の特徴（総説）
7. 最澄の思想
8. 空海思想①（『十住心論』）
9. 空海思想②（『即身成仏義』）
10. 空海思想③（『般若心経秘鍵』）
11. 鎌倉仏教（総説）
12. 真言宗・浄土（浄土真宗）の思想的相違点
13. 禅宗（特に曹洞宗）の思想的特徴
14. 菩提志向・現世利益
15. 仏教思想の普遍性について

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことを復習する（60分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

担当者が必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

授業参加への積極性（30%）、学期末の試験（70%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 (B) 日本仏教史の特徴を菩提志向と救済論的な側面から分析する能力を有すること。
 (A) 仏教の歴史を的展開を時代ごとの思想的特徴を踏まえて説明できる。
 (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用して、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。

科目名	常用経典／常用経典(別)						学期	通年	
副題	特殊な読み方・抑揚・多人数での唱法。				授業方法	実技	担当者	宮田永明	
ナンバリング	M1-01-035	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教の世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』『三陀羅尼』『梵讃』に務める。

授業の到達目標

『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。受戒・加行などへの参加者の必要性に伴い、必要となる諸経の認識と理解に努め、仏教徒として各教典の内容を如何に捉え、実践としての行法を修する上での参考となる様指導する。

授業計画

【前期】

1. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (開経偈) (懺悔文)
2. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (礼文)
3. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
4. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
5. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
6. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
7. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
8. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
9. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
10. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
11. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (般若心経)
12. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (立義分) (九条錫杖)
13. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
14. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
15. 試験と講評

【後期】

1. 前期の復習と補足解説 (開経偈) (懺悔文) (礼文)
2. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
3. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
4. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
5. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
6. 前期の復習と補足解説 (観音経)
7. 前期の復習と補足解説 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
8. 前期の復習と補足解説 (梵網経)・外
9. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
10. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
11. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
12. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
13. 『般若心経秘鍵』を読む
14. 『般若心経秘鍵』を読む
15. 試験と講評

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習の習得を求める。復習の習熟が必要。(30分程度)

テキスト

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。その他、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

実技 (50%)・筆記試験 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣経』がある程度読める。
- (B) 『理趣経』・『観音経』・『般若心経』が読める。
- (A) 常用経典のほぼ主要な経典が読め、概略の理解がある。
- (S) 常用経典のほぼ主要な経典が読め、特に諸経の理解に優れている。本人にとって以後の展望が見込める。

課題に対するフィードバックの方法

質問等はその都度対応する。テストの次回授業時フィードバックを行う。

その他

講義には、念珠と輪契装、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で(ページの指示・訂正箇所の不一致など)時間のロスが多くなる。経典の所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。ICレコーダー等の用意があれば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。加藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」があれば入壇することを原則として義務付ける。これは法会の中でどの様に用いられているか、実際に知ってもらう為である。また、各種法会に参詣することを勧める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、高野山山内住職であって、元加藍維那職で諸法会に携わった経験と、高野山大学受戒会の伝戒阿闍梨、及び高野山大学加行傳授大阿闍梨を務めた経験がある教員が真言宗僧侶として、常に用いる諸経を通じて、経典に対する宗教者としての受講者各人が、実際上の讀誦技術の向上と内容理解の重要性を認識出来るよう授業する。これは、これからの社会に於て僧侶として仏教経典が何の為に説かれて、讀誦し、護持し、流布する事が必要なのかを理解し布教活動する為である。

科目名	声明／声明(別)						学期	通年		
副題	－					授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	M1-01-036	実務経験の有無	有	関連DP		1, 2	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

授業の到達目標

法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。

授業計画

【前期】

1. 声明の楽譜、音階、唱え方（旋律型）の解説・テキスト『南山進流声明類聚・附伽陀』
2. 三礼
3. 四智梵語（1）
4. 四智梵語（2）
5. 大日讃（1）
6. 大日讃（2）
7. 不動讃
8. 四智漢語（1）
9. 四智漢語（2）
10. 心略漢語（1）
11. 心略漢語（2）
12. 仏讃（1）
13. 仏讃（2）
14. 前期試験と講評
15. 散華（初段目）（1）

【後期】

1. 散華（初段目）（2）
2. 散華（二段目）（1）
3. 散華（二段目）（2）
4. 散華（二段目）（3）
5. 散華（三段目）（1）
6. 散華（三段目）（2）
7. 対揚（1）
8. 対揚（2）
9. 対揚（3）
10. 唱礼（金剛界）（1）
11. 唱礼（2）
12. 唱礼（3）
13. 唱礼（4）
14. 後期試験と講評
15. 唱礼（5）中曲（頭の部分のみ）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90分）

テキスト

宮野宥智編『南山進流声明類聚・附伽陀』を松本日進堂にて事前に購入する事。【必ず1講目授業より持参すること。】（注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する。

学生に対する評価

前期試験（40%）、授業参加の積極性（20%）、後期試験（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
 (B) 南山進流声明の楽譜や唱え方を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
 (A) 理趣三昧法会の声明を概ね理解し、一人で唱える事が出来る。
 (S) 南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧法会の声明を一人で唱える事が出来る。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できるだけ欠席しない様にすること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧學院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	法式／法式(別)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	加藤善弘	
ナンバリング	M1-01-037	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する。

授業の到達目標

真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を理解し、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義内容の説明
2. 道場荘厳の解説について (1) 事相と教相
3. 道場荘厳の解説について (2) 荘厳の目的と心構え
4. 道場荘厳の解説について (3) 道場荘厳の歴史
5. 道場荘厳の解説について (4) 祀り方の実際
6. 道場荘厳の解説について (5) 道場荘厳具の説明
7. 道場荘厳の解説について (6) 道場荘厳具の説明
8. 道場荘厳の解説について (7) 密壇荘厳具の説明
9. 道場荘厳の解説について (8) 密壇荘厳具の説明
10. 六種供養について (1) 供養の基本
11. 六種供養について (2) 供養の内容
12. 六種供養について (3) 供養の意義
13. 六種供養について (4) 供養の意義
14. 道場荘厳見学
15. 試験と総括

【後期】

1. 講義内容の説明
2. 真言宗の本尊について
3. 真言宗の八祖について
4. 壇荘厳の解説について (1) 壇荘厳の意義と歴史
5. 壇荘厳の解説について (2) 壇の形式と種類
6. 壇荘厳の解説について (3) 大壇荘厳具の説明と意義
7. 壇荘厳の解説について (4) 大壇荘厳具の説明と意義
8. 壇荘厳の解説について (5) 大壇荘厳具の説明と意義
9. 壇荘厳の解説について (6) 大壇荘厳具の説明と意義
10. 壇荘厳の解説について (7) 大壇荘厳具の説明と意義
11. 壇荘厳の解説について (8) 大壇荘厳具の説明と意義
12. 壇荘厳の解説について (9) 大壇荘厳具の説明と意義
13. 壇荘厳の解説について (10) 総括
14. 壇荘厳見学
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)

テキスト

前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

大山公淳著『真言宗法儀解説<新装版>』東方出版、平成24年

学生に対する評価

定期試験 (80%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
- (B) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来ている。
- (A) 道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来ている。
- (S) 道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶で高野山内寺院の住職であり、現法会課長である教員が、真言宗の法式について、講義や道場見学を通してその重要性を認識させる。

科目名	布教／布教A／布教(別)						学期	通年	
副題	布教の基本を学ぶー				授業方法	実技	担当者	橋本真人	
ナンバリング	M1-01-038	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要

本講義は布教の入門的な役割を果たす科目である。布教の基本的な知識と方法を学び、一般大衆に広く弘法大師や真言密教の教えを伝える教化伝道の重要性を認識する。また寺院子弟には、檀信徒の面前で法語を行なえるように自信をつけさせることがこの講義の目的である。

授業の到達目標

布教理論の学習により教化伝道の重要性を認識し、布教実修を通じて自ら原稿を作成し法話を語れるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義の概要について解説する
2. 布教伝道の精神
3. 布教の目的
4. 布教の任務
5. 仏教の布教伝道
6. 真言宗の布教理念
7. 信仰心の喚起
8. 礼拝の実践
9. 安心（あんじん）の獲得
10. 真言宗布教史
11. 布教の対象
12. 布教の種類
13. 説法の十事
14. 布教資料について
15. 布教の五段、三段法

【後期】

1. 布教原稿の書き方
2. 教材収集の方法
3. 布教の心得と教材の扱い方
4. 布教実修①
5. 布教実修②
6. 布教実修③
7. 布教実修④
8. 布教実修⑤
9. 布教実修⑥
10. 布教実修⑦
11. 実修の所感
12. 文書布教のあり方
13. 高野山開創の意義
14. 布教作法とその心得
15. 講義の総括

準備学習(予習・復習)・時間

(予習) 講義前にテキストを正しく読めるようにしておくこと。(60分) (復習) 講義で学習した弘法大師の聖語を『定本弘法大師全集』で調べ、研究方法を身につける。(60分)

テキスト

寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社、配布プリント

参考書・参考資料等

橋本真人著『弘法大師の贈り物』春秋社

学生に対する評価

授業態度・出席状況(50%)、文書レポート・布教実修(50%)で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教、密教の基本用語が理解できる。
- (B) 布教に関する資料収集と学習方法を習得する。
- (A) 基本的な布教原稿を作成できる。
- (S) 法話を創作して、それを布教実修(発表)を通じ人々に語るができる。

課題に対するフィードバックの方法

法語発表者の内容について学生からも感想を述べ、聴くことの大切さと難しさを学ぶ。また、布教は一般大衆の目線に合わせ、常に「わかる法話」を心掛けることの大切さを習得する。

その他

布教は「法話」に限定されたものではない。現代社会の動向を紐解き、時代に即した布教方法を見いだすことも大切である。しかしながら僧侶である以上、人前で話す「法話」は避けて通れないことも事実である。そのことを意識して受講いただきたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担任教員は、高野山真言宗本山布教師であり高野山真言宗寺院住職である。基本的な布教理論の学習と布教実修を通して、教化伝道の重要性を認識していただけるよう努める。

科目名	企画科目(詠歌)／布教B(詠歌)						学期	通年	
副題	－				授業方法	実技	担当者	辻・西山・本間	
ナンバリング	M1-01-039	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

授業の到達目標

御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせるようになる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション・各種使用テキストと法具の説明・詠階説明
2. いろは歌／追弔和讃 (1)・詠歌、和讃の概略と歴史
3. 宗教音楽布教活動と実践
4. 誕生和讃
5. 誕生和讃・修行和讃
6. 誕生和讃・修行和讃
7. 楽理・宗教音楽
8. 相互供養和讃・所作全般
9. 観音大慈
10. 個人発表
11. 楽理・宗教音楽
12. 地藏菩薩・高野山大門和讃
13. 夢遍路
14. 御廟前
15. 前期テスト・前期曲復習

【後期】

1. 前期履修曲総括復習
2. 父母感恩和讃
3. 光明・みあかし
4. 楽理・宗教音楽と布教活動と実践
5. ぐみの光かがやきて
6. 法悦歎喜和讃
7. 宗教音楽
8. 個人発表
9. 法悦歎喜和讃 (2)
10. 相互供養和讃・所作全般
11. 心経和讃・めぐみの光かがやきて
12. 宗教音楽
13. いろは歌・追弔和讃
14. 後期テスト
15. テスト講評

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。(60分)

テキスト

オリエンテーション時に購入する書籍・法具等の説明をする。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価

前期実技発表(40%)、後期実技発表(40%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 他の人と一緒に唱える事が出来る。
 (B) 一人でお唱えだけ出来る。
 (A) 2～3曲を安定して唱え、所作も少し出来る。
 (S) 一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

受講した年数により詠階を授与する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	漢字 I						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	M1-06-040	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根拠にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標

1. 「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。2. 「尚古思想」を根拠に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。3. 最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を体現する。4. 緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。5. 繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨（2回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨（#）②
4. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨（#）③
5. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨（2回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨（#）②
7. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨（#）③
8. 前半半紙臨書作品の提出
9. 二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10. 自分で法帖を1つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11. 背臨課題における自身の理解程度を確認する。
12. 写経創作①（歴史的背景の意義）
13. 写経創作②（写経体や異体字の認識）
14. 写経創作③（原文の書き方）
15. 予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

【後期】

1. 『禪山刻石』の形臨（2回生以上は「礼器碑」）①
2. 『禪山刻石』の形臨（#）②
3. 『禪山刻石』の形臨（#）③
4. 鄧石如『白氏草堂記』（2回生以上は「礼器碑」以外を自分で選択）①
5. 鄧石如『白氏草堂記』（#）の形臨②
6. 鄧石如『白氏草堂記』（#）の形臨③
7. 前半半紙臨書作品の提出、呉讓之『崔子玉班右銘』の形臨①
8. 呉讓之『崔子玉班右銘』（#）の形臨②
9. 呉讓之『崔子玉班右銘』（#）の形臨③
10. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12. 半切の制作にこする独自の練習①
13. 半切の制作にこする独自の練習②
14. 半切の制作にこする独自の練習③
15. 予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。また積極的に下山し出来るだけ多くの展覧会を見て学んで来る（120分以上）

テキスト

・二女社法書選（二女社）：40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56 『鄧石如集』、58 『吳興載集』2 回目の受講生……23 『張猛龍碑』、26 『墓誌銘集・下』/3 『石門頌』、5 『礼器碑』、8 『曹全碑』、9 『張遷碑』※写経用紙セット LA26-59（各書店にて購入）

参考書・参考資料等

・字書：『字源』、伏見冲歌編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隸字典』（雄山閣）等・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期 1/3 を超えた場合その時点で失格とする。（欠席各ー3点、遅刻各ー1点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 法帖の形臨ができる。
 (B) 学んだ法帖の背臨ができる。
 (A) 臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
 (S) 自身で研究した長落款〔跋文〕を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフィードバックを行う。・毎回の課題は作品（レポート）として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（大筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと（ガイダンス時に説明する）。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。課題は半切画宣紙を使用する。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。全出席が望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かな I						学期	通年	
副題	かなの基本から古筆の臨書へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	M1-06-041	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】「かな」の成立の歴史を知り、字母を覚える。かなの運筆を理解し正しく表現する。行書きから散らし書きへと発展させ作品に仕上げる。【後期】かな古筆を臨書する意義と心得を理解する。名古筆の臨書を通し、書写形式や書風、連綿の特徴を理解し、かなの多様な表現ができるようになる。名古筆を臨書することにより、かな特有の「流動日」や「変化の妙」についてかaneることができるようになる。

授業の到達目標

【前期】「かな」成立の歴史を知り、ひらがな単体と変体仮名から二字連綿、三字連綿、行書きから俳句のちらし書きのかな創作ができるようになる。【後期】名古筆の書風、連綿等の特徴を理解し仮名の多様な表現ができるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義目標・概要の解説・アンケート
2. かな成立の歴史を解説・かなの基本線の練習
3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明
4. 「変体仮名」解説・実習・字母テスト
5. 「いろは歌」単体、作品提出
6. 連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）
7. 連綿の解説・実習（多字連綿）
8. ちらし書きの解説・実習 1「春の俳句」
9. ちらし書きの実習 2「夏の俳句」
10. ちらし書きの実習 3「秋の俳句」
11. ちらし書きの実習 4「冬の俳句」
12. ちらし書き創作 1、資料作り
13. ちらし書き創作 2、作品制作
14. ちらし書き創作 3、作品提出
15. 古筆高野切解説、臨書の仕方解説と実習

【後期】

1. 古筆臨書（高野切第3種） 1
2. 古筆臨書（高野切第3種） 2
3. 古筆臨書（高野切第3種） 3
4. 古筆臨書（高野切第1種） 1
5. 古筆臨書（高野切第1種） 2
6. 古筆臨書（関戸本古今集） 1
7. 古筆臨書（関戸本古今集） 2
8. 古筆臨書（関戸本古今集） 3
9. 古筆臨書（関戸本古今集） 4
10. 古筆臨書（曼殊院本古今集） 1
11. 古筆臨書（曼殊院本古今集） 2
12. 古筆臨書（曼殊院本古今集） 3
13. 古筆臨書（針切） 1
14. 古筆臨書（針切） 2
15. まとめと総括 作品提出

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120分）事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。（60分）

テキスト

「おとなの手習い かな書道入門」土橋靖子著 2008年 芸術新聞社発行
「大東文化大学書道研究編 書道テキスト第9巻かな」高木厚人執筆 2007年二玄社発行

参考書・参考資料等

「日本名筆選 1 高野切第1種」二玄社、「日本名筆選 5 高野切第3種」二玄社、「日本名筆選 19 関戸本古今集」二玄社、「日本名筆選 7 曼殊院本古今集」二玄社、「日本名筆選 25 針切」二玄社、

学生に対する評価

授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (A) 筆を正しく持ち、正しく運び、基本的な筆使いができる。
 (B) かな創作、古筆の臨書ができる。
 (A) かな創作、古筆の臨書が確実に行える。
 (S) 高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

テキスト及び書道具一式・筆（かな小筆）、かな用墨、かな半紙、硯、毛氈、文鎮、水差し、創作用の半懐紙、臨書用紙は前もって購入すること。・粘り強く実習に取り組むこと。小筆は筆先が痛んだら、その都度買い替えること。・授業以外の課題が毎週課される。・授業中スマホ使用禁止。90分着席しておくことができるように集中力が必要。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。出席不可。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	日本語文化A							学期	前期
副題	日本人・日本語文化				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-042	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標

大学生生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画

- 『日本語表現の教室』第1課 日本人のみょうじ・万葉集のうた（1）
- 『日本語表現の教室』第1課 復習（語彙テスト）・作文（比較による説明）
- 『日本語表現の教室』第2課 日本語の語彙・万葉の歌（2）
- 『日本語表現の教室』第2課 復習（語彙テスト）・作文（列挙による説明）
- 『日本語表現の教室』第3課 日本語の音・万葉の歌（3）
- 『日本語表現の教室』第3課 復習（語彙テスト）・作文（回想する）
- 『日本語表現の教室』第4課 日本語の漢字・万葉集のうた（4）
- 『日本語表現の教室』第4課 復習（語彙テスト）・作文（意見を述べる）
- JLPT 模試実施
- 模試FB / 総括
- 『日本語表現の教室』第5課 日本人の一生
- 『日本語表現の教室』第5課 復習（語彙テスト）・作文（年中行事・慣習の説明）
- 『日本語表現の教室』第6課 日本人と動物・万葉のうた（5）
- 『日本語表現の教室』第6課 復習（語彙テスト）・作文（生き生きとした描写）
- 総まとめ 前期で学んだ表現を使い、自分/自分の国について表現する

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60分) 『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してくること。

テキスト

『日本語表現の教室』中級 語彙と表現と作文

参考書・参考資料等

『新完全マスターN2 文法』 必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価

期末試験（30%）、小テスト（50%）、発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文型や表現を理解できている。
- (B) 学習した文型や表現を正確に使用できている。
- (A) 学習した文型や表現を応用できている。
- (S) 学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPTの準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、作文、スピーチ、発表などを随時企画している。

科目名	日本語文化B						学期	後期	
副題	日本人・日本文化				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-043	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標

大学生生活、さらに日本社会に出る時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画

- 『日本語表現の教室』第7課 日本の四季—風景との対話—・万葉のうた（6）
- 『日本語表現の教室』第7課 復習（語彙テスト）・作文（風景の描写）
- 『日本語表現の教室』第8課 日本の文化—茶
- 『日本語表現の教室』第8課 復習（語彙テスト）・作文（歴史・文化の説明）
- 『日本語表現の教室』第9課 日本の「共通感覚」—和魂洋才・万葉のうた
- 『日本語表現の教室』第9課 復習（語彙テスト）・作文（スピーチ1スピーチの導入）
- 『日本語表現の教室』第10課 女性として立つ『樋口—葉』
- 『日本語表現の教室』第10課 復習（語彙テスト）・作文（人物紹介1）
- JLPT 模試実施
- 模試 FB / 総括
- 『日本語表現の教室』第11課 男女強調社会を目指して『津田梅子』
- 『日本語表現の教室』第11課 復習（語彙テスト）・作文（スピーチ2意見を述べる）
- 『日本語表現の教室』第12課 神々の国を愛した『ニッポンジン』小泉八雲
- 『日本語表現の教室』第12課 復習（語彙テスト）・作文（自己紹介・身内の紹介）
- 1年（或いは後期）を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60分) 『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してくること。

テキスト

『日本語表現の教室』中級 語彙と表現と作文

参考書・参考資料等

『新完全マスターN2 文法』 必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価

期末試験（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 学習した文型や表現を理解できている。
- 学習した文型や表現を正確に使用できている。
- 学習した文型や表現を応用できている。
- 学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPTの準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。

科目名	人間学特殊ゼミⅠB(日本文化)/企画科目(日本文化)/日本文化C							学期	前期
副題	日本事情について、講読と理解				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	N1-26-044	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を身につける。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス：日本文化について歴史を通して学ぶ（日本通史）
2. 日本史の中の戦国時代
3. 戦国時代1：世界の中の日本
4. 戦国時代2：世界の中の日本（自分の国との関わりについて）
5. 戦国時代3：戦国武将とは
6. 戦国武将4：主な戦国武将
7. 戦国時代5：戦国武将の一生（真田幸村）
8. 戦国時代6：九度山に流罪となった真田幸村
9. JLPT 読解模試実施 / FB
10. 戦国時代7：衣・食・住・道具
11. 戦国時代8：当時、自分の国ではどのような様子だったかを調べる
12. 戦国時代9：戦国武将と宗教
13. 戦国時代10：高野山「奥の院」にある武将の墓を訪ねてみる
14. 世界遺産としての高野山
15. 総まとめ：前期をふり返る

準備学習(予習・復習)・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること（計90分以上）。

テキスト

教師が必要に応じてプリントを配る

参考書・参考資料等

世界史のなかの戦国日本（ちくま学芸文庫）村井章介 著 戦国日本と大航海時代一秀吉・家康・正宗の外交戦略（中公新書）平川新 著

学生に対する評価

レポート及び発表（60％）発表（40％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を読むための日本語力がある。
- (B) 文化理解、研究のための方法を理解している。
- (A) 日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
- (S) 日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。試験実施の後、フィードバックを行う。

その他

資料を読むだけではなく、自分のこととして考察し、意見を発信することも目指す。折りに触れ、グループ討論、発表を行い自らの意見を表明する機会を作る。

科目名	人間学特殊ゼミⅡB(日本社会)/企画科目(日本社会)/日本文化D						学期	後期	
副題	日本事情について、講読と理解				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	N1-26-045	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。

授業計画

1. 戦国時代：忍者が活躍した時代
2. 戦国時代：鉄砲伝来から鎖国まで（戦国時代の終わり）
3. 江戸時代：なぜ徳川家康は江戸に幕府を開いたのか
4. 江戸時代：東南アジアの日本人町はどのようにしてできたのか
5. 江戸時代：「慶安の御触書」はなぜ必要だったのか
6. 江戸時代：毎年の年貢はどのようにして決められたのか
7. 江戸時代：有名な将軍と有名でない将軍がいるのはなぜか
8. 江戸時代：子どもはどんな生活をしていたのか
9. JLPT 読解模試実施 / FB
10. 読解模試 / FB・総括
11. 江戸時代：一揆に参加した人々はどんな行動をとったか
12. 江戸時代：百姓や町人の楽しみは何だったのか
13. 江戸時代：伊能忠敬は何年かかって日本地図を作ったのか
14. 江戸時代：漂流した日本人は帰国後どうなったか
15. 江戸時代：株仲間と幕府とはどんな関係だったか

準備学習(予習・復習)・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解しておくこと。(60分) 「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べておくこと。(90分)

テキスト

教師が必要に応じてプリントを配る

参考書・参考資料等

『日本の歴史』朝日ジュニアブック 朝日新聞社 『江戸時代のすべてが分かる本』ナツメ社 大石学 著

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を読むための日本語力がある。
 (B) 文化理解、研究のための方法を理解している。
 (A) 日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
 (S) 日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。試験実施の後、フィードバックを行う。

その他

資料を読むだけでなく、発信することも目指す。折りに触れ、自らの意見はピョウする。

科目名	日本語文化E						学期	前期	
副題	正確に伝える技術				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-046	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を行い、「正確に伝えるための技術と表現」を獲得する。アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得も目指す。獲得した論理的記述能力を使用し、明確に自分の意見を読み手に伝える方法を身につける。

授業の到達目標

日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書くように実践し、最終的には1000字～1400字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画

1. ガイダンス / 自己紹介文を書く、発表。
2. きっかけを語ろう
3. なくした体験を話そう
4. 町の様子を話そう (1) 課題に沿って
5. 町の様子を話そう (2) 自分の町について書いてみる
6. 動きの順序を説明しよう
7. スポーツのおもしろさを伝えよう
8. 言いかえて説明しよう
9. 比べて良さを伝えよう
10. ストーリーを話そう (1) 課題に沿って
11. ストーリーを話そう (2) 自国の有名な物語を書いてみる
12. 最近の出来事を話そう (1) 課題に沿って
13. 最近の出来事を話そう (2) 自分の身に起こったことを書いてみる
14. 健康について話そう
15. 将来の夢を語ろう

準備学習(予習・復習)・時間

下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。(60分) 必ず宿題とされた文章は書いてくること。(60分)

テキスト

『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』 スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (30%)、小テスト (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	日本文化F						学期	後期	
副題	副題をつけてください				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-047	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を行い、「正確に伝えるための技術と表現」を獲得する。アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得も目指す。獲得した論理的記述能力を使用し、明確に自分の意見を読み手に伝える方法を身につける。

授業の到達目標

日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書くように実践し、最終的には 1000 字～1400 字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画

1. 好きなシーンを紹介しよう
2. 子どもたちに母国の行事を紹介しよう
3. 母国の行事を紹介する記事を書く
4. 困った状況を伝えて交渉しよう
5. 不満に対処しよう
6. 目上の人に注意を促そう
7. グラフや表を説明しよう
8. グラフ・表から情報を読み取る
9. ステレオタイプを打ち破ろう
10. 就職試験制度について説明しよう
11. 自国の制度について説明文を書いてみる
12. 働くことの意義について討論しよう
13. 環境問題について話そう
14. 犯罪傾向から現代社会を語ろう
15. マスコミの功罪について討論しよう

準備学習(予習・復習)・時間

下読みをしてくる事前に提示された資料は下読みをしてくること。(60分) 必ず宿題とされた文章は書いてくること。(60分)

テキスト

『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』 スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (30%)、小テスト (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	祖典講読 I A・B / 真言宗典講読1(別)							学期	通年
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	A 松長潤慶 B 北川真寛	
ナンバリング	M2-01-048	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛碎経』
7. " " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』
8. " " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』
9. " " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10. " " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11. " " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12. " " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13. " " (9) 『六大無碍として當ご論じたり』① 六大の秘義 (前編)
14. " " (10) 『六大無碍として當ご論じたり』② 六大の秘義 (後編)
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴

【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 『六大能生』①
3. " " (12) 『六大能生』②
4. " " (13) 『六大の願密／無碍自在の身』
5. " " (14) 『四種曼荼各不離』① 三種秘密身
6. " " (15) 『四種曼荼各不離』② 四種曼荼羅・四種管印
7. " " (16) 『三密加持速疾頌』① 法仏の三密と三密行
8. " " (17) 『三密加持速疾頌』② 『五秘密儀軌』
9. " " (18) 『三密加持速疾頌』③ 加と持
10. " " (19) 『重重帝網名即身』
11. " " (20) 『法然具足讚般若』
12. " " (21) 『心教心王過利哉』
13. " " (22) 『各具五智無際智』
14. " " (23) 『円鏡力故美覺智』
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈母『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読 I A・B1						学期	前期	
副題	『即身成仏義』を読む 1				授業方法	講義	担当者	A 松長潤慶 B 北川真寛	
ナンバリング	M2-01-049	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』
7. " (3) 二経一論八箇の証文② 『大日経』
8. " (4) 二経一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ① 六大の秘義 (前編)
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」 ② 六大の秘義 (後編)
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。
 (B)「発端問答」と「二頌八句」を暗誦でき、「二経一論八箇の証文」の内容を把握している。
 (A)「発端問答」と「二頌八句」の暗誦、「二経一論八箇の証文」の内容把握に加えて、基本的な用語を把握している。
 (S)上記(C)～(A)を踏まえ、即身成仏思想の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読Ⅱ A・B2							学期	後期
副題	『即身成仏義』を読む 2					授業方法	講義	担当者	A 松長潤慶 B 北川真寛
ナンバリング	M2-01-050	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3. " (12) 「六大能生」②
4. " (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. " (14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (16) 「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8. " (17) 「三密加持速疾顕」② 『五秘密儀軌』
9. " (18) 「三密加持速疾顕」③ 加と持
10. " (19) 「重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩般若」
12. " (21) 「心教心王過刹塵」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡA／真言宗典講読2(別)							学期	通年
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-051	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

【前期】

- 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
- 梵字の基礎知識を学ぶ
- 『大日経』の言語論①
- 『大日経』の言語論②
- 『大日経』の言語論③
- 吽字の字相
- 吽字の字義
- 阿字の字義（略説）
- 阿字の実義（本初不生の実義）
- 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
- 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
- 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
- 汗字の実義（六義よりの実践①）
- 汗字の実義（六義よりの実践②）
- 試験と、試験問題の解説

【後期】

- 汗字の実義（字門道よりの実践①）
- 汗字の実義（字門道よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践③）
- 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
- 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
- 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
- 摩字の実義（自證表徳の実義、妙用離思の実義、平等菩提の実義）
- 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
- 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
- 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
- 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
- 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
- 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歡喜の義趣）
- 総括
- 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社）

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	祖典講読ⅡB						学期	通年	
副題	『辨頭密二教論』講読				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	M3-01-052	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の代表的著作である『辨頭密二教論』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて素読を通じて真言宗伝統の声読みを学ぶこと、漢文の基本を習得すること、仏教諸宗の教義の大綱を理解すること、そして空海の仏身観である法身説法の理論を正しく理解し、その理論が即身成仏の思想につながるものであるということを理解することを目的とする。

授業の到達目標

『辨家密二教論』の本文をスラスラと読めるようになること。序分の内容を正しく理解し、法身説法とは何か、果分可説の境界とは何か、という問いに正しく答えることができるようになること。空海思想がもつ現代的意義について、自己の考えを表明できるようになること。

授業計画

【前期】

1. 空海の諸著作の紹介、『十卷章』の編纂過程、四声点・声読みの解説
2. 玄談解説（顕密区分の五箇条）、題目解説
3. 序分講読（教相判釈とは何か、仏身論とは何か、テキスト p. 79-p. 81）
4. 正宗分講読（第一問答～第四問答。テキスト p. 81-p. 83）
5. 正宗分講読（第五問答・『釈論』①、テキスト p. 83-p. 85）
6. 正宗分講読（第五問答・『釈論』②、テキスト p. 85-p. 87）
7. 正宗分講読（第五問答・華嚴章疏①、テキスト p. 87-p. 90）
8. 正宗分講読（第五問答・華嚴章疏②、テキスト p. 87-p. 90）
9. 正宗分講読（第五問答・天台章疏、テキスト p. 90-p. 93）
10. 正宗分講読（第五問答・法相章疏、テキスト p. 93-p. 94）
11. 正宗分講読（第五問答・三論章疏①、テキスト p. 94-p. 98）
12. 正宗分講読（第五問答・三論章疏②、テキスト p. 94-p. 98）
13. 正宗分講読（第五問答・二重二論説、テキスト p. 98-p. 100）
14. 正宗分講読（第五問答・五種言説、テキスト p. 100-p. 102）
15. 正宗分講読（第五問答・即身成仏説、テキスト p. 102-p. 103）

【後期】

1. 正宗分講読（第五問答・五蔵説①、テキスト p. 104-p. 107）
2. 正宗分講読（第五問答・五蔵説②、テキスト p. 104-p. 107）
3. 正宗分講読（第五問答・『楞伽經』法仏説法説①、p. 107-p. 109）
4. 正宗分講読（第五問答・『楞伽經』法仏説法説②、p. 107-p. 109）
5. 正宗分講読（第五問答・『五秘密儀軌』①、p. 109-p. 111）
6. 正宗分講読（第五問答・『五秘密儀軌』②、p. 109-p. 111）
7. 正宗分講読（第五問答・『聖位経』①、p. 111-p. 114）
8. 正宗分講読（第五問答・『聖位経』②、p. 111-p. 114）
9. 正宗分講読（第五問答・『瑜祇経』①、p. 114-p. 118）
10. 正宗分講読（第五問答・『瑜祇経』②、p. 114-p. 118）
11. 正宗分講読（第五問答・『大日経』①、p. 118-p. 120）
12. 正宗分講読（第五問答・『大日経』②、p. 118-p. 120）
13. 正宗分講読（第五問答・『守護経』、p. 120-p. 121）
14. 正宗分講読（第五問答・『智度論』、p. 121-p. 122）
15. 正宗分講読（第六問答・顕密重々義、p. 122-p. 124）

準備学習(予習・復習)・時間

予習としては講義当日の講読部分の素読を練習しておくこと（60分）。復習としては講義における講読部分のノート整理をしておくこと（60分）。復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること（60分）。

テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山大学出版部（有限高野で購入）

参考書・参考資料等

母尾祥雲『現代語の十卷章と解説』1981年訂正版、高野山出版社（大学正門横の当該出版社で購入）。

学生に対する評価

素読ができるかどうか（30%）、内容が理解できているかどうか（30%）、レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
 (B) 本文中の用語と内容を自身で調べて理解しようとする姿勢が認められること。
 (A) 頼瓊、有快等、先学の注釈書を参照して本文を理解しようとする姿勢が認められること。
 (S) 本文を漢文学の資料として批判的に読む姿勢が認められること（伝統の訓読の是非を判断し、語法にもとづいて訓読を修正できること）。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中、あるいは補講時間においてその質問・意見をとりあげてそのことについて考察する。

その他

本講では、素読と内容理解とをその都度指名して受講者に答えてもらう対話形式の授業を行うので、事前の予習はできるだけ行っておくことが望ましい。

科目名	祖典講読ⅢA1							学期	前期
副題	『吽字義』を読む1					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-053	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2. 梵字の基礎知識を学ぶ
3. 『大日経』の言語論①
4. 『大日経』の言語論②
5. 『大日経』の言語論③
6. 吽字の字相
7. 吽字の字義
8. 阿字の字義（略説）
9. 阿字の実義（本初不生の実義）
10. 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
11. 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
12. 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
13. 汗字の実義（六義よりの実践①）
14. 汗字の実義（六義よりの実践②）
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社）

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容がある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	祖典講読ⅣA2							学期	後期
副題	『卍字義』を読む2					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-054	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『卍字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 卍字の実義（字門道よりの実践①）
2. 卍字の実義（字門道よりの実践②）
3. 卍字の実義（字門道よりの実践③）
4. 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
5. 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
6. 慶字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
7. 慶字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等撰持の実義）
8. 慶字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
9. 卍字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
10. 卍字の合説（字相による統括、実義による統括）
11. 卍字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
12. 卍字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
13. 卍字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
14. 総括
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『卍字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 卍字義』（春秋社）

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	祖典講読ⅢB1						学期	前期	
副題	『辨頭密二教論』講読				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	M3-01-055	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の代表的著作である『辨頭密二教論』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて素読を通じて真言宗伝統の声読みを学ぶこと、漢文の基本を習得すること、仏教諸宗の教義の大綱を理解すること、そして空海の仏身観である法身説法の理論を正しく理解し、その理論が即身成仏の思想につながるものであるということを理解することを目的とする。

授業の到達目標

『辨家密二教論』の本文をスラスラと読めるようになること。序分の内容を正しく理解し、法身説法とは何か、果分可説の境界とは何か、という問いに正しく答えることができるようになること。空海思想がもつ現代的意義について、自己の考えを表明できるようになること。

授業計画

1. 空海の諸著作の紹介、『十卷章』の編纂過程、四声点・声読みの解説。
2. 玄談解説（顕密区分の五箇条）、題目解説
3. 序分講読（教相判釈とは何か、仏身論とは何か、テキスト p. 79-p. 81）
4. 正宗分講読（第一問答～第四問答。テキスト p. 81-p. 83）
5. 正宗分講読（第五問答・『釈論』①、テキスト p. 83-p. 85）
6. 正宗分講読（第五問答・『釈論』②、テキスト p. 85-p. 87）
7. 正宗分講読（第五問答・華嚴章疏①、テキスト p. 87-p. 90）
8. 正宗分講読（第五問答・華嚴章疏②、テキスト p. 87-p. 90）
9. 正宗分講読（第五問答・天台章疏、テキスト p. 90-p. 93）
10. 正宗分講読（第五問答・法相章疏、テキスト p. 93-p. 94）
11. 正宗分講読（第五問答・三論章疏①、テキスト p. 94-p. 98）
12. 正宗分講読（第五問答・三論章疏②、テキスト p. 94-p. 98）
13. 正宗分講読（第五問答・二重二諦説、テキスト p. 98-p. 100）
14. 正宗分講読（第五問答・五種言説、テキスト p. 100-p. 102）
15. 正宗分講読（第五問答・即身成仏説、テキスト p. 102-p. 103）

準備学習(予習・復習)・時間

予習としては講義当日の講読部分の素読を練習しておくこと（60分）。復習としては講義における講読部分のノート整理をしておくこと（60分）。復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること（60分）。

テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山大学出版部（有限高野で購入）

参考書・参考資料等

梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』1981年訂正版、高野山出版社（大学正門横の当該出版社で購入）。

学生に対する評価

素読ができるかどうか（30%）、内容が理解できているかどうか（30%）、レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 本文中の用語と内容とを自身で調べて理解しようとする姿勢が認められること。
- (A) 頼諭、有快等、先学の注釈書を参照して本文を理解しようとする姿勢が認められること。
- (S) 本文を漢文学の資料として批判的に読む姿勢が認められること（伝統の訓読の是非を判断し、語法にもとづいて訓読を修正できること）。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中、あるいは補講時間においてその質問・意見をとりあげてそのことについて考察する。

その他

本講では、素読と内容理解とをその都度指名して受講者に答えてもらう対話形式の授業を行うので、事前の予習はできるだけ行っておくことが望ましい。

科目名	祖典講読IVB2						学期	後期	
副題	『辨頭密二教論』講読				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	M3-01-056	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の代表的著作である『辨頭密二教論』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて素読を通じて真言宗伝統の声読みを学ぶこと、漢文の基本を習得すること、仏教諸宗の教義の大綱を理解すること、そして空海の仏身観である法身説法の理論を正しく理解し、その理論が即身成仏の思想につながるものであるということを理解することを目的とする。

授業の到達目標

『辨家密二教論』の本文をスラスラと読めるようになること。序分の内容を正しく理解し、法身説法とは何か、果分可説の境界とは何か、という問いに正しく答えることができるようになること。空海思想がもつ現代的意義について、自己の考えを表明できるようになること。

授業計画

1. 正宗分講読 (第五問答・五藏説①、テキスト p. 104-p. 107)
2. 正宗分講読 (第五問答・五藏説②、テキスト p. 104-p. 107)
3. 正宗分講読 (第五問答・『楞伽經』法仏説法説①、p. 107-p. 109)
4. 正宗分講読 (第五問答・『楞伽經』法仏説法説②、p. 107-p. 109)
5. 正宗分講読 (第五問答・『五秘密儀軌』①、p. 109-p. 111)
6. 正宗分講読 (第五問答・『五秘密儀軌』②、p. 109-p. 111)
7. 正宗分講読 (第五問答・『聖位經』①、p. 111-p. 114)
8. 正宗分講読 (第五問答・『聖位經』②、p. 111-p. 114)
9. 正宗分講読 (第五問答・『瑜祇經』①、p. 114-p. 118)
10. 正宗分講読 (第五問答・『瑜祇經』②、p. 114-p. 118)
11. 正宗分講読 (第五問答・『大日經』①、p. 118-p. 120)
12. 正宗分講読 (第五問答・『大日經』②、p. 118-p. 120)
13. 正宗分講読 (第五問答・『守護經』、p. 120-p. 121)
14. 正宗分講読 (第五問答・『智度論』、p. 121-p. 122)
15. 正宗分講読 (第六問答・顯密重々義、p. 122-p. 124)

準備学習(予習・復習)・時間

予習としては講義当日の講読部分の素読を練習しておくこと (60分)。復習としては講義における講読部分のノート整理をしておくこと (60分)。復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること (60分)。

テキスト

高野山大学編『十卷章』高野山大学出版部 (有限高野で購入)

参考書・参考資料等

梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』1981年訂正版、高野山出版社 (大学正門横の当該出版社で購入)。

学生に対する評価

素読ができるかどうか (30%)、内容が理解できているかどうか (30%)、レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 本文中の用語と内容とを自身で調べて理解しようとする姿勢が認められること。
- (A) 頼諭、有快等、先学の注釈書を参照して本文を理解しようとする姿勢が認められること。
- (S) 本文を漢文学の資料として批判的に読む姿勢が認められること (伝統の訓読の是非を判断し、語法にもとづいて訓読を修正できること)。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中、あるいは補講時間においてその質問・意見をとりあげてそのことについて考察する。

その他

本講では、素読と内容理解とをその都度指名して受講者に答えてもらう対話形式の授業を行うので、事前の予習はできるだけ行っておくことが望ましい。

科目名	宗典講読A						学期	通年	
副題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-057	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『金剛頂経』という経典が、「両部の大経」として重要視されている。両経典は、インドにおいて成立したものであり、『大日経』には漢訳・チベット語訳が、『金剛頂経』にはサンスクリット写本・漢訳・チベット語訳が、それぞれ現存している。真言密教を深く理解するためには、これらの経典の原語による読解が不可欠である。この授業は、学生が密教経典を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。・経典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 『大日経』の概要
3. 『大日経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（住心品 1）
4. 『大日経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（住心品 2）
5. 『大日経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（住心品 3）
6. 『大日経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（住心品 4）
7. 『大日経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（住心品 5）
8. 『大日経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（住心品 6）
9. 『大日経』の読解（1）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 1）
10. 『大日経』の読解（2）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 2）
11. 『大日経』の読解（3）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 3）
12. 『大日経』の読解（4）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 4）
13. 『大日経』の読解（5）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 5）
14. 『大日経』の読解（6）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

【後期】

1. 『金剛頂経』の概要
2. 『金剛頂経』系の密教経典について
3. 『金剛頂経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 1）
4. 『金剛頂経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 2）
5. 『金剛頂経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 3）
6. 『金剛頂経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 4）
7. 『金剛頂経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 5）
8. 『金剛頂経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 6）
9. 『金剛頂経』の読解（1）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 1）
10. 『金剛頂経』の読解（2）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 2）
11. 『金剛頂経』の読解（3）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 3）
12. 『金剛頂経』の読解（4）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 4）
13. 『金剛頂経』の読解（5）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 5）
14. 『金剛頂経』の読解（6）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

・『大日経』（漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。・『金剛頂経』（サンスクリット語・漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・頼富本宏、『『大日経』入門 ―慈悲のマンドラ世界―』、大法輪閣、2000年・頼富本宏、『『金剛頂経』入門 ―即身成仏への道―』、大法輪閣、2005年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができる。
 (B) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、ある程度の精度で翻訳できる。
 (A) 『大日経』・『金剛頂経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
 (S) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	宗典講読B							学期	通年	
副題	次第のルーツを探る					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	M3-01-058	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	4	他	-	

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・一尊法の各種次への理解を深める。前期では十八道次第の本となった漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿閼法』、『烏芻澁摩儀軌』などを読む。後期では金剛頂経系の儀軌の『如意輪瑜伽』、『千手儀軌』、『五秘密儀軌』など、その他に『観智儀軌』や『求聞持法』を読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（淨三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（莊嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勧請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

【後期】

1. 『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『如意輪瑜伽』を読む）
2. 『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『如意輪瑜伽』を読む）
3. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③（『如意輪瑜伽』を読む）
4. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『千手儀軌』を読む）
5. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『千手儀軌』を読む）
6. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『千手儀軌』を読む）
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『千手儀軌』を読む）
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』を読む）
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』を読む）
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩（『五秘密儀軌』を読む）
11. その他の儀軌①（『観智儀軌』を読む）
12. その他の儀軌②（『観智儀軌』を読む）
13. その他の儀軌③（『観智儀軌』を読む）
14. その他の儀軌④（『求聞持法』前半を読む）
15. その他の儀軌⑤（『求聞持法』後半を読む）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	宗典講読C						学期	通年	
副題	『理趣経』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-059	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）と、真言宗の常用經典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を2倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参考に（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

授業の到達目標

文読解力と密教經典や註釈書等に対する知識を培う。

授業計画

【前期】

1. イント密教史通観
2. 『理趣経』とはどのような經典か（書誌的解説）
3. 『理趣経』の曼荼羅
4. 『金剛頂経』と『理趣経』（『金剛頂経』系密教における『理趣経』の位置）
5. 『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）概説
6. 金剛界曼荼羅概説
7. 八大菩薩と十六大菩薩
8. 『理趣経』講読1（序分）
9. 『理趣経』講読2（初段①）
10. 『理趣経』講読3（初段②）
11. 十七清浄句と金剛薩埵十七尊曼荼羅（理趣会曼荼羅）
12. 『理趣経』講読4（第二段）
13. 『初会の金剛頂経』に説かれる降三世明王の諸天降伏の物語
14. 『理趣経』講読5（第二段）
15. 試験と、試験問題の解説

【後期】

1. 『理趣経』講読6（第四段）
2. 『理趣経』講読7（第五段）
3. 『理趣経』講読8（第六段）
4. 『理趣経』講読9（第七段）
5. 『理趣経』講読10（第八段）
6. 『理趣経』講読11（第九段）
7. 『理趣経』講読12（第十段）
8. 『理趣経』講読13（第十一段～第十五段）
9. 『理趣経』講読14（第十六段）
10. 『理趣経』講読15（第十七段、百字の偈）
11. 金剛薩埵垂軌類概観①
12. 金剛薩埵垂軌類概観②
13. 弘法大師の『理趣経開題』を読む①
14. 弘法大師の『理趣経開題』を読む②
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。（90分） / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。（60分）

テキスト

松長有慶『理趣経講讀』（大法輪閣） ※絶版のため、コピーを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部4金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版） 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 密教經典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	企画科目(加行 I) / 加行 I							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-01-060	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1. 加行申し込み：前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 前期加行①
3. 前期加行②
4. 前期加行③
5. 前期加行④
6. 前期加行⑤
7. 前期加行⑥
8. 前期加行⑦
9. 前期加行⑧
10. 前期加行⑨
11. 前期加行⑩
12. 前期加行⑪
13. 前期加行⑫
14. 前期加行⑬
15. 前期加行結願後：所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する (30 分)

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行結願 (50%)、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 前期加行の結願、および事後レポートの提出。
- (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
- (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
- (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。・結願していない者のレポート提出は認めない。・事後レポートの未提出者の単位は認めない。・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	企画科目(加行Ⅱ)/加行Ⅱ						学期	通年	
副題	-				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M2-01-061	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約50日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵/護摩）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1. 加行申し込み：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 後期加行①
3. 後期加行②
4. 後期加行③
5. 後期加行④
6. 後期加行⑤
7. 後期加行⑥
8. 後期加行⑦
9. 後期加行⑧
10. 後期加行⑨
11. 後期加行⑩
12. 後期加行⑪
13. 後期加行⑫
14. 後期加行⑬
15. 後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する（30分）

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行成満（50%）、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000字程度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 後期加行の成満、および事後レポートの提出。
 (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
 (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
 (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。・結願していない者のレポート提出は認めない。・事後レポートの未提出者の単位は認めない。・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	企画科目(ボランティア)/ボランティア						学期	通年	
副題	-				授業方法	実習	担当者	人間学科主任	
ナンバリング	N1-16-062	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学から指定された実習先において、合計 40 時間以上のボランティア実習を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。

授業計画

1. ボランティアの意義
2. ボランティア実習①
3. ボランティア実習②
4. ボランティア実習③
5. ボランティア実習④
6. ボランティア実習⑤
7. ボランティア実習⑥
8. ボランティア実習⑦
9. ボランティア実習⑧
10. ボランティア実習⑨
11. ボランティア実習⑩
12. ボランティア実習⑪
13. ボランティア実習⑫
14. 事後指導①意見発表
15. 事後指導②ディスカッション

準備学習(予習・復習)・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

守本友美・河内昌彦・立石宏昭・岡本栄一『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで (実践のすすめ)』ミネルヴァ書房、2005年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ボランティアについて理解している。
 (B) ボランティア実習に積極的に参加できる。
 (A) ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
 (S) 授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

実習先、実習期間等については、4月に告知する。40時間の実習を行う。

科目名	企画科目(巡礼・遍路A)／巡礼・遍路A						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M1-26-063	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通した身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は40時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

授業の到達目標

巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

授業計画

1. 実習計画書の作成 : 実習時間は1日4時間～8時間、最大40時間まで。
2. 実習計画書の提出 : 教務課窓口に（実習予定1週間前まで）
3. 実習許可通知 : 教務課から連絡。
4. 実習開始
5. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
6. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
7. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
8. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
9. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
10. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
11. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
12. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
13. 実習終了
14. 実習レポートの作成 : 40時間分の実習日誌に基づいてレポート（800字以上）を作成。
15. 実習日誌・レポートの提出 : 教務課窓口に提出。この時点で履修登録。

準備学習(予習・復習)・時間

・実習計画書作成のための学習（60分） ・実習日誌作成（60分） ・実習レポート作成による振り返り（60分）

テキスト

・特に無し

参考書・参考資料等

・実習計画書にあわせて指導する。

学生に対する評価

実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。
 (B) 巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
 (A) 巡礼・遍路の意味を説明できる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートの講評を個別に実施する。

その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度、1週間前までに実習計画書を提出すること。・1日の実習は、4時間以上8時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。・課外授業用の保険に加入すること。・巡礼・遍路Bの履修をもって、本科目の実施に換えることもできる。

科目名	企画科目(巡礼・遍路B)／巡礼・遍路B							学期	前期
副題	四国遍路の歴史				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M1-01-064	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を学ぶ。また、現在おこなわれている四国遍路の実際を見ながら、四国遍路の魅力、そして、宗教と巡礼の関係を探る。四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などについての知識も得る。

授業の到達目標

四国遍路の歴史について説明できるようになる。／ 四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。／ 四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できる。

授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の起源
3. 補陀落信仰・熊野信仰と四国遍路
4. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（近世まで）
5. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世以降）
6. 四国霊場の確立①（澄禅の『遍路日記』）
7. 四国霊場の確立②（真念の業績）
8. 四国霊場の確立③（寂本の『霊場記』）
9. 近代（明治から戦後）の四国遍路
10. 四国遍路の習俗
11. 現代の四国遍路（社会学的考察）
12. 四国霊場巡拝の作法と実践へのアプローチ
13. 八十八ヶ所の霊場寺院概観
14. 四国に残る弘法大師の霊跡と、さまざまな番外霊場
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(60分) / 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(30分)

テキスト

森正人『四国遍路 八八ヶ所巡礼の歴史と文化』（中公新書）

参考書・参考資料等

愛媛大学四国遍路・世界の研究巡礼センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書） / 浅井証善『はじめての「四国遍路 88ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版） / 頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書） / 星野英紀・浅川泰宏『四国遍路 さまざまな祈りの世界』 など

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
 (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
 (A) 四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立と発展の過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
 (S) 四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。

その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めします。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	企画科目(巡礼・遍路C)/巡礼・遍路C							学期	後期
副題	澄禪の『四国辺路日記』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M1-01-065	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

江戸時代初期の京都・智積院の学僧、澄禪が承応2年(1653)に約100日をかけて四国遍路をおこなった際の日記『四国辺路日記』を読みながら、江戸時代におこなわれていた四国遍路の実際を学び、四国遍路の歴史や宗教的意義、習俗などについて理解する。また、写真や動画資料、地図などを用い、現在の霊場寺院や遍路道などと比較しながらそれらの変遷をたどり、四国遍路の実践に役立つ情報を得る。

授業の到達目標

四国遍路の歴史について説明できるようになる。/ 四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。/ 四国遍路の習俗について、文化史の立場から理解する。

授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の歴史を概観する
3. 江戸時代におこなわれた四国遍路のシステム化
4. 江戸時代のさまざまな遍路記(澄禪の『四国辺路日記』とは何か)
5. 阿波の行程(高野山から四国へ、井戸寺から太龍寺まで)
6. 阿波から土佐へ(平等寺から土佐国分寺まで)
7. 土佐の行程(土佐一宮・善楽寺から足摺岬の金剛福寺まで)
8. 土佐から伊予へ(延光寺から岩屋寺まで)
9. 伊予の行程①(浄瑠璃寺から八幡宮・栄福寺まで)
10. 伊予の行程②(太山寺から三角寺まで)
11. 伊予から讃岐へ(作礼山・仙遊寺から弥谷寺まで)
12. 讃岐の行程①(曼荼羅寺から白峯寺まで)
13. 讃岐の行程②(根香寺から大窪寺まで)
14. 再び阿波へ(切畑寺から壺山寺まで)
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(60分) / 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(30分)

テキスト

澄禪『四国辺路日記』 ※コピーを配布

参考書・参考資料等

伊予史談会編『四国霊場集』(伊予史談会) / 宮崎忍勝『澄禪 四国遍路日記』(大東出版社) / 柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路 澄禪『四国辺路日記』の道再現』(法蔵館) / 武田和昭『四国辺路の形成過程』(岩田書院) など

学生に対する評価

レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
- (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
- (A) 江戸時代の四国遍路(八十八ヶ所巡礼)の状況について、具体的に説明できる。
- (S) 江戸時代の漢字仮名交じり文の資料を用い、四国霊場の成立過程や習俗についてみずから考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。

その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めします。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	密教学特殊講義A						学期	前期	
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-066	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュパナナーヨーガヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（経典の講読）
13. 図像資料講読演習（経典の講読）
14. 図像資料講読演習（経典の講読）
15. レポート試験・講評

準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

発表及び提出物（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学特殊講義B						学期	前期	
副題	尊像の信仰の歴史と形像1 如来・菩薩編				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M3-01-067	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史と形を学ぶことにより、各尊像の基本的な知識を習得する。また尊像のスライドを用いて視覚的に確認することにより、各尊像の美術史的な理解も深める。さらに、多くの文化財を所蔵する高野山霊宝館において見学を行う。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像を多角的に知ることができ、像容を理解する上で貴重な経験となる。あわせて仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。・仏像・仏画などを実際に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2. 尊像の信仰の歴史と形像1（如来1）： 釈迦如来
3. 尊像の信仰の歴史と形像2（如来2）： 大日如来
4. 高野山霊宝館での実地見学1： 春期企画展前期「鎌倉時代の高野山」
5. 尊像の信仰の歴史と形像3（如来3）： 阿弥陀如来・薬師如来
6. 尊像の信仰の歴史と形像4（如来4・菩薩1）： 弥勒仏・弥勒菩薩
7. 尊像の信仰の歴史と形像5（菩薩2）： 十一面観音・千手観音
8. 高野山霊宝館での実地見学2： 春期企画展後期「鎌倉時代の高野山」
9. 尊像の信仰の歴史と形像6（菩薩3）： 不空罽索観音
10. 尊像の信仰の歴史と形像7（菩薩4）： 如意輪観音
11. 尊像の信仰の歴史と形像8（菩薩5）： 文殊菩薩
12. 高野山霊宝館での実地見学3： 春期企画展後期「鎌倉時代の高野山」
13. 尊像の信仰の歴史と形像9（菩薩6）： 普賢菩薩
14. 尊像の信仰の歴史と形像10（菩薩7）： 虚空蔵菩薩
15. 尊像の信仰の歴史と形像11（菩薩8）： 地藏菩薩

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30分）、事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60分）

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等

- ①『日本美術全集』小学館 2016年などの美術全集 ②『日本の美術』至文堂 1966年～2009年3月・ぎょうせい 2009年4月～2011年10月 ③関根俊一編『仏尊の事典』学研プラス 1997年 ④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001年

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教美術についての基礎知識を理解している。
 (B) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
 (A) 各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
 (S) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。提出されたレポートについての講評は、添削後、返却時にひとりひとりに行う。

その他

・教室だけではなく、霊宝館において見学を伴う科目である。・密教学特殊講義C（後期）を履修・聴講することが望ましい。・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・仏教美術作品に興味を持ち、できるだけ各自でも展覧会などを見学する機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義C						学期	後期	
副題	尊像の信仰の歴史と形像1 明王・天部編				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M2-01-068	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史と形を学ぶことにより、各尊像の基本的な知識を習得する。また尊像のスライドを用いて視覚的に確認することにより、各尊像の美術史的な理解も深める。さらに、多くの文化財を所蔵する高野山霊宝館において見学を行う。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像を多角的に知ることができ、像容を理解する上で貴重な経験となる。あわせて仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。・仏像・仏画などを実際に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（仏像の誕生、尊像の種類など仏教美術の基本的な知識）
2. 尊像の信仰の歴史と形像1（明王1）：不動明王
3. 尊像の信仰の歴史と形像2（明王2）：愛染明王
4. 高野山霊宝館での実地見学 1：秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
5. 尊像の信仰の歴史と形像3（明王3）：孔雀明王
6. 尊像の信仰の歴史と形像4（明王4）：五大明王
7. 尊像の信仰の歴史と形像5（天部1）：梵天・帝釈天
8. 高野山霊宝館での実地見学 2：秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
9. 尊像の信仰の歴史と形像6（天部2）：吉祥天
10. 尊像の信仰の歴史と形像7（天部3）：弁才天
11. 尊像の信仰の歴史と形像8（天部4）：四天王
12. 高野山霊宝館での実地見学 3：冬期平常展（展覧会詳細未定）
13. 尊像の信仰の歴史と形像9（天部5）：十二天
14. 尊像の信仰の歴史と形像10（天部6）：十二神将
15. 尊像の信仰の歴史と形像11（天部7）：八部衆等

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと（30分）、事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること（90分）、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること（60分）

テキスト

授業内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を配付する。

参考書・参考資料等

- ①『日本美術全集』小学館 2016年などの美術全集 ②『日本の美術』至文堂 1966年～2009年3月・ぎょうせい 2009年4月～2011年10月 ③関根俊一編『仏尊の事典』学研プラス 1997年 ④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001年

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）の比率で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業内容について理解することができる。
 (B) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
 (A) 各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
 (S) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。提出されたレポートの講評は、添削後、返却時にひとりひとりを行う。

その他

・教室だけではなく、霊宝館において見学を伴う科目である。・密教学特殊講義B（前期）を履修・聴講することが望ましい。・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・仏教美術作品に興味を持ち、できるだけ各自でも展覧会などを見学する機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義H							学期	前期
副題	『理趣経』を読む1					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-069	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）と、真言宗の常用經典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を2倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参考に（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

授業の到達目標

文読解力と密教經典や註釈書等に対する知識を培う。

授業計画

1. インド密教史通観
2. 『理趣経』とはどのような經典か（書誌的解説）
3. 『理趣経』の曼荼羅
4. 『金剛頂経』と『理趣経』（『金剛頂経』系密教における『理趣経』の位置）
5. 『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）概説
6. 金剛界曼荼羅概説
7. 八大菩薩と十六大菩薩
8. 『理趣経』講読1（序分）
9. 『理趣経』講読2（初段①）
10. 『理趣経』講読3（初段②）
11. 十七清浄句と金剛薩埵十七尊曼荼羅（理趣会曼荼羅）
12. 『理趣経』講読4（第二段）
13. 『初会の金剛頂経』に説かれる降三世明王の諸天降伏の物語
14. 『理趣経』講読5（第三段）
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

松長有慶『理趣経講讀』（大法輪閣） ※絶版のため、コピーを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大藏経・密教部4金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版） 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教經典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	密教学特殊講義I							学期	後期
副題	『理趣経』を読む2					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-070	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）と、真言宗の常用經典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を2倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参考にする（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

授業の到達目標

文読解力と密教經典や註釈書等に対する知識を培う。

授業計画

- 『理趣経』講読6（第四段）
- 『理趣経』講読7（第五段）
- 『理趣経』講読8（第六段）
- 『理趣経』講読9（第七段）
- 『理趣経』講読10（第八段）
- 『理趣経』講読11（第九段）
- 『理趣経』講読12（第十段）
- 『理趣経』講読13（第十一～第十五段）
- 『理趣経』講読14（第十六段）
- 『理趣経』講読15（第十七段、百字の偈）
- 金剛薩埵儀軌類概観①
- 金剛薩埵儀軌類概観②
- 弘法大師の『理趣経開題』を読む①
- 弘法大師の『理趣経開題』を読む②
- 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

松長有慶『理趣経講讀』（大法輪閣） ※絶版のため、コピーを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大藏経・密教部4金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版） 高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教經典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	仏教学特殊講義A						学期	前期	
副題	インド大乘仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	M3-02-071	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

初期仏教以来、中心的な思想の一つに挙げられる「空」は、いずれの時代においても、また伝播した先のいずれの地域においても重要な課題として多々論じられ、様々に解釈されてきた。本講義は、これらの根幹となるインド仏教における空理解とその議論について学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方）
2. インド大乘仏教概観
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 戲論
11. 「ことばの否定」とは何か
12. 中観論師たちの思想と著作(1) パーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開
15. 総括（全体のまとめとレポート講評）

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫 1600）、講談社、2003年など。他は適宜授業中で紹介する

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想を把握するために必要な用語を理解できる
- (B) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (A) 空思想の特徴と展開を把握できる
- (S) 空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる

課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する

その他

分からない用語があれば自ら辞書や参考文献で調べる等、積極的に理解するよう努めること

科目名	仏教学特殊講義B							学期	前期
副題	仏教／密教における死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-01-072	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 概論(講義の進め方等) | |
| 2. 凡夫の生死 | ① 苦としての生死 |
| 3. " | ② 五蘊と無我 |
| 4. " | ③ 縁起としての生死 |
| 5. " | ④ 輪廻の世界 |
| 6. 仏陀観の変遷 | ① 釈尊の生涯 |
| 7. " | ② 変容する釈尊 |
| 8. " | ③ 神変とマンダラ |
| 9. この身のままで仏と成る | ① 六大と人間 |
| 10. " | ② 真理の表現 |
| 11. " | ③ 心とマンダラ |
| 12. 生死の意味 | ① 因不可得 |
| 13. " | ② 縁起生から本不生へ |
| 14. " | ③ 「真に帰す」 |
| 15. まとめ — 〈私〉という存在— | |

準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく(60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる(120分)

テキスト

・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での質問(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な仏教用語を習得している。
 (B) 仏陀観の変遷について説明ができる。
 (A) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

各まともりごとにリアクションペーパーを作成させ、講評する。

その他

・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。

科目名	仏教学特殊講義J							学期	前期
副題	パーリ・サンスクリット・チベットの仏伝 1				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-02-073	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標

基本的な文献学的手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記—仏伝とはなにか
3. 仏伝と仏教美術① シンボルとアイコン
4. 初期仏教における仏伝① 単独聖典『スッタニパータ』に含まれる経典
5. 初期仏教における仏伝② 単独聖典『サンユッタニカーヤ』に含まれる経典
6. 初期仏教における仏伝③ 単独聖典「サガータヴァッガ」に含まれる経典
7. 仏伝と言語文化① アシュヴァゴージャ
8. 律蔵における仏伝① 『律蔵大品』第 1-5 節
9. 律蔵における仏伝② 『律蔵大品』第 6-8 節
10. 律蔵における仏伝③ 『律蔵大品』第 6-9 節
11. 律蔵における仏伝④ 『律蔵大品』第 10-15 節
12. 仏伝と仏教美術② 釈尊絵伝
13. 涅槃経における仏伝① 『マハーパリニッパーナスッタタ』第 1-5 節
14. 涅槃経における仏伝② 『マハーパリニッパーナスッタタ』第 6-10 節
15. 仏伝と言語文化② ジャータカ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと (100分)。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと (80分)。

テキスト

資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教「ブツダの伝記—その資料と解釈」、高野山大学、2008年、②『釈尊絵伝』、学習研究社、1996年

学生に対する評価

ミニツペーパー (20%)、学期末レポート (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
- (B) 仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
- (A) サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
- (S) 仏伝資料とその担い手について概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現代語訳を使用して進めていくので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加を求める。

科目名	仏教学特殊講義K							学期	後期
副題	パーリ・サンスクリット・チベットの仏伝 2				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-02-074	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

パーリ語・サンスクリット語・チベット語のかたちで伝承されるさまざまな仏伝資料を渉猟し、言語文化の担い手としての仏教徒の役割に注目しつつ資料を批判的に検討しうる姿勢を身につける。

授業の到達目標

基本的な文献学の手順を踏まえ、仏伝を伝える諸資料を必要に応じて原資料にアクセスできる。特定の仏伝資料とその担い手との関係について概括的に説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 伝説と伝記—キリストとブッダ
3. 仏伝と言語文化③ アヴァダーナ
4. 大乘における仏伝① 『ラリタヴィスタラ』
5. 大乘における仏伝② 『首楞嚴三昧経』
6. 大乘における仏伝③ 『法華経』
7. 仏伝と仏教美術③ 宝冠を戴くブッダ
8. 大乘における仏伝④ 『華嚴経』、『世間随順経』
9. 大乘における仏伝⑤ 『大智度論』、その他の聖典と注釈
10. 密教における仏伝① 纓発心転法輪菩薩
11. 密教における仏伝② 五相成身觀と灌頂次第をめぐる悟りの再解釈
12. 密教における仏伝③ 色究竟天と密厳浄土
13. 密教における仏伝④ 密教聖典における仏伝と解釈① 『マハーマントラヌサーリニー』
14. 密教における仏伝⑤ 密教聖典における仏伝と解釈② 『サマーヨーガタントラ』
15. 全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲の資料を読み、必要に応じて適宜配布される一次資料をも対照しておくこと(90分)。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと(90分)。

テキスト

資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教「ブッダの伝記—その資料と解釈」、高野山大学、2008年、②田中公明『性と死の密教』、春秋社、1997年、③「梵文和訳『サマーヨーガ・タントラ』第4章』、『川崎大師教学研究紀要』、2021年

学生に対する評価

ミニツペーパー(20%)、学期末レポート(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
- (B) 仏伝を伝える諸資料の系統と種類について概要を把握し必要に応じて原資料にアクセスできる。
- (A) サンスクリット語を中心に言語文化の形成に仏伝が与えた影響について理解している。
- (S) 密教聖典と特定の仏伝資料との関わりについて概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・パーリ語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、基本的に現在語訳を使用して進めていくので、少しでも仏伝の伝承に興味がある希望者の積極的な参加を求める。

科目名	真言密教特殊講義A／密教儀礼の理論と実習(別)1							学期	前期
副題	別行次第の伝授 1					授業方法	講義	担当者	中西雄泰
ナンバリング	M3-01-075	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画

1. 授業の概要説明
2. 中院流の成り立ちについて（1）
3. 中院流の成り立ちについて（2）
4. 中院流の成り立ちについて（3）
5. 別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6. 別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7. 別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8. 別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9. 別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10. 別行次第（理趣法）伝授説明（6）
11. 別行次第（理趣法）伝授説明（7）
12. 別行次第（理趣法）伝授説明（8）
13. 開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
14. 開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
15. 開眼作法等日用小作法伝授説明（3）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な次第、小作法を理解している。
- (B) 基本的な次第、小作法を十分理解している。
- (A) 中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
- (S) 教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義日／密教儀礼の理論と実習(別)2						学期	後期	
副題	日用小作法の伝授 2				授業方法	講義	担当者	中西雄泰	
ナンバリング	M3-01-076	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画

1. 真言宗の葬儀について（1）
2. 真言宗の葬儀について（2）
3. 引導作法伝授説明（1）
4. 引導作法伝授説明（2）
5. 引導作法伝授説明（3）
6. 引導作法伝授説明（4）
7. 引導作法伝授説明（5）
8. 無常導師作法伝授説明（1）
9. 無常導師作法伝授説明（2）
10. 無常導師作法伝授説明（3）
11. 無常導師作法伝授説明（4）
12. 日用作法伝授説明（1）
13. 日用作法伝授説明（2）
14. 日用作法伝授説明（3）
15. 日用作法伝授説明（4）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な次第、小作法を理解している。
- (B) 基本的な次第、小作法を十分理解している。
- (A) 中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
- (S) 教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義D							学期	前期
副題	頼瑠の『阿字秘釈』の研究(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	M3-01-077	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

阿字観は真言密教の代表的な観法で、『大日経』、『大日経疏』や秘密儀軌に由来するものである。今日に伝わる阿字観はさらに日本の伝統的な解説書・注釈書・次第に基づいて修練される。各種の経軌論の引用をしながら阿字観の高度な理解を説く頼瑠の『阿字秘釈』(3巻)は中世の阿字思想と観法に関する解説書である。『阿字秘釈』の学習を通じて阿字を持つ意義と伝統教学による阿字観の理解を深めることができる。前期は経軌の内容を紹介して『阿字秘釈』の上巻を読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『阿字秘釈』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、阿字観の実践を深めることができる。

授業計画

1. 観法について：目的と種類
2. 『大日経』『大日経疏』における阿字について
3. 『無畏三蔵禪要』の内容紹介：前半
4. 『無畏三蔵禪要』の内容紹介：後半
5. 『阿字観用心口決』の内容紹介：前半
6. 『阿字観用心口決』の内容紹介：後半
7. 『阿字秘釈』と頼瑠
8. 『阿字秘釈』上巻①：「通持門」
9. 『阿字秘釈』上巻②：念誦の種類
10. 『阿字秘釈』上巻③：「観字門」以下
11. 『阿字秘釈』上巻④：「引文生信」以下
12. 『阿字秘釈』上巻⑤：『大日経』の引用以下
13. 『阿字秘釈』上巻⑥：『大日経疏』の引用以下
14. 『阿字秘釈』上巻⑦：「問答決疑」以下
15. 『阿字秘釈』上巻⑧：『菩提心論』の引用以下

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『阿字秘釈』の承応二年の刊本(3巻本)のコピーを配布、『無畏三蔵禪要』、『阿字観用心口決』の江戸の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

藤田隆乗『頼瑠記阿字秘釈国訳』、北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『阿字秘釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義E」を続けて受講することを推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教特殊講義E							学期	後期
副題	頼瑠の『阿字秘釈』の研究(後半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M3-01-078	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

阿字観は真言密教の代表的な観法で、『大日経』、『大日経疏』や秘密儀軌に由来するものである。今日に伝わる阿字観はさらに日本の伝統的な解説書・注釈書・次第に基づいて修練される。各種の経軌論の引用をしながら阿字観の高度な理解を説く頼瑠の『阿字秘釈』(3巻)は中世の阿字思想と観法に関する解説書である。『阿字秘釈』の学習を通じて阿字を持つ意義と伝統教学による阿字観の理解を深めることができる。前期は経軌の内容を紹介して『阿字秘釈』の上巻を読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『阿字秘釈』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、阿字観の実践を深めることができる。

授業計画

- 『阿字秘釈』中巻①:『心月輪秘釈』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻②:『心地観経』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻③:『起信論』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻④:『法華軌』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻⑤:『解字門』と「解経生信」
- 『阿字秘釈』中巻⑥:「釈義利」
- 『阿字秘釈』中巻⑦:「釈疏知義」
- 『阿字秘釈』中巻⑧:『即身義』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻①:『十住心論』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻②:『雑問答』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻③:『大日経』「具縁品」の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻④:『大疏』四の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑤:『阿字観頌』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑥:『大日経』七の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑦:『大疏』七の引用以下

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『阿字秘釈』の承応二年の刊本(3巻本)のコピーを配布、『無畏三蔵禪要』、『阿字観用心口決』の江戸の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

藤田隆乗『頼瑠記阿字秘釈国訳』、北尾隆心『密教冥想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観冥想入門』

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教特殊講義M							学期	前期
副題	一尊法次第				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-079	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第の伝受を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流三十三尊の伝授と研究を通じて秘密事相の理解を深めその意義や専門用語について説明できるようになる。また実修することが出来るようになる。

授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「真言密教講読演習K」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教特殊講義N						学期	後期	
副題	作法集の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-080	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中院流の作法集について伝授を中心とし様々な問題について研究成果も述べながら講義を展開していく。作法集の講義を通して密教がどのように過去の時代の人々に受容されていったかを解明するのが本講義の目的である。

授業の到達目標

作法集の伝授と研究を通して祕密事相の理解を深めその意義について説明できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 散状削事、開眼作法
3. 発遣作法
4. 求子作法
5. 妊者帯加持
6. 大師拝見大事、御精進供作法
7. 霊供作法
8. 施餓鬼作法
9. 古廟移作法
10. 略念誦
11. 月輪観
12. 阿字観
13. 出家略作法
14. まとめ
15. テストと講評

準備学習(予習・復習)・時間

自前学習としてテキストの該当ページを読み専門語の意味を調べ理解しておく事。(90分)。事後学習として授業内容を復習し知識を整理しておく事。(90分)

テキスト

『中院流作法集』(珠数屋四郎兵衛)

参考書・参考資料等

『中院流作法集』乾坤(高野山八葉学会刊)

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 作法集について何が書かれているか説明できる。
- (B) 作法集について理解しそれが実修できる。
- (A) 作法集について専門的知識を持ってそれを詳しく解説できる。
- (S) 事相史の中で専門的知識を位置づけて説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でフィードバックを行う。

その他

受講は已灌頂者に限る。黒衣如法衣にて受講の事。

科目名	密教学講読演習A							学期	後期
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-01-081	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュバンナヨーガヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、主として曼荼羅の成立と展開を考察する。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 曼荼羅概論（1）
3. 曼荼羅概論（2）
4. 曼荼羅概論（3）
5. 曼荼羅のあけぼの
6. 三部の成立
7. 八大菩薩
8. 胎藏五仏の成立
9. 現図曼荼羅の成立
10. 南天鉄塔の謎
11. 三部から五部へ
12. 教理命題の尊格化
13. 五元論の完成
14. 後期密教の曼荼羅
15. レポート試験・講評

準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

発表及び提出物（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学講読演習B						学期	後期	
副題	南山教学の研究—宝門—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-082	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。その南山教学における宝門・寿門という2大学派の内、特に宝門の論義書である『宗義決撰集』を中心に考察することで、弘法大師の思想がどのように理解・展開されてきたのか、そしてその教えが現代においてどのような意義を持つのかについて理解を深める。なお受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標

高野山の教学を学ぶことを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス・総論—教学とは何か—
2. 高野山の学道 (1) 一年中行事—
3. 高野山の学道 (2) 一南山教学史概説—
4. 高野山の学道 (3) 一覚海・四哲・八傑—
5. 高野山の学道 (4) 一有快・長覚—
6. 高野山の学道 (5) 一勸学会・堅精—
7. 高野山の論義 (1) 一綵画形像—
8. 高野山の論義 (2) 一門普門—
9. 高野山の論義 (3) 一三密双修—
10. 高野山の論義 (4) 一事六度—
11. 高野山の論義 (5) 一乗経劫—
12. 高野山の論義 (6) 一受講者発表—
13. 高野山の論義 (7) 一受講者発表—
14. 高野山の論義 (8) 一受講者発表—
15. 高野山の論義 (9) 一受講者発表—・総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

・『宗義決撰集』(『真言宗全書』巻19、統真言主全書刊行会、1935年)・小田慈舟訳『宗義決撰集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (50%)、ディスカッション等への参加の積極性 (30%)、期末レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
 (B) 論義に引用されている典故を指摘し、専門用語を補足・説明すること (語註) ができる。
 (A) 論義の内容を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、論義の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・特に勸学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行う。・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時失格とする。・発表時には、質疑応答やディスカッションを行うので、あらかじめ予習をしておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、勸学会などに参画している教員が、学侶の立場から南山教学や論義の内容を解説・指導し、特に真言宗僧侶を目指す者にとって必須の教学を身につけさせる。

科目名	密教学講読演習H						学期	前期	
副題	『大日経』を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-083	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『金剛頂経』という經典が、「両部の大経」として重要視されている。両經典は、インドにおいて成立したものであり、『大日経』には漢訳・チベット語訳が、『金剛頂経』にはサンスクリット写本・漢訳・チベット語訳が、それぞれ現存している。真言密教を深く理解するためには、これらの經典の原語による読解が不可欠である。この授業は、学生が『大日経』を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

・經典の単語の意味を、辞書（チベット語など）を使って調べることができるようになる。・經典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。・漢文やチベット語で記された密教經典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 『大日経』の概要
3. 『大日経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（住心品 1）
4. 『大日経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（住心品 2）
5. 『大日経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（住心品 3）
6. 『大日経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（住心品 4）
7. 『大日経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（住心品 5）
8. 『大日経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（住心品 6）
9. 『大日経』の読解（1）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 1）
10. 『大日経』の読解（2）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 2）
11. 『大日経』の読解（3）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 3）
12. 『大日経』の読解（4）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 4）
13. 『大日経』の読解（5）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 5）
14. 『大日経』の読解（6）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

・『大日経』（漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・頼富本宏、『大日経』入門 ―慈悲のマンドラ世界―、大法輪閣、2000年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 經典の単語の意味を、辞書（チベット語など）を使って調べることができる。
- (B) 『大日経』の原書を、ある程度の精度で翻訳できる。
- (A) 『大日経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『大日経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	密教学講読演習						学期	後期	
副題	『金剛頂経』を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-084	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『金剛頂経』という経典が、「両部の大経」として重要視されている。両経典は、インドにおいて成立したものであり、『大日経』には漢訳・チベット語訳が、『金剛頂経』にはサンスクリット写本・漢訳・チベット語訳が、それぞれ現存している。真言密教を深く理解するためには、これらの経典の原語による読解が不可欠である。この授業は、学生が『金剛頂経』を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。・経典の単語の意味を、インドで成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

- 『金剛頂経』の概要
- 『金剛頂経』系の密教経典について
- 『金剛頂経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 1）
- 『金剛頂経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 2）
- 『金剛頂経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 3）
- 『金剛頂経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 4）
- 『金剛頂経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 5）
- 『金剛頂経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 6）
- 『金剛頂経』の読解（1）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 1）
- 『金剛頂経』の読解（2）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 2）
- 『金剛頂経』の読解（3）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 3）
- 『金剛頂経』の読解（4）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 4）
- 『金剛頂経』の読解（5）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 5）
- 『金剛頂経』の読解（6）：マンダラに関する記述の翻訳（金剛界大マンダラ 6）
- 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

『金剛頂経』（サンスクリット語・漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・頼富本宏、『金剛頂経』入門 一即身成仏への道一』、大法輪閣、2005年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができる。
- 『金剛頂経』の原書を、ある程度の精度で翻訳できる。
- 『金剛頂経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- 『金剛頂経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	密教学講読演習J							学期	前期
副題	三教指帰					授業方法	講義	担当者	大柴清圓
ナンバリング	M3-01-085	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾聵指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『聾聵指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

1. 『聾聵指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
2. 『聾聵指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
3. 両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
4. 両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
5. 両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
6. 『三教指帰』の濟暹師偽作説の誤りについて。
7. 再偽作説の誤り①文字。
8. 再偽作説の誤り②音韻。
9. 再偽作説の誤り③意味内容。
10. 『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人となり。
11. 『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
12. 『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
13. 『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・医工と学問の勧め。
14. 『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り友人と宴をする楽しさ。
15. 『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を諭す・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓『聾聵指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明—』大遍照院、2022年(アマゾンで購入) 大柴清圓『聾聵指帰と三教指帰 一序文・鼈毛先生論・虚亡隠士論—』大遍照院、2022年(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂宥勝『三教指帰 性靈集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
 (B) 『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
 (A) 『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
 (S) 『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『聾聵指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	密教学講読演習K						学期	後期	
副題	三教指帰				授業方法	講義	担当者	大柴清園	
ナンバリング	M3-01-086	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『讐警指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『讐警指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。

授業計画

- 『讐警指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
- 『讐警指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
- 両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
- 両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
- 両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
- 『三教指帰』の濟暹師偽作説の誤りについて。
- 再偽作説の誤り①文字。
- 再偽作説の誤り②音韻。
- 再偽作説の誤り③意味内容。
- 『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人となり。
- 『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
- 『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
- 『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・医工と学問の勧め。
- 『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り友人と宴をする楽しさ。
- 『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を論ず・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清園『讐警指帰と三教指帰 一序文・鼈毛先生論・虚亡隠士論一』大遍照院、2022年(アマゾンで購入)
大柴清園『讐警指帰と三教指帰 一仮名乞児論一』大遍照院、2022年(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
 (B) 『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
 (A) 『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
 (S) 『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読む』は、『讐警指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	仏教学講読演習A							学期	後期
副題	『梵語学』読解				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-087	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

榊亮三郎『梵語学』の課題によってサンスクリット語読解能力を向上させる。

授業の到達目標

サンスクリット語文法の基礎知識を確認し、仏教文献以外のサンスクリット文の読解能力を身につける。

授業計画

1. 『梵語学』第52課1の和訳
2. " 第52課2の和訳
3. " 第53課1の和訳
4. " 第53課2の和訳
5. " 第54課1の和訳
6. " 第54課2の和訳
7. " 第55課1の和訳
8. " 第55課2の和訳
9. " 第56課1の和訳
10. " 第56課2の和訳
11. " 第57課1の和訳
12. " 第57課2の和訳
13. " 第58課1の和訳
14. " 第58課2の和訳
15. " 第59課の和訳

準備学習(予習・復習)・時間

梵文和訳の予習をする。(最低週に延べ300分)。事後学修として授業で学んだことを復習する(120分)

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価

学期末のレポート(70%)と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか(30%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教学講読演習B						学期	前期	
副題	『日本三代実録』を読む				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-02-088	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『日本三代実録』は、『日本書紀』にはじまる律令国家が編さんした「六国史」の最後を飾る歴史書である。国史の到達点とみなされ、その記述は詳細であり、平安時代初期の記録としても貴重である。本講義では、『日本三代実録』の輪読を通して、漢文史料の基礎的読解力と、歴史学の研究手法を身につけるとともに、律令国家の完成期ともいえる9世紀半ばの日本社会のありようについて学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

『日本三代実録』を読み解くことを通じて、漢文史料の基礎的読解力をつけ、歴史学の研究手法を習得し、真言宗の成立期である9世紀半ばの日本社会のありようを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学から研究するための手法
2. 『日本三代実録』とはどのような史料か？
3. 『日本三代実録』の時代—律令国家の完成期—
4. 『日本三代実録』を読む①
5. 『日本三代実録』を読む②
6. 『日本三代実録』を読む③
7. 『日本三代実録』を読む④
8. 『日本三代実録』を読む⑤
9. 『日本三代実録』を読む⑥
10. 『日本三代実録』を読む⑦
11. 『日本三代実録』を読む⑧
12. 『日本三代実録』を読む⑨
13. 『日本三代実録』を読む⑩
14. 『日本三代実録』を読む⑪
15. 『日本三代実録』を読む⑫

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べる(90分) 事後学習：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる(60分)。

テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系 日本三代実録 前篇』(吉川弘文館、1991年。初版は1934年)を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①遠藤慶太『六国史—日本書紀に始まる古代の「正史」』(中公新書、2016年)。②古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥撰閣政治』(岩波新書、2011年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表(50%)・予習・復習などの授業への参加度(50%)によって評価する。全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文史料を読み下すことができる。
- (B) 漢文史料を読み下し、その内容を解釈することができる。
- (A) 漢文史料を読み下し、解釈をした上で、内容を説明することができる。
- (S) 漢文史料を読み下して解釈し、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。③卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。

科目名	仏教学講読演習D							学期	後期
副題	ケースワークとして仏典を読む				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M3-02-089	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この講義は、仏典の中にみられる釈尊と弟子との交流や信者との交流をケースワークの視点からとりあげ、現代社会における福祉、人権、メンタルヘルスの問題などに活用していく視点を身に付ける。

授業の到達目標

現代の諸問題について、仏教・密教の教えから対応する姿勢を身に付ける。

授業計画

1. 現代社会の問題について
2. 仏典にみられるケースワークとは
3. グリーフケア：死別の悲しみ①
4. グリーフケア：死別の悲しみ②
5. グリーフケア：死別の悲しみ③
6. 緩和ケア：病とケア①
7. 緩和ケア：病とケア②
8. 緩和ケア：病とケア③
9. 家族問題：介入①
10. 家族問題：介入②
11. 家族問題：介入③
12. 社会問題：介入①
13. 社会問題：介入②
14. 社会問題：介入③
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

仏典・律資料を使用する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教・密教についての基本的な知識を身につけている。
- (B) 仏教・密教におけるケースワークの意味を理解している。
- (A) 仏教・密教におけるケースワークの意味を理解し、それについて他者に述べることができる。
- (S) 仏教・密教におけるケースワークの意味を理解し、それについて他者に述べることができ、かつ、実践するための姿勢をもっている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、仏典にみられるケースワークの例を提示し、仏教・密教の教えに基づく現代社会の問題への取り組み方について講義していく。

科目名	仏教学講読演習F							学期	前期
副題	中国密教史 1				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	M3-02-090	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに起こった密教が古代中国に伝えられ、中国密教として展開していった過程を学習する。密教僧の布教活動、訳経事業と著作、著名な寺院、密教の尊格の造像や石窟美術などの面から、中国の各時代に形成された密教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標

○中国歴史年表にしたがって、魏晋南北朝時代から中唐までの中国密教史の大まかな流れを理解し、概説できる。○中国密教隆盛期の唐以前の時代、後漢から隋までの中国密教の歴史的展開について、理解できる。

授業計画

1. 講義内容の説明
2. 後漢三国時代の陀羅尼經典の伝来
3. 両晋十六国時代の陀羅尼密教の流行
4. 南北朝時代の密教と『牟梨曼陀羅呪経』の翻訳
5. 隋代大興善寺・青龍寺の建立と闍那耶舎師弟の活動
6. 初唐における観音法の流行
7. 初唐の訳経僧による密教經典の翻訳
8. 善無畏の来唐及びその伝法
9. 善無畏の弟子たち及び北宗禪との交流
10. 金剛智及びその弟子たちの活動
11. 一行と『大日経疏』の成立
12. 不空の布教と密教隆盛
13. 不空の訳経と思想
14. 不空の弟子たちの活動
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分) 講義内容について、関心をもったテーマや人物を調べる。(60分)

テキスト

担当者が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等

呂建福『中国密教史』中国社会科学出版社 2011年(中国語) 宮坂有勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系第二巻 中国密教』法蔵館 1994年(日本語) 立川武蔵・頼富本宏編『中国密教 シリーズ密教3』春秋社 1999年(日本語)

学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国への密教の伝来と展開の歴史を理解できる。
- (B) 中国の各時代における密教の展開を概説できる。
- (A) 中国の各時代の密教の特徴及び主要な密教僧の役割について説明できる。
- (S) 中国における密教の歩みを理解し、独自の観点から意見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は3分の1欠席と計算する。また本講義は中国語で行う。

科目名	仏教学講読演習G							学期	後期
副題	中国密教史 2					授業方法	講義	担当者	徐東軍
ナンバリング	M3-02-091	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに起こった密教が古代中国に伝えられ、中国密教として展開していった過程を学習する。密教僧の布教活動、訳経事業と著作、著名な寺院、密教の尊格の造像や石窟美術などの面から、中国の各時代に形成された密教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標

○中国歴史年表にしたがって、中唐から二十世紀までの中国密教史の大まかな流れを理解し、概説できる。
○中国密教隆盛期の唐以降、宋・遼・金・西夏・大理などにおける中国密教の歴史的展開を学び、説明できる。 ○元代以降のチベット密教の伝播とその影響について理解できる。

授業計画

1. 講義内容の説明
2. 恵果と空海の出会
3. 中晩唐の密教僧の活動
4. 密教と法門寺の仏舎利供養
5. 盛唐以降の密教信仰の特徴
6. 五代と宋代初期の密教僧
7. 宋代訳経院の設立と密教経典の翻訳
8. 宋代密教の特徴
9. 遼代における密教の流行
10. 西夏の密教及びその特色
11. 金と大理における密教の展開
12. 元代のチベット密教の受容と大蔵経の整理
13. 明清代の密教
14. 二十世紀における中国密教の復興運動
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分) 講義内容について、関心をもったテーマや人物を調べる。(60分)

テキスト

担当者が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等

呂建福『中国密教史』中国社会科学出版社 2011年(中国語) 宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系第二巻 中国密教』法蔵館 1994年(日本語) 立川武蔵・頼富本宏編『中国密教 シリーズ密教3』春秋社 1999年(日本語)

学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国への密教の伝来と展開の歴史を理解できる。
- (B) 中国の各時代における密教の展開を概説できる。
- (A) 中国の各時代の密教の特徴及び主要な密教僧の役割について説明できる。
- (S) 中国における密教の歩みを理解し、独自の観点から意見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は3分の1欠席と計算する。 また本講義は中国語で行う。

科目名	仏教学講読演習							学期	後期
副題	シャーティデーヴァの『入菩薩行論』を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	M3-02-092	実務経験の有無	有	関連DP	1, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

王族シャンティデーヴァはインド仏教最大の名利ナーランダ僧院に入門する。高い境地の修行者であった彼だが、外からはその生活は寝て食べて排泄するだけに見えた。彼の境地が理解出来ぬ血気に逸るナーランダ僧院の若い僧侶達は、説法会を依頼して恥をかかせ、追い出そうとするが、説法会当日、その説法は今まで聞いた誰のものよりも分かり易く、大変感嘆したという。この説法の内容が『入菩薩行論』である。この典籍を精読し、ツォンカパの密教を理解する上で必要な波羅蜜乗の基本概念を学ぶ。

授業の到達目標

『入菩薩行論』の前半第六章までを読み、チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できるようになる。

授業計画

1. 第一章 菩提心の利益 (1) 菩提心の功德を説明する
2. 第一章 菩提心の利益 (2) 菩提心とは何かを考える
3. 第二章 罪の懺悔 (1) 因果応報について考える
4. 第二章 罪の懺悔 (2) 悪業を浄化する方法を知る
5. 第三章 菩提心の受持 (1) 菩提心を受持する用意
6. 第三章 菩提心の受持 (2) 菩薩戒を受けるということ
7. 第四章 不放逸 (1) なぜ不放逸はダメなのか
8. 第四章 不放逸 (2) 煩惱とどう向き合うか
9. 第五章 正知の守護 (1) 心との向き合い方
10. 第五章 正知の守護 (2) 沈み込みと高ぶりの対処法
11. 第五章 正知の守護 (3) 身体のこと、ふるまい
12. 第六章 忍辱 (1) 怒りの過失
13. 第六章 忍辱 (2) 怒りの解消法
14. 第六章 忍辱 (3) 仏教のアンガーコントロール
15. 第六章 忍辱 (4) 忍辱の功德

準備学習(予習・復習)・時間

復習としては講義におけるノート整理をしておくこと (60分)。

テキスト

講師が和訳したテキストを用意する。

参考書・参考資料等

運命を好転させる隠された教え チベット仏教入門 幻冬舎 2021年

学生に対する評価

授業についてのレポートを提出し、厳正に評価する。レポート (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『入菩薩行論』での菩提心の重要性が説明できる。
- (B) 『入菩薩行論』の各章の概要が説明できる。
- (A) 『入菩薩行論』の語句、専門用語も説明できる。
- (S) 『入菩薩行論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問を受ける。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山大学でのダライ・ラマ法王の金剛界マンダラ灌頂説法会の通訳、胎蔵マンダラ灌頂の通訳など、ダライ・ラマ法王の密教関係の通訳を10回以上務める。

科目名	真言密教講読演習B							学期	前期
副題	次第のルーツを探る					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M3-01-093	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・胎藏界・一尊法の各種次第への理解を深める。前期では十八道次第の本となった請求された漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿闍法』、『烏羯磨儀軌』などを平行して読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（莊嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勧請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

浄嚴の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教講読演習C」を続けて受講することを推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教講読演習C						学期	後期	
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	M3-01-094	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界次第と一尊法の各種次第への理解を深める。後期では金剛頂経系の儀軌として『如意輪瑜伽』、『千手儀軌』、『五秘密儀軌』などを読み、その他に『観智儀軌』や『求聞持法』を読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 『金剛頂経』系の儀軌を読む① (『如意輪瑜伽』を読む)
2. 『金剛頂経』系の儀軌を読む② (『如意輪瑜伽』を読む)
3. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③ (『如意輪瑜伽』を読む)
4. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④ (『千手儀軌』を読む)
5. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤ (『千手儀軌』読む)
6. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥ (『千手儀軌』読む)
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦ (『千手儀軌』読む)
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧ (『五秘密儀軌』を読む)
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨ (『五秘密儀軌』を読む)
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩ (『五秘密儀軌』を読む)
11. その他の儀軌① (『観智儀軌』を読む)
12. その他の儀軌② (『観智儀軌』を読む)
13. その他の儀軌③ (『観智儀軌』を読む)
14. その他の儀軌④ (『求聞持法』前半を読む)
15. その他の儀軌⑤ (『求聞持法』後半を読む)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『統真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教講読演習D							学期	前期
副題	『大日経』第七と『不思議疏』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M3-01-095	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『大日経』の6巻31品は經典の本文であり、最後の第七巻の5品は『大日経』の法門による供養次第を説く儀軌である。新羅の不可思議撰の『大毘盧遮那経供養次第法疏』（『不思議疏』、2巻）はその注釈書である。『大日経』の第七巻と『不思議疏』を平行して講読する。受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。

授業の到達目標

漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1. 『大日経』と『不思議疏』の行法体系
2. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」①「掃恭敬信序」
3. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」②「精勤修行序」
4. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」③「勤行制戒門」
5. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」④「正戒重禁門」
6. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」⑤「覚心得益門」
7. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」⑥「生成仏門」
8. 「増益守護清浄行品第二」①「総序」
9. 「増益守護清浄行品第二」②「九方便」
10. 「増益守護清浄行品第二」③「入仏三昧耶」
11. 「増益守護清浄行品第二」④「法界生」
12. 「増益守護清浄行品第二」⑤「転法輪」
13. 「増益守護清浄行品第二」⑥「金剛甲冑」
14. 「増益守護清浄行品第二」⑦「ラン字」
15. 「増益守護清浄行品第二」⑧「無堪忍大護」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

『大日経』第七巻と高野版の『不思議疏』のコピーを配布

参考書・参考資料等

関連する他の漢訳儀軌、チベット訳『大毘盧遮那現等覺所屬供養儀軌』の和訳、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。この講義の内容は後期に続くため、「真言密教講読演習E」を続けて受講することを推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教講読演習E							学期	後期
副題	『大日経』第七と『不思議疏』を読む(後半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M3-01-096	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『大日経』の6巻31品は經典の本文であり、最後の第七巻の5品は『大日経』の法門による供養次第を説く儀軌である。新羅の不可思議撰の『大毘盧遮那経供養次第法疏』（『不思議疏』、2巻）はその注釈書である。『大日経』の第七巻と『不思議疏』を平行して講読する。受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。

授業の到達目標

漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1. 「供養儀式品第三」① 「器界観」「道場観」
2. 「供養儀式品第三」② 「虚空蔵転明妃」「結界」
3. 「供養儀式品第三」③ 「大鉤召」
4. 「供養儀式品第三」④ 「示三昧耶」「閻伽」「華座」
5. 「供養儀式品第三」⑤ 「不動尊」「金剛鎧」
6. 「供養儀式品第三」⑥ 「怖魔」「無能堪忍」
7. 「供養儀式品第三」⑦ 「五養」
8. 「持誦法則品第四」① 「有相念誦門」「無相念誦門」以下
9. 「持誦法則品第四」② 「意支念声真言門」以下
10. 「持誦法則品第四」③ 「先持門」「具支」以下
11. 「持誦法則品第四」④ 「五字嚴身門」
12. 「持誦法則品第四」⑤ 「秘密事業可解門」以下
13. 「真言事業品第五」① 「上求下化修供門」以下
14. 「真言事業品第五」② 「修業無間得益門」以下
15. 「真言事業品第五」③ 「無相最勝証請門」「流通」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

『大日経』第七巻と高野版の『不思議疏』のコピーを配布

参考書・参考資料等

関連する他の漢訳儀軌、チベット訳『大毘盧遮那現等覚所属供養儀軌』の和訳、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。後期から受講はできるが、前期の「真言密教講読演習D」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	真言密教講読演習K							学期	後期
副題	中院流三十三尊法の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-097	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法開書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次尊法の伝受を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。前期に引き続き講義を行う。

授業の到達目標

中院流の諸尊法（三十三尊法）を理解し修法できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーションと全体の概説
2. 弥勒
3. 五字文殊、八字文殊
4. 地藏
5. 愛染
6. 不動
7. 降三世
8. 軍荼利
9. 大威徳
10. 金剛夜叉
11. 烏枢沙摩
12. 法華
13. 光明真言
14. 毘沙門天
15. まとめと講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

中院三十三尊（珠数屋四郎兵衛）

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流について基本的な用語を説明できる。
- (B) 中院流三十三尊について基本的な用語とその意味を説明できる。
- (A) 中院流三十三尊について専門的な用語とその意味を説明できる。
- (S) 中院流三十三尊について密教史の専門知識を事相を中心として理解するとともに説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講義は伝授形式であるので僧服で受講する事。受講資格は已灌頂者に限る。

科目名	密教学演習B							学期	通年
副題	『冠注住心品略解』を読む。					授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M3-25-098	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

『冠注住心品略解』は、新安流の始祖とされる浄厳和尚の著作である。該当文献を講読することによって漢文文献の読み方を身につけあわせて『大日経』について基本的な理解が出来るように講義を進める。

授業の到達目標

漢文文献の読解力養成と密教の専門知識（特に『大日経』）の取得を目標とする。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 『冠注住心品略解』を読む。
3. 『冠注住心品略解』を読む。
4. 『冠注住心品略解』を読む。
5. 『冠注住心品略解』を読む。
6. 『冠注住心品略解』を読む。
7. 『冠注住心品略解』を読む。
8. 『冠注住心品略解』を読む。
9. 『冠注住心品略解』を読む。
10. 『冠注住心品略解』を読む。
11. 『冠注住心品略解』を読む。
12. 『冠注住心品略解』を読む。
13. 『冠注住心品略解』を読む。
14. 『冠注住心品略解』を読む。
15. テスト

【後期】

1. 前期のまとめと復習
2. 『冠注住心品略解』を読む。
3. 『冠注住心品略解』を読む。
4. 『冠注住心品略解』を読む。
5. 『冠注住心品略解』を読む。
6. 『冠注住心品略解』を読む。
7. 『冠注住心品略解』を読む。
8. 『冠注住心品略解』を読む。
9. 『冠注住心品略解』を読む。
10. 『冠注住心品略解』を読む。
11. 『冠注住心品略解』を読む。
12. 『冠注住心品略解』を読む。
13. 『冠注住心品略解』を読む。
14. 『冠注住心品略解』を読む。
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキストの予習をして専門用語について辞書を引き理解しておく事。(90分)、事後学習として句集をし知識を整理しておく事。(90分)

テキスト

『冠注住心品略解』（発行 高野山大学）各自でコピーの事。詳しくは授業で指示。

参考書・参考資料等

松長有慶『大日経住心品講讀』（大法輪閣）、山崎泰広『『大日経講伝』（春秋社）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（30%）、積極性（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文献の単語の意味を理解し説明できる。
- (B) 文献の文章の意味を理解し説明できる。
- (A) 文献を用いて自分の意見を発表できる。
- (S) 文献を用いて自分の意見を発表できそれが学実的に重要である。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式の講義なので毎回の授業でフィードバックを行う。

その他

卒業論文を作成する事が大きな目標なので日本密教で漢文文献を用いて作成しようとする人の受講を臨む。

科目名	密教学演習C						学期	通年	
副題	『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読む。				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-25-099	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解する。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 「犀の一角の経」を読んで解説
3. 「いやしい人の経」を読んで解説
4. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
5. 「なまぐさの経」を読んで解説
6. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
7. 「失の経」を読んで解説
8. 「コラム3 中道」を読んで解説
9. 「愛欲の経」を読んで解説
10. 「論争と議論の経」を読んで解説
11. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
12. 「コラム4 非我」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッタラー青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム5 縁起」を読んで解説

【後期】

1. 論文指導①
2. 論文指導②
3. 論文指導③
4. 学生による発表
5. 学生による発表
6. 学生による発表
7. 学生による発表
8. 学生による発表
9. 学生による発表
10. 学生による発表
11. 学生による発表
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 学生による発表
15. 学生による発表

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習(予習)として、1経を読んで問題点を探しておく。(180分以上) 事後学修(復習)として60分以上。論文指導については、4回生には随時アドヴァイスするが、3回生及に関しては、後期3回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を2回行う。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

学期末のレポート(100%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 古文の読解能力を身につけている。
- (A) 歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
- (S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	密教学演習D						学期	通年	
副題	歴史学的手法を用いて仏教・密教を研究する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-25-100	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

密教学科の学生の中で、主として歴史学を学びたい者を対象に演習を行う。歴史学的な研究方法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の作成を行う。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業の到達目標

歴史学的な視点でテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、歴史学的手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介
2. 研究課題への構想（各自の発表）
3. 研究論文の読み方（講義）
4. 歴史学の研究方法①（講義）
5. 歴史学の研究方法②（講義）
6. 先行研究の要約①（発表）
7. 先行研究の要約②（発表）
8. 先行研究の要約③（発表）
9. 先行研究の要約④（発表）
10. 先行研究の要約⑤（発表）
11. 先行研究の要約⑥（発表）
12. 先行研究の要約⑦（発表）
13. 先行研究の要約⑧（発表）
14. 先行研究の要約⑨（発表）
15. 参考文献等の作成について（講義）

【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について（講義）
3. 研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4. 研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5. 研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6. 研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7. 研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60分）、事後学修：報告者の関心テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90分）。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の研究方法を理解する。
 (B) 研究論文の内容を批判的に把握することができる。
 (A) 関係史料の語るところを正確に読み解くことができる。
 (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②各自が意欲的に研究課題に向き合い、プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。③歴史学の研究方法を身につけるため、仏教学講読演習Bを必ず履修すること。あわせて、博物館学芸員資格のための関係科目を履修することが望ましい。

科目名	密教学演習Ⅱ						学期	通年	
副題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M3-25-101	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

教理と実践が運動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乘仏教）とどのような関連性を有するののかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。

授業の到達目標

密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画

【前期】

1. 概要（前期の進め方等）
2. 学術論文とは？
3. 資料－1次資料と2次資料－
4. 先行研究を読む①－先行研究を探す－
5. 先行研究を読む②－研究書を読む－
6. 先行研究を読む③－学術論文を読む－
7. レジюмеを作ろう①－テーマの設定－
8. レジюмеを作ろう②－資料を探す－
9. レジюмеを作ろう③－レジюмеをまとめる－
10. レジюмеを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】

1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3. 論文のプロットを作成する②－1次資料を配置する－
4. 論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5. 1次資料を読む①－阿含經典－
6. 1次資料を読む②－大乘經典－
7. 1次資料を読む③－密教經典－
8. 1次資料を読む④－論書－
9. 1次資料を読む⑤－注釈書－
10. 1次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習(予習・復習)・時間

・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（120分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60分）

テキスト

（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』（38）、2006年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第3巻、春秋社、2012年。（後期）課題プリント。※コピーを配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

担当箇所での発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 先行研究を集め、内容を要約できる。
- (B) 先行研究に基づく独自課題を設定できる。
- (A) 独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
- (S) 独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他

・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。

科目名	密教学演習F						学期	通年	
副題	密教図像資料の研究				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M3-25-102	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

仏教では大乘仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乘仏教の延長線上に位置する密教では、大乘仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を顕わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察を加え検討する。

授業の到達目標

仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学び理解する。

授業計画

【前期】

1. 授業の進め方
2. 仏教尊格の基礎知識 (仏の基本知識)
3. 仏教尊格の基礎知識 (仏の展開)
4. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の基本知識)
5. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の展開)
6. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の基本知識)
7. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の種類)
8. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の展開)
9. 図像資料の講読 (明王図像資料)
10. 図像資料の講読 (明王図像資料)
11. 図像資料の講読 (明王図像資料)
12. 図像資料の講読 (明王図像資料)
13. 図像資料の講読 (明王図像資料)
14. 図像資料の講読 (明王図像資料)
15. 研究課題の設定

【後期】

1. 研究内容の中間報告①
2. 研究内容の中間報告②
3. 研究内容の中間報告③
4. 研究内容の中間報告④
5. 研究内容の中間報告⑤
6. 各研究テーマの演習発表①
7. 各研究テーマの演習発表②
8. 各研究テーマの演習発表③
9. 各研究テーマの演習発表④
10. 各研究テーマの演習発表⑤
11. 各研究テーマの演習発表⑥
12. 各研究テーマの演習発表⑦
13. 各研究テーマの演習発表⑧
14. 各研究テーマの演習発表⑨
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

図像資料の講読演習をするので授業に備えて事前に予習が必要となる。週約3時間。

テキスト

授業で随時配布する

参考書・参考資料等

①『大正新脩大藏経』「密教部、図像部」、②『The Indian Buddhist Iconography』

学生に対する評価

発表及び提出物(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原文を自分自身の解釈で発表できる。
 (B) 自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
 (A) 研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
 (S) 新知見を用いて論理的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

・それぞれの発表及び提出物で評価。・それぞれの発表を10点満点とする。・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。

科目名	密教学演習G							学期	通年
副題	—				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-25-103	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読む『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学 (DH) についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 『理趣広経』と『サマーヨーガタントラ』
4. 論文指導①
5. 『サマーヨーガタントラ』精読①
6. 『サマーヨーガタントラ』精読②
7. 『サマーヨーガタントラ』精読③
8. 論文指導②
9. 『サマーヨーガタントラ』精読④
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑤
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑥
12. 論文指導②
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑦
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑧
15. 論文指導④

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『サマーヨーガタントラ』精読⑨
3. 『サマーヨーガタントラ』精読⑩
4. 論文指導⑤
5. 『サマーヨーガタントラ』精読⑪
6. 『サマーヨーガタントラ』精読⑫
7. 『サマーヨーガタントラ』精読⑬
8. 論文指導⑥
9. 『サマーヨーガタントラ』精読⑭
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑮
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑯
12. 論文指導⑦
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑰
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑱
15. 論文指導⑧

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと (120 分)。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと (60 分)。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dhih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②「Sarvabuddhasamāyogaḍākinījālasamvara.」 In: Brill's Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表 (30%)、学期末レポート (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (B) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (C) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学 (DH) の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求める。

科目名	密教学演習K						学期	通年	
副題	日本文学研究法				授業方法	演習	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	M3-25-104	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文としてまとめることを目指す者を対象に演習を行う。日本文学の研究方法を学びながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文を構想する。3 年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4 年次生は卒業論文の完成を目指す。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図ってほしい。

授業の到達目標

日本文学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究方法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス (授業の進め方・自己紹介) / 国文学研究の領域
2. 伝記と年譜
3. 本文研究の諸相
4. 文学作品の論じ方
5. 登場人物の論じ方
6. 表現論の射程
7. 文学作品の周縁
8. 注釈という研究法
9. 国文学における思想と学問
10. 影響史研究の方法
11. 外国文学の受容と文芸理論
12. 実地研究のあり方
13. 国文学の学際的研究
14. 論文を書くための基礎
15. 論文の文体

【後期】

1. 夏期休暇中の成果確認
2. 卒業論文の構成と目次 (講義)
3. 研究テーマに基づく作品読解① (受講生による発表)
4. 研究テーマに基づく作品読解② (受講生による発表)
5. 研究テーマに基づく作品読解③ (受講生による発表)
6. 研究テーマに基づく作品読解④ (受講生による発表)
7. 研究テーマに基づく作品読解⑤ (受講生による発表)
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索 / 卒業論文作成の助言と指導②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回のテキストの該当ページ、または対象作品を読み (60 分)、事後学修として授業の内容をまとめ、自身の研究テーマについて検討し、深めておくこと (90 分)。

テキスト

島内裕子『国文学研究法』(放送大学教育振興会、2015 年)(書店で購入) その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜指定する。

参考書・参考資料等

国文学研究資料館編『古典籍研究ガイドナンス 王朝文学をよむために』(笠間書院、2012 年) その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度 (40%)、口頭発表 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の研究方法を理解している。
 (B) 研究論文の内容を把握し、批判的に検討することができている。
 (A) 対象とする作品について、何らかの新規性を提示することができている。
 (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、新規性のある自己の見解を論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

受講生各自に個別に対応する。

その他

日本文学の基礎的知識を必要とするため、原則として日本文学 I、II を履修した者を対象とする。日本文学史概説 I、II および日本文化特殊講義 A も受講することが望ましい。課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。

科目名	密教学演習M						学期	通年	
副題	卒業論文の作成				授業方法	演習	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	M4-25-105	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文としてまとめることを目指す者を対象に演習を行う。受講生が各自の研究テーマを定めて、卒業論文の完成を目指す。卒業論文の構成と書き方、先行研究の探し方や批判的検討、読解の方法を解説するとともに、討議によってそれぞれの研究テーマを深めていく。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図ってほしい。

授業の到達目標

日本文学的な視点でテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス／自己紹介・春期休暇中の成果確認
2. 卒業論文の構成と書き方①（講義）
3. 卒業論文の構成と書き方②（講義）
4. 先行研究の探し方（講義）
5. 先行研究の読み方（講義）
6. 学術論文を読む①（受講生による発表）
7. 学術論文を読む②（受講生による発表）
8. 学術論文を読む③（受講生による発表）
9. 学術論文を読む④（受講生による発表）
10. 先行研究の批判的検討①（受講生による発表）
11. 先行研究の批判的検討②（受講生による発表）
12. 先行研究の批判的検討③（受講生による発表）
13. 先行研究の批判的検討④（受講生による発表）
14. 卒業論文の構想①
15. 卒業論文の構想②

【後期】

1. 夏期休暇中の成果確認
2. 卒業論文の構成と目次（講義）
3. 研究テーマに基づく作品読解①（受講生による発表）
4. 研究テーマに基づく作品読解②（受講生による発表）
5. 研究テーマに基づく作品読解③（受講生による発表）
6. 研究テーマに基づく作品読解④（受講生による発表）
7. 研究テーマに基づく作品読解⑤（受講生による発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究テーマの模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究テーマの模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次のテーマに関する文献等を読み（60分）、事後学習として授業の内容をまとめ、自身の研究テーマについて検討し、深めておくこと（90分）。

テキスト

島内裕子『国文学研究法』（放送大学教育振興会、2015年）その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜指定する。

参考書・参考資料等

国文学研究資料館編『古典籍研究ガイド 王朝文学をよむために』（笠間書院、2012年）その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度（40%）、口頭発表（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の研究手法を理解している。
 (B) 研究論文の内容を把握し、批判的に検討することができている。
 (A) 対象とする作品について、何らかの新規性を提示することができている。
 (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、新規性のある自己の見解を論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

受講生各自に個別に対応する。

その他

日本文学の基礎的知識を必要とするため、原則として日本文学Ⅰ、Ⅱを履修した者を対象とする。日本文学史概説Ⅰ、Ⅱおよび日本文化特殊講義Aも受講することが望ましい。課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。

科目名	密教学演習N							学期	通年
副題	南山教学の研究—寿門—					授業方法	演習	担当者	北川真寛
ナンバリング	M3-25-106	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。その南山教学における宝門・寿門という2大学派の内、特に寿門の論義書である『杣保隠遁鈔』を中心に考察することで、弘法大師の思想がどのように理解・展開され、「宗学」として成立してきたのかを考察する。なお受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標

高野山の宗学を学ぶことを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されたのかについて学ぶとともに、それによって培われた方法論を基礎として論文を作成する。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス・卒業論文作成工程指導
2. 研究課題・題目の設定指導
3. 南山学道総論—宗学とは何か—
4. 南山学道 (1) —南山教学史概説—
5. 南山学道 (2) —法談論義—
6. 南山学道 (3) —宝門・寿門—
7. 先行研究の収集指導
8. 『杣保隠遁鈔』を読む (1) —大日経教主—
9. 『杣保隠遁鈔』を読む (2) —受講者発表—
10. 『杣保隠遁鈔』を読む (3) —受講者発表—
11. 『杣保隠遁鈔』を読む (4) —受講者発表—
12. 『杣保隠遁鈔』を読む (5) —受講者発表—
13. 『杣保隠遁鈔』を読む (6) —受講者発表—
14. 目次の設定指導
15. 参考文献表作成指導

【後期】

1. ガイダンス・卒業論文中間指導
2. 卒業論文中間報告 (1) —受講者発表—
3. 卒業論文中間報告 (2) —受講者発表—
4. 卒業論文中間報告 (3) —受講者発表—
5. 卒業論文中間報告 (4) —受講者発表—
6. 『杣保隠遁鈔』を読む (7) —受講者発表—
7. 『杣保隠遁鈔』を読む (8) —受講者発表—
8. 『杣保隠遁鈔』を読む (9) —受講者発表—
9. 『杣保隠遁鈔』を読む (10) —受講者発表—
10. 『杣保隠遁鈔』を読む (11) —受講者発表—
11. 卒業論文指導
12. 卒業論文指導
13. 卒業論文指導
14. 卒業論文指導
15. 卒業論文指導

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

・『杣保隠遁鈔』(『真言宗全書』巻20、続真言宗全書刊行会、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (50%)、ディスカッション等への参加の積極性 (30%)、期末レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
 (B) 論義に引用されている典拠を指摘し、専門用語を補足・説明すること (語註) ができる。
 (A) 論義の内容を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、論義の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・特に勧学会出仕者など、南山教学について深く学びたい者の受講を望む。・担当者を決めて、該当論義についての発表を行う。・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時失格とする。・発表時には、質疑応答やディスカッションを行うので、あらかじめ予習をしておくこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅠA							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-25-107	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する (30 分)。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること (60 分)。

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

学生に対する評価

最終レポート (60%)、授業内および授業外での課題 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことが実際にできる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。・デスクッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学基礎ゼミⅡA							学期	後期
副題	-					授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	N1-25-108	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

- 発表するには
- データの収集（1）データの種類を説明する
- データの収集（2）具体的な収集方法を説明する
- データの記録（1）メモ
- データの記録（2）写真
- データの記録（3）動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成（1）レジュメの書式
- レジュメの作成（2）分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成（1）パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成（2）発表のためのパワーポイント
- 発表の実践（1）課題に対する発表
- 発表の実践（2）意見を発表する発表
- 討論（1）課題に関する討論
- 討論（2）他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する（30分）。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること（60分）。

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

学生に対する評価

最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
- (B) 授業で説明したことが実際にできる。
- (A) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
- (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。・授業に出席することは当然であるが、大学4年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。・ディスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学基礎ゼミⅢA							学期	前期
副題	社会調査の基礎				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-26-109	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

専門課程に進級するためのステップとして、研究の基本的な手法を学ぶ。社会調査法を通して、文献検索や調査の仕方を実際に体験する。

授業の到達目標

社会調査の基礎・概要を理解する。

授業計画

1. 社会調査の目的と意義
2. 社会調査の歴史
3. 調査倫理
4. 量的調査と質的調査
5. 既存統計データ (1)
6. 既存統計データ (2)
7. 量的調査 (1) 質問紙調査の概要
8. 量的調査 (2) 統計処理の方法
9. 量的調査 (3) 質問紙調査の事例
10. 量的調査 (4) 質問紙調査の事例
11. 質的調査 (1) 質的調査の概要
12. 質的調査 (2) インタビュー調査の事例
13. 質的調査 (3) 観察法の事例
14. 質的調査 (4) ドキュメント分析の事例
15. 社会調査の可能性－実際の調査事例

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

プリントを配布する。

学生に対する評価

レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会調査の基礎的な用語について説明ができる。
- (B) 社会調査の各方法について説明ができる。
- (A) 社会調査の設計ができる。
- (S) 社会調査を実施できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

科目名	人間学基礎ゼミⅣA							学期	後期
副題	地域調査を行う				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-26-110	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

専門課程に進級するためのステップとして、研究の基本的な手法を学ぶ。高野山においてミニ地域調査を実際に体験する。

授業の到達目標

地域調査の理解した上、自分自身で調査ができるようになる。

授業計画

1. 地域調査の概要
2. 調査テーマを決める①
3. 調査テーマを決める②
4. 仮説を立てる
5. 調査を設計する
6. 調査の具体的な計画
7. 調査を実施する①
8. 調査を実施する②
9. 調査を実施する③
10. 調査を実施する④
11. 調査データの整理①
12. 調査データの整理②
13. 報告書の執筆①
14. 報告書の執筆②
15. 研究成果のプレゼンテーション

準備学習(予習・復習)・時間

調査法について予習復習を行うこと。(90分)

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価(50%) レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域調査法に関する知識がある。
- (B) 地域調査の設計ができる。
- (A) 計画に基づき調査を行うことができる。
- (S) 調査報告書を作成し、プレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

地域調査を行うので、毎回の出席が必要である。

科目名	心理学ⅠA/心の科学(別)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N1-10-111	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4. 感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8. 学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9. 学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10. 学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11. 言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12. 言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13. 言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子・森公美子(編著)『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇(編)『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考および脳生理学の理論から心のメカニズムを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、Google Classroomを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、学校やNP0での心理支援という実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	心理学ⅡA/心の科学(別)2							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N1-10-112	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。〈動因とホメオスタシス〉
3. 動機づけと情動について学ぶ。〈誘因動機づけ〉
4. 動機づけと情動について学ぶ。〈学習と動機づけ〉
5. 性格理論を学ぶ。〈特性論と類型論〉
6. 性格理論を学ぶ。〈アイゼンクの性格理論〉
7. 性格理論を学ぶ。〈ビッグファイブ理論〉
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈ピアジェの発達理論〉
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈フロイトの心理性発達理論〉
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈エリクソンのライフサイクル理論〉
11. 対人関係の心理学を学ぶ。〈集団の機能〉
12. 対人関係の心理学を学ぶ。〈意思決定〉
13. 対人関係の心理学を学ぶ。〈社会的手抜き・集団規範〉
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
 (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
 (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。
 (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、Google Classroomを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、学校やNPOでの心理支援という実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	社会学Ⅱ／社会学／社会保障A(別)							学期	前期
副題	家族の今昔				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-N1-113	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

家族という枠組みに注目しながら、現代家族と伝統家族を比較する。家族が現在置かれている状況を歴史的な経緯を視野に入れながら理解することを目指す。具体的には、家族をめぐるいくつかのトピックスを取り上げ講義を行う。

授業の到達目標

家族を中心とした現代の社会問題を歴史社会学の視点から検討し、相対化することを通して、大学教育が必要とされる基礎的な考え方を修得する。

授業計画

1. 「家族」は当たり前か?①
2. 「家族」は当たり前か?②
3. 人口と家族①現在
4. 人口と家族②過去
5. 結婚・離婚①現在
6. 結婚・離婚②過去
7. 子どもと家族①現在
8. 子どもと家族②過去
9. 老人と家族①現在
10. 老人と家族②過去
11. 先祖祭祀と家族①現在
12. 先祖祭祀と家族②過去
13. 労働と家族①現在
14. 労働と家族②過去
15. 家族を相対化する

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

西野理子・米村千代『よくわかる家族社会学』(ミネルヴァ書房、2019年)、森本一彦『先祖祭祀と家の確立』(ミネルヴァ書房、2006年)、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した基礎用語を知っている。
- (B) 授業で説明した家族事象を説明できる。
- (A) 授業で説明した家族事象を社会的に相対化して説明できる。
- (S) 授業で説明した家族事象をもとに自分の意見を言うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降は、基礎科目として人間学科の学生は全員必修であるので、必ず履修すること。・社会福祉主事任用資格の科目である。・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起っているのかを確認しておくこと。

科目名	社会福祉各論Ⅱ(地域福祉Ⅱ)／社会福祉論／地域福祉A(別)						学期	後期	
副題	－			授業方法	講義	担当者	城内龍玄		
ナンバリング	N1-11-114	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

テキストを活用した講義を中心にしながら地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援等）について理解を深める。地域福祉に関わる組織、団体および専門職の役割について学ぶ。地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携）の意義と方法の理解を深める。地域福祉の推進方法（福祉ニーズ、社会資源の活用、福祉サービスの評価等）の理解を深める。事例問題をグループワーク（演習）によって問題解決の方法をグループで検討する。その検討結果を口頭発表する。横断的に地域福祉を捉え理解を深めたい。実際の現場での声を聞いたり体験し、事例紹介と解説を行う予定である。

授業の到達目標

基礎的な地域福祉の概念と範囲や地域組織化（ネットワーク）とその活動の理解を深め、地域住民の一員として自らが主体的に地域福祉活動に参加できるように学びを深める。さらに、今後の地域福祉の動向に対して理解を深め、説明できるようにする。

授業計画

1. ガイダンス及び福祉、地域福祉の基本的な考え方を学ぶ
2. 地域福祉の理念と概念（地域での協働、地域自立生活支援等）を理解する
3. 地域福祉の日本と海外の発展の違いを学ぶ
4. 地域福祉の政策展開の種類を学ぶ
5. 地域福祉の推進方法について知る
6. 地域福祉の推進主体と推進方法 ①（ニーズ・キャッチ、組織化、民生委員・児童委員他）を知る
7. 地域福祉の推進主体と推進方法 ②（社会福祉施設、社会福祉協議会、NPO、生協、企業他）を学ぶ
8. 地域福祉における地方自治体の役割（社会福祉計画、地域福祉計画、地域包括支援センター、他）
9. 地域福祉における専門職の役割（1）（保健、医療等）について理解する
10. 地域福祉における専門職の役割（2）（保育所、貧困と子ども、児童館、子どもの居場所、その他）を知る
11. 地域福祉計画とその実際を知る
12. 地方自治団体や介護施設における実務（現場見学）を知る
13. 地域での見守りについてグループワーク（演習）で事例検討を行う
14. 多職種連携についてグループワーク（演習）で事例検討を行う
15. 地域福祉における人的資源の育成、災害支援について理解を深める

準備学習(予習・復習)・時間

次の授業の準備として事前に調べておく（計90分以上）グループワークの場合は事前に提供した課題に対して独自で検討し、その結果を次の授業でグループワークで検討して解決方法を発表する。実務（現場見学）の際にはレポートまたは感想文を提出するものとする。

テキスト

『新版よくわかる地域福祉』 上野谷加代子、松端克文、永田祐 編著（ミネルヴァ書房）2019年に加えて授業中に必要に応じて事例紹介等のプリントを配布する。あらかじめ上記テキストを書店で購入しておくこと。

参考書・参考資料等

①『ゼミナール地域福祉学（野口定久著）』、中央法規 ②『医療福祉総合ガイドブック 2020年度版』、医学書店

学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、発表（20%）、積極的な授業参加（30%）で評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域福祉に関する基礎的な概念を理解している。
 (B) 地域福祉に関する基礎的な概念と基礎的な内容を理解している。
 (A) 地域福祉に関する基礎的な概念と内容及び枠組みを理解している。
 (S) 地域福祉に関する基礎的な概念および専門的な内容及び枠組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

レポートまたは感想文、小テストを実施した際には、次の授業で解説を実施する予定である。

その他

グループワークを行う科目である。事例問題を解決するためにグループワークや演習、現場見学において積極的な意見参加をし、建設的な発言・発表をすることを期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業等で介護福祉コンサルタントとして介護施設の経営及び運営コンサルタント、地域福祉に関わる公共向けコンサルタントとして条例案の作成や地域包括支援センターの業務改善など、個人向けコンサルタントとして高齢者の介護、医療、生活保護等の困りごとの解決などを行った経験を活かし、学生に公共・個人目線の違いなどを知ることにより学生の職業適性や将来設計について考えてもらい、社会福祉に今後関わっていく上での基本知識を身につけて頂く様に講義する。

科目名	社会保障総論Ⅱ／社会保障論／社会保障B(別)							学期	前期
副題	－				授業方法	講義	担当者	城内龍玄	
ナンバリング	N1-N11-N15	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

社会保障制度がさまざまな要因で生活困難となった人々の生活を維持する制度の概念や役割を理解する。制度には生活保護制度、年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、失業保険制度があり、これらの基本的な特色と相違について理解を深める。ライフサイクルから見た社会保障についても理解を深める。実際に幾つかの事例紹介でグループワーク（演習）を行い、生活問題の解決に実践・活用が出来るよう知識や方法として社会保障の学びを深める。グループワークではその発表と解説にパワーポイントを積極的に活用する予定である。

授業の到達目標

我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、特に選別的・救貧の福祉から一般的福祉へ社会保障の動向を理解する。社会保障の意義、社会保障とは何かに関して学びを深めた上で、年金制度、公的扶助（生活保護、生活困窮）、医療保険、介護保険等の仕組みを理解することで、今後の社会保障制度の課題と動向を理解し、説明できるようにする。

授業計画

1. ガイダンス及び社会保障制度の基本的な考え方とその範囲を理解する
2. 社会保障の概念と理念、体系および、その費用と財源について理解する
3. 公的扶助と低所得者対策について理解する
4. 生活保護制度の仕組み（社会福祉事務所、生活保護施設等）を学ぶ
5. 年金保険制度の沿革・概要とその仕組みについて理解する
6. 年金保険制度の仕組み（国民年金、厚生年金、共済年金、老年年金、障害者年金等）を学ぶ
7. 医療保険制度の沿革と概要について理解を深める
8. 国民健康保険制度と後期高齢者医療制度について理解する
9. 介護保険制度の全体像と成年後見制度の概要について理解する
10. 介護認定と介護保険サービスと地域包括支援センターについて理解する
11. 介護保険制度をめぐる最近の動向について知る
12. 労働災害補償保険（労災保険）と雇用保険について学ぶ
13. 社会福祉サービスの仕組み（児童福祉、寡婦福祉、障害者福祉、高齢者福祉等）を学ぶ
14. 日本における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ
15. 欧米における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ

準備学習(予習・復習)・時間

事前に提供した事例課題を独自で検討（計 90 分以上）し、その結果を次の授業で演習あるいはグループワークで検討して解決方法を発表する。

テキスト

『社会保障（第2版）』 埋橋孝文・大塩まゆみ 編著 ミネルヴァ書房、2018年に加えて授業中に必要に応じて事例紹介等のプリントを配布する。あらかじめ上記テキストを書店で購入しておくこと。

参考書・参考資料等

①『社会福祉小六法 2021』、中央法規 ②『医療福祉総合ガイドブック 2020 年度版（編集 NPO 法人医療ソーシャルネットワーク研究会）』、医学書院

学生に対する評価

レポート・筆記試験（60%）、発表（10%）、積極的授業参加（30%）で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会保障に関する基礎的な概念を理解している。
- (B) 社会保障に関する基礎的な概念と体系を理解している。
- (A) 社会保障に関する基礎的な概念と体系及び仕組みを理解している。
- (S) 社会保障に関する基礎的な概念及び専門的な体系及び仕組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した際には、次の授業で解説を実施する

その他

グループワークを行う科目である。事例問題に対するグループワークや演習には積極的に参加し、建設的な発言・発表をすることを期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

企業等で介護福祉コンサルタントとして介護施設の経営及び運営コンサルタント、地域福祉に関わる公共向けコンサルタントとして条例案の作成や地域包括支援センターの業務改善など、個人向けコンサルタントとして高齢者の介護、医療、生活保護等の困りごとの解決などを行った経験を活かし、学生に公共・個人目線の違いなどを知ることにより学生の職業適性や将来設計について考えてもらい、社会福祉に今後関わっていく上での基本知識を身につけて頂く様に講義する。

科目名	キャリアカウンセリングⅠ-1/キャリアデザインⅠ						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N1-16-116	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

授業の到達目標

大学生生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。

授業計画

1. キャリアとは何かを考える
2. 大学生生活を考える①（大学生と高校生の違い・役割）
3. 大学生生活を考える②（これまでの歩みを整理する）
4. 大学生生活を考える③（学びの意味を考え目標を立てる）
5. 大学生生活を考える④（ボランティア活動）
6. コミュニケーション力をつける①（基礎づくり①）
7. コミュニケーション力をつける②（基礎づくり②）
8. コミュニケーション力をつける③（傾聴）
9. コミュニケーション力をつける④（伝える）
10. コミュニケーション力をつける⑤（プレゼンテーション）
11. コミュニケーション力をつける⑥（アンガーマネジメント）
12. コミュニケーション力をつける⑦（アサーション）
13. コミュニケーション力をつける⑧（ホスピタリティ）
14. コミュニケーション力をつける⑨（チーム・ビルディング）
15. 成果と課題を考える

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①平木典子『アサーション・トレーニング—さわやかな「自己表現」のために』2009（金子書房） ②大山雅嗣『コミュニケーションスキルワークブック 15講』2012（公益財団法人日本生産性本部） ③齊藤博・上本裕子『大学1年からのキャリアデザイン実践』2017（八千代出版） 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。
 (B) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。
 (A) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、自分の意見を分かりやすく表現できる。
 (S) グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(キャリアカウンセリングⅠ-2)/キャリアデザインⅡ						学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	N1-16-117	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。③グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける。

授業の到達目標

自己理解を深め、働くことの本質を理解し、就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。

授業計画

1. 自己理解とキャリアデザインについて考える
2. 自分らしさについて考える①（自分らしさとは）
3. 自分らしさについて考える②（性格）
4. 自分らしさについて考える③（興味）
5. 自分らしさについて考える④（価値観）
6. 職業興味の探索①（自己理解・適性のワーク）
7. 自分らしさについて考える⑤（自己概念）
8. キャリアデザインの理解
9. キャリアデザインに必要な考え方
10. キャリアデザインの意識
11. ワークキャリアとライフキャリア①
12. ワークキャリアとライフキャリア②
13. 就労をイメージする
14. 職業興味の探索②（自己理解・適性のグループワーク）
15. キャリアプランを作り実行する

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15講』2013(公益財団法人日本生産性本部) ②川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019(ミネルヴァ書房) ③池上彰『なぜ僕らは働くのか』2020(学研プラス) 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート(40%)、発表(30%)、授業への参加度・学習態度(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。
 (B) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
 (A) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。また、グループワークでわかりやすく他者に説明することができる。
 (S) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアカウンセリングⅡ-1/キャリアデザインⅢ						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N2-16-118	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

授業の到達目標

職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけにとどまらず、行動に繋げる。

授業計画

1. 人生設計とキャリアデザインを考える
2. 社会人の心構えと求められる能力を考える
3. 社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5. 社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6. 社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7. 社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8. 社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9. 社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10. 社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11. 社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12. 社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13. 社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14. 社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15. 人生100年時代に求められる能力を考える

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

山崎紅「社会人基礎力講座」(日経BP社)「書店で購入」

参考書・参考資料等

①村山昇『働き方の哲学』2018(ディスカバー・トゥエンティワン) ②井下千子『思考を鍛える大学の学び入門 第2版』2020(慶応義塾大学出版会) ③リンダ・グラットン・アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略』2016(東洋経済新報社) 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業への参加度・学習態度(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会人基礎力について理解している。
 (B) 社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
 (A) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてセルフワークができ、グループワークで議論できる。
 (S) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてプレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(キャリアカウンセリングⅡ-2)/キャリアデザインⅣ						学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	N2-16-119	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。② アセスメントツールを用いて自分の興味ある分野を考え自己理解を深める。③ キャリア形成の多様性を考える。

授業の到達目標

産業(業種)・職種・企業についての理解を深めるとともに、現代社会における多様な働き方の現状を理解する。

授業計画

1. 「社会人」と「働くこと」
2. 産業と職業を理解する
3. 職業との関わりを考える
4. 産業とは何かを理解する
5. 産業の多様性を知る
6. 役割分担について考える
7. 社会人インタビュー情報から学ぶ①
8. 社会人インタビュー情報から学ぶ②
9. 社会人インタビュー情報から学ぶ③
10. 社会人インタビュー情報から学ぶ④
11. 社会人インタビュー情報から学ぶ⑤
12. キャリアパスについて考える
13. キャリア形成と自己理解の深化
14. 多様なキャリア形成について考える
15. 今後の社会と生き方考える

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019(ミネルヴァ書房) 教員作成の資料

参考書・参考資料等

①『会社四季報業界地図 2022』2021(東洋経済新報社) ②田宮寛之『みんなが知らない超優良企業：新しいニッポンの業界地図』(講談社新書) 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート(60%)、授業への参加度・学習態度(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 職業や産業に関する基礎的事項を理解している。
- (B) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
- (A) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
- (S) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、プレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアカウンセリングⅢ-1/キャリアデザインⅤ						学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	N3-16-120	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

① 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境について考える。② 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。③ 演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標

労働法や働き方改革が必要とされる労働者を取り巻く問題を理解し、望ましい職場環境のあり方を主体的に考えていくために必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画

1. 労働市場について知る
2. 多様な働き方を考える
3. 労働関係の法律・制度①（契約と労働条件）
4. 労働関係の法律・制度②（福利厚生と社会保険）
5. 労働関係の法律・制度③（健康に働く）
6. 労働関係の法律・制度④（働きつけやすさとは）
7. ワークライフバランス
8. メンタルヘルスとストレスマネジメント
9. 職業生活における様々な問題を考える
10. 社会の変化とライフプラン
11. インターンシップを考える①（必要性、目標）
12. インターンシップを考える②（ビジネスマナーとは何か）
13. インターンシップを考える③（ビジネスにおけるコミュニケーション法）
14. インターンシップを考える④（非対面的なコミュニケーションのあり方）
15. インターンシップを考える⑤（人間関係のあり方）

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①『ポケット労働法 2021』2021（東京都産業労働局）②『ワークで学ぶインターンシップリテラシー：新編』2016（モリモト印刷）他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストの内容及び社会人基礎力についての基礎的事項を理解している。
 (B) テキストの内容及び社会人基礎力を理解している。
 (A) テキストの内容を理解し、社会人基礎力に必要な能力を説明できている。
 (S) テキストの内容を理解し、社会人基礎力を理解した上、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目(キャリアカウンセリングⅢ-2)/キャリアデザインⅦ						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	N3-16-121	実務経験の有無	有	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①自己分析を進めるとともに、多様なキャリア形成の可能性を知る。社会を多角的に見る視点を身につける。②演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標

自己の能力を確認し、社会人基礎力を養成する。大学卒業後の「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画

1. インターンシップの経験を整理する
2. キャリア選択における基準を考える
3. 職業人の行動特性を考える
4. キャリア形成に必要な能力を考える
5. キャリア形成のための基本情報を考える
6. キャリアプランを意識した自己分析を行う①（興味）
7. キャリアプランを意識した自己分析を行う②（価値観）
8. キャリアプランを意識した自己分析を行う③（能力）
9. 社会人基礎力について考える①（環境と社会性）
10. 社会人基礎力について考える②（学びを生かす）
11. 社会人基礎力を体験する①（論理的レポートの作成）
12. 社会人基礎力を体験する②（プレゼンテーションの基礎知識）
13. 社会人基礎力を体験する③（プレゼンテーションの実践）
14. 社会人基礎力を体験する④（グループディスカッションの基礎知識）
15. 社会人基礎力を体験する⑤（グループディスカッションの実践）

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①中野美香『大学生からのプレゼンテーション入門』2012(ナカニシヤ出版) ②中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門』2018(ナカニシヤ出版) 他は授業中に紹介する

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業への参加度・学習態度(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会人に必要な能力を理解している。
 (B) 社会人に必要な能力を理解し、書類作成・演習について基本動作ができる。
 (A) 社会人に必要な能力を説明でき、書類作成・演習について基本動作がスムーズにできる。
 (S) 社会人に必要な能力を身につけ、書類作成・演習についてアピール性の高い基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリア研修							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	就職担当	
ナンバリング	G2-16-122	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

大学が指定する南大阪地域大学コンソーシアムなどのキャリア研修を受講し、担当大学から単位認定を受ける。

授業の到達目標

研修を体験することによって、職業意識を涵養する。

授業計画

1. 事前指導
2. キャリア研修①
3. キャリア研修②
4. キャリア研修③
5. キャリア研修④
6. キャリア研修⑤
7. キャリア研修⑥
8. キャリア研修⑦
9. キャリア研修⑧
10. キャリア研修⑨
11. キャリア研修⑩
12. キャリア研修⑪
13. キャリア研修⑫
14. キャリア研修⑬
15. 事後指導

準備学習(予習・復習)・時間

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (30%)、授業参加の積極性 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリア形成について理解している。
- (B) キャリア研修に積極的に参加できる。
- (A) キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
- (S) 授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

その他

・研修プログラム等については、7月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。・プログラムによっては参加費が必要である。

科目名	インターンシップ							学期	後期
副題	-					授業方法	実習	担当者	就職担当
ナンバリング	G2-16-123	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学が指定する高野町役場やわかやまインターンシップ、堺・南大阪インターンシップなどに参加して職業体験を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

インターンシップを体験することによって、職業意識を涵養し、各自のキャリア設計を具体化する。

授業計画

1. 事前指導
2. 職業体験①
3. 職業体験②
4. 職業体験③
5. 職業体験④
6. 職業体験⑤
7. 職業体験⑥
8. 職業体験⑦
9. 職業体験⑧
10. 職業体験⑨
11. 職業体験⑩
12. 職業体験⑪
13. 職業体験⑫
14. 職業体験⑬
15. 事後指導

準備学習(予習・復習)・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (30%)、授業参加の積極性 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリア形成について理解している。
- (B) キャリア研修に積極的に参加できる。
- (A) キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
- (S) 授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

・インターンシップについては、5月、6月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。・インターンシップは企業に受入れを依頼するので、最低限のビジネスマナーを心得ておく必要がある。・関連授業として、キャリアアカウンセリングⅢ-1、キャリアアカウンセリングⅢ-2を同時に受講すること。

科目名	企画科目(数的処理)／教養講義(数的処理)						学期	前期	
副題	論理的思考を感じよう				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	N1-15-124	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

人間が生きていく上で知っておきたい概念のひとつに数学の考え方があ。それらを駆使したものである。数的処理の基本は、小学校の算数の文章題にある。それらを基本からそして実践的になってくる論理思考を身につける。解くことは難しいことかもしれないが、その仕組みをみていく。

授業の到達目標

数的処理の感性づくり、数的処理といえど何よりも数学的判断により事がすすんだという実践感をもてることである。いろいろな志向性を感じられるようになる。

授業計画

1. 全てに対応できる思考力の必要性について (序章)
2. 教養的な思考力 (基礎) ～代数編 (理論編)
3. 教養的な思考力 (基礎) ～代数編 (実践編)
4. 教養的な思考力 (基礎) ～幾何編 (理論編)
5. 教養的な思考力 (基礎) ～幾何編 (実践編)
6. 教養的な思考力 (基礎) ～確率編
7. 実践的な思考力編
8. 日常的なものとの対比編 (理論との対比)
9. 日常的なものとの対比編 (実践理論のまとめ)
10. 論理編 (実践問題の読みとる力)
11. 論理編 (実践問題の解法力)
12. 論理編 (対処法)
13. 総括まとめ (思考力編)
14. 総括まとめ (実践力編)
15. 総括まとめ (終章)

準備学習(予習・復習)・時間

実践公務員試験から数学的なセンスが問われる問題が多いが、コツコツと積み重ねる努力が必要であるので、復習に時間をかけること (90分)

テキスト

随時授業内で提示配布していく。

参考書・参考資料等

展開していく中で、毎回参考資料は提示するが、その都度参考書は提示していく。

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (30%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) すべて一般的に求める姿勢を感じられること
- (B) 論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢を感じられること。
- (A) 論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、質問形式の課題についてのフィードバックは行う。その方法は、授業中に指示を行うことにする

その他

数的推理から連想するものは、どういものでしょうか？SPI問題からよく聞く単語でもあるが、この機会に論理性を推理してもらいたいと考えている。基本的には、毎回問題提示する中で解けることで評価を決めていくが、一概にそうとは限らず理解度の評価になる。数学的な問題だが、単に解ければいいということではない。そこに注意してほしい。楽しさが常にある講座にしていきたいので、この講座では思考の表現力が必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校での教員としての経験を通して、より分かりやすい実践内容に工夫をして問題に対する意識に関心を植え付けるようにしていく。

科目名	企画科目(自然科学)／教養講義(自然科学)						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	N1-26-125	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

自然科学という漠然とした講義内容であるが、それぞれの分野に分けて行っていく。学ぶひとつの目的に社会現象についての意思決定があげられるが社会に關係する自然科学の現象について様々な角度からの総合的な意見をもつことの重要性を取り上げ理解する。

授業の到達目標

物理的な現象・数学的な思考力を考えたとき、科学に関する社会問題に対し意思決定や科学の重要な発見を自分自身の中に発見し、人間の喜びをみつけられることが望まれる。自然科学の仕組みをこの講座を通して認識する。

授業計画

1. 全てに対応できる知力について (序章)
2. 教養的な物理 (基礎)
3. 教養的な科学 (基礎)
4. 教養的な数学 (基礎)
5. 物理・数学の融合性について (数学的観点から)
6. 物理・数学の融合性について (物理的な観点から)
7. 物理・数学の融合性を整理分析
8. 科学的な実践問題
9. 化学的な実践問題
10. 地学的な実践問題
11. 日常での科学的方法について情報を収集
12. 日常での科学的方法について (データの分析)
13. 科学の総括的な捉え方について (数学的理論)
14. 科学の総括的な捉え方について (科学的理論)
15. 総括まとめ (終章)

準備学習(予習・復習)・時間

自然科学とは、かなりの分野的に広いものである中でのこの講座は、事実を知っていくことを重視していく。その中で調べ学習の大切さに重点を置いている復習時間に90分以上を必要とする

テキスト

毎回随時テキストを配布していくが、その都度必要と考えれば提示していく

参考書・参考資料等

この一冊とは限らず参考資料を紹介する。SPI問題を通して実践的な問題を提示する。

学生に対する評価

毎回実践問題を提示し解決度の積み重ねで評価ができる。思考方法を理解していくことが大きな評価に繋がる。レポート (30%)、発表 (30%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 思考方法を知る姿勢が感じられること。
- (B) 論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
- (A) 論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科学の理論は、自然界の普遍的な真理を表すとともに、有る科学者の創造力による芸術作品と云えるものが数多く存在する。その一つ一つを少しでも理解の域に混入していく努力をする。今たくさんの科学の事象で想定外が起ってきているというが、そうではないといえる部分がたくさん存在してきている。そういうところを自分の考え方もつことを大切にすることを大切にする重要性を解いていく。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校での教員としての経験を通して、自然科学一般について、数学も含めてなぜ?からあつそうなんですかね。というところをわかりやすく涵養する。

科目名	人間学概論Ⅱ／教養講義(人文科学)／企画科目(人文科学)							学期	後期
副題	－				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-26-126	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

歴史・地理・文学の基本について学ぶことによって、大学の基礎を理解する。

授業の到達目標

歴史・地理・文学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画

1. 日本史①原始～古代
2. 日本史②中世
3. 日本史③近世
4. 日本史④近代
5. 世界史①アジア史
6. 世界史②西洋古代史
7. 世界史③西洋中世史
8. 世界史④西洋近代史
9. 世界史⑤西洋現代史
10. 地理①地形と気候
11. 地理②農林水産業・鉱工業
12. 地理③世界の国々と人間
13. 文学日本・世界の文学作品
14. 思想西洋・日本の思想
15. 現代社会を生きるために

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

中学・高校で使用した日本史・世界史・地理・現代社会・文学史などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験 (70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の基礎用語を知っている。
 (B) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の事象を説明できる。
 (A) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の自分のことばで説明できる。
 (S) 授業で説明した歴史・地理などの人文科学の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやミニッツペーパーを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。・中学校、高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をしますので、復習をしておくこと。

科目名	人間学概論Ⅰ／教養講義(社会科学)／企画科目(社会科学)						学期	前期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N1-26-127	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

政治・経済の基本について講義をすることによって、大学の基礎を理解する。

授業の到達目標

社会科学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画

1. 政治①政治原理と政治制度
2. 政治②選挙制度
3. 政治③政党・圧力団体
4. 政治④行政
5. 政治⑤地方自治
6. 政治⑥国際連合・国際社会
7. 法律①法律概論
8. 法律②日本国憲法
9. 法律③民法・刑法・その他
10. 経済①需要・供給・市場
11. 経済②国民所得・経済政策
12. 経済③金融政策
13. 経済④財政・租税
14. 経済⑤貿易体制
15. 経済⑥経済史

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと(90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した現代社会や政治経済などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験(70%)、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した政治・経済の基礎用語を知っている。
 (B) 授業で説明した政治・経済の事象を説明できる。
 (A) 授業で説明した政治・経済の事象を自分のことばで説明できる。
 (S) 授業で説明した政治・経済の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の2019年度入学生以降の選択必修科目である。・公務員試験、教職試験、就職試験など的一般教養問題に対応するので、3、4回生も履修すること。・高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をしておくこと。

科目名	企画科目(社会調査)/人間学実習(社会調査)						学期	通年	
副題	社会調査士G科目				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-128	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山および周辺集落の地域について調査を実施する。まず地域調査の概要について説明するとともに、調査地域を実現し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。

授業の到達目標

地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

授業計画

【前期】

1. 地域調査の概要
2. テーマを設定する (1)
3. テーマの設定する (2)
4. 調査法の確認 (1) 質的調査法
5. 調査法の確認 (2) 量的調査法
6. 調査計画書の作成 (1)
7. 調査計画書の作成 (2)
8. 既存資料の収集 (1)
9. 既存資料の収集 (2)
10. 既存資料の収集 (3)
11. 既存資料の整理・分析
12. 観察調査の実施 (1)
13. 観察調査の実施 (2)
14. 観察調査の実施 (3)
15. 観察調査の整理

【後期】

1. インタビュー調査の実施 (1)
2. インタビュー調査の実施 (2)
3. インタビュー調査の実施 (3)
4. インタビュー調査のデータ整理・分析
5. 中間報告 (1)
6. 追加調査の実施 (1)
7. 追加調査の実施 (2)
8. 追加調査の実施 (3)
9. 中間報告 (2)
10. 調査報告書の作成 (1)
11. 調査報告書の作成 (2)
12. 調査報告書の作成 (3)
13. 調査報告書の作成 (4)
14. 受講生の報告 (1)
15. 調査報告書の修正

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

報告書 (50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テーマを選び、調査計画を立てることができる。
 (B) 調査計画に基づいて、調査ができる。
 (A) 調査に基づき、報告書を作成できる。
 (S) 学んだことをもとに、自身で調査ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・積極的に授業に参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。・社会調査士G科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目(高野文化圏論)/人間学専門講義(高野文化圏論)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-129	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について生活文化を中心に検討することによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の生活文化について理解し、説明できるようになる。

授業計画

1. 高野文化圏研究の意義
2. 高野文化圏をめぐる環境 (1)
3. 高野文化圏をめぐる環境 (2)
4. 景観の諸問題 (1)
5. 景観の諸問題 (2)
6. 生業 (1)
7. 生業 (2)
8. 生業 (3)
9. 交通・交易 (1)
10. 交通・交易 (2)
11. 交通・交易 (3)
12. 社会生活 (1)
13. 社会生活 (2)
14. 社会生活 (3)
15. 高野文化圏の生活文化の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験 (70%)、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード (30%) で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野文化圏の生活文化について基本的事項を説明できる。
 (B) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の生活文化について説明できる。
 (A) 高野文化圏の生活文化について自己の意見を述べることができる。
 (S) 高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目(カウンセリング論A)/人間学専門講義(カウンセリング論A)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-10-130	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る (クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る (精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る (ゲシュタルト療法)
7. 様々なカウンセリングを知る (ユング心理学)
8. 様々なカウンセリングを知る (認知行動療法)
9. 子どもへのカウンセリングの演習 (家族療法)
10. 保護者へのカウンセリングの演習 (マイクロカウンセリング)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習 (発達障害の基礎理論を中心に)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習 (トラウマを持つ人へのカウンセリング・SE)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習 (チャイルドマルトリートメントの方へのカウンセリング)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習 (ファミリーコンステレーションの技法の紹介)
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回の授業時に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

①河合隼雄著 『カウンセリングの実際問題』 誠信書房, 1970年 ②國分康孝 『カウンセリングの理論』 誠信書房, 1980年 ③國分康孝 『カウンセリングの技法』 誠信書房, 1979年 ④諸富祥彦 『カウンセリングとは何か』 誠信書房等, 2010年

学生に対する評価

課題(複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション・実習等の参加度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
 (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
 (A) カウンセリングの技法(最低3つ以上)と基礎知識について説明できる。
 (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング(activelarning)を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPトレーニング、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	企画科目(発達心理学A)/人間学専門講義(発達心理学A)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N2-10-131	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を理解する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考察する。

授業の到達目標

人間の発達の観点に基づいて総合的に人を理解でき、各発達段階での適切な援助方法を考えることができるようになる。

授業計画

1. 発達心理学とは
2. 遺伝と環境、及び、初期経験
3. 言語の発達について
4. 認知の発達について
5. 発達段階と発達課題（総論）
6. 乳児期の発達について
7. 幼児期の発達について
8. 児童期の発達について
9. 思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①
14. 発達障害とその支援②
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる(90分)。各授業終了後、フィードバック用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回の授業で提出する。

テキスト

随時 資料を提示する。

参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子『ベシック発達心理学』東京大学出版会, 2018年 無藤隆・田島信元・高橋恵子『発達心理学入門(1)』東京大学出版社, 2010年 無藤隆・田島信元・高橋恵子『発達心理学入門(2)』東京大学出版社, 2010年 渡辺弥生『まんがでわかる発達心理学』講談社, 2019

学生に対する評価

課題(複数) レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 人間の発達過程における重要語句を最低限の説明できる。
- (B) 人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明できる。
- (A) 人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明できる。
- (S) 発達の観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング(activelarning)を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、発達心理学を心理学、大脳生理学、身体心理学等の新しい視点から人間の発達を取り扱い、新しい視点から発達心理学の学びの場を提供する。出生前からの心理的影響からの身体的影響(逆の影響も含め)、生育の中でのトラウマなど様々なストレスの中で、レジリエンスを持った人間のすばらしさを伝える場としたい。

科目名	人間学特殊ゼミⅠA(悲嘆学)/人間学専門講義(悲嘆学A)/企画科目(悲嘆学A)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-03-132	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
 (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
 (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
 (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅡA(自殺学)/人間学専門講義(自殺学A)/企画科目(自殺学A)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-02-133	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①精神分析的視点
4. 自殺についての理論②認知論的視点
5. 自殺についての理論③対人関係論的視点
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自殺に関する基本的な知識を身につけている。
- (B) 自殺を志向する心理について理解している。
- (A) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
- (S) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	企画科目(地域連携)/人間学専門講義(地域連携)/地域福祉B(別)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N2-11-134	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行うことによって、地域を理解する。

授業の到達目標

高野山大学が立地する地域に関する理解し、説明できる。

授業計画

1. 地域社会から考える
2. 地方行政－高野町の事例
3. 高野山と産業 (1) ごま豆腐
4. 高野山と産業 (2) 織物
5. 高野山と産業 (3) 橋本と高野山
6. 高野山と産業 (4) 農業
7. 高野山を支える (1) 福祉
8. 高野山を支える (2) 経済
9. 高野山を支える (3) 地域ブランディング
10. 高野山を支える (4) 移住者
11. 参拝と観光
12. 地域と教育
13. 高野町の町並み (建築)
14. 地方自治
15. 地域社会の課題

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域社会に関する基本用語を説明できる。
- (B) 地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
- (A) 地域社会に対して自分の考えを提案できる。
- (S) 地域社会に対して実際に行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。・インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第1回目の授業に指示する。・意見を発表してもらおうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。

科目名	企画科目(地域産業論)/人間学専門講義(地域産業論)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木裕範	
ナンバリング	N2-11-135	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

2050年、30年後のあなたの自画像を想像したことはありませんか。日本社会は確実に変わっている。縮小社会、格差社会、重負担社会、だれもが無縁ではられない。そのとき、あなたは50歳代初め、「社会の中堅」と見なされる年代だが、あなたに居場所は？「なるようにはならない」。求められるのは、時代に適応した経済、暮らしをつくり上げていくことである。そのためのひとつの方法が、自らが拠って立つ場所としての地域を耕すことである。本授業は「地域産業」を通して、日本経済が抱える産業構造の「強味」と「弱み」、そのことがもたらす地方の諸課題を取り上げ、「経済」「地域」「暮らし」についての基礎知識を理解し社会的な事象にたいする関心・興味を抱くことができる存在をめざすことを目的とする。

授業の到達目標

経済学についてこれまで総合的なことはもちろん基礎についてもほとんど学ぶことなくきたが、この授業をとおして日本経済と社会の関係や仕組みを理解する「読解力」を身につけ、「現在」という時代を知り、生活に生かしていくことを学び説明できるようになる。

授業計画

1. 地域産業とは何か
2. 経済用語の基礎知識
3. 地域産業が映し出す日本の光と影
4. 企業が地域社会を創る ○○都市 ××ロード
5. ふるさとのモノづくりを考える
6. 衣食住と地域産業
7. 衣食住と地域産業
8. 地域産業から考える伝統と革新
9. 「民芸」を知っているか
10. グローバル社会と日本の食料自給率一食農の現場から考える
11. マグロが、サンマが消える日 誰が日本の食を守るのか
12. コロナ禍が焙り出した観光立国の危うさ
13. ふるさとの観光を考える
14. 地方から甦る SDGs と ESG
15. 「小さな経済」から発想する若い世代の可能性

準備学習(予習・復習)・時間

授業終了後に毎回授業のテーマに関わる小レポート(400字程度+キーワード)(計90分以上)を課すので、次回授業時に提出すること。

テキスト

授業担当者が各授業で配布する資料

参考書・参考資料等

授業で適宜指示をする。現時点での参考図書は『渋沢栄一・論語と算盤』『平成経済衰退の本質』(金子勝著 岩波新書)。

学生に対する評価

レポート(70%)、発表(20%)、授業参加の積極性(10%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本経済と地域産業の関係について覚えている。
 (B) 地域経済と地域産業の関係について、自分のふるさなどを事例に説明できる。
 (A) 地域産業の盛衰がもたらす日本経済・地域経済への影響について具体的なモデルを示して説明できる。
 (S) 地域産業の復活による地方再生、日本経済発展のための将来の産業のあり方について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次の授業時に返却する。定期試験は知識の理解、習得を確認するために最終授業で実施する。

その他

授業は担当教員の研究・調査を中心に進行する。受講にあたっては、出身地ならびに和歌山県の地域特性については簡単なレポートにまとめておくなど予備知識を得て臨んでほしい。レポートの提出がない場合は出席を認めない。

科目名	人間学実践演習(学外研修①)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-11-136	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

夏休みを中心として、3日間の高野山以外の地域（近畿地方）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業の到達目標

高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業計画

1. 事前指導
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

準備学習(予習・復習)・時間

学外研修の体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

学外研修場所によって資料を指示する。

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修の企画を立案できる。
- (B) 学外研修に積極的に参加できる。
- (A) 学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
- (S) 学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

履修人数の制限をし、人間学科の学生を優先する。希望者数によって選考を行う。学外研修先については、4月に告知する。夏休みの3日間の集中を原則とするが、状況によっては1日ずつ分散して実施する。

科目名	人間学実践演習(学外研修②)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-11-137	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

夏休みを中心として、3日間の高野山以外の地域（近畿地方以外）での実査を実施することによって、現実の地域社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業の到達目標

高野山以外の地域での実査を通じて、現実の社会の実態を理解するとともに、社会の現実の分析方法を身に付ける。

授業計画

1. 事前指導
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 事後指導

準備学習(予習・復習)・時間

学外研修の体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

学外研修場所によって資料を指示する。

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修の企画を立案できる。
- (B) 学外研修に積極的に参加できる。
- (A) 学外研修の体験から地域社会を客観的に説明できる。
- (S) 学外研修の体験を活かし、自ら地域調査を企画し、実査できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

履修人数の制限をし、人間学科の学生を優先する。希望者数によって選考を行う。学外研修先については、9月に告知する。状況によっては近畿地方内での実施となる可能性がある。春休みの3日間の集中を原則とするが、状況によっては1日ずつ分散して実施する。

科目名	人間学演習ⅠA／人間学演習ⅡA							学期	通年
副題	卒業論文				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	N3-25-138	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

授業の到達目標

卒業論文に作成を通して、企画力や表現力を身につける。

授業計画

【前期】

1. 卒業論文までの工程
2. 論題の設定・確認 (1)
3. 論題の設定・確認 (2)
4. 目次の作成・確認 (1)
5. 目次の作成・確認 (2)
6. データの整理・確認 (1)
7. データの整理・確認 (2)
8. 中間報告 (1)
9. 中間報告 (2)
10. 中間報告 (3)
11. 要旨・構成の検討 (1)
12. 要旨・構成の検討 (2)
13. データの検討 (1)
14. データの検討 (2)
15. 草稿の検討 (1)

【後期】

1. 中間報告 (4)
2. 中間報告 (5)
3. 中間報告 (6)
4. 要旨・構成の検討 (3)
5. 要旨・構成の検討 (4)
6. 草稿の検討 (2)
7. 草稿の検討 (3)
8. 草稿の検討 (4)
9. 最終報告 (1)
10. 最終報告 (2)
11. 最終報告 (3)
12. 口頭試問の検討 (1)
13. 口頭試問の検討 (2)
14. 口頭試問の検討 (3)
15. 卒業論文の成果と課題

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第2版』ミネルヴァ書房、2013年

学生に対する評価

レポート・課題 (50%)、発表など授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 卒業論文の作成方法が理解できている。
- (B) 卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
- (A) 作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
- (S) 論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・3、4回生合同授業のために、学年により進度の違いが生じるが、できるだけ同じペースで授業を進める。
 ・3、4回生合同授業のために、単位が不認定の場合には留年になるので気を付けること。
 ・デスクッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学演習ⅠF／人間学演習ⅡF						学期	通年	
副題	日本文学研究法				授業方法	演習	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	N3-25-139	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文としてまとめることを目指す者を対象に演習を行う。日本文学の研究方法を学びながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文を構想する。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の完成を目指す。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図ってほしい。

授業の到達目標

日本文学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究方法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス（授業の進め方・自己紹介）／国文学研究の領域
2. 伝記と年譜
3. 本文研究の諸相
4. 文学作品の論じ方
5. 登場人物の論じ方
6. 表現論の射程
7. 文学作品の周縁
8. 注釈という研究法
9. 国文学における思想と学問
10. 影響史研究の方法
11. 外国文学の受容と文芸理論
12. 実地研究のあり方
13. 国文学の学際的研究
14. 論文を書くための基礎
15. 論文の文体

【後期】

1. 夏期休暇中の成果確認
2. 卒業論文の構成と目次（講義）
3. 研究テーマに関する作品の読解①（受講生による発表）
4. 研究テーマに関する作品の読解②（受講生による発表）
5. 研究テーマに関する作品の読解③（受講生による発表）
6. 研究テーマに関する作品の読解④（受講生による発表）
7. 研究テーマに関する作品の読解⑤（受講生による発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究テーマの模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究テーマの模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回のテキストの該当ページ、または対象作品を読み（60分）、事後学習として授業の内容をまとめ、自身の研究テーマについて検討し、深めておくこと（90分）。

テキスト

島内裕子『国文学研究法』（放送大学教育振興会、2015年）（書店で購入） その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜指定する。

参考書・参考資料等

国文学研究資料館編『古典籍研究ガイドランス 王朝文学をよむために』（笠間書院、2012年） その他、受講生各自の研究テーマにしたがって、適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度（40%）、口頭発表（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の研究方法を理解している。
 (B) 研究論文の内容を把握し、批判的に検討することができている。
 (A) 対象とする作品について、何らかの新規性を提示することができている。
 (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、新規性のある自己の見解を論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

受講生各自に個別に対応する。

その他

日本文学の基礎的知識を必要とするため、原則として日本文学Ⅰ、Ⅱを履修した者を対象とする。日本文学史概説Ⅰ、Ⅱおよび本文化特殊講義Aも受講することが望ましい。課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅠB)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-140	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. 仏教とは、なんのためにあるのか。一般的な仏教のご紹介
3. 前世と来世の有無についての説明（生まれ変わる事）
4. 善業と悪業との結果についての説明
5. 仏陀の教に入門である三帰依についての説明
6. 仏法僧に帰依する時学ぶべきことについての説明
7. 十不善についての説明（身口意により不善）
8. 十不善の結果についての説明
9. 十善戒についての説明（身口意により善戒）
10. 六加行法についての説明
11. 七支分の中の第一の礼拝の支分と供養の支分についての説明
12. 第三懺悔の支分から第七の廻向までの支分についての説明
13. 十に縁起の説明（1）
14. 十に縁起の説明（2）
15. 学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
(B) 仏教の教えの概要を説明できる。
(A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
(S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅡB)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-141	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者(ゲシェー・ハランバ)である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. 四聖諦 (1) 苦諦についての説明
3. 四聖諦 (2) 集諦についての説明
4. 四聖諦 (3) 滅諦と道諦についての説明
5. 三十七道品 (2) 四念住と四正断などについての説明
6. 三十七道品 (2) 八正道についての説明
7. 菩薩トクメーサンボが著した『三十七偈の菩薩の実践』を読む (1) 煩惱の過失についての説明
8. 『三十七偈の菩薩実践』を読む (2) 慈悲の心についての説明
9. 『三十七偈の菩薩実践』を読む (3) 六波羅蜜についての説明
10. ツオンカバ大師が著した『ラムツォ ナムスム』を読む (1) 出離についての説明
11. 『ラムツォ ナムスム』を読む (2) 菩提心についての説明
12. 『ラムツォ ナムスム』を読む (3) 空の見解についての説明
13. 極楽へ生まれ変わる原因についての説明 (1)
14. 極楽へ生まれ変わる原因についての説明 (2)
15. 学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える (90分)。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする (90分)。

テキスト

教室で指示する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

授業参加の積極性 (60%)、習熟度 (40%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることを望ましい。

科目名	企画科目(仏画)／仏教芸術(別)						学期	通年	
副題	－				授業方法	実技	担当者	有松孝雄	
ナンバリング	G1-02-142	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

墨をすり筆をとって線を引き、仏の姿を描く。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。多様な尊像を知ること、仏教で展開される宇宙観についての理解を深める。

授業の到達目標

図像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めることができる。

授業計画

【前期】

1. 授業の概要についての説明（授業の進め方、道具の使い方、資料の読み方等を解説）
2. 基礎1 手の形、顔の線の練習（1）
3. 基礎2 手の形、顔の線の練習（2）
4. 基礎3 直線・円を描く
5. 基礎4 仏・菩薩の全体を描く（1）
6. 基礎5 仏・菩薩の全体を描く（2）
7. 基礎6 仏・菩薩の全体を描く（3）
8. 基礎7 仏・菩薩の全体を描く（4）
9. 基礎8 仏・菩薩の全体を描く（5）
10. 作品制作 白描の作品を描く（1）
11. 作品制作 白描の作品を描く（2）
12. 作品制作 紺地金泥の作品を描く（1）
13. 作品制作 紺地金泥の作品を描く（2）
14. 高野山霊宝館の見学
15. 総括（仏画・彩色画の実例作品の紹介 ビデオ上映）

【後期】

1. 表現法 淡彩色・ぼかし（1）（蓮）
2. 表現法 淡彩色・ぼかし（2）（蓮）
3. 表現法 淡彩色・ぼかし（3）（天女）
4. 表現法 淡彩色・ぼかし（4）（天女）
5. 表現法 淡彩色・ぼかし（5）（天女）
6. 表現法 淡彩色・ぼかし（6）（不動明王）
7. 表現法 淡彩色・ぼかし（7）（不動明王）
8. 表現法 淡彩色・ぼかし（8）（不動明王）
9. 表現法 淡彩色・ぼかし（9）（不動明王）
10. 表現法 繡繻彩色（1）（蓮弁）
11. 表現法 繡繻彩色（2）（蓮弁）
12. 表現法 繡繻彩色（3）（蓮弁）
13. 作品制作 彩色仏画（1）（弘法大師）
14. 作品制作 彩色仏画（2）（弘法大師）
15. 総括（国宝仏画・絵画の鑑賞 ビデオ上映）

準備学習(予習・復習)・時間

毎回配布する資料を読み、次の実習に活かすことができるようにする。（60分）

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。以下の教材は担当者が用意する：用紙、彩色筆、念紙、金泥、筆洗、雑巾、日本画絵具。

参考書・参考資料等

・有賀祥隆「仏画の鑑賞基礎知識」、至文堂、1991年（抜粋資料を毎回配布する） ・光森正士 岡田健「仏像彫刻の鑑賞基礎知識」、至文堂、1999年（抜粋資料を毎回配布する）

学生に対する評価

書写作品・毎回の授業時に制作する課題（70%）授業参加への積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解している。
- (B) 仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
- (A) 仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
- (S) 資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートには所感を添えて返却する。

その他

授業で必要な用具・資材は担当者が支給（貸与）する。受講生は年間を通して使用する面相筆1本を購入、用紙代の一部を負担する。墨・硯は各自が用意する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画の制作・修復に長年携わっている教員が、その経験を活かして指導する。受講生の経験に応じて個別に指導する。

科目名	企画科目(寺院運営入門)						学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	藤本善光
ナンバリング	G1-03-143	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他 I

授業の目的と概要

現在の寺院、特に高野山真言宗寺院の運営に関する基礎知識を学び、今後の寺院運営に実際に役立つ内容を金剛峯寺内局の役員の方々のお話も交えて学んでいきます。

授業の到達目標

寺院の運営の方法等について学び、自ら関係する寺院の護持発展に寄与できるようになる。

授業計画

1. 寺院の現在かかえる問題と課題
2. 寺院の僧侶の役割・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：今川泰伸執行長・宗務総長
3. 檀家と信者について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：津田哲哉執行・山林部長
4. 本山と末寺について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：岸本優宏内事長信徒局長
5. 高野山の塔頭寺院について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：加藤栄俊執行・法会部長
6. 寺院の施設について(文化財など)・ゲストスピーカー：大森照龍霊宝館長
7. 寺院と法律(宗教法人)について・・ゲストスピーカー：近藤本淳執行・総務部長
8. 寺院の行事について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：桐生俊雅執行・教学部長
9. 寺院の教育と福祉について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：立葉禪教学部次長
10. 寺院の情報発信について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：藪邦彦執行長公室長総長公室長
11. 寺院と会計(一般会計)について・・ゲストスピーカー：竹井成範執行・財務部長
12. 葬儀と霊園について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：高井知弘青巖寺副住職、高野山大霊園事務長
13. 寺院とNPOについて・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：後藤友栄教学部次長
14. 心の癒しの方法について・・・・・・・・・・ゲストスピーカー：根来秀行ハーバード大学医学部教授
15. 人権啓発について（現在の人権問題）

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の講義について大事なところを思い出し、疑問点や自分の意見をまとめる。

テキスト

各時間ごとに資料コピーを配布。

参考書・参考資料等

授業で適宜指示をする。

学生に対する評価

出席率、授業態度を見る、発言内容を考慮。レポート提出。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
 (B) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
 (A) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
 (S) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成しPR出来る。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い啓発させ、ICT(遠隔授業)を活用することにより、学生個別対応を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

実績をベースに寺院が抱えている問題点、課題点を明確にし、将来の寺院の使命、役割を具体的に果たせるよう学生に十分問題意識と解決方法を教える。

科目名	企画科目(詠歌上級)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	辻・西山・本間	
ナンバリング	G1-01-144	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

初級御詠歌の続きとして、学び足りなかった御詠歌の理論や歴史とお唱えの技術の向上を目的とする。
 ①流祖が曼荼羅の成身会に御詠歌の基礎を感じた事を深く考え研鑽を深める。②初級御詠歌で学ぶ事ができなかった歌謡法や技術的な唱え方を学ぶ。

授業の到達目標

多くの曲目を研鑽すると共に、お唱えする技術や楽理理論・指導法等より多くの知識を習得研鑽し、将来の指導者養成者としての知識を深める。

授業計画

【前期】

【後期】

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. オリエンテーション。(使用する書籍、教具等を説明) | 1. 前期履修曲総括復習 |
| 2. 相互供養和讃・金剛和讃(流祖) | 2. 金剛(流祖) |
| 3. 宗教音楽・布教音楽活動と実践 | 3. 影向(流祖) |
| 4. 歌謡技法・梵音(流祖) | 4. 楽理・宗教音楽。布教活動と実践 |
| 5. 歌謡技法・梵音(流祖) | 5. 三宝和讃(二部合唱) |
| 6. 誕生和讃 | 6. 三宝和讃(二部合唱) |
| 7. 楽理・宗教音楽 | 7. 宗教音楽 |
| 8. 梵音・所作全般 | 8. 個人発表 |
| 9. 光明真言和讃 | 9. 光明 |
| 10. 個人発表 | 10. 光明・所作全般 |
| 11. 楽理・宗教音楽 | 11. 三昧(流祖) |
| 12. 光明真言和讃 | 12. 宗教音楽 |
| 13. 影向(流祖) | 13. 相互供養和讃(歌謡法入り) |
| 14. 金剛(流祖) | 14. 後期テスト |
| 15. 前期テスト・前期曲復習 | 15. テスト講評 |

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。(60分)

テキスト

オリエンテーション時に購入する書籍・教具等の説明をする。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価

前期実技発表(40%)、後期実技発表(40%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 上級で研鑽した曲を、他の人と一緒にお唱えすることができる。
 (B) 一人で数曲の御詠歌を安定してお唱えすることができる。
 (A) 教具を使って安定してお唱えすることができる。楽理について理解ができています。
 (S) 多くの曲目を教具を使って安定してお唱えができる。楽理について理解ができています。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

大学の「初級御詠歌」を2年間以上研鑽したことがある、または同等の経験者の受講が望ましい。受講合格した年月により詠階を授与する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	企画科目(高野山国際観光入門)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	松山典子	
ナンバリング	G1-07-145	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

2004年の世界遺産登録以降、高野山は外国人の訪問が急増し、今や世界的に注目される場所となった。長い歴史と伝統に支えられ独特な文化を今に伝える高野山の魅力をグローバルな視点で捉え、異文化の人にも分かりやすく伝える方法を学ぶ。ガイドの役割について学ぶ。自ら考え、工夫するガイドのあり方を学ぶ。実践で活用できる英会話力を身につける。英語ベースの授業。

授業の到達目標

実践的な英会話力を習得し、高野山で出会う外国人と円滑なコミュニケーションが取れる。高野山の道案内・高野山の概要・伽藍・行事などについて英語で分かりやすく説明できる。

授業計画

1. オリエンテーション：授業方法の説明。高野山の現状を知る。ガイドの現状を知る。
2. 簡単で役立つ英語表現：基本的な会話表現とその活用。
3. ガイドと歩く高野山：英語ガイドを実際に体験。
4. 高野山ガイド①：高野山を英語で道案内。
5. 高野山ガイド②：高野山の概要をまとめ、英語で分かりやすく説明。
6. 高野山ガイド③：伽藍の概要をまとめ、英語で分かりやすく説明。
7. 高野山ガイド④：伽藍の建造物についてまとめ、英語で分かりやすく説明。
8. 高野山ガイド⑤：実践のまとめ（道案内・概要・行事等、英語で分かりやすい高野山ガイドの実践）

準備学習(予習・復習)・時間

・授業で学んだ内容をしっかり復習し、次のプレゼンやロールプレイに備えること。 ・現場実習では、実習内容をレポートにまとめ、次回発表する。

テキスト

授業中にプリント教材配布。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介。またはプリント教材配布。

学生に対する評価

授業参加の積極性・態度（50%）、 実地テスト（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な英語表現を使って会話ができる。
- (B) 原稿を見ながら、高野山の英語ガイドができる。
- (A) 原稿を見ないで、高野山の英語ガイドができる。
- (S) 原稿を見ないで、高野山の英語ガイドが円滑にできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワークを取り入れ、実習を伴う科目である。積極的な授業参加が基本となる科目である。6月16日(木)を講義開始日とし、その後毎週木曜日に講義を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・英語英会話講師歴20年、和歌山県地域限定通訳案内士の講師歴10年の経験を活かし、30年に及ぶ高野山ガイドの経験と全国通訳案内士としての実体験に基づき授業内容を構成。無駄の無い実用的な授業を目指す。

科目名	企画科目(密教瞑想)						学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M1-01-146	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

授業の到達目標

阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

授業計画

1. 瞑想の目的と種類
2. 阿息観について
3. 阿息観の実習
4. 月輪観について
5. 月輪観について
6. 月輪観実習
7. 『大日経』と阿字
8. 阿字観について
9. 阿字観について
10. 阿字観実習
11. 自由討論
12. 阿字観の口訣
13. 阿字観の口訣
14. 阿字観実習
15. レポート作成と講評

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120分)

テキスト

①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』(春秋社) その他コピー配布

参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価

レポート (80%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
- (B) 月輪の意味について説明できる。
- (A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
- (S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他

楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。

科目名	企画科目(日本語留學生中級B)						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-147	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。同時に「読む、聞く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標

大学生生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画

【前期】

- 『日本語表現の教室』第1課 日本人のみょうじ・万葉集のうた (1)
- 『日本語表現の教室』第1課 復習 (語彙テスト)・作文 (比較による説明)
- 『日本語表現の教室』第2課 日本語の語彙・万葉の歌 (2)
- 『日本語表現の教室』第2課 復習 (語彙テスト)・作文 (列挙による説明)
- 『日本語表現の教室』第3課 日本語の音・万葉の歌 (3)
- 『日本語表現の教室』第3課 復習 (語彙テスト)・作文 (回想する)
- 『日本語表現の教室』第4課 日本語の漢字・万葉集のうた (4)
- 『日本語表現の教室』第4課 復習 (語彙テスト)・作文 (意見を述べる)
- JLPT 模試実施
- 模試FB / 総括
- 『日本語表現の教室』第5課 日本人の一生
- 『日本語表現の教室』第5課 復習 (語彙テスト)・作文 (年中行事・慣習の説明)
- 『日本語表現の教室』第6課 日本人と動物・万葉のうた (5)
- 『日本語表現の教室』第6課 復習 (語彙テスト)・作文 (生き生きとした描写)
- 『日本語表現の教室』第7課 日本の四季・風景との対話・万葉のうた (6)

【後期】

- 『日本語表現の教室』第7課 復習 (語彙テスト)・作文 (風景の描写)
- 『日本語表現の教室』第8課 日本の文化ー茶
- 『日本語表現の教室』第8課 復習 (語彙テスト)・作文 (歴史・文化の説明)
- 『日本語表現の教室』第9課 日本の「共通感覚」ー和魂洋才・万葉のうた
- 『日本語表現の教室』第9課 復習 (語彙テスト)・作文 (スピーチ1スピーチの導入)
- 『日本語表現の教室』第10課 女性として立つ『樋口一葉』
- 『日本語表現の教室』第10課 復習 (語彙テスト)・作文 (人物紹介1)
- JLPT 模試実施
- 模試FB / 総括
- 『日本語表現の教室』第11課 男女強調社会を目指して『津田梅子』
- 『日本語表現の教室』第11課 復習 (語彙テスト)・作文 (スピーチ2意見を述べる)
- 『日本語表現の教室』第12課 神々の国を愛した『ニッポンジ』小泉八雲
- 『日本語表現の教室』第12課 復習 (語彙テスト)・作文 (自己紹介・身内の紹介)
- 1年 (或いは後期) を振り返り、印象深い記事について各自意見発表
- 1年を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回資料を配布するので、「音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60分) 『新完全マスターN2 語彙』は、語彙の予習/復習として一部を使用予定。指定された箇所を学習してこよう。

テキスト

『日本語表現の教室』中級 語彙と表現と作文

参考書・参考資料等

『新完全マスターN2 文法』 必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価

期末試験 (40%)、小テスト (40%)、発表 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文型や表現を理解できている。
- (B) 学習した文型や表現を正確に使用できている。
- (A) 学習した文型や表現を応用できている。
- (S) 学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPTの準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。

科目名	企画科目(日本語留学生上級B)						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	G1-26-148	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を行い、「正確に伝えるための技術と表現」を獲得する。アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得も目指す。獲得した論理的記述能力を使用し、明確に自分の意見を読み手に伝える方法を身につける。

授業の到達目標

日本語のスピーチや記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には1000字～1400字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようにする。卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス / 自己紹介文を書く、発表。
2. きっかけを語ろう
3. なくした体験を語ろう
4. 町の様子を語ろう (1) 課題に沿って
5. 町の様子を語ろう (2) 自分の町について書いてみる
6. 動きの順序を説明しよう
7. スポーツのおもしろさを伝えよう
8. 言いかえて説明しよう
9. 比べて良さを伝えよう
10. ストーリーを語ろう (1) 課題に沿って
11. ストーリーを語ろう (2) 自国の有名な物語を書いてみる
12. 最近の出来事を語ろう (1) 課題に沿って
13. 最近の出来事を語ろう (2) 自分の身に起こったことを書いてみる
14. 健康について語ろう
15. 将来の夢を語ろう

【後期】

1. 好きなシーンを紹介しよう
2. 子どもたちに母国の行事を紹介しよう
3. 母国の行事を紹介する記事を書く
4. 困った状況を伝えて交渉しよう
5. 不満に対処しよう
6. 目上の人に注意を促そう
7. グラフや表を説明しよう
8. グラフ・表から情報を読み取る
9. ステレオタイプを打ち破ろう
10. 就職試験制度について説明しよう
11. 自国の制度について説明文を書いてみる
12. 働くことの意味について討論しよう
13. 環境問題について語ろう
14. 犯罪傾向から現代社会を語ろう
15. マスコミの功罪について討論しよう

準備学習(予習・復習)・時間

下読みをしていく事前に提示された資料は下読みをしてくること。(60分) 必ず宿題とされた文章は書いてくること。(60分)

テキスト

『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』 スリーエーネットワーク 『小論文への12のステップ』 スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (30%)、小テスト (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	チベット語A/チベット語(別)						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G2-07-149	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランバ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標

文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 30基字の1～10の読み方と発音
3. 30基字の11～20の読み方と発音
4. 30基字の21～30の読み方と発音
5. 簡単なあいさつ
6. 30の子音字母と母音の結合1～15の読み方と発音
7. 30の子音字母と母音の結合16～30の読み方と発音
8. 簡単な会話
9. 反対字の読み方と発音
10. ས་を頭とする有頭字
11. ལ་を頭とする有頭字
12. ལ་を頭とする有頭字
13. ལ་を足とする有足字
14. ས་を足とする有足字
15. ལ་を足とする有足字

【後期】

1. ལ་を足とする有足字
2. 前置字
3. 後置字
4. 再後置字
5. 文章の読み方と日常会話
6. 文章の読み方と日常会話（続）
7. 文章の読み方と日常会話（続）
8. 文章の読み方と日常会話（続）
9. 文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180分）

テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット [マンダラの国]』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
 (B) チベット語の簡単な挨拶ができる。
 (A) チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
 (S) チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

科目名	中国語Ⅰ						学期	通年	
副題	基礎を固め話せる語学の習得を				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-150	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

コロナ禍で訪日外国人人数は激減したが中国語の必要性は変わらない。今や中国語は国内でも使う時代となった。近年、断絶した密教を復興させようという機運の高まりと共に、中国語圏から高野山に学びに来る傾向も強まっている。実学として「使える語学」の修得を目指す。また、一党独裁という異質の価値観を有する隣国と如何に向き合うか、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆく。

授業の到達目標

「学問のための学問」ではなく、「聞く」「話す」に重点を置いた実社会で使える語学の習得を目指す。正確な発音を意識し、日常的な挨拶文から自己紹介、更には自分の日常について中国語で話せる程度の語学力の確立を目指す。外国語学習を通して自国の文化をより深く理解し多角的な視野を有する学生を育成したい。

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画説明。中国に関する一般常識に関するアンケート。中国語の特性について。
2. 中国語の声調記号である「四声」と、発音記号「ピンイン」について。母音の発音練習。
3. 「四声」と「ピンイン」について。子音の発音練習。
4. 中国特有の漢字である「簡体字」の基礎学習。
5. 電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
6. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
7. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
8. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
9. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
10. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
11. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
12. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
13. テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験（筆記）。講評

【後期】

1. 前期試験の反省と間違った箇所等の復習等。後期の授業計画説明。
2. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
3. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
4. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
5. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
6. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
7. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
8. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
9. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
10. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
11. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
12. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
13. テキストを中心とした授業。（第5～8課）
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（筆記）。講評

テキスト終えれば

準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを繰り返し聞き、自分でも音読することで、正しい発音を習得して頂きたい。

テキスト

喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は授業中随時紹介する。NHK ラジオ中国語講座テレビ中国語講座等の番組視聴を推奨する。

学生に対する評価

- ①試験（60％） ②受講姿勢（20％） ③既習項目の習熟度（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができる。簡体字を理解している。
 (B) 挨拶語や基礎的な構文を理解した上で正しい発音ができる。基本的な文法を理解している。
 (A) 基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や自分の一日などについて中国語で話せる。教科書程度の内容について、聞いて受け答えできる会話力がある。
 (S) 中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

開けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。今後日本国内でも中国語を話す機会は増えるだろう。間違えても構わないので、中国人を見かけたら積極的にかけるくらいの姿勢で臨んでもらいたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	中国語Ⅱ					学期	通年		
副題	中国語で中国語を学ぶことを目指す				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G1-07-151	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせて個別指導を丁寧に行う。一方で中国語の新聞を読めるような読解力も養いたい。コロナ禍ではあるが、近年大陸で密教を復興させようという機運の高まりと共に、中国語圏から高野山に学びに来る傾向も強まっている。現代社会のニーズに応え得る実学としての語学の習得を目指す。同時に、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題も時事を通して学生と共に考えたい。

授業の到達目標

多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材を育成したい。我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人を目指す。中国語作文発表や新聞購読等、実際に使える語学を習得するため、段階的に応用力を磨く。各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画説明。初級クラスで学んだ語学力のチェック。
2. 初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
4. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
5. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
6. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
7. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
8. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
9. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
10. 受講生の語学力に適した教材を配布。
11. 受講生の語学力に適した教材を配布。
12. 受講生の語学力に適した教材を配布。
13. 受講生の語学力に適した教材を配布。
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験（面接）。

【後期】

1. 前期試験の総復習。後期の授業計画説明。
2. 前期既習単元と基礎文法の総復習。
3. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
4. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
5. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
6. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
7. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
8. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
9. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
10. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
11. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
12. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
13. 受難の語学に達した教授法 学生による発表とそれに対する中国語の質疑応答
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（面接）。

準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを利用した発音訓練を推奨する。後期の学生による発表は、作文を入念に準備すること。

テキスト

初級クラスで用いた教科書の未修単元今年度は喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。辞書は毎回必携。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価

筆記試験と中国語による個別面接試験（70%）、授業中の発表やレポート等（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
- (B) 基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
- (A) 新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。
- (S) 中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し、学位取得した者も複数いる。井の中の蛙で終わらず、世界に目を向けてもらいたい。文系学科の中では語学の実用性は非常に高い。外国語がひとつ話せるだけで、世界は大きく広がり、職業の選択肢も広がる。多様な価値観を身につけることも語学習得のプラスアルファの側面である。学生諸君には積極的な授業参加を求めたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをかき、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	企画科目(法式上級)/法式上級/法式上級(別)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	加藤栄俊	
ナンバリング	M2-01-152	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

得度・授戒・灌頂などの儀式、理趣三昧などの法会について、その作法や声明を解説し実践することによって、真言宗の法会や儀式に対する理解を深めると同時に、それらに関わることができる能力を身につける。

授業の到達目標

・得度・授戒・灌頂などの作法や声明を身につける。 ・理趣三昧の諸役を務めることができる。 ・実際に法会や儀式などに出仕できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスと高野山の修学方法概説
2. 高野山の法会概説
3. 得度式の概説
4. 得度式の作法解説 (1) 一受者作法—
5. 得度式の作法解説 (2) 一教授作法—
6. 得度式の作法解説 (3) 一戒師作法—
7. 得度式の作法解説 (4) 一総括—
8. 得度式の作法実修
9. 授戒式の概説
10. 授戒式の作法解説 (1) 一受者作法—
11. 授戒式の作法解説 (2) 一授事作法—
12. 授戒式の作法解説 (3) 一小者作法—
13. 授戒式の作法解説 (4) 一声明—
14. 授戒式の作法解説 (5) 一総括—
15. 授戒式の作法実修

【後期】

1. 灌頂の概説
2. 灌頂の作法解説 (1) 一三昧耶戒作法—
3. 灌頂の作法解説 (2) 一入壇者作法—
4. 灌頂の作法解説 (3) 一教授作法—
5. 灌頂の作法解説 (4) 一声明—
6. 灌頂の作法解説 (5) 一総括—
7. 灌頂の作法実修
8. 理趣三昧法会解説 (1) 一職衆作法—
9. 理趣三昧法会解説 (2) 一承仕・会奉行作法—
10. 理趣三昧法会解説 (3) 一導師作法—
11. 理趣三昧法会解説 (4) 一総括—
12. 理趣三昧法会実修
13. 土砂加持解説
14. 大般若転読解説
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記された儀式について辞書などで意味を調べておくこと (30分)。 ・事後学習として、習った作法や声明を練習しておくこと (60分)。

テキスト

各種次第(『得度次第』や『褒瀧陀儀則』など)を購入、もしくはコピーを配布する。テキストの入手方法については要相談。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義に参加し実践できる。
- (B) 講義に積極的に参加し実践できる
- (A) 講義に積極的に参加し完璧できる。
- (S) 講義に積極的に参加し完璧できるだけでなく、さらにその意義を理解して実際の法会や儀式に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

実際にそれぞれの作法を学んで体験すること(アクティブ・ラーニング)を行い、真言宗の阿闍梨として活躍できるスペシャリスト養成を目指す講義である。なお受講は已灌頂者のみを対象者とし、真面目に講義に参加することを求める。さらに追悼法会や報恩日の法会に職衆として積極的に出仕することを求めると同時に、例えば結縁灌頂や常楽会等の山内行事にも、可能な限り参加すること。また講義の進捗状況によって内容を適宜変更することがあるので、担当者の指示に従うこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山の山内寺院住職であり、高野山真言宗の法会部長である教員が、僧侶として真言密教の法会や儀式について解説し、実修を指導する。

科目名	企画科目(声明上級)/声明上級/声明上級(別)						学期	通年		
副題	—					授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	G2-01-153	実務経験の有無	有	関連DP		1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

1. 初級の続きとして、初級で学べなかった種々の南山進流声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。
2. 導師作法に必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。
3. 四座講式の基本的な読み方を研鑽する。
4. 種々の表白・神文の基礎となる御影供と大般若の表白・神文を研鑽する。

授業の到達目標

基本となる各法会の表白・神分を修得する。伽陀の譜の作りを学ぶ。各法会の祭文を研鑽する。常楽会の講式の読み方を学ぶ。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション (テキスト解説)
2. 総礼 (伽陀) (1)
3. 総礼 (伽陀) (2)
4. 誕生会祭文 I
5. 誕生会祭文 II
6. 誕生会祭文 III
7. 云何唄 (1)
8. 云何唄 (2)
9. 出家唄
10. 常楽会祭文 (1)
11. 常楽会祭文 (2)
12. 御影供表白・神分 (1)
13. 御影供表白・神分 (2)
14. 前期試験と講評
15. 御影供表白・神分 (3)

【後期】

1. 講式の読み方 (初重) (1)
2. 講式の読み方 (初重) (2)
3. 講式の読み方 (二重) (1)
4. 講式の読み方 (二重) (2)
5. 講式の読み方 (三重) (1)
6. 講式の読み方 (三重) (2)
7. 大般若表白・神分 (1)
8. 大般若表白・神分 (2)
9. 大般若表白・神分 (3)
10. 理趣法表白・神分 (1)
11. 理趣法表白・神分 (2)
12. 理趣法表白・神分 (3)
13. 理趣経中曲 (後半)
14. 後期試験と講評
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して復習をしておくこと (90分)

テキスト

・「祭文集」—高野山出版社発行=各自高野山出版社で購入すること。(オリエンテーションで説明)・「理趣法」講義中に伝達する・御影供/大般若表白、神分(オリエンテーションで説明)・講式テキスト(オリエンテーションで説明)

参考書・参考資料等

宮野宥智編「南山進流声明類聚」

学生に対する評価

前期末テスト(40%)後期末テスト(40%)授業参加の積極性(20%)。試験は実技試験。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
- (B) 南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
- (A) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
- (S) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、声明上級としての学力を有する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講資格を下記の通り設ける 1. 本学「声明」初級を修得した者 2. 高野山専修学院及び尼僧学院を修了した者 3. 高野山高等学校宗教科を卒業した者 4. その他同等以上の研鑽を修了した者

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧学院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	梵字悉曇A／梵字悉曇(別)							学期	通年
副題	－				授業方法	実技	担当者	齋藤天譽	
ナンバリング	G1-01-154	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多 4 文字他
9. 別摩多 5 文字他
10. (ka) (kha) (ga) の 3 文字
11. (gha) (ṅa) の 2 文字
12. (ca) (cha) の 2 文字
13. (ja) (jha) (ṅa) の 3 文字
14. (ṭa) (ṭha) (ḍa) の 3 文字
15. (dha) (ṇa) の 2 文字

【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の 2 文字
2. " (da) (dha) の 2 文字
3. " (na) (pa) の 2 文字
4. " (pha) (ba) の 2 文字
5. " (bha) (ma) の 2 文字
6. " (ya) (ra) (la) の 3 文字
7. " (va) (ṣa) (ṣa) の 3 文字
8. " (sa) (ha) の 2 文字
9. " 重字の 2 文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入

参考書・参考資料等

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

学生に対する評価

授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を書くことが出来る。
 (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
 (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
 (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	体育実技						学期	通年	
副題	-				授業方法	実技	担当者	西脇仁	
ナンバリング	G1-17-155	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

【前期】個人的スポーツ（バドミントン）で身体を動かす楽しさと基本的技術の習得を目指す。【後期】集団的スポーツ（フットサル）で仲間作りと基本的技術の習得を目指す。＊感染症感染拡大防止対策、緊急事態宣言等社会情勢を受け、内容を一部変更する場合がございます。

授業の到達目標

個人的・集団的スポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、スポーツのすばらしさを体感し生涯スポーツに活かしていく。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス・身体づくり運動
2. バドミントンのルール、羽根つき遊び
3. 試しのゲーム①（多人数ゲーム）
4. 試しのゲーム②（個人ゲーム）
5. 基本的な技術（サーブ・ラリー）
6. 基本的な技術（スマッシュ・ロブ）
7. 基本的な技術（アンダー・オーバーハンドストローク）
8. 発展的な技術（フットワーク・総合）
9. 技術評価確認（基本的技術）
10. 応用ゲーム①（シングル）
11. 応用ゲーム②（シングル）
12. 応用ゲーム③（ダブルス）
13. 応用ゲーム④（ダブルス）
14. 総合技術評価確認
15. 総合技術評価確認

【後期】

1. ガイダンス・フットサルボール慣れ親しみ①
2. チーム作り・フットサルボール慣れ親しみ②
3. 試しのゲーム①
4. 試しのゲーム②
5. 基本的な技術①（インサイド・アウトサイドキック&コントロール）
6. 基本的な技術②（トキック・ヒールキック&コントロール）
7. 基本的な技術③（インフロントキック&コントロール）
8. 基本的な技術④（フットワーク・トラップ）
9. 技術評価確認（基本的技術）
10. 応用ゲーム①
11. 応用ゲーム②
12. 応用ゲーム③
13. 応用ゲーム④
14. 総合技術評価確認
15. 総合技術評価確認

準備学習(予習・復習)・時間

スポーツに対して興味・関心を持ち、視聴や観戦を積極的に行う。また感染症拡大防止対策に努め、スポーツ社会の必要性・多様性を理解する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

関心・意欲・態度（出席・服装等 60％） 実技・技能（20％） ・コミュニケーション・協調性（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ルールを理解し、関心・意欲をもって参加している。
 (B) 基本的な技術を身に付け、ルールを理解している。
 (A) ルールを理解し、仲間と協力し合いながら活動が出来る。
 (S) ルールを理解し仲間と協力し、技術・リーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められる。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りを行い、仲間と技術を確認しながら上達を目指す。個人、集団にかかわらず互いの活動をグループで支えていく。

その他

運動実施可能な服装、及び室内用シューズを必ず持参する。私服また作業衣それ以外にも運動に適さない服装での参加は、安全上の理由により受講不可とする。

科目名	情報処理					学期	通年		
副題	情報(データ)の分析の大切さを知る				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	G1-13-156	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理の方法を身につける。【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるようになる。数学的論理思考が必要。【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作する。

授業の到達目標

情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術を、データ分析を通して修得する。【前期】数学的論理を踏まえ基本的なoffice機能の利用をもってプレゼンテーションができるようになる。【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス(序章) 一年間の流れを説明しながらデータサイエンスの説明をする
2. Office機能(印刷-印刷)を基本使いこなす準備と機能の基礎確認
3. Wordで文書作成(1枚の文書作成)～企画書作成の例を参考に実践的に行っていく
4. Wordで文書作成(表を挿入しながらの文書作成)～文書類作成(表、表の挿入)を行っていく
5. Excelでの文書・表作成(基本のセル機能操作-関数)～関数の使い方の基本を身につける
6. Excelでの文書・表作成(機能を使いながらの実践的作成)～総合的にまとめる作業
7. 情報伝達について(スライドを用いながらの伝達)～パワーポイントを利用しながらの手順の確認
8. 情報伝達の理論～実践的な手法から講義式で理論の確認
9. 暗号化と情報管理～データ・サイエンスの重要なものである
10. データベースの理解と活用～実践を交えながら理解度を深める
11. オペレーティングシステムの理解～参考動画で確認作業を試みる
12. サーンとネットワークの構造(基本編)～動画を資料として確認作業をしていく
13. サーンとネットワークの構造(実践編)～今までのを参考に実践的なものを作成していく
14. プレゼンテーション-数時間で学んだ過程で作成・勧める
15. 総合機能の活用～すべての総括とプレゼンテーションの報告

【後期】

1. 問題解決手法一般について～毎回課題を提供しての解決法を考察
2. 問題の表し方と解決策について(同前)
3. データの分析から評価・解決手順～データ分析の手順の実践編
4. プログラム言語と論理について～一つのプログラムを提示しての確認作業
5. 構造プログラムの設計方法論
6. 構造プログラムの設計実践編～方法論から実践的作法を身につける
7. 分析論(基本データ分析方法)～各データからの分析方法を確認
8. 分析論(データの解読的な活用法)～具体的なデータからの解読方法を考えさせる
9. 情報活用論～動画参照からの方法論
10. 情報活用による実践論～動画を参考にしながら学んでいく
11. 情報メディアについて～動画を参考にしながら学んでいく
12. 情報デザインについて
13. 表現メディアの編集と表現について
14. 情報メディア～まとめのプレゼンテーションによる総括報告
15. 総括メディアのプレゼンテーション

準備学習(予習・復習)・時間

PCでの実践に向けての体験的な知識を必要とするので、復習の学習時間が必要である。PCの利用が当たり前前の社会である。それに関わる積み重ねが必要(90分)

テキスト

必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

参考書・参考資料等

毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(30%)、授業参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
- (B) 情報機能が理解を深めてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
- (A) 情報機能が技術的に把握して、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

課題を必要としていく。PCを使いこなせることがこの講座の必要性である。フィードバックに対することは毎回提示していく

その他

情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれからAIがより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術ももちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれを用いた表現力身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

高校教員としての経験を元に、社会に出た時の必要性を十分認識させていき、その活用が有意義に感じられるものにしていく。なお、ほとんどがまだまだPCを使いこなせてない現状であることを踏まえて最小限度の使用方法を理解させていく。

科目名	企画科目(華道)/伝統文化(華道)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実技	担当者	五味和樹	
ナンバリング	G1-26-157	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

授業の到達目標

【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。【後期】高野山の伝統行事(年中行事)に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 華道高野山についての解説
3. 供華様式から投入花の解説
4. 投入花から現代花の解説
5. 盛花の解説
6. 盛花の実技実習
7. 盛花の変化態の解説と実習
8. 投入花の解説と実習
9. 投入花の変化態の解説と実習
10. 格花の解説と実習
11. 格花の変化態の解説と実習
12. 自由花の解説と実習
13. 自由花のテーマのもとめ方と実習
14. 自由花のテーマを決めた実習
15. 格花寸胴での実習

【後期】

1. 真華の解説
2. 五段華の解説(内談義五段華)
3. 五段華の解説(勸学会五段華)
4. 真華実習(1)(基礎)
5. 真華実習(2)(変化態)
6. 二つ真の解説
7. 仏生会の華の解説
8. 白羽の矢竹の解説
9. 小品真華の解説と実習
10. 法印転衣式の華の解説
11. 合真の解説
12. 元三の花の解説
13. 万年青の解説と実技
14. 真華・格花の三態九姿の解説
15. 水仙の葉組

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の実習内容を振り返り、他の学生の作品も鑑賞し、自分の作品との相違や今後参考にしたいと思う点を確認し、今回の作品を手直しする。(60分)

テキスト

華道高野山教本

参考書・参考資料等

特に無し

学生に対する評価

実技定期試験(60%)、小試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
 (B) 作品に創意・工夫が見られる。
 (A) 高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
 (S) すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

実技実習時に花材費1,000円~1,200円必要である。

科目名	伝統文化実習(茶道)／伝統文化(茶道)						学期	通年	
副題	－				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	N1-26-158	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯(茶道)の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や初歩の点前(盆略点前)を修得する。くわえて茶の湯(茶道)の歴史・文化について知る。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をし、それらをとおして、茶の湯(茶道)の精神や美意識について考える。

授業の到達目標

茶の湯(茶道)における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前(盆略点前)ができるようになる。茶の湯(茶道)の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようにする。

授業計画

【前期】

1. 講義 茶道概説 茶事(茶会)のながれ
2. 実習 客の所作と心得1 お茶のいただき方(薄茶)
3. 実習 客の所作と心得2 席入りの仕方
4. 講義 茶の湯の文化1 茶道史 茶の湯以前
5. 実習 盆略点前1 割階古
6. 実習 盆略点前2 割階古
7. 講義 茶の湯の文化2 茶道史 草創期の茶の湯
8. 実習 盆略点前3 割階古
9. 実習 盆略点前4 割階古
10. 講義 茶の湯の文化3 茶道具について
11. 実習 盆略点前5 通し稽古
12. 実習 盆略点前6 通し稽古
13. 講義 茶の湯の文化4 茶書講読『南方録』『覚書』の巻から
14. 実習 盆略点前6 通し稽古
15. 実習 茶会体験 風炉の茶会(夏茶事)

【後期】

1. 講義 茶の湯の文化5 茶書講読『南方録』『滅後』の巻から
2. 実習 盆略点前の復習1 割階古
3. 実習 盆略点前の復習2 通し稽古
4. 実習 盆略点前の復習3 通し稽古
5. 講義 茶の湯の文化6 茶書講読『南方録』『墨引』の巻から
6. 実習 客の所作と心得3 お茶のいただき方(濃茶)
7. 実習 茶会体験 炉開きの茶会
8. 講義 茶の湯の文化7 茶道史 近代茶道
9. 実習 茶杵削り
10. 実習 茶会の企画と実践1
11. 実習 茶会の企画と実践2
12. 実習 茶会の企画と実践3
13. 講義 茶の湯の文化8 茶書講読『心の文』
14. 実習 茶会体験 新年の茶会(初釜)
15. 実習 七事式

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60分) 体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60分) 講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90分)

テキスト

学校茶道編集委員会編 『学校茶道(初級編)』 財団法人茶道文化振興財団発行 平成15年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等

①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社2007年 ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社2005年

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物(30%) 茶会の企画と実践(35%) 期末試験(35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
 (B) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
 (A) 客の所作と盆略点前を修得している
 (S) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

茶室に入れる人数に限りがあるため、受講生が多い場合は面談によって選考する。実習の費用(茶・菓子・炭)として、前期・後期、それぞれ3,500円必要である。

科目名	企画科目(宗教舞踊)／宗教芸能(宗教舞踊)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	高祖・辻	
ナンバリング	G1-26-159	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・道具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

授業の到達目標

宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。

授業計画

【前期】

1. 宗教舞踊を見つめる。本的理念・道具(持ち物)の扱い方の解説。
2. 「金剛舞踊和讃」実習(1) 身体の動かし方の基本を学ぶ。
3. 「金剛舞踊和讃」実習(2)
4. 「金剛舞踊和讃」実習(3) 仕上げ
5. 「地藏ぼさつ」実習(1)
6. 「地藏ぼさつ」実習(2)
7. 「地藏ぼさつ」実習(3)・歌詞の解説と仕上げ
8. 「密厳浄土誓願和讃」実習(1)
9. 「密厳浄土誓願和讃」実習(2)
10. 「密厳浄土誓願和讃」実習(3)
11. 「密厳浄土誓願和讃」実習(4) 歌詞の解説
12. 「密厳浄土誓願和讃」実習(5)
13. 「密厳浄土誓願和讃」実習(6) 前期試験に向けた実技試験の実技の復習するべき注意点の説明
14. 「密厳浄土誓願和讃」の仕上げ
15. 前期実技試験と講評

【後期】

1. 「光明真言和讃」実習(1)
2. 「光明真言和讃」実習(2)
3. 「光明真言和讃」実習(3) 歌詞の説明
4. 「光明真言和讃」実習(4)
5. 「光明真言和讃」実習(5)
6. 「光明真言和讃」実習(6) 仕上げ
7. 「密厳浄土誓願和讃」復習(1)
8. 「密厳浄土誓願和讃」復習(2)
9. 「密厳浄土誓願和讃」復習(3)
10. 「密厳浄土誓願和讃」復習(4)
11. 「密厳浄土誓願和讃」復習(5)
12. 「密厳浄土誓願和讃」復習(6)
13. 「密厳浄土誓願和讃」復習の仕上げ
14. 「密厳浄土誓願和讃」・登壇の仕方
15. 後期実技試験と講評・1年間の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだ実技の注意点を中心に練習をしておくこと(60分)

テキスト

高野山宗教舞踊会師範会監修教典(1曲ずつの教典)を大師教会で購入

参考書・参考資料等

高野山金剛流宗教舞踊基本教典 ・『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

学生に対する評価

授業中の技術の習熟度(30%)・努力度(30%)・実技試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本動作(合掌の形・立座の仕方・道具の扱い方)ができる。
- (B) 御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。
- (A) 御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。
- (S) 歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

課題に対するフィードバックの方法

前後期の試験の講評を行い注意・復習すべき点を指導する。

その他

単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山宗教舞踊会大師範で有り、教室・司部弟子指導の経験、本山宗教舞踊研究部員・巡回布教派遣講師の経験を持つ教員が、初心者に体の使い方のわかりやすい指導と曲の深い理解・実際の舞踊登壇への完成を指導する。

科目名	企画科目(歴史学)/歴史学						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-160	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

本講義の目的は二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係、金剛三昧院・一心院の創立について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程、佐々宗淳の史料探訪を通して、史料批判の発達、史料調査の意義について考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。②歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。③研究史の重要性、史料調査の意義について、理解できるようにする。

授業計画

1. 高野山町石をめぐる歴史と文化①—卒塔婆造立の功德と弘法大師信仰—
2. 高野山町石をめぐる歴史と文化②—中世前期の高野参詣—
3. 高野山町石をめぐる歴史と文化③—鎌倉時代の高野山と安達泰盛—
4. 高野山町石道を歩く
5. 北条政子と高野山①—源氏三代と高野山—
6. 北条政子と高野山②—貞徳と一心院—
7. 北条政子と高野山③—金剛三昧院の造立をめぐる—
8. 高野山金剛三昧院の見学（多宝塔・経蔵・客殿など）
9. 高野山金剛三昧院の調査（金剛三昧院文書）
10. 『大日本史』の史学史的意義
11. 佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
12. 佐々宗淳による高野山文書調査①—『大日本史編纂記録』を通して—
13. 佐々宗淳による高野山文書調査②—『南行雑録』の価値—
14. 高野山壺宝館の見学
15. 高野山西南院の調査（西南院聖教）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①上横手雅敏『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994年） ②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014年） ③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968年） ④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988年）

学生に対する評価

レポート（100%） ※3000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料探訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。
 (A) 高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料探訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。
 (S) 高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料探訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。

科目名	総合科目(書誌学)／書誌学							学期	前期
副題	—					授業方法	講義	担当者	坂口太郎
ナンバリング	G3-12-161	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本講義では、高野山大学図書館に収蔵される金剛三昧院伝来聖教を調査する。この作業を通して、古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、授業計画に示す調査進捗は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。②古典籍の奥書についての解説能力を習得し、その史料的价值について理解できるようになる。

授業計画

1. 金剛三昧院伝来聖教の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑤
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑥
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑦
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑧
10. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑨
11. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑩
12. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑪
13. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑫
14. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑬
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 調査対象の古典籍の要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』(空閑書院、1974年) ②藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』(至文堂、2002年) ③藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』(至文堂、2008年) ④藤本孝一『本を千年伝える』(朝日新聞出版、2012年)

学生に対する評価

調査対象の聖教奥書の解説レポート(100%) ※複数名の共同作業になる可能性もある。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典籍について基礎的な知識を習得している。
 (B) 古典籍の諸形態や奥書の史料的价值について理解し、系統的に説明できる。
 (A) 古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院伝来聖教についての知識を習得している。
 (S) 古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義は、古典籍の原本・写本を扱うため、細心の注意を必要とする。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。

学部生・聴講生・科目等履修生で本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目(古文書解説)」「企画科目(歴史学)」「総合科目(古文書学)」「日本文化特殊講義」のいずれかを受講し、単位を修得した人のみである。貴重資料を扱う観点から、上記の要件を満たさない履修を許可できないので、登録にあたっては注意すること。

原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ(シャープペンシル不可)。

科目名	総合科目(古文書学)／古文書学						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G3-12-162	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

本講義では、高野山大学図書館や高野山金剛三昧院に収蔵される聖教・文書を調査する。この作業を通して、古文書・古典籍の諸形態を学ぶとともに、調査方法についての専門的知識を習得する。また、文書はもとより、聖教の末尾に記載された奥書に注目し、その集録作業を行なう。なお、授業計画に示す調査進度は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①古文書・古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。②古文書・古典籍の奥書についての解説能力を習得し、その史料的价值について理解できるようになる。

授業計画

1. 金剛三昧院伝来聖教、金剛三昧院文書の意義
2. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査①
3. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査②
4. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査③
5. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査④
6. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑤
7. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑥
8. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑦
9. 金剛三昧院伝来聖教特別部の調査⑧
10. 金剛三昧院文書の調査①
11. 金剛三昧院文書の調査②
12. 金剛三昧院文書の調査③
13. 金剛三昧院文書の調査④
14. 金剛三昧院文書の調査⑤
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 調査対象の古文書・古典籍の要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』(笠間書院、1974年) ②藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』(至文堂、2002年) ③藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』(至文堂、2008年) ④藤本孝一『本を千年伝える』(朝日新聞出版、2012年)

学生に対する評価

調査対象の聖教奥書、または古文書の解説レポート(100%) ※複数名の共同作業になる可能性もある。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古文書・古典籍について基礎的な知識を習得している。
 (B) 古文書・古典籍の諸形態や奥書の史料的价值について理解し、系統的に説明できる。
 (A) 古文書・古典籍について系統的な説明ができるとともに、金剛三昧院伝来聖教・文書についての知識を習得している。
 (S) 古文書・古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義は、古典籍の原本・写本を扱うため、細心の注意を必要とする。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。

学部生・聴講生・科目等履修生で本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目(古文書解説)」「企画科目(歴史学)」「総合科目(古文書学)」「日本文化特殊講義」のいずれかを受講し、単位を修得した人のみである。貴重資料を扱う観点から、上記の要件を満たさない履修を許可できないので、登録にあたっては注意すること。

原本を調査するので、筆記用具は鉛筆のみ(シャープペンシル不可)。

科目名	企画科目(古文書解読A)／古文書解読A						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-163	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この講義では、近世の水戸藩における『大日本史』編纂に関する文書や史料を読む。本年度は、延宝9年(1681)の夏・秋に、吉弘元常・佐々宗淳らが京都・奈良で実施した史料探訪に関する『両京日記』を読み、古文書の解読能力を高めるとともに、近世の歴史学の発達についても学ぶ。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

①近世の古文書に関する読解能力を身につける。②古文書を通して、『大日本史』の編纂過程を説明できるようにになる。③歴史研究の営み、史料批判、史料調査について、基礎的な認識を得られるようになる。

授業計画

1. 古文書序説(古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など)
2. 河合正修『史館旧話』を読む①—徳川光圀と周囲の学者たち—
3. 河合正修『史館旧話』を読む②—徳川光圀と周囲の学者たち—
4. 『両京日記』を読む①
5. 『両京日記』を読む②
6. 『両京日記』を読む③
7. 『両京日記』を読む④
8. 『両京日記』を読む⑤
9. 『両京日記』を読む⑥
10. 『両京日記』を読む⑦
11. 『両京日記』を読む⑧
12. 『両京日記』を読む⑨
13. 『両京日記』を読む⑩
14. 高野山金剛三昧院の調査
15. 高野山金剛三昧院の調査

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(90分) 講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと(90分)

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、古文書の図版をプリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000～2002年)
- ②佐藤進一『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年)
- ③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年)
- ④但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、30%)、期末試験(70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。(例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。なお、本演習では、2回分の時間を史料調査にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	宗教学Ⅰ／世界の宗教(別)1							学期	前期
副題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-164	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストと一緒に読む形で授業を進める。

授業の到達目標

19世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画

1. ガイダンスの後、テキスト第1章「宗教学の立場と分野 1」を読む
2. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 2」を読む
3. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 3」を読む
4. テキスト第2章「宗教の原初形態 1」を読む
5. テキスト第2章「宗教の原初形態 2」を読む
6. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 1」を読む
7. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 2」を読む
8. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 3」を読む
9. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 4」を読む
10. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 5」を読む
11. テキスト第4章「宗教の諸類型 1」を読む
12. テキスト第4章「宗教の諸類型 2」を読む
13. テキスト第4章「宗教の諸類型 3, 4」を読む
14. テキスト第4章「宗教の諸類型 5, 6」を読む
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの次回の授業範囲を読んでおくこと(90分)。事後学修として、テキストとノートを読み直し、復習しておくこと(90分)。

テキスト

脇本平也『宗教学入門』講談社、1997年

参考書・参考資料等

ジョージ・フレイザー『図説 金枝篇』(上)(下)、講談社、2011年

学生に対する評価

発表(50%)、期末レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) テキストを要約し、批判的に検討することができる。
- (A) 宗教学の代表的理論を説明することができる。
- (S) 社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	宗教学Ⅱ／世界の宗教(別)2							学期	後期
副題	聖典と宗教学の名著を読む				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-165	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

諸宗教の聖典と宗教学の名著（いずれも教員が抄出本を用意する）を読むことを通して、様々な宗教のあり方をより深く学んでゆく。映像資料を用いて、宗教現象を立体的に理解できるようにする。

授業の到達目標

各種の宗教思想について基礎的な知識を身につけることを通して、様々な宗教に関心と理解を持つことができる。

授業計画

1. ガイダンス、仏典を読む（1）初期経典『スッタニパータ』
2. 仏典を読む（2）初期経典『スッタニパータ』
3. 仏典を読む（3）初期経典『ダンマパダ』
4. 仏典を読む（4）大乘経典『般若心経』
5. 仏典を読む（5）大乘経典『法華経』
6. 仏典を読む（6）大乘経典『無量寿経』
7. 聖書を読む（1）旧約聖書
8. 聖書を読む（2）旧約聖書（続）
9. 聖書を読む（3）新約聖書 1
10. 聖書を読む（4）新約聖書 2
11. コーラン（クルアーン）を読む（1）
12. コーランを読む（2）
13. 宗教学の名著を読む フレイザー『金枝篇』
14. 宗教学の名著を読む フレイザー『金枝篇』（続）
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90分）。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト

授業中にコピーを適宜配布する。

参考書・参考資料等

島菌進『宗教学の名著 30』筑摩書房、2008年

学生に対する評価

期末レポート（80%）、授業中の発言、発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) 諸宗教の代表的教説を説明することができる。
- (A) 諸宗教を比較しながら、それぞれの特徴を説明できる。
- (S) 宗教とその文化に関心を持ち、その角度から社会・文化現象を分析できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席に換算する。

科目名	宗教思想史ⅠA							学期	後期
副題	インドの宗教と思想					授業方法	講義	担当者	奥山直司
ナンバリング	G1-03-166	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画

1. インドが発する人類の思想的課題—M. K. ガンディーの思想を手懸かりに
2. インドの歴史地理、インダス文明
3. ヴェーダ
4. ウパニシャッド
5. 自由思想家たちとブッダの出現
6. ブッダの生涯とその教え
7. 仏教の発展：大乘仏教と密教
8. 叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9. 叙事詩②：『マハーバーラタ』
10. ヒンドゥー教の発展
11. 正統バラモン教哲学
12. ヒンドゥー教とイスラーム教
13. インドと日本
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. ガンディー再び

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと (90分)。事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること (90分)。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教 インドという謎』講談社、2004年。授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート (80%)、授業中の発言等 (20%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
- (B) インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
- (A) インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
- (S) インド宗教思想史に関して独自の知見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席に換算する。

科目名	宗教思想Ⅱ A						学期	後期	
副題	日本人のメンタリティのあゆみ				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-03-167	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の立場からその変遷を概観し、日本人のメンタリティの变化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

授業の到達目標

- ①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。
 ②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画

1. 宗教のはじまりをさぐるー人類はいつ「心」を持つようになったのかー
2. 日本人の基層信仰ー自然崇拝と八百万の神々ー
3. 仏教の伝来と受容ー僧尼令にみる国家と仏教ー
4. 大仏造立と神仏習合ー民衆への仏教のひろがりー
5. 「平安仏教」の成立ー「日本仏教」の成立ー
6. 来世への希求ー末法の到来ー
7. 現世をどう生きるかー憂世の克服ー
8. 東山文化の世界ー「わび・さび」の背景ー
9. 日本的伝統の源流ー総合と啓蒙の時代ー
10. 浮世へのまなざしー儒学による社会秩序の構築ー
11. 日本古典への回帰ー“復古”への潮流ー
12. 世直しの気運ー民衆宗教の勃興ー
13. 廃仏毀釈と文化財保護ー精神文化の喪失ー
14. 「総力戦体制」時代の宗教界ー「国家神道」体制の宗教ー
15. これからの日本人と宗教

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年） ②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年） ③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人のメンタリティの歴史の変遷について説明することができる。
 (B) 日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
 (A) 日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べることができる。
 (S) 日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べるすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。②履修者は、博物館学芸員資格の取得を目指すことが望ましい。

科目名	現代の人権／教養講義(人権論)／人権と福祉(別)						学期	後期
副題	統治を中心として				授業方法	講義	担当者	竹村和也
ナンバリング	N1-09-168	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきた。本講義は、まず憲法の定める基本的な統治の仕組みを、特に立法のプロセスを中心に概観し、その後、憲法上の権利及びその権利の現代的展開に焦点を当て、法的な側面から現代社会を理解する。

授業の到達目標

統治の基本的な仕組みを学び、現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解し、及び現在の法のあり方について批判的思考ができるようになる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 人権を守る仕組み①(国会と内閣の仕組み)
3. 人権を守る仕組み②(立法過程)
4. 人権を守る仕組み③(裁判所と裁判過程)
5. 憲法の制定過程
6. 憲法の基本原理
7. 国際的人権保障①(国家主権体制と国際人権)
8. 国際的人権保障②(国際的な人権保障の仕組み)
9. 憲法における人権総論規定
10. 医療における自己決定権(治療選択の権利・死ぬ権利)
11. 新たな医療技術とそれを用いる権利(子どもを産む権利)
12. 子どもを産む権利・生まない権利
13. 平等権と夫婦同氏原則
14. 表現の自由とヘイトスピーチ
15. 現代社会と社会権(労働権・生存権)

準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと・授業時に配布する印刷物(テキスト)を熟読すること(所要予定時間は60分)、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること(所要予定時間は180分)。

テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』(晃洋書房、第5版、2018年)、青井未帆『憲法を守るのは誰か』(幻冬舎ルネッサンス新書、2013年)、ディヴィッド・S・ロー、西川伸一訳『日本の最高裁を解剖する』(現代人文社、2013年)

学生に対する評価

定期試験(最終レポートを課した場合にはこのレポート)(80%)授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる場合
 (B) 内容を概ね理解したと思われる場合
 (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
 (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業はパワーポイントを利用して講義形式とするが、授業の中で議論を試みるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うとともに、学生諸君の関心により変更の可能性がある。期末筆記試験の形式やレポート課題は人により若干異なる。受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	宗教学Ⅰ／宗教の歴史(別)1							学期	前期
副題	－				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	G2-03-169	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教が歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 宗教の起源
3. 古代諸文明の宗教①－メソポタミアの宗教－
4. 古代諸文明の宗教②－古代エジプトの宗教－
5. ギリシャ・ローマの神話
6. ユダヤ教の歴史①－天地創造からエジプト脱出－
7. ユダヤ教の歴史②－王国の成立－
8. ユダヤ教の歴史③－バビロン虜囚－
9. キリスト教の歴史①－イエス・キリストの生涯－
10. キリスト教の歴史②－使徒たちの活動－
11. キリスト教の歴史③－ローマ帝国とキリスト教－
12. キリスト教の歴史④－東方教会・西方教会－
13. キリスト教の歴史⑤－十字軍・魔女裁判－
14. キリスト教の歴史⑥－宗教改革－
15. 講義のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60分）

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーズ著、筑摩書房） ・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21） ※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、授業時に課す小レポート（50％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教の歴史について大まかに理解している。
 (B) 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
 (A) 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	宗教史Ⅱ／宗教の歴史(別)2							学期	後期
副題	－				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	G2-03-170	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史をおさえた上で、現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、イスラム教、および現代社会における新宗教が、歴史的・思想的にどのような位置付くのかについて理解する。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. イスラム教の歴史①－ムハンマドの生涯－
3. イスラム教の歴史②－イスラム国家の誕生－
4. イスラム教の歴史③－イスラム各派の発生－
5. イスラム教の歴史④－復興主義と原理主義－
6. 現代宗教の諸相①－オウム真理教(1)－
7. 現代宗教の諸相②－オウム真理教(2)－
8. 現代宗教の諸相③－オウム真理教(3)－
9. 現代宗教の諸相④－幸福の科学(1)－
10. 現代宗教の諸相⑤－幸福の科学(2)－
11. 現代宗教の諸相⑥－幸福の科学(3)－
12. 現代宗教の諸相⑦－FSM 教－
13. 現代宗教の諸相⑧－エホバの証人－
14. 現代宗教の諸相⑨－現代宗教とオカルト－
15. 講義のまとめ定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる (60分)

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーズ著、筑摩書房） ・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー21） ※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、授業時に課す小レポート（50％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教の歴史について大まかに理解している。
 (B) 各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
 (A) 各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	哲学							学期	前期
副題	－				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G1-08-171	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

西洋・東洋の哲学史から、代表的な哲学者や思想・事項を学ぶ。難解なものにも向き合う姿勢を身に付ける。知的な快楽「?」「!」を体験する。人間とは何か、幸福とは何かについて考える。自分の人生、現実の問題解決に哲学を活用し、自ら哲学する。

授業の到達目標

知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

授業計画

1. フィヒテ
2. 韓非子
3. 行為論
4. 『呂氏春秋』
5. ハーマンとヘルダー
6. 朱子
7. メタ哲学
8. 『詩経』
9. ヘレニズム哲学
10. 『顔氏家訓』
11. 子どもの哲学
12. 董仲舒・災異説
13. デリダ
14. 到達度の確認
15. 後期到達度の総括

準備学習(予習・復習)・時間

テキストを音読する。(10分) 分からない単語を調べる。(10分) 理解できないことを事前書き出す。(10分) 質問事項を考える。(30分)

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019年 湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房、2022年

学生に対する評価

論述形式の期末試験(100%) 合格点に達しない場合、授業中の質問メモを勘案する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学方法論						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G2-03-172	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。

授業計画

1. 高野文化圏の信仰生活について
2. 年中行事（1）暦
3. 年中行事（2）正月を中心として
4. 年中行事（3）盆行事を中心として
5. 年中行事（4）双分性
6. 社寺の行事（1）寺院の行事
7. 社寺の行事（2）神社の行事
8. 社寺の行事（3）神仏習合
9. 人の一生（1）出産・成長
10. 人の一生（2）結婚
11. 人の一生（3）葬送
12. 高野山をめぐる信仰（1）修正会
13. 高野山をめぐる信仰（2）盂蘭盆会
14. 高野山をめぐる信仰（3）弘法大師信仰
15. 高野文化圏の信仰生活の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

プリントを配付する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 民俗宗教の基本用語を説明できる。
- (B) 民俗宗教の事象を説明できる。
- (A) 民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
- (S) 現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起きているのかを確認しておくこと。・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	国語学 I						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-05-173	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1. 言語と人間二重分節性、言語の機能（1）
2. 言語と人間二重分節性、言語の機能（2）
3. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（1）
6. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（2）
7. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（1）
8. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（2）
9. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）
10. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2）
11. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）
14. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（2）
15. 日本語の文字表記平仮名・片仮名、ローマ字

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った日本語学における要点の整理を行い、キーワードを覚える（30分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学20章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
 (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
 (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
 (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の終わりに質問と意見を提出、次回の授業のはじめにコメントとともにフィードバック。都度の課題に対して解を提示、不明点を説明。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G2-05-174	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（1）
4. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（2）
5. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8. 本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周囲論（1）
12. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周囲論（2）
13. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業での日本語学の要点を整理し、キーワードを覚える（30分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学20章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
 (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
 (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
 (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

都度の課題に対して解を提示、コメントとともにフィードバック。期末の試験に対して、解とコメントをフィードバック。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国文法 I						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-175	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく理解するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。本講義では、古典文法の正しい知識を習得し、古典作品を読解できるようになることを目指す。前期は主に、用言（述語になる品詞・動詞・形容詞・形容動詞）の活用とその種類、および助詞を中心に講義する。

授業の到達目標

古文（および漢文）を正しく解釈できるように、古典文法の正しい知識を得る。

授業計画

1. ガイダンス—なぜ古典文法を学ぶのか—
2. 文語文法と口語文法
3. 品詞の分類
4. 動詞の活用① 四段活用・上二段活用・下二段活用
5. 動詞の活用② 上二段活用・下二段活用
6. 動詞の活用③ 変格活用
7. 形容詞・形容動詞の活用・語幹用法
8. 用言の総合問題
9. 助詞① 格助詞
10. 助詞② 接続助詞
11. 助詞③ 副助詞
12. 助詞④ 係助詞・係り結び
13. 助詞⑤ 終助詞・間投助詞
14. 学習到達度の確認
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として今回の範囲の参考書を読み（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストに向けて準備しておくこと（復習90分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を使用する。

参考書・参考資料等

高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価

定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文法を学ぶ意義について理解し、基本的な文法事項の意味を理解している。
- (B) 用言の活用の種類についての基本的知識を習得している。
- (A) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得している。
- (S) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他

受講者については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	国文法Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-176	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく解釈するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。特に日本語は細かなニュアンスが助詞・助動詞に集中するため、助動詞の知識は大切である。本講義では、主に助動詞についての正しい理解を習得し、古典作品が読解できるようになることを目指す。また、古典では身分制が厳格なため、敬語についても基本的な事項の理解が必要となる。敬語を通して人物関係を理解し、より深く作品が読み取れるようになることを目指す。

授業の到達目標

助動詞の正しい知識と敬語の基本的な事項を理解する。

授業計画

1. ガイダンスー助動詞への招待ー
2. 助動詞① 「ず」「き」「けり」
3. 助動詞② 「つ」「ぬ」「たり」「り」
4. 助動詞③ 「る」「らる」「す」「さす」「しむ」
5. 助動詞④ 「む」「むず」「らむ」「けむ」「じ」
6. 助動詞⑤ 「べし」「まじ」
7. 助動詞⑥ 「たし」「まほし」「らし」「めり」「まし」
8. 助動詞⑦ 「なり」「たり」「なり」「ごとし」
9. まぎらわしい語の識別
10. 敬語① 敬語の基本（構造・種類）
11. 敬語② 注意すべき敬語表現
12. 敬語③ 敬語の練習問題
13. 文章読解の実際
14. 学習到達度の確認
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考書を読み（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストに向けて準備しておくこと（90分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

高校で使った「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価

定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 助動詞についての基本的知識を習得している。
 (B) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得している。
 (A) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得し、まぎらわしい語の識別ができています。
 (S) 文語文法の基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができています。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の後に質問を受け付け、複数回的小テストでは解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅰ							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-177	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世前期（鎌倉時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通じて、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標

上代から中世までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／上代① 文学の発生・文字の伝来
2. 上代② 祭祀・神話・地誌・説話（古事記・日本書紀・風土記・祝詞・日本霊異記）
3. 上代③ 古代歌謡・万葉集1（第Ⅰ・Ⅱ期）
4. 上代④ 万葉集2（第Ⅲ・Ⅳ期）
5. 中古① 漢詩文・仮名の誕生
6. 中古② 和歌（三代集）
7. 中古③ 日記・随筆（土左日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・枕草子ほか）
8. 中古④ 物語1（前期物語）
9. 中古⑤ 物語2（源氏物語）
10. 中古⑥ 院政期一和歌（後拾遺集・金葉集・詞花集・歌学と歌合）
11. 中古⑦ 院政期一説話（今昔物語集）・歌謡（梁塵秘抄）
12. 中古⑧ 院政期一物語（後期物語・歴史物語）
13. 中世① 和歌1（千載集・新古今集・新勅撰集）
14. 中世② 和歌2（十三代集・連歌・歌謡）
15. 中世③ 日記・紀行（十六夜日記・うたたね・海道記ほか）／前期まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（90分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年）その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
- (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
- (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
- (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G2-04-178	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

中世後期（鎌倉・室町時代）から近世（江戸時代）、さらに近現代（明治～戦後）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通じて、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標

中世から近現代までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／中世④ 随筆（方丈記・徒然草）
2. 中世⑤ 軍記・史論（平家物語・太平記・神皇正統記ほか）
3. 中世⑥ 物語（中世王朝物語）・御伽草子・説話（宇治拾遺物語ほか）
4. 中世⑦ 芸能（能・狂言）・宗教文学（仮名法語・五山文学・キリシタン文学）
5. 近世① 概説（時代区分・出版文化）・仮名草子（浅井了意ほか）
6. 近世② 浮世草子（井原西鶴・八文字屋本）
7. 近世③ 和歌（後水尾院・奥門・江戸派・桂園派ほか）・国学
8. 近世④ 俳諧（貞門・談林・蕉風ほか）・川柳・狂歌
9. 近世⑤ 芸能（浄瑠璃・歌舞伎）
10. 近世⑥ 読本（前期一上田秋成・後期一曲亭馬琴）
11. 近世⑦ 戯作（洒落本・滑稽本・黄表紙・合巻・人情本ほか）
12. 近代① 幕末～明治中期（開化文学・写実主義・浪漫主義・自然主義）
13. 近代② 明治後期～大正（反自然主義・耽美派・白権派・新思潮派）
14. 近代③ 昭和前期（プロレタリア文学・新感覚派・戦時下文学）
15. 近代④ 戦後（新戯作派・第三の新人・内向の世代）／後期まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（60分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（90分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年）その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
- (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
- (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
- (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学 I							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-179	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。前期は主に上代・中古の文学を取り上げる。

授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／「日本 - 文学」とは何か
2. 日本文学を学ぶために一時代区分・ジャンルー
3. 文学を伝える「かたち」
4. 神話の世界
5. 古代歌謡と『万葉集』
6. 王朝和歌と平安貴族の生活
7. 「日記」と文学
8. レポートの書き方
9. 「物語」の誕生
10. 女房文学の時代
11. 『源氏物語』の世界①
12. 『源氏物語』の世界②
13. 説話の世界
14. 院政期の文学
15. レポート講評／「中世」の始発

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み (60 分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと (90 分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可) 秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード (50%)、レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べるができている。
- (A) 日本文学の特徴を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1(6回)以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学Ⅱ							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-180	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。後期は主に中世・近世の文学を取り上げる。

授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／「文学研究」とは何か
2. 中世和歌の世界
3. 戦乱の時代と軍記物語
4. 『方丈記』と『徒然草』
5. 中世の芸能
6. 文学と宗教
7. 出版・町人文化と文学
8. レポートの書き方
9. 芭蕉の世界
10. 国学者たちの活動
11. 上田秋成と曲亭馬琴
12. 近代化する社会と文学
13. 古典文学と近現代文学①
14. 古典文学と近現代文学②
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み(60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(90分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可) 秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べる事ができている。
- (A) 日本文学の特徴を、自分の言葉で表現できている。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

講義に関する疑問などはコメントカードを活用してほしい。3分の1(6回)以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	漢文学概論Ⅰ						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-181	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊齋志異』を読む。和訳を参照しながら、句読点の付いた漢文を訓読する。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。登場人物の行動・心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢文で書かれた散文作品を読み、漢文読解の能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢文の文体・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画

1. 道士 (1) 「韓生……」を読む。
2. 道士 (2) 「家人投銭……」を読む。
3. 道士 (3) 「言未已……」を読む。
4. 道士 (4) 「道士向主客……」を読む。
5. 道士 (5) 「何日棲……」を読む。
6. 道士 (6) 「野人新至……」を読む。
7. 道士 (7) 「韓命……」を読む。
8. 道士 (8) 「道士傾飲……」を読む。
9. 道士 (9) 「飲次……」を読む。
10. 道士 (10) 「道士笑……」を読む。
11. 道士 (11) 「道人懐誠……」を読む。
12. 道士 (12) 「翌午幸……」を読む。
13. 道士 (13) 「入門……」を読む。
14. 道士 (14) 「閉幕……」を読む。
15. 到達度の確認

準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる(30分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

期末筆記試験(90%)、予習(10%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
- (B) 漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
- (A) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
- (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文学概論Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G2-04-182	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『唐詩選』を読み、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。作者の行動や心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢詩を読解する能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢詩の特徴・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画

- 漢詩の基本
- 漢詩の基本
- 「望薊門」(1)「燕臺一去客心驚」を読む
- 「望薊門」(2)「笙鼓喧喧漢將營」を読む
- 「望薊門」(3)「萬里寒光生積雪」を読む
- 「望薊門」(4)「三邊曙色動危旌」を読む
- 「望薊門」(5)「沙場烽火侵胡月」を読む
- 「望薊門」(6)「海畔雲山擁薊城」を読む
- 「望薊門」(7)「小少雖非投筆吏」を読む
- 「望薊門」(8)「論巧還欲請長纓」を読む
- 「九日登仙台呈劉明府」(1)「漢文皇帝有高臺」を読む
- 「九日登仙台呈劉明府」(2)「此日登臨曙色開」を読む
- 「九日登仙台呈劉明府」(3)「三晉雲山皆北向」を読む
- 「九日登仙台呈劉明府」(4)「二陵風雨自東來」を読む
- 到達度の確認

準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる(30分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

期末筆記試験(90%)、予習(10%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
 (B) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
 (A) 漢文を逐語訳することができる。
 (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化特殊講義A						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-04-183	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

勅撰和歌集『新古今和歌集』の釈教歌を読む。釈教歌とは、仏教に関わる和歌の総称で、仏や経典の教えを詠む歌や、仏事に關わって信仰体験を詠む歌、仏教的な寓意を込めた歌などがある。これらは古くから詠まれてきたが、思想・文芸的な深まりを見せてくるのは、中世初頭の『新古今和歌集』前後からである。本講義では、『新古今和歌集』釈教部と関連する文献の読解を通じて、和歌文学の読み方や、その表現の特徴、古典常識などを学ぶ。

授業の到達目標

釈教歌の特徴、和歌の基礎知識、古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画

1. ガイダンス／和歌とはどのような文学か
2. 勅撰和歌集の歴史
3. 和歌と末法思想
4. 『新古今和歌集』の成立
5. 和歌の表現とレトリック
6. 和歌と仏教
7. 『新古今和歌集』釈教部を読む①
8. 『新古今和歌集』釈教部を読む②
9. 『新古今和歌集』釈教部を読む③
10. 『新古今和歌集』釈教部を読む④
11. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑤
12. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑥
13. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑦
14. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑧
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み(60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(90分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

久保田淳訳注『新古今和歌集 上・下』(角川ソフィア文庫、2007年) 田中裕・赤瀬信吾校注『新古今和歌集』(新日本古典文学大系、岩波書店、1989年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 和歌文学の基本的な知識や読み方を理解している。
 (B) 『新古今和歌集』とその成立・歴史的背景について理解している。
 (A) 和歌と仏教の関わりについて、自身の意見を述べている。
 (S) 釈教歌について、問題意識を持って論じている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

大学院開講科目「仏教学講義A」と合同科目。国語の教員免許取得を目指す学生・日本文学で卒業論文を書くことを目指す学生は受講することが望ましい。私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義C							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G3-12-184	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山金剛三昧院に伝来した古文書群は、鎌倉・室町時代の高野山のみならず、中世の政治史・寺院社会史などを考える上でも興味深い内容を持っている。本講義の受講生は、『金剛三昧院文書』の精読を通して、高野山と鎌倉幕府および御家人との関係について考察する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉時代の高野山と鎌倉幕府との関係を理解できるようになる。②鎌倉幕府の御家人の信仰を考える視座をつちかう。③『金剛三昧院文書』の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1. 金剛三昧院文書の概要
2. 弘安4年3月21日付「関東下知状案」を読む①
3. 弘安4年3月21日付「関東下知状案」を読む②
4. 弘安4年3月21日付「関東下知状案」を読む③
5. 弘安4年3月21日付「関東下知状案」を読む④
6. 弘安4年3月21日付「関東下知状案」を読む⑤
7. 高野山霊宝館の見学
8. 金剛三昧院多宝塔・経蔵関係史料を読む①
9. 金剛三昧院多宝塔・経蔵関係史料を読む②
10. 金剛三昧院多宝塔・経蔵関係史料を読む③
11. 金剛三昧院多宝塔・経蔵関係史料を読む④
12. 金剛三昧院文書の調査①
13. 金剛三昧院文書の調査②
14. 金剛三昧院文書の調査③
15. 金剛三昧院文書の調査④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、金剛三昧院・鎌倉幕府に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

中田法寿編『高野山文書 第5巻 金剛三昧院文書』(高野山文書刊行会、1936年)のコピーを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

原田正俊「高野山金剛三昧院と鎌倉幕府」(大隅和雄編『仏法の文化史』吉川弘文館、2003年) 原田正俊「室町幕府と高野山金剛三昧院—禅律系寺院の在り方—」(中尾堯編『中世の寺院体制と社会』吉川弘文館、2002年) 山家浩樹「実朝の追善」(『アジア遊学』241、2019年)

学生に対する評価

レポート(100%) ※4000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 金剛三昧院に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 金剛三昧院と『金剛三昧院文書』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
 (A) 金剛三昧院と鎌倉幕府および御家人について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 本講義の内容を踏まえて、金剛三昧院と鎌倉幕府および御家人について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱う上、受講生に担当箇所を割り振り、報告を課すので、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講者は、企画科目の「歴史学」を履修していなければ、講義内容の理解がおぼつかないので、同科目を前年度まで必ず履修しておくこと。

科目名	中国文化講読演習A						学期	後期	
副題	『説文解字』を読む				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-26-185	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎知識の修得。『説文解字』を講読することにより、中国哲学を理解するきっかけにし、空海『篆隸万象名義』や顧野王『玉篇』の漢字思想に迫りつくことを目的とする。・『説文解字』以前の古代文字と触れることにより、許慎の間違いを指摘する。

授業の到達目標

1、『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容（漢文）の講読力を向上させる。2、東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。3、説文の研究において、異体字及び漢字の正・通・俗を理解する。4、表意文字としての漢字理解を通して、密教研究につなげることを到達目標とする。

授業計画

1. 表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2. 『説文解字』の背景とその関連書①〔許慎の人物像を探る〕
3. 『説文解字』の背景とその関連書②（二徐本や『段注』との比較により、原本を探る）
4. 部首と重文について
5. 「六書」について①（象形・指事・会意）
6. 「六書」について②（形声・転注・仮借）
7. 説文部首第一巻の部目を読む①（一～示）
8. 説文部首第一巻の部目を読む②（三～玉）
9. 説文部首第一巻の部目を読む③（珣～土）
10. 説文部首第一巻の部目を読む④（丨～艸）
11. 説文部首第一巻の部目を読む⑤（萐～艸）
12. 説文部首第二巻の部目を読む①（小～半）
13. 説文部首第二巻の部目を読む②（牛～口）
14. 説文部首第二巻の部目を読む③（丨～走）
15. 先行研究の問題点を列挙し、甲骨文・金文とを比較する。

準備学習(予習・復習)・時間

担当する部目文字について調べて纏め、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(60分) その他、別途授業中に個々に指示する。(60分)

テキスト

・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社（個々に東方書店にて購入）
<http://www.toho-shoten.co.jp/>

参考書・参考資料等

・『字通』（平凡社）・『説文新義』（平凡社）・『漢字学』（東海大学出版会）・『訓読説文解字注』（東海大学出版会）・『王福庵説文部首目』（西洽印社）・その他必要に応じて指事したり、プリントを配ったりする。

学生に対する評価

・基本的に期末テスト（60%）＋それぞれの発表及び提出物（40%）での評価をする。（素点）・毎回の発表を10点満点で計算する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それぞれの漢字を『説文解字』により、自発的に調べ上げることができる。
 (B) それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、原文の内容を理解する。
 (A) それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、自分の研究と先人の見識の違いを発表できる。
 (S) 毛筆にて、課題の小篆作品を高いレベルで作り上げることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・指定された時間に、教壇にて発表する。講義15回目に定期試験の総評を行い、過去に問題のあった箇所を再度討論する。

その他

・「六書」及び本文の内容に入ったら、毎回個々に課題が課され、次週に発表をして頂く形式をとる。・受講者の人数等により、進度が大きく変わることが予想される。・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』、『漢語新辞典』（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。（電子辞典を持してもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、漢字の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、指導する。

科目名	日本国憲法						学期	後期	
副題	社会生活における基礎的教養としての諸ルール				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G1-09-186	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法である。憲法を具体的に実現するものが法律であり、法律は大きく私法と公法に分かれる。本講義では憲法を念頭に置きながら、この私法と公法の概略について学ぶ。具体的には、財産権との関連において、私法の中的一般法である民法の財産法、平等権との関連において家族法をまず取り上げ、その後、刑事人権との関連において、公法の中の刑事法を扱う予定。

授業の到達目標

民法法と刑事法についての基本的な知識を獲得し、対象となる諸制度について批判的な思考ができるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（法の体系と憲法の特質及び紛争処理）
2. 財産権と私法①（物権）
3. 財産権と私法②（契約）
4. 財産権と私法③（消費者契約）
5. 財産権と私法④（不法行為）
6. 平等権と家族①（家族法）
7. 平等権と家族②（家族法）
8. 刑事司法の過程と身体的自由権①（捜査の手続き）
9. 刑事司法の過程と身体的自由権②（憲法における被疑者の権利）
10. 刑事司法の過程と身体的自由権③（裁判の手続き）
11. 刑事司法の過程と身体的自由権④（憲法における被告人の権利）
12. 国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
13. 国民の司法参加②（裁判員制度）
14. 犯罪被害者の権利と立憲主義
15. 中間評価

準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと（所要予定時間は60分）、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること（所要予定時間は180分）

テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（晃洋書房、第5版、2018年）、青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）、鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』（日本経済新聞出版社、2017年）、今村核『冤罪と裁判』（講談社現代新書、2012年）

学生に対する評価

定期試験により（80％）授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20％）（昨年度は、学期途中で前半の試験、学期末に後半の試験と、2度の試験を実施している。）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる答案
- (B) 内容を概ね理解したと思われる答案
- (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
- (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱い、進度により適宜変更の可能性はあるため、あくまで目安。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件では無い。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	漢字Ⅱ						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-187	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

臨書中心の実技の授業であり、楷書体、行書体、草書体などの書体の表現方法を修得する。法帖を客観的に見る目を養い、臨書しながら線と空間唐の奥深さを探求する。学生によっては参考に指導者が示範する場合もある。授業中だけ筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つ心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

授業の到達目標

【前期】前期は書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。【後期】上記2書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。＊篆隸または漢字かな交じり文を学びたい場合は、相談の上決定したい。

授業計画

【前期】

1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

【後期】

1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書
3. 法帖の臨書
4. 法帖の臨書
5. 法帖の臨書
6. 法帖の臨書
7. 法帖の臨書
8. 今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9. 法帖の臨書
10. 法帖の臨書
11. 法帖の臨書
12. 法帖の臨書
13. 法帖の臨書
14. 法帖の臨書
15. 後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

準備学習(予習・復習)・時間

自分が選んだ法帖の特徴や筆者について基礎的な知識を予習すること。制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて臨書を繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。(計120分以上)。

テキスト

各自が二社社あるいは別の法帖の中から相談の上選択する。

参考書・参考資料等

二社社等の法帖類。字書や二社社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

各学期数回のレポート提出、前後期の平均点にて算出する(素点)。各学期欠席3点、遅刻1点の回数を素点より引く。各学期1/3の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の字形と基本的な筆使いが一応できているか
- (B) 線がしっかり書いていて臨書を通して、宣紙にうまくまとまっているか
- (A) 臨書で学んだ事を創作で高いレベルで表現できているか。
- (S) 非常に高いレベルでの創作能力があり、且つ自身で調べた長落款を上手く調和させているか。

課題に対するフィードバックの方法

毎時、各学生による作品批評を行う。個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

その他

基本漢字Ⅰと基本同じであり、そちらも熟読の事。受講生は漢字Ⅰの単位取得者に限る。毎回の課題は、反切～全紙サイズの作品提出を課す。授業以外での努力が評価を大きく左右する。また出来るだけ多く下山し、自発的に沢山の展覧会に足を運び多くを見て学んでほしい。全出席を心得る事。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が客観的指導により上達させることを目的とする。

科目名	かなⅡ						学期	通年	
副題	三色紙の臨書から創作へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G2-06-188	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象に、かなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆「三色紙」を鑑賞し臨書する。【後期】「三色紙」の中から選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し理解する。さらに古筆をもとに臨書から做書へと発展させ、作品に仕上げる。かなⅠで取り上げた「高野切第一種」「高野切第三種」かなⅡでの「三色紙」以外にもさまざまな古筆があることを理解し臨書できるようになる。

授業の到達目標

【前期】かなⅠの基本の上に「寸松庵色紙」の書風を理解し用筆や運筆の技術を身につける。【後期】「継色紙」の書風について理解し用筆や運筆の技術を深める。各自古筆を選び、連綿の特徴を読み取りながら、全体としての散らし書きも理解し表現していく。運筆法・紙面へのおさめ方、空間処理を理解し、自己表現の作品制作力を身につける。

授業計画

【前期】

1. 講義目標、概要の解説、用具用材などの説明を聞く。
2. 「寸松庵色紙」の運筆・連綿、構成の特徴を学ぶ。
3. 「寸松庵色紙（わかせこ）」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「寸松庵色紙（わかせこ）」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「寸松庵色紙（あきはざの）」3 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「寸松庵色紙（道しらほ）」4 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 「寸松庵色紙（あめふれほ）」5 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
8. 「寸松庵色紙（秋のつき）」6 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
9. 「寸松庵色紙（秋の夜は）」7 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
10. 「寸松庵色紙（あきかぜこ）」8 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
11. 「寸松庵色紙（ちはやぶる）」9 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
12. 課題を提出する。自己評価及び相互批評を行い、書法上の課題を明らかにする。
13. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。1
14. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。2
15. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。3 課題を提出する。

【後期】

1. 「継色紙」の運筆・連綿、構成の特徴を学ぶ。
2. 「継色紙」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
3. 「継色紙」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「継色紙」3 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「継色紙」4 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「継色紙」5 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 選んだ古筆を臨書する。1・2枚目
8. 選んだ古筆を臨書する。3・4枚目
9. 選んだ古筆を臨書する。5・6枚目
10. 選んだ古筆を臨書する。7・8枚目
11. 課題を提出する。講評する。
12. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。1枚目
13. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。2枚目
14. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。3枚目
15. 1年間のまとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分)事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

テキスト

「日本名筆選12 寸松庵色紙」 二玄社 「日本名筆選13 継色紙」 二玄社

参考書・参考資料等

「かな古典の学び方2 寸松庵色紙・継色紙」二玄社 編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ1日比野五鳳」芸術新聞社2010年発行

学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な筆使いと形が表現できる。
 (B) 「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。
 (A) 基本的な筆法で、墨の扱いを忠実に表現するとともに、「ちらし書き」行の流れも確実に臨書できる。
 (S) 古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠを履修済であること。変体仮名が理解できていること。・書道具一式、古筆臨書用紙は各自で購入のこと。(最初の授業で説明する。)・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回に達した時点で成績は出ない。・授業中のスマホ使用禁止。・優秀な提出作品は2月の高野山大学学外書道展に出品する可能性がある。その場合、表彰代は各自の負担とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	篆刻						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-06-189	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

・「印從書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線条の追及として漢字Ⅰで学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体现する。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解説に興味を持つ。2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白石草堂記」の前半部分）
4. 毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白石草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5. 毛筆にて篆書の練習③（韓安の鐵線篆と摹印篆）
6. 刀法と側款の練習①（横・豎・鈎・撇）
7. 刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鈎）
8. 刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9. 奏刀の練習①（冲刀・切刀・舞刀の使い分け）
10. 奏刀の練習②（各轉折と起筆、收筆）
11. 雙鈎填墨による陰陽。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12. 漢印摹刻①（自分で選択したもの）
13. 漢印摹刻②（①以外で自分で選択したもの）
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

【後期】

1. 前期の復習並びに璽印から篆刻への変遷理論
2. 秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3. 秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4. 秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5. 秦印創作
6. 將軍印①（自分で選択したものを刻す）
7. 將軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8. 將軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9. 將軍印創作
10. 肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11. 肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12. 仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13. 仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、それまで学んだことを踏まえて課題作品を作ってくる（180分以上）・夏休みの課題として漢印の創作作品を補刀まで済ませ、後期の最初の授業で提出する。

テキスト

・書道講座第6巻篆刻（二玄社刊）*書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西洽印社）・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書畫出版社）・『養毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・各学期、基本的に提出作品による評価し、その平均点を算出する（素点）。その為、各学期1/3を超えた場合失格とする。素点より欠席3点、遅刻1点を引く。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各奏刀法を理解し、自分で摸刻ができる。
- (B) 陰陽思想を根拠に印稿が書け、自身でそれを創作できる。
- (A) 尚古思想を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
- (S) 尚古思想を基盤とした非常に高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字Ⅰ履修修了者に限る。・用具、用材は、書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業内容を変更する場合あり。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的に指導を加える。

科目名	篆刻Ⅰ						学期	前期	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-190	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

・「印從書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線条の追及として漢字Ⅰで学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解説に興味を持つ。
2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。

授業計画

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4. 毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5. 毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）
6. 刀法と側款の練習①（横・縦・鉤・撇）
7. 刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鉤）
8. 刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9. 奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10. 奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11. 雙鉤填墨による陰陽の理解。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（股代から漢代まで）
12. 漢印摹刻①〔自身で選択したもの〕
13. 漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、それまで学んだことを踏まえて課題作品を作ってくる（90分以上）

テキスト

・書道講座第6巻篆刻（二玄社刊）*書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社）・袁毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じて個々に指導したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・基本的に提出作品及び各自の取り組みによる評価（素点）。欠席3点、遅刻1点を素点より引いた算出で行う。欠席数が1/3を超えた場合は、その時点で失格とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各奏刀法を理解し、自分で摹刻ができる。
 (B) 陰陽思想を取り入れた印稿を描くことができ、それを自身で創作できる。
 (A) 尚古思想を基盤としたレベルでの創作ができる。
 (S) 尚古思想を基盤とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字Ⅰ履修修了者に限る。・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被る事を理解しておくこと。・2度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・授業以外での個々の鍛錬は必須である。・理解度・達成度により、授業を変更する場合あり。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的に指導を加える。

科目名	篆刻Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G3-06-191	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の模刻を基盤に、秦印や三国時代の將軍印を摹刻し、その印風創作による実践、理論の双方より学ぶ。・肖形印ほか仏像印を刻すことにより、篆刻における線條を理解し「書画同源」の原点を探る。・国内の他大学にはない中国伝統的印学方法を根拠とした学びを提供し、向上を図る。・2回目の受講生は更にレベルの高い古璽印または明清以降の流派印を相談の上、別課題にて学ぶ。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および篆印篆）の基本的認識。2、東洋文化における印章の重要性及び関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。4、肖形印を刻すことにより篆刻の楽しみを再確認する。

授業計画

1. 前期の復習と双稿填墨・印稿の練習
2. 秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3. 秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4. 秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5. 秦印創作
6. 將軍印①（自分で選択したものを刻す）
7. 將軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8. 將軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9. 將軍印創作
10. 肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11. 肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12. 仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13. 仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180分以上）

テキスト

・『書道講座第6巻篆刻』（二玄社刊）：書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院藏古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館藏印選』（上海書画出版社）・荻毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・数回のレポート提出にて算出する（素点）。各学期欠席3点、遅刻1点を素点より引く。1/3の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分で正しい奏刀法を理解し、摹刻ができる。
 (B) 摹刻を基に自分で創作できる。
 (A) 「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした高いレベルでの創作ができる。
 (S) 「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした非常に高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180分以上）・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・篆刻Ⅰを履修した者に限る。・進度により授業の順番を入れ替えたり、省略する場合あり。・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2度目の受講生は、秦代以前の古璽や明清以降の流派印、そのほか肖形印等を更に高いレベルで個別に指導する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作A(漢字)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G1-06-192	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】・半切に漢字4～28文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。(做書も可)・半切～全紙に漢詩、漢語を篆書体、隸書体、又は行草体で創作する。(做書も可)・半切に漢字・仮名まじり文を創作する。【後期】2尺×8尺(52cm×約228cm)以上の画仙紙に自選の漢文や漢詩を選ぶ。創作する上で、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくずし方を理解する。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。

授業の到達目標

これまで臨書で培った基礎の上に立って、「尚古思想」を原点にした想像力豊かな大作を作り上げる。

授業計画

【前期】

1. この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明(ガイダンス)
2. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。①
3. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。②
4. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。③
5. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。④
6. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。⑤
7. 半切の大きさと、課題を楷書行書体で創作する。⑥
8. 提出後、全体で互評会を実施する
9. ①篆書体、隸書体、行書体で課題を半切(正方形)で創作
10. ②漢字仮名まじり文の創作
11. 上記①、②のどちらかひとつを選び実習する。
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

【後期】

1. 2尺×8尺(たて228cm×よこ52cm)の紙面に、作品を制作
2. 同上 ※書体、題材も自由
3. 同上 ※個性と創作意欲にあふれた作品を制作する。
4. 同上 ※題材、書体は途中変更も可能
5. 同上 ※試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上させる。
6. 同上 ※早く仕上がった人は、小品を制作する。(書体・題材を変えたり)(漢字仮名まじり文でも可)
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 押印して提出後、互評会を実施する。

準備学習(予習・復習)・時間

制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。また積極的に下山し、出来るだけ多くの展示会場で学んで来る。(計120分以上)。

テキスト

相談の上、書道史を踏まえて個々に法帖を決定する。

参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

各学期、数回のレポート(作品)提出、前後期の平均点にて算出し、総合的に評価する(素点)。各学期欠席ー3点、遅刻ー1点。各学期1/3の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
- (B) 線に力強さがあり、文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
- (A) 作品に一貫性があり筆力が充実している。落款も内容に相応した書き方である。
- (S) 自分なりに工夫を加え、また自身で調べた長落款を使用し、練度の高い作品に仕上がっている。

課題に対するフィードバックの方法

1、個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。2、拝見した展覧会の批評を発表してもらい、それについての議論も行う予定。

その他

出来上がった各作品は評価の後、大学書道展に出品して頂くことを考えている。その場合、表装代は自己負担とする。各自で事前に『字書』を購入しておくこと画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修である為、かなり習熟した技能を持っていることが要求される。中国や日本の優れた作品を参考にし、教員のアドバイスを受けて創作する。授業時間外の取り組みにより大きく評価が分かれる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が書いた作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作B(かな)					学期	通年		
副題	大字かな作品制作					授業方法	実技	担当者	塩野三恵子
ナンバリング	G3-06-193	実務経験の有無	有	関連DP		2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠ・Ⅱで学習した項目を発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込み、半切作品に仕上げる。【後期】2×6尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込む。また全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆を実践し、作品に仕上げる。

授業の到達目標

【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現できるようになる。【後期】かな条幅の運筆を理解し画仙紙に全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆で書くことができるようになる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 条幅「かな」の内容解説・授業の進め方・必要用具用材等の説明を聞く。	1. 2×6尺(65×175cm)の練習用紙制作1(テーマ・内容を決定、集字する。)
2. 条幅の基本用筆1(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を書く。)	2. 2×6尺の練習用紙制作2(題材・デザインを考える。)
3. 条幅の基本用筆2(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を自然に書く。)	3. 2×6尺の練習用紙制作3(土台とする古典を臨書しつつ、構成も考えていく。)
4. 条幅の基本用筆3(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を確実を書く。)	4. 2×6尺の練習用紙制作4(自然に運筆ができるようになるまで書き込む。)
5. 条幅の基本用筆4(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字書体を書く。)	5. 2×6尺の練習用紙制作5(確実な運筆し、墨色、墨量の変化を整えていく。)
6. 条幅の基本用筆5(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字・3字書体を自然に書く。)	6. 2×6尺の練習用紙制作6(各自のテーマを設定し書く。)
7. 集字し資料を作り半切1/2の画仙紙に非行を書く。	7. 2×6尺の練習用紙制作7(各自のテーマに沿って書き込む。)
8. 半切1/2の画仙紙に非行の構成に留意し自然に書く。	8. 2×6尺の練習用紙制作8(非行用紙の扱いに慣れる。)
9. 半切1/2に非行を書き仕上げる。	9. 2×6尺の練習用紙制作9(互評会をする。)
10. 半切以上制作1(題材を決定し、集字し資料を作成する。)	10. 2×6尺の練習用紙制作10(互評会を受けて修正し、各自のテーマに沿った作品を制作する。)
11. 半切以上制作2(資料に基づいて、書く。)	11. 2×6尺の練習用紙制作11(より一層の内容のある作品になるように書き込む。)
12. 半切以上制作3(資料に沿って自然に書く。)	12. 2×6尺の練習用紙制作12(作品提出)
13. 半切以上制作4(資料に沿って書き込み、構成も考えていく。)	13. 2×6尺の練習用紙制作13(提出作品の講評をする。)
14. 半切以上制作5(資料を基に、構成に留意し、作品を仕上げる提出する。)	14. 形式を変えて条幅作品を書く。
15. 提出作品の講評をする。	15. 1年間のまとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分) 事後学習として授業内容を復習し作品を書き込む。(60分)

テキスト

高木厚人著 「大字かな入門」芸術新聞社2014年発行

編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社2010年発行

参考書・参考資料等

土橋清子著 「条幅作品手本10 万葉集を書く かな書篇」

「生誕100年記念かな書の大匠 日比野五鳳展図録」2001年朝日新聞社発行

字書や二女社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など

学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) かな条幅の基本的用筆ができる。
- (B) 規定の大きさに効果的に表現することができる。
- (A) 全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作することができる。
- (S) 自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠ、かなⅡを履修済みであること。変体仮名が理解できていること。・後期2×6尺以上の作品は評価の後、2月の高山山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。・条幅筆・画仙紙は事前にも書道用品店で買っておくこと。・普段から展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな条幅作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通して教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	書道史(中国)／書道史						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G2-12-194	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

【前期】アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000年前の刻符を文字の起源とし、それがどのような経緯を経て発展していったかを中国の書道史を時代的に学びながら解明する。またそれが今日の我々の生活における影響を与えたかもあわせて考えてみたい。ビデオ・資料も積極的に活用し、単なる知識として理解するだけではなく、視覚的又実用的にも書道史をとらえるように促したい。その他、日中の中国書道史のとらえ方の違いなども考察する。【後期】日本の奈良時代の書道史に大きな影響を与えた、唐代の書道概観を詳細に述べ、宋・明・清代への多彩な書風及び理論が発展していく様を多く取り入れ解説する。また書は、文学、哲学そしてその他の芸術をはじめ諸々の文化的事柄とも絡めて眺めていく。

授業の到達目標

【前期】中国文化に興味を持ち、文字の起源から芸術としての書の確立までの歴史の流れを理解し、説明できることを到達目標とする。【後期】中国文化に興味を持ち、時代別書風の変化をはじめとする書道理論の形成・発展を理解し、説明できる。また問題点を積極的に列挙できることを到達目標とする。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスと漢字の歴史
2. 漢字の起源漢字の創生六義
3. 先秦甲骨文・金文・石鼓文
4. 秦代書道概観篆書の制定
5. 秦の刻石権量詔版瓦当磚
6. 漢代書道概観隸書の盛期古隸と八分
7. 代表的漢碑と章草紙の発明と発展『説文解字』
8. 三国時代書道概観
9. 六朝六朝時代書道概観南朝の刻帖と能書家
10. 王羲之と王献之
11. 北朝の書道概観六朝楷書北朝能書家と代表碑刻
12. 隋代書道概観と代表的碑刻
13. 唐初朝の書道概観
14. 初唐の四大家とその代表的作品
15. 太宗皇帝と初唐の四大家

【後期】

1. 中唐の書道
2. 顔真卿の書並びに孫過庭『書譜』と張懷瓘『書義』『書断』の書論比較
3. 晚唐晚唐の書道
4. 五代五代の書道概観
5. 宋の書道概観
6. 北宋の四大家
7. 金石学の芽生え淳化閣帖と集帖
8. 南宋の能書家
9. 元代の書道概観（趙孟頫と吾丘衍）
10. 明代の書道概観
11. 明代古典派
12. 明末清初のロマン派長条幅のはじまり
13. 清代の書道概観
14. 清代金石学の隆盛と碑学の勃興（鄧石如と吳讓之ほか）
15. 清代以降現代までの書の発展

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

『[決定版] 中国書道史』角井博監修芸術新聞社定価3080円 *書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『中国美術全集』（書法篆刻編）中国美術全集編輯委員会・『書道全集』平凡社・『中国書法史』江蘇教育出版社・『墨スペシャル9 図説中国書道史』芸術新聞社その他、必要に応じてプリント配布。

学生に対する評価

・基本的に各学期末の試験による評価及びその平均点を算出。・欠席各ー3点、遅刻・早退ー1点として計算する。・素点から欠席及び遅刻・早退の点数を引いて成績を出す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 書道用語を理解できる。
- (B) 書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
- (A) 自分で調査した書道史に関する研究を発表できる。
- (S) 自分で調査した書道史に関する研究を先人研究者との比較をしてその違いを発表できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の導入部分で前回の復習として、個々に指名し問題を答えてもらう。

その他

・書道実技との関連性から漢字I履修を前提とする。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また欠席や遅刻は学生自身かなりの損失を被り、また他の学生の迷惑になるので心得て望むこと。・それぞれの学期で1/3を超えた場合は失格とする。・再試験はしない。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、漢字や中国書道の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、指導する。

科目名	生涯学習概論						学期	前期	
副題	地域をつくる生涯学習				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-18-195	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

授業の到達目標

生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2. 生涯学習論の導入と展開
3. 生涯学習と日本の行政
4. 生涯各期の学習課題
5. 生涯学習と家庭・学校・地域社会
6. 社会教育制度と生涯学習
7. 学校教育と生涯学習
8. 博物館と生涯学習
9. 図書館と生涯学習
10. 生涯学習の形態と方法
11. 生涯学習を支援する指導者の役割
12. 地域づくりと生涯学習
13. グローバル化する社会と生涯学習
14. これからの生涯学習の動向と課題
15. 「生涯学習の時代」を生きる

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習: 次回の授業内容についてテキストを熟読し、自治体HPなどで各地の取り組みについて調べる (90分) 事後学習: 授業内容についてノートに整理する (60分)。

テキスト

田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト生涯学習一学びがつむぐ新しい社会ー [新訂版]』(学文社、2018年。初版2008年)。その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①大堀哲編著『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』(樹村房、2010年) ②関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明『新しい時代の生涯学習 [第3版]』(有斐閣、2018年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験 (40%)、毎回の授業時に行う課題 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
 (B) 生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
 (A) 生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
 (S) これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。

科目名	博物館概論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G1-18-196	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本講義では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識を習得する。②博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深める。③博物館学芸員を目指す上での学問的見識を養う。

授業計画

1. 博物館学の目的とそのあゆみ
2. 博物館の種類と機能—分類・施設・設備とあわせて—
3. 学芸員の職務
4. 世界の博物館とその歴史①
5. 世界の博物館とその歴史②
6. 日本の博物館とその歴史①—博物館の諸制度—
7. 日本の博物館とその歴史②—博物館と学芸員を取り巻く現況—
8. 日本の博物館とその歴史③—博物館と学芸員の未来—
9. 明治期の博物館論—博物館・文化財と政治①—
10. 大正・昭和前期の博物館論—博物館・文化財と政治②—
11. 博物館とナショナリズム—戦前期の「国史館」構想—
12. 博物館法とその意義
13. 文化財保護制度の歴史
14. 博物館をめぐる現状と矛盾
15. 試験

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関する専門用語の意味を理解しておくこと (100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること (80分)

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学 I 博物館概論・博物館資料論』(学文社、2012年) ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年) ③岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』(人文書院、2020年) ④金子淳『博物館の政治学』(青弓社、2001年)

学生に対する評価

レポート (70%、字数 3000 字以上)、講義時におけるミニッツペーパー (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
 (B) 博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
 (A) 博物館の歴史とその社会的責務、日本近代の政治状況が博物館に与えた影響について説明できる。
 (S) 講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の歴史的沿革・意義について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。また、受講者は、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。毎回の講義時には、講義内容をまとめるミニッツペーパーを書いてもらう。

科目名	博物館経営論						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	山口文章	
ナンバリング	G2-18-197	実務経験の有無	有	関連DP	-	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①ミュージアムマネジメントについて、②博物館の財政をとりまく経営環境、③博物館の使命と組織・職員の役割、④コレクション形成の方法、⑤博物館活動の目標設定と評価、⑥普及と情報、⑦日本の博物館の特異性 等を事例に基づいて理解し、学芸員の基礎知識とすることを目的とする。学芸員に必要な基礎知識は文化財の管理方法や評価、研究だけでなく、設備管理や教育、広報など、博物館の経営全体に必要なものである。博物館に勤務することを旨さない者も、学芸員資格を修得することを勧める。

授業の到達目標

博物館経営（ミュージアムマネジメント）について学ぶ。博物館経営が他業種の企業体の経営よりも、広い分野に及ぶ総合的なものであり、博物館に携わる者すべてが問題意識を持つ性格であることを学ぶ。

授業計画

1. 博物館の経営概説(ミュージアムマネジメントとは)
2. 博物館の種類と組織的構造の特徴(海外・日本)
3. 博物館における現状と問題点
4. 博物館の財政形態
5. 博物館の設備と管理
6. 博物館の文化財管理
7. 博物館の危機管理
8. 博物館のコレクションの形成(購入・寄贈・寄託について)
9. 博物館の使命と組織・職員の役割
10. 現代社会に求められている博物館の対応と現状
11. 博物館の広報、マーケティング、文化財教育普及活動
12. 博物館活動の目標設定と評価
13. これからの博物館に必要なこと
14. 博物館見学(展示方法、入館者対応、地域社会との連携を現場で学ぶ)
15. 博物館見学(博物館事務、文化財管理の現場を実際に体得する)

準備学習(予習・復習)・時間

授業で学んだ内容に関して専門用語の意味を理解しておくこと。(90分) 見学実習後は見学内容を整理し、ノートにまとめておくこと。(30分)

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

レポートもしくは試験(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の種類別に、組織的構造の特徴を説明できる。
 (B) 博物館の現状と問題点を説明できる。
 (A) 博物館の使命と博物館職員の役割を説明できる。
 (S) 現代社会に求められる博物館の使命を論じ、これからの博物館に必要なことを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

博物館の見学を通して、展示や利用者対応などの業務だけでなく、設備や文化財の管理業務などの実務を理解する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担当教員は公益財団法人高野山文化財保存会課長として、博物館の事務、学芸業務に従事した後、高野山靈宝館館長として博物館経営の責任者として勤務した。博物館事務、学芸業務、博物館経営の経験を通して博物館経営論を講義する。

科目名	博物館資料論						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-18-198	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博物館が所蔵する資料は、博物館の根幹をなす存在である。本講義では、博物館資料の収集、整理・保管に関する知識・技術の修得と、調査研究の意義と内容についての理解を深めることを目的とする。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①博物館資料の多様性を学び、「二次資料（レプリカ）」などの意義について理解する。②博物館におけるコレクションの形成とその利用、発信方法について学ぶ。③学芸員による博物館資料の調査・研究の重要性、古文書・古典籍などの資料的価値について考える。

授業計画

1. 博物館資料とは何か(意義と内容)
2. 「一次資料」と「二次資料」—博物館資料の種類—
3. 博物館資料の収集
4. 博物館資料の整理と活用—資料化のプロセス—
5. 博物館資料の収集と整理—デジタル・アーカイブとからめて—
6. 学芸員の調査・研究とその発信方法(収集理念と方法)
7. 博物館資料としての古文書①—大津市歴史博物館の取り組み—
8. 博物館資料としての古文書②—京都文化博物館の取り組み—
9. 博物館資料としての古写真
10. 博物館資料としての収集品—高野山霊宝館の見学を通して—
11. 和紙の歴史①
12. 和紙の歴史②
13. 博物館資料の取り扱い方①(分類・整理)—高野山西南院における調査を通して—
14. 博物館資料の取り扱い方②(資料公開の方法等)—高野山西南院における調査を通して—
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学 I 博物館概論・博物館資料論』(学文社、2012年) ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年) ③高橋大樹「地域博物館における古文書展示」(『大津市歴史博物館研究紀要』20、2014年) ④長村祥知「博物館における古文書・古記録の展示と教育」(『人間教育学研究』3、2015年)

学生に対する評価

レポート(70%、字数3000字以上)、講義時におけるミニッツペーパー(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料について、基礎的な説明ができる。
 (B) 博物館資料について、事例に即した具体的な説明ができる。
 (A) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について説明できる。
 (S) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について、講義内容のみならず自己の調査に基づいて、論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。

科目名	博物館資料保存論						学期	後期	
副題	—					授業方法	講義	担当者	那須真裕美
ナンバリング	G2-18-199	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

授業の到達目標

博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

授業計画

1. 「保存」とは何か
2. [事例研究] 文化財保護の歴史
3. 博物館資料の材質と取り扱い(1)立体物の構造・素材・特性
4. 博物館資料の材質と取り扱い(2)平面物の構造・素材・特性
5. 博物館における危機管理
6. 資料の劣化と保存(1)温湿度・光
7. 資料の劣化と保存(2)空気汚染
8. 資料の劣化と保存(3)生物被害とIPM
9. [事例研究] 博物館資料と被害事例
10. 資料の劣化と保存(4)自然災害と人為災害
11. 博物館資料の科学的調査と技術
12. 修復保存の基本と実際(1)彫刻作例
13. 修復保存の基本と実際(2)装潢作例
14. 修復保存の基本と実際(3)古文書
15. 海外の博物館における資料保存と全体の考察

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する (60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学Ⅳ 博物館資料保存論・博物館実習論』(学文社、2013年) 青木豊編『人文系博物館資料保存論』(雄山閣、2013年) 他は授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業時に行なう課題(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
- (B) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、雑誌特集などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館展示論							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	山口隆介	
ナンバリング	G2-18-200	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博物館展示の理念と歴史、展示の諸形態を学び、展示の理論と方法に関する基本的な知識や技術を習得し、博物館における展示の果たす役割とその意義を理解する。

授業の到達目標

博物館における展示の歴史と意義を理解するとともに、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 博物館展示の目的と役割
3. 博物館展示の歴史
4. 見学演習 近畿一円的美術館・博物館に出かけ、広く美術作品を見て学ぶ
5. 見学演習
6. 展示のプロセス企画書・出陳交渉・梱包と輸送・会場造作・展示作業
7. 展示空間の構成Ⅰ 章立て・動線・サイン
8. 展示空間の構成Ⅱ 照明・音響・展示環境・温湿度
9. 見学演習
10. 見学演習
11. 展示の技法Ⅰ 展示ケース・展示台・演示具
12. 展示の技法Ⅱ パネル・題箋・カタログと各種印刷物の作成
13. 展示の技法Ⅲ 音声ガイド・多言語表記・ボランティア
14. 見学演習
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

普段から美術館や博物館に関心を持ち、図書やホームページを通して予備知識を持つこと(計90分以上)。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

レポート60%、授業への取り組み40%。この授業では近隣的美術館・博物館を見学する演習を実施し、見学への参加とレポートの提出を課する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 展示に関する基本的な知識や技術の習得が不十分である
- (B) 展示に関する基本的な知識や技術を習得する
- (A) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができる
- (S) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができ、その意図を他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については授業後にワークシートに記入してもらい、次の授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

奈良国立博物館で研究員として勤務している教員が、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

科目名	博物館情報・メディア論							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-201	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代の ICT 社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

授業の到達目標

博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身につけ、活用することができる。

授業計画

1. [事例研究] 博物館によるオンラインでの情報発信
2. 「情報」と「メディア」の定義
3. 博物館における情報資源
4. 博物館における情報資源の意義と活用(1)博物館資料のドキュメンテーション
5. 博物館における情報資源の意義と活用(2)デジタルアーカイブスとは何か
6. [事例研究] 各種のデジタルアーカイブスとデータベース
7. 博物館における情報資源の意義と活用(3)デジタルアーカイブス・データベースの構築と現状
8. 博物館における情報資源の意義と活用(4)デジタル資料の運用と課題
9. 博物館と知的財産(1)知的財産権の基礎
10. 博物館と知的財産(2)著作権・著作支分権と権利処理
11. 博物館と知的財産(3)個人情報・肖像権・パブリシティ権の管理・運用と情報倫理
12. 情報・メディアを活用した博物館活動(1)展示
13. 情報・メディアを活用した博物館活動(2)学習
14. 情報・メディアを活用した博物館活動(3)発信
15. 博物館情報・メディア論への期待と展望（全体の考察）

準備学習(予習・復習)・時間

授業で紹介した事例や類似事例についての関連情報を、書籍やインターネットで調べてまとめる（60分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 III 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012年）
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年） 他は授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業時に行なう課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける
- (B) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。各種報道やインターネット記事（SNS やブログなど）にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館教育論						学期	後期	
副題	地域の魅力を発信するために				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G1-18-202	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

授業の到達目標

学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2. 博物館における学び
3. 博物館教育のあゆみ
4. 博物館教育を実践するための理論
5. 生涯学習と博物館教育
6. 博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7. 博物館教育の方法②～体感することからの学び～
8. 学校教育と博物館
9. 地域社会と博物館教育
10. 博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11. 博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12. 博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13. 地域の人材を育てる場としての博物館
14. グローバル化する社会と博物館教育
15. これからの博物館教育とは？

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：次回の授業内容についてテキストを熟読し、各地の博物館 HP など実際の取り組みについて調べる (90 分) 事後学修：授業内容についてノートに整理する (60 分)。

テキスト

黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2017 年）その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016 年）。 その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート (30%)、発表 (30%)、毎回の授業時に行う課題 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
 (B) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
 (A) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
 (S) これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。

科目名	博物館実習						学期	通年	
副題	博物館学芸員としての知識・技術の習得とその実践				授業方法	実習	担当者	櫻木・坂口	
ナンバリング	G3-18-203	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	3	他	A

授業の目的と概要

博物館学芸員の資格を取得するための必要不可欠な科目である。博物館学芸員の実務を理解し、博物館が行う事業を習得するために、講義だけでなく、実技実習や見学実習など、学内外において多様な授業を実施する。実技や実習をとまなう授業であり、将来、学芸員として勤務することを想定し、出席を重視する。

授業の到達目標

①博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について、実践的に学ぶことができる。②調査研究・展示する資料について、それらを調査や評価をし、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝える方法を学ぶことができる。③さまざまな博物館を見学し、各館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を養うことができる。

授業計画

【前期】

1. 博物館実習に関する事前指導【講義・1時限】
2. 館内実習の具体的指導 (1) 資料の取り扱いと整理・分類・保存【講義・1時限】
3. 美術分野資料の取り扱い【実習・3時限】
4. 歴史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
5. 文化史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
6. 資料の整理と分類【実習・3時限】
7. 資料の保存【実習・3時限】
8. 博物館施設の構造・管理【実習・1時限】
9. 博物館運営の実務【実習・1時限】
10. 事後指導【講義・1時限】
11. 館内実習の具体的指導 (2) 実習先での実習の概要【講義・1時限】
12. 展示テーマを作る【実習・2時限】
13. 展示計画を作る【実習・2時限】
14. 展示表現の構築【実習・2時限】
15. 展示解説 (キャプション) を作る【実習・2時限】

【後期】

1. ポスター・パンフレット (目録・図録) の作成【実習・2時限】
2. 展示案内と接遇【実習・2時限】
3. 展示作業【実習・3時限】
4. 地域連携とコミュニケーション【実習・2時限】
5. 見学実習【実習・3時限】
6. 事後指導と総括【講義・1時限】

準備学習(予習・復習)・時間

予習：次回の実習内容等についてテキストを読んで理解しておく (90 分) 復習：実習内容等について整理しておく (60 分)

テキスト

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版、2002年)

参考書・参考資料等

木下史青『博物館へ行こう』(岩波ジュニア新書、2007年) 四国ミュージアム研究会編『もっと博物館が好きっ！ーみんなと歩む学芸員ー』(教育出版センター、2016年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組みの姿勢 (60%)、小テスト・レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解している。
 (B) 博物館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を有している。
 (A) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解し、実践することができる。
 (S) 博物館学芸員としての基礎的な知識・技術を活用し、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業でフィードバックを行う。

その他

①履修に際しては、学芸員として、また社会人としての基本的な姿勢を求めます。第10回までに3分の2以上出席していない場合は、館内実習の実施を認めません。なお、理由のない遅刻は欠席とみなします。②実習は、グループワークやディスカッション、フィールドワークによって行われます。③授業以外でも、各地の博物館を訪れ、積極的に学芸員としての視野を広げる姿勢をもつこと。

科目名	教育原論							学期	後期
副題	—					授業方法	講義	担当者	鈴木晴久
ナンバリング	G1-17-204	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

1、教育の基本的概念、2、教育思想の歴史、3、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める。

授業の到達目標

教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

授業計画

1. 教育の基本的意味
2. 人間特有の現象としての教育
3. 学ぶことと教えること
4. こころとからだを育てる
5. 道徳性の発達
6. 教育思想の原点1 (ソクラテス)
7. 教育思想の原点2 (プラトン)
8. 近代の教育思想1 (ロック)
9. 近代の教育思想2 (ルソー)
10. 現代の教育思想 (デューイ)
11. 家庭・地域・学校
12. 近代学校の性格
13. 日本における学校の歴史
14. 子どもの権利と教育への権利
15. 現代教育の課題定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく(予習)。講義内容を振り返る(復習)(計90分以上)。

テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

ICT機器を活用するとともに、アクティブラーニング型の授業形式を取り入れる。

科目名	教職入門						学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木靖久
ナンバリング	G1-17-205	実務経験の有無	有	関連DP	-	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

今日の学校教育の現状と課題、学校教育に係る法令と教職の意義、様々な教職観と教員の役割、答申等に示される教員像、学校組織と教員の職階、教員の職務内容と校務分掌、学習・生徒指導と学級担任の役割、服務・身分上の義務と身分保証、教育改革と教員研修、いじめ・問題行動への対応と保護者対応、リスクマネジメントと危機管理、学校組織の課題とチーム学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業の到達目標

・学校教育の目的と教職の意義、教員の役割、必要な資質・能力を理解する。・教員の職務内容、服務と身分保証、職責の遂行と研修について理解する。・複雑・多様化する教育課題に、チーム学校で対応する重要性を理解する。・より良い自己実現に向けて、自己の適性と教職の職業的特性を理解する。学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業計画

1. 児童・生徒の実態と学校教育の現状及び課題について説明する。
2. 学校教育及び教職に係る法令、教員免許の取得と採用試験・任用について説明する。
3. 教職の意義と自己のキャリア形成、求められる資質・能力と自己変容について説明する。
4. 様々な教職観の変遷と教員の存在意義、期待される教員像について説明する。
5. 学校組織と教員の種類及び職階、社会的使命について説明する。
6. 教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実について説明する。
7. 「確かな学力」の形成に向けて教員の職務と学校の取り組みについて説明する。
8. 生徒指導の推進に向けて教員組織の現状と課題、課題解決に向けた実践について説明する。
9. いじめ問題等の現状と課題、課題克服に向けた PDCA サイクルについて説明する。
10. キャリア教育の推進に向けた教育課程の改善、教員と保護者・地域の連携について説明する。
11. 教員の職務・課題別研修、専門・教養研修と教員への役割期待・役割達成について説明する。
12. 教員の職務と根本規準、服務上及び身分上の義務について説明する。
13. 学校の危機管理とリスクマネジメント、学校評価について説明する。
14. 学校評議員・学校運営協議会制度、学校組織の課題、チーム学校づくりについて説明する。
15. 生涯学び続ける教員であるための進路選択・自己決定・自己責任について説明する。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

① 毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ② 教職関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③ 授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

テキスト

『新しい教職基礎論』2019.3 (伊藤一雄他著サンライズ出版) 書店で購入

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験 (80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
- (B) 教員の職務や服務内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
- (A) 複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援に、教員が「教職実践力」を身に着けることが大切であることを、テキストや参考書を見ながら自分の言葉で説明
- (S) 子どもに「生きる力」を育む視点から、学校教育の改善・充実に向けた「チーム学校」づくりの必要性と教職員が努力すべき事項について、テキストや参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は次の授業で解説を行う。

その他

・公教育に携わる教職員には法令順守が求められているので、学校教育並びに教職員の人事に係る法令について十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等は、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。・ICTを活用するとともに、アクティブラーニングの授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政での勤務経験のある教員が、管理職の職務(学校経営・運営)、(教職員、児童・生徒、学校保健、学校財務運営等)の校務、教育行政(学校、人事、研修、教員採用試験等)の業務、また、長年担当した教育相談のスキルやノウハウ等の経験を活かして、実践的な立場からの講義や情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	教育心理学						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-206	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2. 発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3. 様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4. エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5. エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6. 学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7. 学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8. 知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9. 学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10. 学習意欲と教育評価について学ぶ。
11. 発達障害（LD、ADHD など）について理解する。発達障害（LD、ADHD など）について理解する。
12. 生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
13. 生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14. 特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。定期試験。
15. 自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。

準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90分)

テキスト

桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に（改訂版）』、図書文化社、2017年（書店で購入）

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房、2012年

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）・出席状況およびディベート等の状況（25%）・学期末試験（55%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習のメカニズムを理解している。
 (B) 様々な学習方法を説明できる。
 (A) 自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
 (S) 様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他

テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りを、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育社会学							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G1-17-207	実務経験の有無	有	関連DP	-	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会学的な視点を養う。

授業の到達目標

教育の中心に置かれてきた学校を社会学的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

授業計画

1. 教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
2. 学校をめぐる状況の変化（1）子どもの生活の変化について説明する。
3. 学校をめぐる状況の変化（2）少年犯罪・児童虐待について説明する。
4. 学校をめぐる状況の変化（3）いじめ、校内暴力について説明する。
5. 学校をめぐる状況の変化（4）不登校について説明する。
6. 学校をめぐる状況の変化（5）学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
7. 学校をめぐる状況の変化（6）少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
8. 社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
9. 教育基本法改正問題について説明する。
10. 諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
11. 地域と学校の連携と協働について説明する。
12. 開かれた学校づくりについて説明する。
13. 学校安全の必要性について説明する。
14. 生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
15. 持続可能な社会における教育について説明する。定期試験は実施しない。

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

授業中に資料を配布する。

学生に対する評価

レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育社会学の基本用語が説明できる。
- (B) 教育の問題について説明できる。
- (A) 講義内容を理解し、社会学的に説明できる。
- (S) 現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

真剣に教師を目指す者のみ受講すること。・教育問題についてテーマを設定し、ディスカッションする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校で教師として指導した経験がある教員が、学校や生徒の実態を講義する。

科目名	特別支援教育						学期	通年	
副題	—				授業方法	講義	担当者	宮本直美	
ナンバリング	G2-17-208	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

1、特別支援教育に関するこれまでの歴史や日本社会の法的支援の現状を理解する。2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の現状を理解し、その教育の在り方を修得する。

授業の到達目標

1、特別支援教育の在り方を理解し支援ができるようになるための基礎力を身に付ける。2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（以下、生徒等）、及び障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒等の教育課程や支援体制の構築、支援の方法について理解し、説明できるようになる。

授業計画

1. 特殊教育から特別支援教育への変遷と特別支援教育の理念
2. 特別支援教育の概要と特別教育を推進するための仕組み
3. 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の理解とそれらの状態にある生徒等の学習上又は生活上の困難について
4. 知的障害、発達障害のある生徒等の理解と指導方法、及び支援方法について
5. 特別支援学校と特別支援学級、及び通級による指導の教育課程上の指導も含めた違いと自立活動について
6. 障害はないが特別の教育的ニーズを必要とする生徒等の支援の在り方について
7. 特別支援教育コーディネーターの職務と職員も含めた「チームとしての学校」の役割について
8. 多様な教育的ニーズのある生徒等の学びを保障するための先進的取組を行っている事例の紹介

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：講義時に配布する資料や紹介した文献、教示したテキストの当該箇所を読み、疑問点等を含めて内容について整理しておくこと。事後学習：毎回当日の講義内容に関する課題を出すので、次回講義時に提出すること（計90分以上）。

テキスト

よくわかる！教職エクササイズ5 特別支援教育（書店で購入）

参考書・参考資料等

伊藤一雄編著『新しい教職基礎論』サンライズ出版、2018年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 2020』ジアース教育新社、2020年

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出するレポート（30%）、授業中の発言や発表、グループワークやプレゼンへの取り組み等授業への参加状況（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
- (B) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
- (A) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
- (S) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高める。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークや学生によるプレゼンテーションを行う科目である

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

授業4～7において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、担当者の通級・特別支援コーディネーターとしての体験を取入れ、具体的な事例を通して講義、演習を行う。

科目名	教育課程論						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G1-17-209	実務経験の有無	有	関連DP	－	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

授業の到達目標

・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングについて理解する。・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

授業計画

1. 学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
2. カリキュラムの歴史の変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
3. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(明治～昭和)
4. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(平成～現在)
5. 学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
6. 中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
7. 学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
8. 学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
9. カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び3つの側面、方法について説明する。
10. カリキュラム・マネジメントと教育課程のPDCAサイクルについて説明する。
11. 「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
12. 育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
13. 教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
14. 保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
15. チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

- ① 毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ② 教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③ 授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

テキスト

『教育課程論のフロンティア』2019.3改訂版(大津実他著晃陽書房)

参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(文部科学省)・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
 (B) 教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。
 (A) カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のPDCAサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。
 (S) 教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他

・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	道徳教育の研究／道徳教育指導論							学期	前期
副題	－				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-210	実務経験の有無	有	関連DP	－	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

1、道徳の意義と本質、2、学校教育における道徳教育、3、道徳科指導法を学ぶ。

授業の到達目標

道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

授業計画

1. 道徳とは何か1、その本質について学ぶ。
2. 道徳とは何か2、主要な道徳理論を学ぶ。
3. 道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
4. 道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
5. 現代社会における道徳とは何か理解する。
6. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る1
7. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る2
8. 子どもの道徳性の発達について学ぶ。
9. 道徳科指導法について説明する。
10. 道徳科の教材と授業計画について解説する。
11. 道徳科指導案作成を行う。
12. 学生による模擬授業を行う。
13. 学生による模擬授業を行う。
14. 模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。定期試験。
15. 道徳科の学習評価を解説する。

準備学習(予習・復習)・時間

授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく。(90分) 配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく。(90分)

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017年

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道徳的徳目を六つ以上言える。
- (B) 集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
- (A) 生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
- (S) 国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他

授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤務し、道徳教育に携わった経験を活かし、実際に使われている道徳教材を積極的に活用して、アクティブラーニングの授業を展開する。

科目名	特別教育活動指導／総合的な学習の時間・特別活動						学期	前期
副題	－				授業方法	講義	担当者	鈴木清久
ナンバリング	G2-17-211	実務経験の有無	有	関連DP	－	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的・総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

授業の到達目標

・特別活動の意義、目標について理解する。・学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。・総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。・人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2. 学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。
3. ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4. ホームルーム活動の指導案の作成。(公共の精神や生き方・在り方を考える。)
5. ホームルーム活動の模擬授業。
6. 学校行事の意義や内容について学ぶ。
7. 学校行事の具体的実践研究とプレゼンテーション。
8. 生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
9. 総合的な学習の時間について学ぶ。(目的・経緯、課題など)
10. 総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。(食育・国際理解・ボランティア等)
11. 総合的な学習の時間の模擬授業。
12. J. デューイの教育についての理論を学習する。
13. 人間の成長・発達の理論と青年期の課題について学ぶ。
14. 特別活動から見た学校の現状と課題を考える。特別活動の評価についてディスカッションを行う。
15. これまでの学習を振り返り、特別活動のまとめと今後の課題を整理する。定期試験は実施しない。

準備学習(予習・復習)・時間

配布する授業の資料を読む。(40分) 学習指導案や授業計画、模擬授業の準備を進めていく。(50分) 授業後は、配布プリントや資料から、要点をノートに整理してまとめる。(60分) 授業で行われた指導案作成などを見直す。(30分)

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。(配布する。)

参考書・参考資料等

田中耕治編著、『よくわかる授業論』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

小レポートの評価(10%)、指導案の提出(15%)、模擬授業・プレゼンテーション(20%)、学期末レポート(55%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別活動の目標と意義が言える。
- (B) 総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
- (A) ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
- (S) デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや学習指導案等は添削して返却する。

その他

毎回出席を取る。ICT機器を活用しながら、同時にアクティブラーニングの授業形式を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

18年間の高等学校国語科教諭の経験を活かして、具体的な学級運営の事例などを紹介しながら、学校生活で特別活動の果たす役割を実践的に伝え、学生に考えてもらう授業を行う。

科目名	教育方法論						学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	G2-17-212	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

「教育」は人間に生涯つきまとう営みと考えられる。その方法・技術を教育思想から理論的に検討し、自らの成長や周囲の人の成長を援助する力を育成する契機とする。事例から理論の理解を深め、実践への一歩とする。

授業の到達目標

この授業では、教育の方法・技術を背景となる思想から理解し、最終的には学校教育に留まらず人間形成・人材育成の観点からも検討できるようにすること、また指導案の素案を作成できるようにする。

授業計画

1. 導入教育方法の理論とは、育成されるべき資質・能力の理解
2. 「学び合い」や「教えない授業」の検討（主体的・対話的で深い学び）
3. 「教えてから考えさせる授業」の検討（主体性の意味）
4. 学習のメカニズム講義、協調学習（対話の意味）
5. 学習モデル（1）学習転移モデル、経験学習モデル
6. 学習モデル（2）批判的学習モデル（深い学びの意味）
7. 「正統的周辺参加モデル」
8. 動機づけの理論（1）外発的動機づけ、内発的動機づけ
9. 動機づけの理論（2）やる気のなさ、やる気を高める方法、フロー理論
10. 指導案（1）指導案の各項目
11. 指導案（2）指導案の作成話法・板書等の基礎的技術
12. 指導案（3）指導案の修正授業展開と評価規準
13. ICTを活用した授業方法と情報モラル
14. 「インストラクショナルデザイン」目標・教材・評価
15. 「学習環境」のデザイン学習する組織場の理論

準備学習(予習・復習)・時間

取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。また模擬授業に向けて主に生命尊重等の教材を研究しておくこと。復習としては模擬授業後の反省を行うこと（計90分以上）。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『高等学校学習指導要領』、2018年

参考書・参考資料等

市川伸一『「教えて考えさせる」授業を創る』、図書文化社、2008年 ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー（著）佐伯胖（訳）『状況に埋め込まれた学習正統的周辺参加』産業図書、1993年 中原淳（編著）『企業内人材育成入門』、ダイヤモンド社、2006年

学生に対する評価

授業中の課題への取組（50%）、指導案と模擬授業（30%）、レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容の概要を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
- (S) 講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

課題に対するフィードバックの方法

課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

その他

授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。

科目名	生徒指導・進路指導						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G2-17-213	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。他の教書金や関係機関と連携して、組織的に生徒指導を行うために必要な知識を学ぶ。進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。これらのことを念頭に置いて学校の教育課程の中での位置づけを理解し、生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

授業の到達目標

・学校教育における生徒指導の目的と原則(ガイダンス)を理解する。・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
2. 日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
3. 現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
4. 問題行動と生徒指導の在り方について学習する（不登校の問題をディスカッションする。）
5. いじめ問題を考える。（文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。）
6. 生徒指導で直面する現代の問題(ブラックバイト、若者の貧困等)を理解する。DVD鑑賞。
7. 非行の問題を考える。—新しい荒れと言われる少年非行の問題—（ディスカッションを行う）
8. カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。（事例研究から。）
9. 進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
10. 進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
11. キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
12. キャリア教育の基本原理を学ぶ。（ブルデュー、スーパー、バーソンの理論から。）
13. 「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
14. 生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。定期試験。
15. これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。

準備学習(予習・復習)・時間

事前に配布する資料を読んで、分からないところや疑問点をリストアップしておく。(60分) 事前に配布する問題集のプリントに目を通しておく。(30分) 授業後は専門用語を中心に学習した内容をノートにまとめ、問題集のプリントの見直しをする。(90分)

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』、2010年 伊藤一雄（編著）『新・教育指導の理論と実践』、サンライズ出版、2007年（書店で購入）

参考書・参考資料等

伊藤一雄『キャリア開発と職業指導』、法律文化社、2011年 全米キャリア発達学会（著）、仙崎武・下村英雄編（訳）『D. E. スーパーの生涯と理論』、図書文化社、2013年

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況とディスカッション等の参加状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生徒指導の目的と理念を言える。
 - (B) キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
 - (A) 問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
- (S) 文部科学省と厚生労働省のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや試験は必ず添削して返却する。

その他

授業中にディスカッションを実施する。主体的な参加を期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校外国語科教諭の経験、特に学級担任や進路指導部長を務めた経験を活かし、生徒指導や進路指導の実際の在り方や難しさを伝えることを含めて、理論と実践を学ぶ授業とする。

科目名	教育相談							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G3-17-214	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援していく方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症の問題や精神的な疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても知識を持てるようにする。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性と、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

授業の到達目標

・学校教育相談の意義と課題を理解する。・教育相談の背景にある問題を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。・発達障害を理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
2. 教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
3. 児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。
4. 学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
5. カウンセリングの基礎知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
6. 学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
7. 学校でのいじめを検討する。
8. 非行(反社会的問題と非社会的問題)への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。
9. 発達障害について理解する。
10. 摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。
11. 同一性の問題について学習する。(自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など)
12. 国際化に伴う教育相談の紹介。(外国人未就学児童の問題など)
13. 教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。(事例の紹介)
14. 学校教育相談と地域での連携について学習する。定期試験。
15. 教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。

準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に、教科書や配布したプリントを読んで、分からないところをチェックしておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心に教科書やプリントから重要なところを自分でノートにまとめておく。(90分)

テキスト

金子邦秀(監修)、伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之(編著)『新しい教職基礎論』、サンライズ出版、2018年

参考書・参考資料等

河村茂雄(編著)『教育相談の理論と実際—改訂版—』、図書文化社、2019年 滝口俊子『スクールカウンセリング』、放送大学、2010年 春日井敏之・伊藤美奈子(編)『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房、2011年

学生に対する評価

小レポートの提出(20%)、模擬教育相談(20%)、学期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育相談の目標と意義を説明できる。
- (B) 教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
- (A) 発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
- (S) 教育相談の地域連携について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや試験などは添削して次回の授業時に返却する。

その他

テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、1回ずつ行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤め、学級担任や進路指導部長として生徒や保護者からの相談に応じた経験やスクールカウンセラーとしての勤務経験等を活かして、専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的授業にする。

科目名	宗教科教育法 I						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-215	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

授業の到達目標

宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
2. 宗教教育とは：①宗教と宗教教育
3. 宗教教育とは：②宗教の定義
4. 宗教教育とは：③道德教育と宗教教育
5. 宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
6. 宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
7. 宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
8. 宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
9. 宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
10. 宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相
11. カリキュラム構成の実際と計画
12. 学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
13. 学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
14. 学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
15. 試験およびレポート提出

準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計90分以上）。

テキスト

斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

参考書・参考資料等

①教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林②日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版③藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店④小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

学生に対する評価

定期試験（60%）、レポート（釈尊伝の感想文）（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教教育の意義を認識している。
- (B) 宗教教育の問題点と課題に通じている。
- (A) 宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
- (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他

宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅱ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G2-20-216	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

受講者全員に教回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

授業の到達目標

宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
3. 教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
4. 学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
5. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
6. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
7. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
8. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
9. 提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
10. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
11. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
12. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
13. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
14. 授業記録の提出と反省会
15. 模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。レポート提出

準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計90分以上）。

テキスト

①中村元・田辺和子共著『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店②松長有慶『空海・心の眼をひらく—弘法大師の生涯と密教—』大法輪閣③富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

参考書・参考資料等

①斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会②教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
- (B) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
- (A) 仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
- (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他

宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G3-20-217	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

受講者全員に教回すつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

授業の到達目標

中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学んで、実際に模擬授業ができるようになる。

授業計画

1. シラバスの説明、授業の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
3. 新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
4. 映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
5. 教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
6. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
7. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
8. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
9. 授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
10. 教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
11. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
12. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
13. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（融合型授業）
14. 授業の振り返り、評価の種類と活用について学習する。
15. 授業全体の反省とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、普段は、模擬授業に必要な宗教に関する情報を調べてまとめておく。(180分) 事前学習として、模擬授業前は、模擬授業の学習指導案を作成し(120分)、模擬授業の練習をしておく。(60分)

テキスト

村上重良『世界の宗教－世界史・日本史の理解に－』岩波ジュニア新書、岩波書店、改版：2009（書店で購入）

参考書・参考資料等

①斎藤昭俊『宗教科教育法』国書刊行会、1984、②教育実習を考える会（編）『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林、1995、③岸本英夫（編）『世界の宗教』大明堂、1965／原書房、2004。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）(60%)、レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
- (B) 学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
- (A) 宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
- (S) 現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

学生によるプレゼンテーション(模擬授業)を取り入れた科目である。新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うことが望ましい。いかなる理由であれ模擬授業を行わなかった場合は失格とする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員(教科「宗教」)として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、教科「宗教」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	宗教科教育法Ⅳ						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	富田向真	
ナンバリング	G3-20-218	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・教科「宗教」の指導方法を学び、授業が円滑にできるようになることを目的とする。・教育実習Ⅰ（見学実習）を修了していることを前提として、教育実習Ⅱ（教壇実習）に向けた教授法、そして指導案作成の実際を学ぶ。また年間教育計画、期間教育計画、学習指導案の作成方法を学ぶ。

授業の到達目標

宗教科の授業内容やその教授方法を学び、さらに学習指導案や単元計画、年間授業計画の作成方法を理解することで年間を通して授業が実践できるようになる。また、模擬授業を実践し、指導案に即した授業展開ができることを目指す。

授業計画

1. 教科「宗教」の授業計画（目的、目標、方法、評価）について学ぶ。
2. 学習指導要領に教科「宗教」がなぜないのか。その意味について理解する。
3. 年間授業計画の作成方法を学び、作成する。
4. 期間授業計画の作成方法を学び作成する。
5. 教科「宗教」の指導法について学ぶ。系統型、経験型、問答型、討論型、その他の方法
6. 系統型と経験型の学習指導案作成の方法について学び作成する。
7. 系統型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
8. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。
9. 授業評価の種類と方法について理解する。
10. 経験型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
11. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（1）
12. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（2）
13. 多面的に授業の評価を行うことの重要性について理解する。
14. 宗教教育の意義（1） 宗教教育の効果を考える
15. 宗教教育の意義（2） 宗教教育に求められる姿を共に考える

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキスト『青少年のための仏教読本』を熟読し、教壇に立つことをイメージした授業計画を作成しておく（60分）。また、事後学習として授業で学んだ内容を振り返り、作成した授業計画を修正しながら次の時間に備える（60分）

テキスト

富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所発行（大師教会で販売 1200円）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40％）、毎回の授業の取り組み（30％）、模擬授業の取り組み（30％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教科の授業内容やその教授方法について理解でき、指導案などが適切に作成できると認められる最低限の成績である
- (B) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解でき、指導案作成の内容に即した授業展開が見込めると認められる成績である
- (A) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる優れた成績である
- (S) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる、特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

宗教科授業の指導案作成の提出、また作成した指導案に基づいた模擬授業を実施する。遅刻は原則認めない（教育実習先に迷惑をかけない観点から、本学授業でも遅刻を認めないとする）。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

現在高野山高校の教諭（宗教科主任）である教員が、その経験を活かして実際の授業（宗教）について解説し、机上でなく実際の指導案作成法を教授すると共に、実際の授業展開を教育実習に向けて指導する。

科目名	国語科教育法 I							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G2-20-219	実務経験の有無	有	関連DP	-	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

授業の到達目標

国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

授業計画

1. 国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
2. 中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
3. 高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
4. 高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
5. 学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
6. 教材研究の方法と指導案の作成方法（1）外山滋比古『知的創造のヒント（1）』
7. 教材研究の方法と指導案の作成方法（2）外山滋比古『知的創造のヒント（2）』
8. 教材研究の方法と指導案の作成方法（3）古文『十訓抄』一顯宗といふ笛吹き一
9. 教材研究の方法と指導案の作成方法（4）古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
10. 教材研究の方法と指導案の作成方法漢文「返り点のつけかた」
11. 国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
12. 国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
13. 教員による実践授業（1）現代文
14. 教員による実践授業（2）古文
15. 総括講義国語科の授業の必要性など定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45～60分）

テキスト

①現代の国語（第一学習社）②新編言語文化（第一学習社）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等

国語科教育研究（学芸図書）

学生に対する評価

発表（50%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) (B) にやや劣るもの。
 (B) (S) ①②③の一部でも欠けているもの。
 (A) (S) にやや不十分な点があるもの。
 (S) 国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校で18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順や授業方法など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅱ						学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木清久
ナンバリング	G2-20-220	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

毎時間1名による模擬授業(50分)とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導(40分)。怠惰のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。

授業の到達目標

実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

授業計画

1. ガイダンス(模擬授業の意義、指導案の目的と意義)
2. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
3. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
4. 古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
5. 古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
6. 古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
7. 古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
8. 高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
9. 高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
10. 高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
11. 漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
12. 古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
13. 国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
14. 現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
15. 古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。

準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく(45~60分)

テキスト

国語総合(第一学習社)

参考書・参考資料等

①現代の国語(第一学習社) ②新編言語文化(第一学習社) ③『高等学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省・教育出版)

学生に対する評価

定期試験(50%)とレポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)(B)にやや劣るもの。
 (B)(S)①②③の一部でも欠けているもの。
 (A)(S)にやや不十分な点があるもの。
 (S)国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校教諭として18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法や各単元ごとの学習指導案の作成手順など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G3-20-221	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

教壇に立つて授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。また、学習指導要領が改訂され、今後の国語教育は大きく変わっていく。本講義では、まず学習指導要領改訂のポイントを理解し、理想的な国語科教員のイメージと、今後求められる国語教育のあり方を考える。次に、「現代の国語」（現代文）、「言語文化」（古文）からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上を目指す。

授業の到達目標

現代文と古文の教材の指導法を習得し、実践できるようになる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 『中学校学習指導要領 国語』の研究①—国語を学ぶ意味—
3. 『中学校学習指導要領 国語』の研究②—現代文と古文から何を学ぶのか—
4. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究①—中学校「国語」との共通点—
5. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究②—中学校「国語」との違い—
6. 高等学校「現代の国語」における教材研究の方法
7. 高等学校「現代の国語」における学習指導案の作成方法
8. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—教材研究の観点から—
9. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—学習指導案作成の視点から—
10. 高等学校「言語文化」における教材研究の方法
11. 高等学校「言語文化」における学習指導案の作成方法
12. 高等学校「言語文化」の模擬授業—教材研究の視点から—
13. 高等学校「言語文化」の模擬授業—学習指導案作成の視点から—
14. 文学史の知識とその活用法
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲について自身で調べ(60分)、事後学修として講義内容をまとめておくこと(90分)。模擬授業の準備を含む。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

糸井通浩・植山俊宏編『国語教育を学ぶ人のために』(世界思想社、1995年) 古田尚行『国語の授業の作り方 はじめての授業マニュアル』(文学通信、2018年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

模擬授業(60%)、不定期に実施する小テストならびに小レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 国語を学ぶことについて、その意義を理解している。
 (B) 理想的な国語科教員像を提示できている。
 (A) 基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができています。
 (S) 基礎学力があり、学習指導案に沿ってわかりやすい授業ができています。

課題に対するフィードバックの方法

毎回討議を重ね、講義後、個別に質問を受け付ける。

その他

受講は国語の教員免許取得を目指す学生に限る。5分の1(3回)以上の欠席があった場合、成績は評価しない。

科目名	国語科教育法Ⅳ							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G3-20-222	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

基礎的な国語力を養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを体験する。

授業の到達目標

基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。教壇に立つための基盤をつくる。

授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
2. 評論文の教材研究の方法について解説する。
3. 評論文の指導案作成の方法について講義する。
4. 評論文の模擬授業と授業評価を行う。
5. 小説を教材研究の視点から考察する。
6. 小説を学習指導案作成の視点から考察する。
7. 小説の模擬授業と授業評価を行う。
8. 古文を教材研究の視点から考察する。
9. 古文を学習指導案作成の視点から考察する。
10. 古文の模擬授業と授業評価を行う。
11. 漢文を教材研究の視点から考察する。
12. 漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
13. 漢文の模擬授業と授業評価を行う。
14. 現代文を学ぶ意味について考える。
15. 古典を学ぶ意味について考える。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

教材研究（60分） 指導案作成（30分）

テキスト

使用しない。中学・高校の国語科教科書が採用している作品を用意して配布する。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価

教材研究（25%）、指導案作成（25%）、模擬授業（25%）、定期試験（25%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができています。
- (B) 上記について、臨機応変な対応ができる。
- (A) 上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
- (S) 上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

課題に対するフィードバックの方法

意見・質問などについては、授業内で対応する。 オフィス・アワーでも対応する。

その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高等学校・高等専門学校における国語科の実務経験がある担当教員が、教室における生徒の反応など、想定される事態について、具体的な事例を挙げて紹介する。

科目名	教育実習の研究							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木	
ナンバリング	G3-17-223	実務経験の有無	無	関連DP	-	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

授業の到達目標

教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

授業計画

1. 教育実習の構造と意義 (担当：鈴木)
2. 実習生の心得 (担当：鈴木)
3. 授業観察のポイント (担当：鈴木)
4. 実習日誌の作成のポイント (担当：鈴木)
5. 実習日誌作成演習 (担当：鈴木)
6. 教育実習
7. 教育実習
8. 教育実習
9. 教育実習
10. 教育実習
11. 実習内容の振り返り (実習生発表) 1 (担当：佐々木)
12. 実習内容の振り返り (実習生発表) 2 (担当：佐々木)
13. 実習生ディスカッション (担当：佐々木)
14. 教員免許取得までに必要な知識・技能 (担当：佐々木)
15. 教育実習での学びを踏まえた教員像 (担当：佐々木)

準備学習(予習・復習)・時間

『教育実習の常識』の該当箇所を事前に研究しておく(予習)。講義内容を自ら振り返り、教育実習への準備においては実習での学習目標を明確化し、事後楽手においては、体験の深化・共有を図る(復習)(計90分以上)。

テキスト

教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(40%)、授業における発表(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業参加において、授業技術を観察できる。
- (B) 授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。
- (A) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。
- (S) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

今年度の教育実習Iに行く学生は、必ず「教育実習の研究」を受講すること。

科目名	教職実践演習(中・高)						学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	鈴木・佐々木
ナンバリング	G4-17-224	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

4年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

授業の到達目標

4年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。

授業計画

1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3. 教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4. 生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5. 生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6. 教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7. 自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰ－進学希望生徒の場合－
9. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ－就職希望生徒の場合－
10. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ－進路未決定生徒の場合－
11. ミニ模擬授業Ⅰ－授業方法と技術－
12. ミニ模擬授業Ⅰ－授業構成と評価－
13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

準備学習(予習・復習)・時間

配布資料を読んでおく。事前に配布したディスカッションや課題の発表の準備をする。(100分) 授業で用いた資料やディスカッションの内容などをノートに整理しておく。(80分)

テキスト

プリント等、資料を配布する。

参考書・参考資料等

①原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版②伊藤一雄他著『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版 2006, 4

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (40%)、授業参加の積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教員として必要な最低の実務能力が身につけているか。
- (B) 教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
- (A) 生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
- (S) 進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや指導案等は添削して返却する。

その他

積極的な発言を求める。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

18年間の公立高等学校教諭の経験から、学校生活（教科の授業・特別活動の指導・生徒指導・進路指導など）、教師として働くということをより具体的に理解する授業にするために、ICT機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングを基本に授業を展開していく。

科目名	空海の思想入門B							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	G1-01-225	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。そのため、大師の生涯や思想、大師への信仰を知ることが本学での学びの基本となる。本講義では、専門課程を理解する上で必要となる、基本的な弘法大師の事跡を学ぶことを目的とし、大師の生涯や思想、大師が開創した高野山などについて講義する。

授業の到達目標

・弘法大師の思想を学ぶことを通じて、密教学の基礎を涵養する。 ・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようにになる。 ・弘法大師が開創した高野山とはいかなる場所かを理解し、説明できるようにになる。

授業計画

1. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (1) 一 生誕～入唐一
2. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (2) 一 入唐～帰国一
3. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (3) 一 帰国後の活動～入定一
4. 弘法大師空海の著作
5. 弘法大師空海の教え (1) 一 即身成仏思想解説一
6. 弘法大師空海の教え (2) 一 十住心思想解説一
7. 弘法大師空海の教え (3) 一 法身説法解説一
8. 真言密教の教え—曼荼羅解説—
9. 弘法大師信仰 (1) 一 入定信仰一
10. 弘法大師信仰 (2) 一 全国に残る大師信仰一
11. 高野山の歴史と地理
12. 高野山の諸堂解説
13. 高野山の年中行事と学道
14. 真言密教の教学—三密行の解説—
15. 高野山の町石道

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、テキストを読んでおくこと (30分)。 ・事後学習として、講義内容とテキスト・配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること (60分)。

テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』(セルバ出版、2018年) 上記テキストを講義初日に講師が一括で用意する。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

・松長有慶『高野山』(岩波書店、2014年) ・川崎一洋『弘法大師空海と出会う』(岩波書店、2016年) ・その他は、講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、テキストの理解度 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な弘法大師の生涯と思想の内容を理解できる。
 (B) 基本的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
 (A) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
 (S) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師の生涯や思想、その信仰などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	サンスクリット語 I B / サンスクリット語 B							学期	通年
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M1-07-226	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業の到達目標

サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。①
3. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。②
4. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。③
5. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8. 短文読解力を身に着ける。①
9. 短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③

【後期】

1. 原典翻訳④
2. 原典翻訳⑤
3. 原典翻訳⑥
4. 原典翻訳⑦
5. 原典翻訳⑧
6. 原典翻訳⑨
7. 原典翻訳⑩
8. 原典翻訳⑪
9. 原典翻訳⑫
10. 原典翻訳⑬
11. 原典翻訳⑭
12. 原典翻訳⑮
13. 原典翻訳⑯
14. 原典翻訳⑰
15. 原典翻訳⑱、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60分) 事後学修として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。(60分)

テキスト

担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波全書)

学生に対する評価

学期末(前期・後期)の試験(80%)と、授業態度(20%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) Sandhi 法則を理解し、結合文字を分解できること。
- (B) 音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
- (A) 簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
- (S) 難解な仏教外文献を翻訳できること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	密教史概説 I C / 密教史概説 C							学期	前期
副題	インド・チベット密教史					授業方法	講義	担当者	奥山直司
ナンバリング	M2-01-227	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点を映像資料なども参考にしながら学ぶ。

授業の到達目標

上座部仏教、一般大乘仏教に対する密教の特色を説明できる。インド・チベット仏教における密教経典分類法を説明できる。インド・チベット密教史の大まかな流れを理解し、説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業概要説明
2. インド・チベット仏教における密教経典分類法
3. インド初期密教 萌芽から形成へ
4. インド中期密教 組織化の時代1：『大日経』の密教
5. インド中期密教 組織化の時代2：『金剛頂経』の密教
6. インド後期密教 新たな展開1：父タントラの密教
7. インド後期密教 新たな展開2：母タントラ・不ニタントラの密教
8. 古代チベット王国と仏教の伝来
9. 仏教国教化への道のり
10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11. 諸宗派の形成1：アティーシャとカーダム派、サキャ派
12. 諸宗派の形成2：カギュ派、ニンマ派
13. 諸宗派の形成3：ゲルク派
14. ゲルク派の覇権
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考資料の次回の授業範囲を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートを読み直し、必要事項を記憶すること(90分)。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店、1969年 ②立川武蔵・頼富本宏編『インド密教』春秋社、1999年 ③立川武蔵・頼富本宏編『チベット密教』春秋社、2005年

学生に対する評価

課題レポート(20%)、期末試験(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教、大乘仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
 (B) インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
 (A) チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
 (S) インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	仏教史概説 I C / 仏教史概説C							学期	前期
副題	インド仏教史				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-228	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史の変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

授業の到達目標

仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史の変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

授業計画

1. 導入：仏教が興起する以前のインド
2. パラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3. ヴェーダの思想的特徴
4. 古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5. 古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6. 反ヴェーダ思想（六師外道）
7. ジャイナ教の思想
8. 釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9. 初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 大乘諸派の（全般）
12. 『般若経』の特徴
13. 『法華経』の特徴
14. 『華嚴経』の特徴
15. 初期仏教と大乘の思想的相違点

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60分）

テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

参考書・参考資料等

前谷彰（恵紹）著『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』講談社

学生に対する評価

期末試験（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
- (B) ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
- (A) (B) の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
- (S) (B)・(A) の理解に加え、初期仏教と大乘の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教史概説ⅡD／仏教史概説D						学期	後期	
副題	東アジア仏教史				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M2-02-229	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教史の展開において、中国仏教史からはじめ、日本における仏教伝来期から奈良・平安・鎌倉と展開する仏教思想の特徴を概説し、特に平安期における最澄と空海の思想的相違点を詳しく概説して行く。

授業の到達目標

仏教史の中でも特に日本仏教の特徴について概説する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 中国仏教の特徴（特に教相判釈を中心として）
3. 大乘非仏説論（富永仲基の『出定後語』を中心として）
4. 仏教伝来期の日本の様相
5. 奈良（南都）仏教の特徴について
6. 平安仏教の特徴（総説）
7. 最澄の思想
8. 空海の思想①（『十住心論』）
9. 空海の思想②（『即身成仏義』）
10. 空海の思想③（『般若心経秘鍵』）
11. 鎌倉仏教（総説）
12. 真言宗・浄土（浄土真宗）の思想的相違点
13. 禅宗（特に曹洞宗）の思想的特徴
14. 菩提志向・現世利益
15. 仏教思想の普遍性について

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことを復習する（60分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

担当者作成のテキストをコピーして配布する。

学生に対する評価

授業参加への積極性（30%）、学期末の試験（70%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 (B) 日本仏教史の特徴を菩提志向と救済論的な側面から分析する能力を有すること。
 (A) 仏教の歴史を的展開を時代ごとの思想的特徴を踏まえて説明できる。
 (S) 仏教思想を現代の諸問題に 응용して、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。

科目名	祖典講読 I C						学期	通年	
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-230	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】		【後期】	
1. 講義の進め方とテキストの紹介		1. 概論と前期の復習	
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—		2. 『即身成仏義』を読む	(11) 「六大能生」①
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』		3. " "	(12) 「六大能生」②
4. 四声読み		4. " "	(13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答		5. " "	(14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛頂経』		6. " "	(15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種
7. " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』		智印	
8. " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』		7. " "	(16) 「三密加持速疾類」① 法仏の三密と三密
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)		行	
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)		8. " "	(17) 「三密加持速疾類」② 『五秘密機軸』
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)		9. " "	(18) 「三密加持速疾類」③ 加と持
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)		10. " "	(19) 「重重帝網名即身」
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大		11. " "	(20) 「法然具足薩般若」
の秘義 (前編)		12. " "	(21) 「心敬心王過利慶」
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大		13. " "	(22) 「各具五智無際智」
の秘義 (後編)		14. " "	(23) 「円鏡力故実覺智」
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴		15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か	

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←難波サテライト事務室で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末レポート (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎講義末に質疑応答を設け、質問や疑問に対応する。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読 I C1						学期	前期	
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-231	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』
7. " (3) 二経一論八箇の証文② 『大日経』
8. " (4) 二経一論八箇の証文③ 『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌（前編）
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌（後編）
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌（前編）
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌（後編）
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義（前編）
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義（後編）
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと（60分）。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60分）。・その他の学習については講義内で指示する（60分）。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部（←難波サテライト事務室で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。
 (B)「発端問答」と「二頌八句」を暗誦でき、「二経一論八箇の証文」の内容を把握している。
 (A)「発端問答」と「二頌八句」の暗誦、「二経一論八箇の証文」の内容把握に加えて、基本的な用語を把握している。
 (S)上記(C)～(A)を踏まえ、即身成仏思想の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎講義末に質疑応答を設け、質問や疑問に対応する。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読Ⅱ C2						学期	後期	
副題	『即身成仏義』を読む 2				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-232	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3. " (12) 「六大能生」②
4. " (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. " (14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (16) 「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8. " (17) 「三密加持速疾顕」② 『五秘密儀軌』
9. " (18) 「三密加持速疾顕」③ 加と持
10. " (19) 「重重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩般若」
12. " (21) 「心教心王過利塵」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末レポート (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎講義末に質疑応答を設け、質問や疑問に対応する。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡE							学期	通年
副題	『般若心経秘鍵』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-233	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

真言宗はもとより、さまざまな宗派で盛んに読誦されている『般若心経』。晩年の弘法大師・空海が、この『般若心経』に、密教の立場から独自の解釈を示した『般若心経秘鍵』を読みながら、弘法大師の思想、大乗仏教の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 『般若心経秘鍵』とは何か
3. 『般若心経秘鍵』の著作年代を考える
4. 弘法大師と『般若心経』
5. 『般若心経』とはどのような経典か①
6. 『般若心経』とはどのような経典か②
7. 『般若心経』を読む①
8. 『般若心経』を読む②
9. 『般若心経』を読む③
10. 『秘鍵』講読1 祈請の煩悩 一文殊菩薩、般若菩薩とは誰か
11. 『秘鍵』講読2 仏法の大綱、心経の大意 一小乗、大乘、密教
12. 『秘鍵』講読3 造論の趣旨、余義の問答
13. 『秘鍵』講読4 心経の題釈 一法曼荼羅とは何か
14. 『秘鍵』講読5 心経の要目
15. 試験と、試験問題の解説

【後期】

1. 『秘鍵』講読6 心経の五分、入法総通分
2. 弘法大師の十住心思想①
3. 弘法大師の十住心思想②
4. 『秘鍵』講読7 分別諸乗分①(無碍の建立)
5. 『秘鍵』講読8 分別諸乗分②(対立の絶離)
6. 『秘鍵』講読9 分別諸乗分③(諸法の相状)
7. 『秘鍵』講読10 分別諸乗分④(声聞と縁覚)
8. 『秘鍵』講読12 分別諸乗分⑤(一道の妙旨、行人徳益分)
9. 『秘鍵』講読13 総持明分、秘藏真言分
10. 密教の言語論①
11. 密教の言語論②
12. 『秘鍵』講読14 問答決疑分 一顯教と密教
13. 『秘鍵』講読15 讚嘆流通分、上表文
14. 総括
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十巻章』(高野山大学出版部)所収の『般若心経秘鍵』 ※注釈書などはコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『空海 般若心経の秘密を読み解く(増補版)』(春秋社) 高野山真言宗布教研究所『般若心経秘鍵への招待』(法蔵館) 渡辺章悟『般若心経 テキスト・思想・文化』 など

学生に対する評価

試験・レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教および密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。 毎回、講義のはじめに『般若心経秘鍵』の素読をおこないます。

科目名	祖典講読ⅢE1						学期	前期	
副題	『般若心経秘鍵』を読む1				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-234	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗はもとより、さまざまな宗派で盛んに読誦されている『般若心経』。晩年の弘法大師・空海が、この『般若心経』に、密教の立場から独自の解釈を示した『般若心経秘鍵』を読みながら、弘法大師の思想、大乗仏教の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『般若心経秘鍵』とは何か
3. 『般若心経秘鍵』の著作年代を考える
4. 弘法大師と『般若心経』
5. 『般若心経』とはどのような経典か①
6. 『般若心経』とはどのような経典か②
7. 『般若心経』を読む①
8. 『般若心経』を読む②
9. 『般若心経』を読む③
10. 『秘鍵』講読1 祈請の偈頌 一文殊菩薩、般若菩薩とは誰か
11. 『秘鍵』講読2 仏法の大綱、心経の大意 一小乗、大乗、密教
12. 『秘鍵』講読3 造論の趣旨、余義の問答
13. 『秘鍵』講読4 心経の題釈 一法曼荼羅とは何か
14. 『秘鍵』講読5 心経の要目
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)所収の『般若心経秘鍵』 ※注釈書などはコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『空海 般若心経の秘密を読み解く(増補版)』(春秋社) 高野山真言宗布教研究所『般若心経秘鍵への招待』(法蔵館) 渡辺章悟『般若心経 テキスト・思想・文化』 など

学生に対する評価

試験・レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教および密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。毎回、講義のはじめに『般若心経秘鍵』の素読をおこないます。

科目名	祖典講読ⅣE2						学期	後期	
副題	『般若心経秘鍵』を読む2				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-235	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗はもとより、さまざまな宗派で盛んに読誦されている『般若心経』。晩年の弘法大師・空海が、この『般若心経』に、密教の立場から独自の解釈を示した『般若心経秘鍵』を読みながら、弘法大師の思想、大乗仏教の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 『秘鍵』講読 6 心経の五分、人法総通分
2. 弘法大師の十住心思想①
3. 弘法大師の十住心思想②
4. 『秘鍵』講読 7 分別諸乗分①（無碍の建立）
5. 『秘鍵』講読 8 分別諸乗分②（対立の絶離）
6. 『秘鍵』講読 9 分別諸乗分③（諸法の相状）
7. 『秘鍵』講読 10 分別諸乗分④（声聞と縁覚）
8. 『秘鍵』講読 12 分別諸乗分⑤（一道の妙旨）、行人徳益分
9. 『秘鍵』講読 13 総持明分、秘蔵真言分
10. 密教の言語論①
11. 密教の言語論②
12. 『秘鍵』講読 14 問答決疑分 一顕教と密教
13. 『秘鍵』講読 15 讃嘆流通分、上表文
14. 総括
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『般若心経秘鍵』 ※注釈書などはコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『空海 般若心経の秘密を読み解く（増補版）』（春秋社） 高野山真言宗布教研究所『般若心経秘鍵への招待』（法蔵館） 渡辺章悟『般若心経 テキスト・思想・文化』 など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教および密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。毎回、講義のはじめに『般若心経秘鍵』の素読をおこないます。

科目名	密教学特殊講義D						学期	前期	
副題	空海書学 A-1				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	M3-06-236	実務経験の有無	有	関連DP	2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本の漢字の伝来において、写経は非常に大きな意味合いを占める。また日本の書聖空海の思想には、密教を含む東洋思想が原点である。この東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論と実践の両面から焦点を当てる。・授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達しない。自宅でも筆を持つよう心掛けてほしい。

授業の到達目標

漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書及び写経を通した密教・仏教の歴史的認識と写経作品の完成。

授業計画

1. ガイダンス並びに文房四宝概説
2. 臨：顔真卿「多寶塔碑」① 理：提筆と按筆
3. 臨：顔真卿「多寶塔碑」② 理：初唐の四大家と顔真卿
4. 臨：顔真卿「多寶塔碑」③ 理：顔真卿の書と時代
5. 臨：顔真卿「多寶塔碑」④ 理：書と道教の周辺
6. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」① 理：褚遂良とその時代
7. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」② 理：法帖とコピーの違い
8. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」③ 理：王羲之からの流れ
9. 臨：褚遂良「雁塔聖教序」④ 理：「雁塔聖教序」の結構と章法
10. 顔法と褚法の比較研究
11. 自選の法帖を徹底臨書①
12. 自選の法帖を徹底臨書②
13. 写経① 理：日中の心経比較
14. 写経② 理：異体字を考える
15. 写経③ 理：願文の書き方

準備学習(予習・復習)・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180分)

テキスト

・中国法書選 40 顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」；二玄社・書道字典を持っている方が望ましい。・写経セット [LA26-59] を購入の事。*その他、必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

参考書・参考資料等

①『説文解字』（中華書局等）②『聾瞽指帰』、『篆隸万象名義』等（高野山大学蔵）③『新書源』（二玄社）等々

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）・基本的に作品による評価（素点）。欠席3点、遅刻1点を素点よりその回数分を引く。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 筆順を正しく理解する。
- (B) 旧漢字を正しく理解し、細かい部分まで理解した臨摹ができる。
- (A) 臨摹を基にしたレベルの高い写経の創作ができる。
- (S) 尚古思想での願文を含めた、非常に高いレベルでの写経の創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・使用する文房四宝はガイダンス時に説明する。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。・授業以外での個々の自主練習と、自主的に展覧会を巡って学んで来る事は評価に大きく左右される。・基本、本学学部生、大学院生のみ受講可。卒業生は、許可した者のみ可とする。・2回目の受講生は、希望を相談の上、別課題を出し指導する。・夏休みの課題として、写経一巻を課す。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校書道教員及び芸術系大学院講師として、勤務経験を持つ教員がその経験を活かして「書とは何か？」の原点に立ち返り講じ、実技指導する。

科目名	密教学特殊講義F							学期	前期
副題	密教図像学を学ぶ。					授業方法	講義	担当者	松長潤慶
ナンバリング	M3-01-237	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュパナヨーガヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める

授業の到達目標

密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経 前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経 後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の種類）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（密教経典講読）
13. 図像資料講読演習（密教経典講読）
14. 図像資料講読演習（密教経典講読）
15. 図像資料講読演習（密教経典講読）

準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、授業後の復習が望ましい。約1時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

発表、およびレポート(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える。
- (B) 密教尊像に関する知識を得る。
- (A) 密教図像に関する資料を扱える。
- (S) 密教図像に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に確認する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断するレポート(60%)、授業参加の積極性(30%)、ノート作成(10%)

科目名	密教学特殊講義G						学期	前期	
副題	空海書学B-1				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	M3-01-238	実務経験の有無	有	関連DP	2,4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

・密教学特殊講義Dの受講修了者（学外書道展出品者）が次のステップとして学ぶ授業である。・漢代隸書を通して理論と実践の双方から焦点を当てる。

授業の到達目標

・漢字に更なる興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識。・自身で選んだ漢文や漢詩の作品を全紙にて創作する。

授業計画

1. ガイダンス並びに文房四宝、漢字の歴史
2. 臨：「禮器碑」① 理：圓筆と方筆
3. 臨：「禮器碑」② 理：古隸と八分
4. 臨：「禮器碑」③ 理：提筆と按筆
5. 臨：「禮器碑」④ 理：「内柔外剛」と「内剛外柔」
6. 臨：自身で選んだもの① 理：篆書から隸書へ
7. 臨：自身で選んだもの② 理：刻意の表現
8. 臨：自身で選んだもの③ 理：隸書の法帖比較
9. 臨：自身で選んだもの④ 理：古と今、質と文
10. 隸書の書き分け①
11. 隸書の書き分け②
12. 自選の法帖を徹底臨書
13. 創作① 理：書の原点は写経
14. 創作② 理：正・通・俗
15. 創作③ 理：創作作品の合評

準備学習(予習・復習)・時間

毎時、課題の反切作品を仕上げてくる。(90分以上)

テキスト

中国法書選5 「禮器碑」は必須。その他中国法書選3 「石門頌」、中国法書選8 「曹全碑」、中国法書選9 「張遷碑」(いずれも二玄社)のうちより2種購入の事。[その他の書体を希望する場合は、相談の上決定する。] *このクラスは字書を必ず持参すること。

参考書・参考資料等

・「説文解字」(中華書局)、書体シリーズ(1) 楷書百科 (芸術新聞社)・その他必要に応じて個々に指示をしたり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

基本的に作品による評価(素点)。欠席3点、遅刻1点を回数で素点より引く。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の字形と基本的な筆使いが一応できる。
 (B) 法帖の特徴を細かく分析し、背臨を経て、発表できる作品を仕上げるができる。
 (A) 尚古思想を根拠にした落款を含めたレベルの高い創作ができる。
 (S) 独自の落款、跋文を研究し、自身が学ぶ臨書の特徴を生かした非常にレベルの高い作品創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。・できるだけ自身で展覧会を巡り学んで来る。・受講生は密教学特殊講義Dの修了者に限る。また当受講生は、密教学特殊講義Dとの重複はできない。・夏休みの課題として創作作品が課される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校書道教員及び芸術系大学院講師として、勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして「尚古思想」の原点に立ち返り講じ、指導する。

科目名	仏教学特殊講義C							学期	前期
副題	心とはなにか I					授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	M3-02-239	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 心について—ことばの多義性—
3. 心について—各宗教の思想—
4. 心について—現代の場合—
5. 心について—仏教の思想—
6. 仏教について—歴史的多様性—
7. 仏教について—地域的多様性—
8. ゴータマ・ブッダ—苦の自覚—
9. ゴータマ・ブッダ—苦からの解放—
10. ゴータマ・ブッダ—直弟子たち—
11. 初期仏教経典—釈迦の直説は現存するか—
12. 最古層の仏典—心への配慮—
13. 最古層の仏典—執着と煩惱—
14. 初期仏教—五蘊、心・意・識—
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにか—仏教の探究に学ぶ—』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、
- ②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、
- ③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、
- ④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
- (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
- (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
- (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学特殊講義						学期	後期	
副題	日本仏教史特殊研究				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-02-240	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本への仏教の伝来と受容について、歴史学の視点からその変遷を概観する。日本における仏教の受容過程は、国家や社会のあゆみとも密接に関連している。そうした背景をふまえて、仏教の受容と展開から日本の歴史をたどる。また、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探究する。

授業の到達目標

①日本への仏教の伝来と受容について、当時の社会背景をふまえて理解することができる。②日本における仏教の受容過程を理解し、日本人の心のありようの変遷について、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画

1. 仏教の伝来—6世紀の日本と東アジア—
2. 「国家仏教」の成立—律令国家成立期の仏教—
3. 「僧尼令」と行基の活動—国家が僧尼に求めたこと—
4. 国分寺建立の背景—疫病流行と聖武天皇の祈り—
5. 大仏開眼—華嚴経世界の実現にむけて—
6. 尼天皇の誕生—神仏習合思想の芽生え—
7. 桓武天皇と仏教—怨霊の救済を求めて—
8. 最澄と日本天台宗—宗派仏教の成立—
9. 空海と真言密教—「日本仏教」の成立—
10. 密教修法の隆盛—あいつぐ政争と貴族の祈り—
11. 末法の到来—極楽浄土へのあこがれ—
12. 来世救済への願い—法然と親鸞—
13. 現世の肯定とその克服—日蓮・栄西と道元—
14. 日本的美意識の源流—東山文化と禅の文化—
15. 隠元の来日と黄檗文化—近世仏教への新たな視点—

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにレジュメを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

①佛教学学会編『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年） ②家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年） その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業後のコメント（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本における仏教の受容と展開について理解することができる。
- (B) 日本における仏教の受容と展開について、当時の社会背景をふまえて理解することができる。
- (A) 日本における仏教の受容と展開から、日本人のメンタリティの変遷について考察することができる。
- (S) 日本における仏教の受容と展開から、日本人のメンタリティの変遷について考察し、これからの日本人のありようについて、自分なりの考えを説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

歴史学では、歴史の舞台となった現地を実際に訪れたり、同時に制作された遺物や作品などの「モノ資料」の現物を見ることも大切である。講義で紹介する遺跡や寺院、博物館・美術館などの展覧会に積極的に足を運んでもらいたい。

科目名	真言密教特殊講義L							学期	前期
副題	死後の世界を考える				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-02-241	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本人の死生観には、仏教が大きな影響を与えている。この講義では、仏教の文献を資料としながら、インド、中国、日本の人々がそれぞれ考えた死後の世界について紹介し、日本人の死生観の淵源を辿る。また、死者儀礼にも言及し、葬儀や年忌法要などのあり方や問題点についても考察する。

授業の到達目標

仏教が伝える死後の世界について考察し、日本人の死生観を習得する。

授業計画

1. 現代日本人の死生観
2. 西洋人の臨死体験
3. 東洋人の臨死体験
4. 閻魔さまとはどんな人か
5. 地獄とはどんなところか
6. 極楽とはどんなところか
7. 輪廻転生説のゆくえ
8. 釈尊の死生観
9. 中国で成立した『孟蘭盆経』
10. 古代日本人の死生観
11. 弘法大師・空海の死生観
12. 葬儀の意味
13. 戒名とは何か
14. なぜ年忌法要をおこなうのか
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、講義のテーマに関連する書籍やウェブサイトを目を通し、疑問点や問題点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、講義で紹介された書籍や論文などを目を通しておくこと。(90分)

テキスト

添田隆昭『大師はまだおわしますか』(高野山出版社)

参考書・参考資料等

梶山雄一『「さとり」と「廻向」』(人文書院) 梶山雄一『輪廻の思想』(人文書院) など

学生に対する評価

レポート(40%)、質問・発表(30%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教が伝える死後の世界、死生観について、基本的な事柄を説明することができる。
 (B) インド、中国、日本、それぞれにおいて考えられた死後の世界について説明できる。
 (A) 日本の仏教が伝える死後の世界について、インド、中国、日本の伝統的な死生観を参照しながら説明できる。
 (S) 日本人の死生観について理解し、現代社会におけるその問題点について意見を述べるすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。

その他

疑問に思うことや意見など、議論の材料を積極的に提起すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶であり、日ごろから檀信徒に接し、実際に葬儀や年忌法要に携わっている教員が、体験や実状を踏まえながら問題を提起し、日本人の死生観や死者儀礼について理解を深める。

科目名	密教学講読演習C						学期	前期	
副題	弘法大師伝を読む				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-01-242	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

元永元年（1118）成立の『高野大師御広伝』を読み解きながら、歴史学の視点から、弘法大師空海（774～835）の生涯について考察する。日本史上に足跡を残した人物のなかでも、弘法大師空海の伝記は群を抜いて多いとされるが、平安時代末期に編さんされた伝記は、空海を「弘法大師」として単に神格化するのではなく、典拠を明示し、編年にも配慮した学問的方法が採用されているとされる。『高野大師御広伝』の記述を歴史学的に検証しながら、空海の足跡の史的意義について考える。

授業の到達目標

①伝記史料の読み解き方を身につけることができる。②伝記を読み解くことで弘法大師空海の足跡を知り、その歴史的意義を理解する。③弘法大師空海の足跡とその歴史的意義を理解し、現代の諸課題に対応できる洞察力を身につける。

授業計画

1. 弘法大師空海の伝記について
2. 歴史資料としての伝記の読み解き方
3. 『高野大師御広伝』を読む①
4. 『高野大師御広伝』を読む②
5. 『高野大師御広伝』を読む③
6. 『高野大師御広伝』を読む④
7. 『高野大師御広伝』を読む⑤
8. 『高野大師御広伝』を読む⑥
9. 『高野大師御広伝』を読む⑦
10. 『高野大師御広伝』を読む⑧
11. 『高野大師御広伝』を読む⑨
12. 『高野大師御広伝』を読む⑩
13. 『高野大師御広伝』を読む⑪
14. 『高野大師御広伝』を読む⑫
15. 『高野大師御広伝』を読む⑬

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分）事後学修：授業内容について関心を持ったことがらや人物などについて調べる（60分）

テキスト

テキストとして『弘法大師伝全集 復刻 第一巻』（ピタカ、1977年。初版は1935年）所収の『高野大師御広伝』を用いるが、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993年）②吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、講談社、2018年）その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 弘法大師空海の伝記を知り、伝記史料の読み解き方を理解できる。
 (B) 弘法大師空海の生涯について、時代背景を理解したうえで説明できる。
 (A) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義を説明できる。
 (S) 弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義をふまえ、現代の諸課題にどのように活かすことができるかを考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の授業において、弘法大師空海ゆかりの地などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、さらに理解を深めてもらいたい。

科目名	密教学講読演習G							学期	後期
副題	密教画像学を学ぶ					授業方法	講義	担当者	松長潤慶
ナンバリング	M3-01-243	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教学講読演習Fで学んだ知識を基本とし、図像学的見地から各種曼荼羅の尊像の成立に関して様々な角度から比較研究を行う。本授業では、前期で行った図像資料講読演習を基礎とし、曼荼羅に登場する尊格についての譜系を総合的に学習する。そのため、基礎知識として前期の授業での講読演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。

授業の到達目標

各種曼荼羅における密教尊像の基本構成を学習し、図像学の立場から密教の流伝を学ぶことを目的とする。

授業計画

1. 概論(講義の進め方等)
2. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (仏の種類)
3. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (仏の展開)
4. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (密教仏の種類)
5. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (密教仏の展開)
6. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (曼荼羅諸尊の種類)
7. 曼荼羅尊像に関する基礎知識 (曼荼羅諸尊の展開)
8. 密教の流伝に関する基礎知識 (初期密教以前の密教要素)
9. 密教の流伝に関する基礎知識 (初期密教)
10. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 前期)
11. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 前期)
12. 密教の流伝に関する基礎知識 (中期密教 後期)
13. 密教の流伝に関する基礎知識 (後期密教 前期)
14. 密教の流伝に関する基礎知識 (後期密教 後期)
15. 密教の流伝の総合的評価

準備学習(予習・復習)・時間

予習の必要はないが、授業後に復習することが望ましい。約2時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (30%)、ノート作成 (10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅に関する基礎知識を習得する
- (B) 密教尊像に関する基礎知識を習得する
- (A) 尊像の流伝に関して理解する
- (S) 密教図像に関して体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に行う。

その他

科目名	仏教学講読演習C							学期	後期
副題	心とはなにかⅡ					授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	M3-02-244	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2. アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩惱地法・大不善地法－
6. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩惱地法・不定地法－
7. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8. 大乘仏教－大乘経典と大乘論師－
9. 大乘仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10. 大乘仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11. 大乘仏教－転識得智－
12. 大乘仏教－仏性・如来蔵－
13. 大乘仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14. 密教－『大日経』『住心品』－
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにかー仏教の探究に学ぶー』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乘五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
 (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
 (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
 (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学講読演習H						学期	後期	
副題	『感身学正記』と叡尊関係史料を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-245	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』と、その他の叡尊関係史料を統解する。とくに、本年度は、演習中における質疑・討論を通して、弘安5年～6年（1281～82）に叡尊が畿内で展開した宗教活動や、叡尊と貴族社会との関係について理解を深める。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで、研究能力を練磨することが課題となる。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、当然ながら進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

①鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。②鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。③仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む①（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む②（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む③（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む④（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む⑤（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む⑥（弘安5年条）
- 『感身学正記』を読む⑦（弘安6年条）
- 『感身学正記』を読む⑧（弘安6年条）
- 『感身学正記』を読む⑨（弘安6年条）
- 『感身学正記』を読む⑩（弘安6年条）
- 『感身学正記』を読む⑪（弘安6年条）
- 『感身学正記』を読む⑫（弘安6年条）
- 叡尊関係の史跡見学①
- 叡尊関係の史跡見学②

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学修として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること（120分）【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント（第1回の講義で配布する）。②受講生が作成する報告資料（成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること）③細川涼一『感身学正記』第2巻（平凡社東洋文庫、2020年）（書店で購入。必ず購入して講義に持参すること）

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959年）②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誠聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊（西大寺、1990年）③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』（奈良国立博物館、2001年）④松尾剛次編『戒戒の聖者 叡尊・忍性』（吉川弘文館、2004年）

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
 (B)『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
 (A)『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
 (S)『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスをを行なう。

その他

①本演習の水準は非常に高く、単位を必要とする受講生全員に報告義務を課すので、くれぐれも生半かな態度で受講しないこと。参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。②受講者は、企画科目の「古文書解読」を履修していなければ、内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を必ず履修しておくこと。③本演習では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である（土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	真言密教講読演習Ⅰ							学期	後期
副題	真言密教の儀礼の解説と体験				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M3-01-246	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行の解説だけでなく、実際に自ら体験する。

授業の到達目標

・真言密教における実践行を理解し、さらに実際に体験することで奥深い真言密教の世界にふれる。・真言密教の在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく理解する。

授業計画

1. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (1) —
2. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (2) —
3. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (3) —
4. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (4) —
5. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (5) —
6. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (6) —
7. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦 (7) —
8. 真言密教の写経—般若心経の写経体験—
9. 真言密教の荘嚴—仏具・衣体の解説—
10. 真言密教の瞑想法—解説と実修—
11. 真言密教と茶道—解説と喫茶—
12. 真言密教の祈願法—密教占星術解説—
13. 真言密教の葬制—古代～現代の日本における葬制解説—
14. 真言密教の回向法—十三仏信仰解説—
15. 巡礼・遍路—解説—

準備学習(予習・復習)・時間

- ・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること (30分)。
- ・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと (60分)。

テキスト

・『仏前勤行次第』(高野山出版社、1997年) ・坂田光全『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』(高野山出版、2016年) 上記テキストの入手方法については、講義初回に相談。・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義での実践行に参加する。
- (B) 講義での実践行を完遂できる。
- (A) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
- (S) 講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・実際に体験して学ぶこと (アクティブ・ラーニング) を中心にした講義である。・瞑想法実修の際は、動きやすい服装で行う。・別途、実修費を徴収する場合があります (数百円)。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	真言密教講読演習J							学期	後期
副題	四国遍路の歴史					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-247	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探る。また、四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などを学ぶ。

授業の到達目標

四国遍路の歴史や、四国八十八ヶ所の霊場の縁起などについて説明できるようになる。四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できるようになる。

授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の起源
3. 補陀落信仰、熊野信仰と四国霊場
4. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（古代・中世）
5. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世）
6. 四国霊場の確立①（澄禪の『日記』を読む）
7. 四国霊場の確立②（真念の業績・案内書の刊行）
8. 四国霊場の確立③（真念の業績・標石や辺路屋の建立）
9. 四国霊場の確立④（寂本の『霊場記』を読む）
10. 近代（明治から戦後）の四国遍路
11. 四国遍路の習俗
12. 四国に残る弘法大師の霊跡
13. 国霊場巡拝の作法
14. 現代の四国遍路と、実践へのアプローチ
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(30分) / 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

森正人『四国遍路 八十八ヶ所巡礼の歴史と文化』（中公新書）

参考書・参考資料等

愛媛大学四国遍路・世界の研究巡礼センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書） / 浅井証善『はじめての「四国遍路 88ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版） / 頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書） / 星野英紀・浅川泰宏『四国遍路 さまざまな折りの世界』 など

学生に対する評価

レポート（40%）、発表・質問（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
 (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
 (A) 四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
 (S) 四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、Eメールで受講者全員に回答と解説を提示する。

その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めする。疑問に思うことや意見など、議論の材料を積極的に提起すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	密教学演習H							学期	通年
副題	4 回生用(『性靈集』を読む)				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M4-25-248	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海の文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。空海の記事を読解するために必要な中国古典・仏典に関する知識、漢文法、難読字の読み方、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付ける。また、日本と中国、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。中国古典・仏典が空海の知識の源泉であることへの理解を深めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力、論文作成に必要な技術を修得する。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得している。 ○空海の文体の特徴を説明できる。 ○「典故を踏む」という技法を説明できる。 ○作者の心情を推し量ることができる。 ○論文を作成できる。

授業計画

【前期】

1. 110 「十喻詩并序」(1) 「吾観諸法譬如幻」を読む
2. 110 「十喻詩并序」(2) 「愆是衆縁所合成」を読む
3. 110 「十喻詩并序」(3) 「一箇無明諸行業」を読む
4. 110 「十喻詩并序」(4) 「不中不外感凡情」を読む
5. 110 「十喻詩并序」(5) 「三種世間能所造」を読む
6. 110 「十喻詩并序」(6) 「十方法界水蓮城」を読む
7. 110 「十喻詩并序」(7) 「非空非有越中道」を読む
8. 110 「十喻詩并序」(8) 「三諦宛然離像名」を読む
9. 110 「十喻詩并序」(9) 「春園桃李肉眼眩」を読む
10. 110 「十喻詩并序」(10) 「秋水桂光幾醉嬰」を読む
11. 110 「十喻詩并序」(11) 「楚沢行雲無復有」を読む
12. 110 「十喻詩并序」(12) 「洛川廻雪重還輕」を読む
13. 110 「十喻詩并序」(13) 「封著狂迷三界熾」を読む
14. 110 「十喻詩并序」(14) 「能観不取法身清」を読む
15. 110 「十喻詩并序」(15) 「咄哉迷者孰観此」を読む

【後期】

1. 110 「十喻詩并序」(16) 「超越還帰阿字宮」を読む
2. 110 「十喻詩并序」(17) 「遅遅春日風光動」を読む
3. 110 「十喻詩并序」(18) 「陽燄紛紛曠野飛」を読む
4. 110 「十喻詩并序」(19) 「挙体空空無所有」を読む
5. 110 「十喻詩并序」(20) 「狂児迷渴遂忘帰」を読む
6. 110 「十喻詩并序」(21) 「遠而以有近無物」を読む
7. 110 「十喻詩并序」(22) 「走馬流川何処依」を読む
8. 110 「十喻詩并序」(23) 「妄想談議仮名起」を読む
9. 110 「十喻詩并序」(24) 「丈夫美女滿城圍」を読む
10. 110 「十喻詩并序」(25) 「謂男謂女是迷思」を読む
11. 110 「十喻詩并序」(26) 「覺者賢人見則非」を読む
12. 110 「十喻詩并序」(27) 「五蘊皆空真実法」を読む
13. 110 「十喻詩并序」(28) 「四魔身仏亦夷希」を読む
14. 110 「十喻詩并序」(29) 「瑜伽境界特奇異」を読む
15. 110 「十喻詩并序」(30) 「法界炎光自相輝」を読む

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次の授業範囲を音読できるようにしておくこと(30分)。難解な語彙や漢文訓詁などについて理解しておくこと(30分)。出典を探し、原典を確認しておくこと(30分)。

テキスト

坂田光全『性靈集講義 平成新訂』(高山野山出版社)のコピーを配布する。 運徹『遍照發揮性靈集便蒙』(『真言宗全書』42巻所収)のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版 水野弘元『仏教の基礎知識』2009年新版 など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
 (B) 未知の語彙・語法・典故に気付く、調べることができる。
 (A) テキストの内容を理解し、説明できる。
 (S) 自分の考えを論理的に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。卒業論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。

科目名	密教学演習I						学期	通年	
副題	仏教・密教思想の研究手法				授業方法	演習	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-25-249	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

仏教や密教の教義・思想についてサンスクリット語やチベット語訳の原典を用いて卒業論文を作成することを希望する者を対象とする。研究テーマの決定や資料・先行研究の探し方なども指導するが、受講生が各自の研究テーマを定めた後は、卒業論文で扱う原典の読解とその考察を中心に行い、卒業論文を作成していく。

授業の到達目標

仏教・密教の原典の読解を通じて文献学的方法論を習得し、卒業論文を作成する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション(シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 研究テーマの設定と絞り込み
3. 資料の探し方：一次資料の設定と先行研究の調査
4. 学術論文の読み方：①先行研究の読解
5. 学術論文の読み方：②先行研究の整理
6. 原典資料の読み方：①辞書・文法書等、研究に必要な「工具」の概説
7. 原典資料の読み方：②原典資料の読解と考察の練習①
8. 原典資料の読み方：③原典資料の読解と考察の練習②
9. 原典資料の読み方：④原典資料の読解と考察の練習③
10. 原典資料の読み方：⑤原典資料の読解①
11. 原典資料の読み方：⑥原典資料の考察①
12. 原典資料の読み方：⑦原典資料の読解②
13. 原典資料の読み方：⑧原典資料の考察②
14. 研究テーマ発表/中間報告
15. 前期のまとめ

【後期】

1. 講義概要(授業の進め方等)
2. 原典資料の読み方：⑨原典資料の読解③
3. 原典資料の読み方：⑩原典資料の考察③
4. 原典資料の読み方：⑪原典資料の読解④
5. 原典資料の読み方：⑫原典資料の考察④
6. 原典資料の読み方：⑬原典資料の読解⑤
7. 原典資料の読み方：⑭原典資料の考察⑤
8. 論文指導：①
9. 論文指導：②
10. 論文指導：③
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表への講評①
14. 研究発表への講評②
15. 後期のまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、原典資料の読解箇所(の)の文法分析、現代語訳の作成(120分) 事後学修として、講義内容の要点をノートなどに整理すること(30分)、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと(30分)

テキスト

各自の研究テーマに応じてテキストを指定する。

参考書・参考資料等

①東郷雄二『打たれ強くなるための読書術』筑摩書房、2008、② 鈴木哲也『学術書を読む』京都大学学術出版会、2020、③河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶應義塾大学出版会、2018、④戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで—』NHK出版、2012。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性(40%)、発表内容(40%)、レポート(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学術論文を批判的に読み解き、要約することができる。
 (B) 一次資料を正確に読み解くことができる。
 (A) 一次資料と学術論文を用いて、自分の考えを文章化することができる。
 (S) 一次資料と学術論文を用いて、学術的な問題を論ずることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

サンスクリット語やチベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましい。担当回に無断で欠席した者は、失格とする。積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習L						学期	通年	
副題	3回生用(学術論文の書き方)				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-25-250	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

卒業論文の作成にむけたスキルを習得するための演習を行う。学術論文の書き方とそのルールを身につけ、卒業論文のテーマを模索し、研究課題を見出すことを目指す。前期は、学術論文を書くための基礎的なスキルを身につけることに主眼をおき、卒業論文のテーマについての方向性を模索する。後期は、先行研究を要約し、その成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションを図りながら、研究課題を見出すことに主眼をおく。

授業の到達目標

①学術論文を書くための基礎的なスキルを習得する。②卒業論文で取り組むテーマを模索し、研究課題を見出す。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介	1. 夏休みの成果の確認
2. 学問することのおもしろさ(講義)	2. 文献収集の調査報告①(発表)
3. 学術論文とレポート(講義)	3. 文献収集の調査報告②(発表)
4. 研究テーマと課題設定の方法(講義)	4. テキスト批評とは?—先行研究を批判的に検討するために—(講義)
5. 文献や資料のさがし方(講義)	5. テキスト批評の方法①(講義)
6. 文献表のつくり方(講義)	6. テキスト批評の方法②(講義)
7. 学術論文の構成とその内容①(講義)	7. テキスト批評の方法③(講義)
8. 学術論文の構成とその内容②(講義)	8. 先行研究を批判的に検討する①(発表)
9. 学術論文の構成とその内容③(講義)	9. 先行研究を批判的に検討する②(発表)
10. 引用のルール①(講義)	10. 先行研究を批判的に検討する③(発表)
11. 引用のルール②(講義)	11. 先行研究を批判的に検討する④(発表)
12. 注のつけかた(講義)	12. 先行研究を批判的に検討する⑤(発表)
13. 卒業論文を構想する①(発表)	13. 研究課題を構想する①(発表)
14. 卒業論文を構想する②(発表)	14. 研究課題を構想する②(発表)
15. 前期のまとめと後期にむけた取り組み(講義)	15. 卒業論文の作成にむけて(講義)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修: テキストを熟読し、疑問点などを整理しておくこと(60分) 事後学修: テキストや配布資料を再度熟読し、授業内容について整理しておくこと(90分)。

テキスト

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』(慶應義塾大学出版会、2021年。1000円+税) テキストは、大手書店やAmazonなどで入手しておくこと。

参考書・参考資料等

①慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員『アカデミック・スキルズ 学生による学生のためのダメレポート脱出法』(慶應義塾大学出版会、2017年。1200円+税) ②澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫、2015年。初版は1977年。940円+税)

学生に対する評価

①授業への参加度(60%)・発表内容(40%)によって評価する。②全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学術論文やレポートの書き方とそのルールを身につけることができる。
 (B) 学術論文の書き方やルールを理解し、その手続きによって研究テーマの方向性を模索できる。
 (A) 学術的な手続きによって研究テーマの方向性を模索し、関連する文献を収集することができる。
 (S) 研究テーマに関連する主要な先行研究について批判的に検討し、研究課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②意欲的に各自の興味・関心のあるテーマを模索し、研究課題を見出すこと。③プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、プレゼンテーションのための資料を作成すること。

科目名	心理学ⅠB						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-251	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。(その1) <感覚の仕組み>
4. 感覚と知覚について学ぶ。(その2) <知覚の仕組み>
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その1) <記憶の分類>
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <記憶の過程・長期記憶の種類>
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <脳と記憶について>
8. 学習について学ぶ。(その1) <古典的条件付け>
9. 学習について学ぶ。(その2) <道具的条件付け・学習と認知>
10. 学習について学ぶ。(その3) <学習と動機づけ>
11. 言語と思考について学ぶ。(その1) <言語の発達>
12. 言語と思考について学ぶ。(その2) <概念カテゴリー>
13. 言語と思考について学ぶ。(その3) <推論とイメージ思考>
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる(計90分以上)。

テキスト

梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子、森公美子編著『心理学概論』放送大学テキスト、2018年 斎藤 勇編、『図説心理学入門』誠信書房、2005年 梅本堯夫、大山正著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社、2015年

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
 (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
 (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
 (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場とした。

科目名	心理学ⅡB						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-252	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。〈動因とホメオスタシス〉
3. 動機づけと情動について学ぶ。〈誘因動機づけ〉
4. 動機づけと情動について学ぶ。〈学習と動機づけ〉
5. 性格理論を学ぶ。〈特性論と類型論〉
6. 性格理論を学ぶ。〈アイゼンクの性格理論〉
7. 性格理論を学ぶ。〈ビッグファイブ理論〉
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈ピアジェの発達理論〉
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈フロイトの心理性発達理論〉
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈エリクソンのライフサイクル理論〉
11. 対人関係の心理学を学ぶ。〈集団の機能〉
12. 対人関係の心理学を学ぶ。〈意思決定〉
13. 対人関係の心理学を学ぶ。〈社会的手抜き・集団規範〉
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

津太子、森公美子編著『心理学概論』、放送大学テキスト 斎藤 勇編 『図説心理学入門』 誠信書房、梅本堯夫、大山正著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
 (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
 (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。
 (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場とした。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅰ)/人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)						学期	後期	
副題	—				授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦	
ナンバリング	N2-10-253	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話し手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を実験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画

1. 講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2. 身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3. 身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4. 円坐の実習・由来について。講義と実習
5. 円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6. 円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7. ミニカウンセリング・トレーニング
8. ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9. ミニカウンセリングから「未二観」へ
10. 未二観と大乘仏教について講義と実習
11. 逐語録検討①：音韻
12. 逐語録検討②：間合い
13. 逐語録検討③：環境音
14. 他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15. 他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

日常生活の中間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分) どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目(「コミュニケーション演習Ⅱ」)を受講することが望ましい。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅱ)/人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	—				授業方法	演習	担当者	橋本久仁彦	
ナンバリング	N2-10-254	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話し手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を実験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画

1. 講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2. 身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3. 身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4. 円坐の実習・由来について。講義と実習
5. 円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6. 円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7. ミニカウンセリング・トレーニング
8. ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9. ミニカウンセリングから「未二観」へ
10. 未二観と大乘仏教について講義と実習
11. 逐語録検討①：音韻
12. 逐語録検討②：間合い
13. 逐語録検討③：環境音
14. 他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15. 他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

日常生活の中間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120分) どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目(「コミュニケーション演習Ⅱ」)を受講することが望ましい。

科目名	企画科目(発達心理学B)/人間学専門講義(発達心理学B)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	小林奈緒美	
ナンバリング	N2-10-255	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生涯発達の視点から、乳幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期の各時期における発達についての理解を深め、よりよい関わり方や支援のあり方について、臨床現場における事例を踏まえて学びを深めていく。

授業の到達目標

生涯発達の視点に基づいて、自分自身や他者に対する理解を深め、よりよい生き方や支援のあり方について探求することができる。

授業計画

1. 発達心理学とは
2. 遺伝と環境
3. 言語の発達
4. 認知の発達
5. 発達段階と発達課題（総論）
6. 乳児期の発達について
7. 幼児期の発達について
8. 児童期の発達について
9. 思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①
14. 発達障害とその支援②
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

今回の学習内容を予習し、キーワードについて調べる。各授業終了後、実施した講義の主旨やキーワードについて振り返る。

テキスト

関一夫・斎藤慈子（編）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018年

参考書・参考資料等

向田久美子（著）『発達心理学概論』放送大学教材、2019年

学生に対する評価

課題レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 人間の発達過程について、概要を理解できる。
- (B) 人間の発達過程のそれぞれの課題を考察できる。
- (A) 人間の発達過程における課題への援助のあり方について考察できる。
- (S) 生涯発達の観点に基づいて、人に対する理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

小児科心理士・スクールカウンセラーとして、日々の実践活動の経験を踏まえ、学生の方々が子どもの発達についての理解を深め、適切な支援を行っていけるように支援していく。また生涯にわたって発達する存在としての人間理解を深めていけるように、さまざまな理論や事例を通して学ぶ場を提供していく。

科目名	企画科目(家族心理学)／人間学専門講義(家族心理学)						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	小林奈緒美	
ナンバリング	N2-10-256	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

少子高齢化を迎え、変動する社会の中において、家族というものをどのようにとらえていくのか。社会的背景を踏まえつつ現代の家族の様相や抱える課題についてとらえ、事例を通して心理学的視点から考察し、社会的支援のあり方について探っていく。

授業の到達目標

変化する現代の家族についての理解を深め、抱える課題について考察することができる。家族へのよりよい社会的支援のあり方について探求する態度を培う。

授業計画

1. 家族とは何か
2. 恋愛・結婚の心理
3. 夫婦の発達について
4. 子どもが育つ場としての家族
5. システムとしての家族
6. 家族の抱える課題 不登校、いじめ
7. 家族の抱える課題 子どもの虐待
8. 母親の深層
9. 子育てにおける母親
10. 父親の深層
11. 子育てにおける父親
12. 兄弟・姉妹間の葛藤
13. 高齢者と家族
14. 家族と地域支援ネットワーク
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておく。事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認しておく。

テキスト

小田切紀子・野口康彦・青木聡(編著)『家族の心理』金剛出版(2017)

参考書・参考資料等

平木典子・中金洋子・藤田博康・野末武義(共著)『家族の心理 第2版』サイエンス社 2019年

学生に対する評価

授業参加の積極性(50%)・レポートによる評価(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代の家族についての理解を深めることができる。
- (B) 家族の病理を、関係性の中から読み取ることができる。
- (A) 適切な援助のあり方について考えることができる。
- (S) 臨床事例において、その背景にある「家族」の関係性への洞察ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

子どもの問題は勿論、成人の問題であっても家族を抜きにして考えることはできない。小児科における心理士として、スクールカウンセラーとして、課題を抱える家族への支援を実践する中で培ってきたものを学生の方々と共有し、社会の一番小さな単位としての家族関係が個々の人格の形成に影響を与えることや、よりよい家族支援のあり方について共に考え、実践に生かしていく授業を目指す。

科目名	人間学特殊ゼミIE(悲嘆学)／人間学専門講義(悲嘆学E)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-257	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
 (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
 (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
 (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	企画科目(深層心理学)/人間学専門講義(深層心理学)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-258	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

日常生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしたくないようなことを思わず口走ってしまうことや、平時であればなんでもないことでも、ストレスフルな環境下では、些細なことでも怒りが湧いてくるといったことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域、すなわち、無意識の心理過程が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

授業の到達目標

臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

授業計画

1. 精神分析学以前の学説
2. 精神分析誕生について、夢判断・錯誤行為
3. 無意識の発見・心的構造論
4. 神経症の症例を通じて
5. 自我心理学とライフサイクル論について
6. 自己心理学について
7. 対象関係論について①
8. 対象関係論について②
9. ラカンの精神分析理論について
10. 分析心理学誕生について
11. タイプ論
12. 夢分析
13. 元型論
14. 集合的無意識と東洋思想
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの関連するページを毎回読み、内容を理解しておくこと(90分)、疑問点は授業で質問する。事前学習したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことをまとめ(90分)、次の授業で発言する。

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター、2001年

参考書・参考資料等

適時、紹介する。

学生に対する評価

レポートにて評価する(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 精神分析に関心がある。
- (B) 精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
- (A) 精神分析の知識のみならず技能も理解している。
- (S) 臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

ユング研究所留学で夢分析を学び、フロイト派の分析家にスーパーバイズを受け、深層心理学をユングとフロイトを中心にして学び、さらに臨床心理士としての実務経験を重ねた教員が、学生に日本人の事例を深層心理学的に理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(心理検査法演習Ⅰ)/人間学専門講義(心理検査法演習Ⅰ)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	木下忠恭	
ナンバリング	N2-10-259	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ、心理的把握の視点を身につける。この講義では、主として、質問紙法によるパーソナリティ把握や心理的概念を把握するために開発された心理尺度に触れ、その理論的背景、解釈方法を学ぶ。尚、この講義を受講後に、心理検査法演習Ⅱを受講することが望ましい。

授業の到達目標

心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

授業計画

1. 質問紙法の基本的考え方について
2. パーソナリティ論及びその把握について① (類型論)
3. パーソナリティ論及びその把握について② (特性論)
4. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈① (実施方法について)
5. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈② (MMPI コード表をもとに解釈)
6. MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈③ (実際の解釈を行って気づいた点を検討)
7. Y-G 性格検査について
8. Big5 について
9. 知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ① (実施方法について)
10. 知能検査について (WISC・WAIS・ビネー式検査など) ② (解釈について)
11. 領域別心理測定(対人関係・価値観について)① <対人関係の心理測定について>
12. 領域別心理測定(対人関係・価値観について)② <価値観の心理的測定について>
13. 領域別心理測定(ストレスと適応について)① <生理学的方法によって>
14. 領域別心理測定(ストレスと適応について)② <心理学的方法によって>
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90分)

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘(著)『心理検査の実施の初歩(心理学基礎演習)』ナカニシヤ出版、2011年その他、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題(複数) レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理検査や心理査定について基本的な事項を知っている。
- (B) 心理検査や心理査定について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
- (A) 心理検査や心理査定について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
- (S) 心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士や公認心理師資格を有する教員が、その実務経験を活かして、エゴグラムやYG性格検査やクレペリン作業検査やWAISなどの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(心理検査法演習Ⅱ)/人間学専門講義(心理検査法演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	木下忠恭	
ナンバリング	N2-10-260	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ、心理的把握の視点を身につける。この講義では、投影法によるパーソナリティや心的状態を把握するための理論や方法を学び、人間理解の一助となる視点を身に付ける。尚、この講義を受講する前に、臨床心理学検査法演習Ⅰを受講していることが望ましい。

授業の到達目標

投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

授業計画

1. 投影法検査の考え方について
2. ロール・シャッハテストについて① <スコアリングについての学習>
3. ロール・シャッハテストについて② <検査者となり検査の実施>
4. ロール・シャッハテストについて③ <被験者となり検査を体験>
5. ロール・シャッハテストについて④ <解釈について教科書をもとに復習>
6. P-F スタディについて① <実施方法について>
7. P-F スタディについて② <解釈について>
8. 風景構成法について① <実施方法について>
9. 風景構成法について② <解釈について>
10. 描画法について (HTP・バウム・スクイグルなど) ① <実施方法について>
11. 描画法について (HTP・バウム・スクイグルなど) ② <解釈について>
12. 箱庭療法の体験、及び、解釈について① <実施方法について>
13. 箱庭療法の体験、及び、解釈について② <解釈について>
14. 箱庭療法の体験、及び、解釈について③ <箱庭療法の応用編 他の心理療法との併用>
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90分)

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘(著)『心理検査の実施の初歩(心理学基礎演習)』ナカニシヤ出版、2011年その他、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題(複数) レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 投影法や描画法について、基本的な事項を知っている。
- (B) 投影法や描画法について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
- (A) 投影法や描画法について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
- (S) 投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、箱庭や樹木画や風景構成法やS-HTPなどの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(福祉心理学)/人間学専門講義(福祉心理学)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-261	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

社会福祉の理念と制度とその歴史の変遷について学ぶ。その上で、児童、家庭、高齢者、障害者福祉分野での心理支援活動における必須知識と課題並びにその実際について学ぶ。

授業の到達目標

社会の中での福祉の理念と制度を理解し、かつ、社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身に付ける。

授業計画

1. 社会福祉の歴史と動向
2. 社会福祉の理念
3. 社会福祉の制度・法律
4. 社会福祉の職種とその連携
5. 福祉現場における活動の基本と倫理
6. 福祉における心理アセスメントと心理学的支援
7. 児童福祉分野の活動① 児童虐待
8. 児童福祉分野の活動② 子どもへの支援・社会的養護
9. 家庭福祉分野の活動① 家庭支援と貧困
10. 家庭福祉分野の活動② DV
11. 高齢者福祉分野の活動① 認知症の理解・高齢者の支援
12. 高齢者福祉分野の活動② 高齢者虐待
13. 障害者福祉分野の活動① 障害福祉サービス
14. 障害者福祉分野の活動② 障害者虐待
15. まとめ：尊厳について

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる(90分)。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

中島 健一(著, 編集), 野島 一彦(監修), 繁榎 算男(監修) 『福祉心理学(公認心理師の基礎と実践)』第17巻, 遠見書房, 2018年

学生に対する評価

課題(複数)レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会福祉における心理学の基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) 社会福祉における心理学の基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) 社会福祉における心理支援における心理学的知識と態度について説明ができる。
- (S) 社会の人々の福祉に資するための心理学的知識と態度を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、心理支援職という実務経験を活かし、実例を提示しながら、福祉支援のあり方について講義をする。

科目名	人間学特殊ゼミⅡE(自殺学)/人間学専門講義(自殺学)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-262	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①精神分析的視点
4. 自殺についての理論②認知論的視点
5. 自殺についての理論③対人関係論的視点
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自殺に関する基本的な知識を身につけている。
- (B) 自殺を志向する心理について理解している。
- (A) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
- (S) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミ I D(宗教学入門)/人間学専門講義(宗教学入門)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-263	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

宗教学の議論を学ぶことで、今日の私たちが当たり前のように考えている西洋近代的な「宗教」という概念を問いなおし、持続可能な社会を展望するにあたっての幅広い知見を得る。

授業の到達目標

宗教学の基礎的知識を習得する。

授業計画

1. 開講にあたって——「宗教」とはなにか
2. 宗教学の誕生
3. 宗教概念論の登場
4. 「聖なるもの」の系譜①——西洋人類学におけるタブー論
5. 「聖なるもの」の系譜②——デュルケム、ヴェーバーの宗教社会学
6. 「聖なるもの」の系譜③——オットー、エリアーデの宗教学
7. 「聖なるもの」の系譜④——世俗化論、ノモスとコスモス
8. 「聖なるもの」の系譜⑤——アサド「世俗」とはなにか
9. 「聖なるもの」の系譜⑥——アガンベン「ホモ・サケル」
10. 近代日本と「宗教」①——国家神道の形成
11. 近代日本と「宗教」②——仏教の近代化
12. 近代日本と「宗教」③——民衆の宗教
13. 近代日本と「宗教」④——柳田國男の固有信仰論
14. 近代日本と「宗教」⑤——折口信夫のマレビト論
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の参考書や参考資料を読み込んでおくこと(予習 90分)。講義内容をふりかえり、関連文献を調査すること(復習 90分)。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

アガンベン『ホモ・サケル——主権権力と剥き出しの生』(高桑和己訳、以文社、2007年)。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教学の基礎的知識を理解している。
- (B) 宗教学の基礎的知識をより専門的に理解している。
- (A) 宗教学の基礎的知識を理解し、自分なりの宗教理解に活かしている。
- (S) 宗教学の基礎知識の上に、宗教学の専門的事項について、さらに進んだ学習をしている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡD(世俗主義と宗教)/人間学専門講義(世俗主義と宗教)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	N2-03-264	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

戦後日本を代表する映画シリーズ『男はつらいよ』の検討をとおして、世俗と宗教のありかたについての知見を得る。

授業の到達目標

近代世俗主義についての基本的概念を理解する。

授業計画

1. 開講にあたって——なぜ「寅さん」なのか
2. 寅さんと日本の戦後①——敗戦から復興へ
3. 寅さん誕生——渥美清・山田洋次・啖呵売
4. 作品分析①——第1作『男はつらいよ』
5. 寅さんとナショナリズム——象徴化のメカニズム分析
6. 寅さんとマドンナ①——戦後日本女性史の観点から
7. 寅さんとマドンナ②——寅さんとリリー
8. ポストコロニアル・スタディーズの観点から①——寅さんと北海道
9. ポストコロニアル・スタディーズの観点から②——寅さんと沖縄
10. 作品分析②——第29作『寅次郎あじさいの恋』
11. 寅さんのコスモロジー①——「ふるさと」を形づくるもの
12. 寅さんのコスモロジー②——寅さんとさくら
13. 寅さんのコスモロジー③——寅さんと祖霊・マレピト
14. 山田洋次の挑戦——枠組みなき社会で救済を描く
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回該当箇所の参考資料を調査しておくこと(予習90分)。講義内容をふりかえり、関連文献を調査すること(復習90分)。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

吉村英夫『山田洋次と寅さんの世界——困難な時代を見すえた希望の映画論』(大月書店、2012年)。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業後の感想文(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 戦後日本社会の世俗主義について基礎的知識を理解している。
- (B) 戦後日本社会の世俗主義についてより専門的に理解している。
- (A) 戦後日本社会の世俗主義について理解し、踏み込んだ問題意識を獲得している。
- (S) 戦後日本社会の世俗主義について理解し、持続可能な社会のありかたについての自分なりの展望を描ける。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅠF(スピリチュアルケア演習Ⅰ)/人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅰ)					学期	前期			
副題	—					授業方法	講義	担当者	大河内大博	
ナンバリング	N2-10-265	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A	

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1. 講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2. グループワークの基礎①（対人援助概論）
3. グループワークの基礎②（傾聴手法）
4. グループワークの基礎③（スピリチュアルケア援助訓練法）
5. グループワークの基礎④（ケアの哲学的構造）
6. 生育歴セッション1-①（自己開示の訓練基礎）
7. 生育歴セッション1-②（自己開示の訓練基礎）
8. 生育歴セッション1-③（家族関係論）
9. 生育歴セッション1-④（家族関係論）
10. 生育歴セッション1-⑤（家族関係論）
11. 生育歴セッション2-①（アイデンティティの形成過程）
12. 生育歴セッション2-②（アイデンティティの形成過程）
13. 生育歴セッション2-③（死者との共生）
14. 生育歴セッション2-④（死者との共生）
15. 生育歴セッション2-⑤：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができています。
 (B) 自己課題が明確であり、グループダイナミクスを理解できています。
 (A) 自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができています。
 (S) 自己課題への取り組みをグループダイナミクスを通して行い、他者のケアができています。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。各回、欠席のないようにすること。

科目名	人間学特殊ゼミⅡF(スピリチュアルケア演習Ⅱ)/人間学専門講義(スピリチュアルケア演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	大河内大博	
ナンバリング	N2-10-266	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1. スピーチセッション1-① (患者とのラポール形成)
2. スピーチセッション1-② (患者とのラポール形成)
3. スピーチセッション1-③ (対人援助パターンの分析)
4. スピーチセッション1-④ (対人援助パターンの分析)
5. スピーチセッション1-⑤ (フィードバックの訓練)
6. スピーチセッション2-① (自己課題の開示)
7. スピーチセッション2-② (自己課題の開示)
8. スピーチセッション2-③ (他職種連携)
9. スピーチセッション2-④ (他職種連携)
10. スピリチュアルケア理論1 (窪寺理論)
11. スピリチュアルケア理論2 (大下理論)
12. スピリチュアルケア理論3 (村田理論)
13. スピリチュアルケア理論4 (谷山理論)
14. スピリチュアルケア理論5 (伊藤・小西・中井理論)
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み (60分)、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』(関西学院大学出版会、2010年)

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』(ワニブックス、2014年)

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (25%)、授業参加の積極性 (振り返りシート) (25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
 (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
 (A) 15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
 (S) 非構成グループ(現場)の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目(心理統計学)/人間学専門講義(心理統計学)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-267	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につかない。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習による知識の取得を目指す。
・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。
・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。

授業の到達目標

・統計の基本用語について理解できる。・心理統計を用いた学術論文を理解できるようになる。・基本的な心理統計の具体的な算出方法を理解し、実際に答えを導き出すことができる。・計算結果から、統計的な解釈を行い、自身の考えを述べるができる。

授業計画

1. 授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2. 授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3. さまざまな心理学データ：①変数のタイプ（質的・量的）分類
4. さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度等
5. 2つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6. 2つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7. 量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(1)
9. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(2)
10. 量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント・散布度の重要性・データ数の重要性
11. 量的変数の条件間比較：②1要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12. 量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13. 2つの量的変数間分析の分析：①相関図の作成方法
14. 2つの量的変数間分析の分析：②相関係数の算出方法
15. 2つの量的変数間分析の分析：③相関の解釈の問題点・相関関係と因果関係

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ(45分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす(45分)。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い(45分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する(45分)。

テキスト

・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』 技術評論社 2007年・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—アイスクリームで味わう』関係の統計学』 技術評論社 2008年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会、2004年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する(60%)・レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えている。
(B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
(A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
(S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・電卓やパソコンを取り入れた科目である。・心理測定法も併せて履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員(臨床心理士・公認心理師)の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持てることを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(心理測定法)／人間学専門講義(心理測定法)						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-268	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。
 ・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。
 ・授業内で機器（表計算ソフトExcelや統計解析ソフトSPSSなどを使用）を用いて機器による計算についての知識を修得する。授業時間外課題としてコンピュータを用いた分析実習を行う。

授業の到達目標

・統計の基本用語について理解でき、説明できる。・様々な統計手法の特徴を理解して、適切な方法で計算を行うことができる。・統計ソフトの操作を習得して、統計処理を素早く行うことができるようになる。・統計結果の記載方法を理解して、学術論文などの内容を理解できるようになる。

授業計画

1. データ縮約記述
2. 推測統計
3. 独立変数と従属変数
4. 質的変数と量的変数
5. 被験者内要因と被験者間要因
6. t検定と分散分析
7. 1 要因の分散分析
8. 2 要因分析主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9. ノンパラメトリック法
10. 相関
11. 回帰分析①
12. 回帰分析②
13. 連関
14. x²検定①
15. x²検定②

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ(45分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす(45分)。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い(45分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する(45分)。

テキスト

・小宮 あすか、布井 雅人 『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』 講談社 2018 年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会、2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する(60%)、レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えている。
 (B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
 (A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
 (S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・本講義は前期の「心理統計学」の内容を発展していく科目になる。そのため、「心理統計学」を受講してからの履修が好ましい。・実際に統計ソフトで計算を行う科目であるため、初歩的な Excel 操作などのパソコン操作が必須となる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員(臨床心理士・公認心理師)の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持てることを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(心理学基礎実験演習Ⅰ)/人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅰ)						学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	五明優介
ナンバリング	N2-10-269	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被験者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。④被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。

授業計画

1. ガイダンス (心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導)
2. 感覚・知覚領域①錯視
3. 感覚・知覚領域①錯視
4. 感覚・知覚領域②大きさの恒常性
5. 感覚・知覚領域②大きさの恒常性
6. 記憶領域③短期記憶測定
7. 記憶領域③短期記憶測定
8. 記憶領域④単語の再生と再認
9. 記憶領域④単語の再生と再認
10. 学習領域⑤両側性転移
11. 学習領域⑤両側性転移
12. 認知領域⑥ストループ効果
13. 認知領域⑥ストループ効果
14. レポート課題発表会 (各自で各課題を1つ選択し結果と考察を発表する)
15. まとめ (総括と発表への補足説明)

準備学習(予習・復習)・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う (45分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する (45分) ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること (45分) 、また指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと (45分) 。

テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト、心理学の基礎-実習編-』 培風館, 1985年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房, 1998年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房, 1996年

参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房, 2015年。 ・他は核実験テーマごとに授業中で紹介する。

学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価 (60%) ・課題発表(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
 (B) 心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
 (A) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
 (S) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

実験の授業は一旦始めると事件演習の授業の性質上融通を利かせられないため、無断での遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくことが望ましい。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学院で研究コーディネーターを行っていた教員(臨床心理士・公認心理師)による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	企画科目(心理学基礎実験演習Ⅱ)/人間学専門講義(心理学基礎実験演習Ⅱ)						学期	後期	
副題	—				授業方法	演習	担当者	五明優介	
ナンバリング	N2-10-270	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被験者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どのような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。④自身の調べたい課題について、実験・調査を計画して、倫理に配慮して適切な手順で実施できる。

授業計画

- ガイダンス (心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導)
- 社会領域⑦パーソナルスペース測定
- 社会領域⑦パーソナルスペース測定
- 社会領域⑧囚人のジレンマ (ゲーム行動)
- 社会領域⑧囚人のジレンマ (ゲーム行動)
- 産業領域⑨SD法
- 産業領域⑨SD法
- 産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
- 産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
- 人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
- 人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
- 臨床領域⑫インタビュー面接法 (KJ法)
- 臨床領域⑫インタビュー面接法 (KJ法)
- レポート課題発表会 (各自で各課題を1つ選択し結果と考察を発表する)
- まとめと総括 (実験の補足説明)

準備学習(予習・復習)・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う (45分)。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する (45分) ・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること (45分) 、また指定された論文を読み問題点を明らかにした上で授業に臨むこと (45分) 。

テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト。心理学の基礎—実習編—』 培風館, 1985年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房 , 1998年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房, 1996年

参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房, 2015年。 ・他は各実験テーマごとに授業中で紹介する

学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価 (60%) ・課題発表 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
 (B) 心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
 (A) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
 (S) 心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・実験の授業は一旦始まると実験授業の性質上融通を利かせられないため、無断での遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。 ・レポートの書き方指導など基本的な実験に関する授業は前肢の心理学基礎実験演習Ⅰに行うので、心理学基礎実験演習Ⅰを受講していることが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学院で研究コーディネーターを行っていた教員(臨床心理士・公認心理師)による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的的理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	企画科目(カウンセリング論B)/人間学専門講義(カウンセリング論B)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N2-10-271	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る (クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る (精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る (解決思考アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る (認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る (その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる (90 分)。 各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し (90 分)、次回に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』、誠信書房、1970 年 國分康孝『カウンセリングの理論』、誠信書房、1980 年 國分康孝『カウンセリングの技法』誠信書房、1979 年 諸富祥彦『カウンセリングとは何か』、誠信書房、2010 年

学生に対する評価

課題 (複数) レポート (50%)・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
- (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
- (A) カウンセリングの技法 (最低3つ以上) と基礎知識について説明できる。
- (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング (active learning) を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加を期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、学校や NPO での心理支援という実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、ゲシュタルト療法などのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(社会心理学)/人間学専門講義(社会心理学)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	松下歩睦	
ナンバリング	N2-10-272	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることと理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェなどを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

授業の到達目標

・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる ・更に動画学習(映画鑑賞)を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる ・社会心理学の理論がどのように活用されているのかを理解し、現実社会でも利用できるように習得する

授業計画

1. 社会心理学概論
2. 社会的認知の基礎：脳と認知
3. 対人認知：第一印象形成
4. 対人感情
5. 自己概念
6. 自己開示
7. 向社会的行動
8. 反社会的行動
9. 対人コミュニケーション（言語的）
10. 対人コミュニケーション（非言語的）
11. 説得的コミュニケーション
12. 集団の中の人間 リーダー
13. 集団の中の人間 葛藤
14. ネットワーク
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

・【予習】 事前学習として、講義内容と講義で配布される資料の要点を整理しておく(45分) ・【復習】 事後学習として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する(45分) ・【発表】 課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する(45分)

テキスト

山岸俊男（編集）『社会心理学キーワード』有斐閣、2001年

参考書・参考資料等

堀洋道（監修）『新編社会心理学[改訂版]』福村出版、2009年

学生に対する評価

授業参加の積極性と小レポート（70%）・各テーマ発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会心理学の基本用語を覚えている。
 (B) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
 (A) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
 (S) 社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う ・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士としての臨床経験から、社会心理学理論に基づく実際について具体的に知識を提供している。特に、スクールカウンセラーとして、教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけでなくとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅠB)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅠB)						学期	前期	
副題	—				授業方法	演習	担当者	山添 正	
ナンバリング	N2-10-273	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療の関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連するDVDを視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業の到達目標

テキストは面接過程を13段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。

授業計画

1. 面接のはじめ
2. 治療的關係
3. 治療目標の確立
4. 多様性の理解と対応
5. 抵抗の理解と対処
6. 面接における認知的焦点化
7. 面接における感情的焦点化
8. 面接における行動的焦点化
9. 面接における発達の焦点化
10. 統合的視点
11. 転移
12. 逆転移
13. 過去が現在に与える影響の理解
14. 決断と行動変化への作業
15. 評価と終結

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分) 事後学習として、授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと(90分)

テキスト

ジェラルド・コーレイ『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房, 2011年

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践 DVD版』金子書房

学生に対する評価

レポート(30%)・発表(30%)・授業参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的概念の理解はできている。
- (B) 概念だけでなく技能の理解も出来ている。
- (A) 概念、技能、ロールプレイのパフォーマンスが優れている。
- (S) 臨床現場でここの学びを応用実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅡB)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡB)					学期	後期		
副題	-				授業方法	演習	担当者	山添 正	
ナンバリング	N2-10-274	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを12のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業の到達目標

事例に対して、12のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業計画

1. スーパービジョンについてのガイダンス
2. 精神分析的視点からのケース・アプローチ
3. アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4. 実存分析的視点からのケース・アプローチ
5. 来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6. ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7. 行動療法的視点からのケース・アプローチ
8. 認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9. 現実療法的視点からのケース・アプローチ
10. フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11. ポストモダンの視点からのケース・アプローチ
12. 家族療法的視点からのケース・アプローチ
13. 統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14. 受講者自身の面接スタイルの探求
15. 日本人との面接の留意点

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消させているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター、2001年

参考書・参考資料等

Gerald Corey (2012) 『Case approach to Counseling and Psychotherapy 8 edition』

学生に対する評価

レポート(30%)・発表(30%)・授業参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
- (B) ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
- (A) ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
- (S) 自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパービジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅲ)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	山本和美	
ナンバリング	N2-10-275	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解する。・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通じて、自己理解を深める。・学生が心理的ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆく。・授業は、講義と演習を織り交ぜて進めてゆく。

授業の到達目標

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解できるようになる。・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通じて、自己理解を深めることができる。・学生がマインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆくことができる。

授業計画

1. 臨床心理学におけるマインドフルネスの位置づけ
2. 今という瞬間を意識的に生きる
3. マインドフルネス瞑想：基本的な心構え
4. 呼吸・身体を感じとる
5. 心と身体を結びつける
6. ものごとにとらえ方：思考パターン
7. 日常生活における快・不快体験
8. 心と身体の関係：ストレス反応
9. 心と身体の関係：ストレス対応
10. 対人ストレス：コミュニケーション
11. 治療的關係
12. 共感・コンパッション
13. マインドフルネスの科学的知見
14. 日常生活でのマインドフルネスの実践
15. 全体の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として前回の講義と実習内容について復習しておく (30分) ・実習内容を振り返り、実習を継続し、自身の体験を記録する (120分)

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等

井上ウィマラ著『呼吸による気づきの教え』佼成出版社、2005年 井上ウィマラ他『仏教心理学キーワード事典』春秋社、2012年 春木豊訳『マインドフルネスストレス低減法』北大路書房、2007年

学生に対する評価

レポート (70%)・授業参加の姿勢 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
 (B) マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
 (A) マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
 (S) マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・アクティブ・ラーニング(グループワーク、実習)を取り入れた科目である。・身体を活用したワークが含まれるため、学生は動きやすい服装を着用すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士として心身医学領域での実務経験をもち、集団・個人を対象としたカウンセリングの基本およびマインドフルネスの実務経験を生かして体験的に学修する授業を行い、学生自身が自己をより良く理解することを通じて、対人援助の場面での適切な対応につなげる能力を身に付けさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅳ)/人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N2-10-276	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

人生のあらゆる場面での臨床場面を想定し、どのようなクライアントと面接しているときでも、その人の存在を全人的に理解し関わることができるようにするために、臨床心理学的視点とスピリチュアリティの涵養を含めて理解とトレーニングを積み重ねてゆく。授業は講義と演習を交えながら進めてゆく。

授業の到達目標

生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

授業計画

1. 人生と発達
2. 世代間伝達
3. 発達促進的環境
4. 疾病利得
5. 終末期を生きること
6. 認知症を生きること・家族の支援
7. 悲しむ力と育む力
8. トラウマケア、グリーフケア、スピリチュアルケア
9. スーパービジョンとスピリチュアリティ
10. コンステレーション
11. 全人的医療と全人的ケア
12. 幸せの心理学
13. 感情労働と燃えつき防止
14. 苦しみと解放
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

窪寺俊之『死とスピリチュアルケア論考』関西学院大学出版会, 2019年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生老病死の苦しみについて理解する。
- (B) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解する。
- (A) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度について考えることができる。
- (S) 生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につけ、自身のケア観について他者に述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、講義及びグループ演習を通じて、生老病死の苦しみに伴う痛みを理解し実践するための姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	企画科目(学校心理学)／人間学専門講義(学校心理学)						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	N2-10-277	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業の到達目標

学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

1. 学校教育と心理学 歴史的背景を知る
2. 発達心理学的視点と学校教育
3. 学校内チーム支援について
4. 保護者と学校を支援する視点
5. 児童期の発達と学校教育
6. 児童期の学習の問題について
7. 児童期の不登校について
8. 児童期の仲間関係といじめについて
9. 児童期における学校内チーム支援の在り方について
10. 思春期・青年期の発達と学校教育
11. 思春期・青年期の学習の問題について
12. 思春期・青年期の不登校について
13. 思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14. 思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

石隈利紀『学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』、1999年、誠信書房 学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック第4版』、2020年、風間書房 その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題(複数) レポート(50%)・授業中の発表・ディスカッション等の参加度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
 (B) 学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
 (A) 学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
 (S) 学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在の課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知”を共に深めていきたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラー資格を有する教員が、中高教員・スクールカウンセラー・NP0のカウンセラーという様々な立場での実務経験を活かして、不登校、いじめ、虐待、発達障害などの問題について、多面的にその原理、分析、対応を学ぶ授業を展開する。そのことによって、学校における心理的な理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目(スピリチュアルケア概論)/人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	窪寺俊之	
ナンバリング	N2-10-278	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

各授業時間(90分)の内60分を講義に使い、残りの30分は受講者とのディスカッションをする。受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くようにする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本的概念(スピリチュアルケア、スピリチュアリティ、宗教的ケア、心理的ケア、終末期医療、日本のスピリチュアリティなど)を理解し関心と興味をもつこと。

授業計画

1. スピリチュアルケアとは何か (I) WHO の健康定義の改正案
2. スピリチュアルケアの必要性、終末期医療現場での苦悩
3. スピリチュアルケアの必要性と現代医療の問題点(治療中心医療の限界)
4. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
5. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
6. スピリチュアルとは何か、スピリットとは何か
7. スピリチュアルケアの本質、関係性、人間とは何か
8. スピリチュアルケアの目的(QOLの向上)
9. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
10. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
11. ケアとは何か
12. スピリチュアルケア・ギバー(提供者)の養成
13. スピリチュアルな感性を磨く(スピリチュアルな視点、側面、テーマなど)
14. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える
15. 前回の講義内容について考察を深め課題に答える

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店、2000年

参考書・参考資料等

窪寺俊之『スピリチュアルケア序説』三輪書店、2004年 窪寺俊之『スピリチュアルケア概説』三輪書店、2008年

学生に対する評価

レポート評価(50%)・出席率(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) スピリチュアルケアの基本的用語を理解できている。
 (B) スピリチュアルケアの基本に加えて、宗教的ケア、心理的ケアとの関係など周辺領域との関係を広く理解できている。
 (A) スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者(スピリチュアルケア援助者)として、他の参考図書を読んで理解し、他者に説明することができる。
 (S) スピリチュアルケアと他の領域との関係性を踏まえながら、臨床現場でスピリチュアルケアを実践するための姿勢を理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

牧師として、いの中の電話 訓練委員の経験を持つ教員が、受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くよう授業を行う。

科目名	企画科目(もの語り心理学)/人間学専門講義(もの語り心理学)						学期	後期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	やまだようこ	
ナンバリング	N2-10-279	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

もの語り（ナラティブ）心理学の理論と方法論の基礎を、ワークに主体的に参加することによって実践から体験的に学ぶ。特に、「人生」「喪失」「スピリチュアリティ」「ケア」と関連づけた語りの共同生成ワークと討論を行う。

授業の到達目標

もの語り（ナラティブ）心理学の理論をワークを通じて学ぶとともに、人生を深く考える態度を養い、ナラティブによるケアの方法と技法を習得する。

授業計画

1. 人生のイメージ（ビジュアル・ナラティブのワーク）
2. 人生のイメージと人生観
3. もの語り（ナラティブ）とは？
4. もの語りアプローチの人間観
5. ナラティブ心理学の理論（まとめ）
6. 人生を物語る（ライフストーリー）
7. ナラティブ・インタビューの方法
8. カウンセリングとナラティブ・セラピー
9. ナラティブ・インタビューの実践
10. ナラティブ実践とケアの方法（まとめ）
11. 喪失の語りー喪失から生成へのもの語りとケア
12. もの語りの語り直しと生き直し
13. もの語りによる人生の転換とレジリエンス
14. この世とあの世のイメージ
15. 喪失の語りとケア（まとめ）

準備学習(予習・復習)・時間

授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること（90分） 下記の参考書を読むことが望ましい

テキスト

なし

参考書・参考資料等

①やまだようこ『喪失の語りー生成のライフストーリー』新曜社② やまだようこ『ナラティブ研究ー語りの共同生成』新曜社

学生に対する評価

授業への積極的参加と授業時の小レポート（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業への積極的参加
 (B) 授業への積極的参加とレポートの提出
 (A) 授業への積極的参加と優れたレポートの提出
 (S) 授業への積極的参加と特に優れたレポートの提出

課題に対するフィードバックの方法

授業を通じて積極的に対話を行う

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床発達心理士としての臨床経験からナラティブ・セラピーやケアについて講義する。

科目名	企画科目(死生観B)／人間学専門講義(死生観B)						学期	後期	
副題	－				授業方法	講義	担当者	山本佳世子	
ナンバリング	N2-03-280	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。講義及びディスカッションを通して、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う。

授業の到達目標

日本人の死生観の変遷を理解し、説明できる。自身の死生観を振り返り、言語化できる。

授業計画

1. 死生学と死生観
2. 死生観の生成と涵養（絵本『かえるくんととりのうた』）
3. 死に向き合う：2.5人称の死を考える（映画「赤ひげ」、絵本『かないくん』）
4. 死までの生を生きる：1人称の死を考える（映画「生きる」、絵本『100万回生きた猫』）
5. グループワーク、ディスカッション①
6. 故人との関係性（絵本『老夫婦』、映画「加奈子のこと」）
7. 死からの生を生きる：2人称の死を考える（映画「殯の森」、「岸辺のふたり」）
8. 日本人の死生観と他界観（絵本『このあとどうしちやおう』）
9. 死者を送る（映画「おくりびと」）
10. グループワーク、ディスカッション②
11. 彼岸と此岸を媒介するもの：お迎え（絵本『マッチ売りの少女』、『わすれられないおくりもの』）
12. この世にいる死者：幽霊（映画「岸辺の旅」）
13. 新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」、映画「洗骨」）
14. 「無宗教」という死生観（絵本『つちはんみょう』）
15. 受け継がれていく生、まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

参考書として挙げられている図書に事前に目を通しておくと理解が深まる（60分）。さらに、事後にさらに理解を深めるために再読することもお勧めする（60分）。また、挙げられている映画や絵本は授業内で一部のみ観賞するが、全編観賞することをお勧めする（120分）。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

・佐藤弘夫『死者の花嫁―葬送と追悼の列島死』幻戯書房、2015年・波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞出版、2004年

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
 (B) 日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
 (A) 日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
 (S) 日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性があります。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

スピリチュアルケア師を指導できる資格を有し、グリーフケアカウンセラーの経験を持つ教員が、日本人の死生観の理解を深め、映画や絵本に現れる死生観をディスカッションしながら自身の死生観の気づき、培う場とさせる科目である。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅰ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅰ)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-10-281	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。また、3年次の履修とする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと臨床現場
3. ケアと倫理
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア

準備学習(予習・復習)・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する(90分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う(90分)

テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房, 2008年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度(30%)・実習日誌(70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
- (B) スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
- (A) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
- (S) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することのできる。

課題に対するフィードバックの方法

定期的の実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ(3年次)と臨床実習Ⅱ(4年次)を履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場(高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など)でのケア実習(実践・グループワーク・指導など)を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅱ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅱ)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-10-282	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「臨床実習Ⅰ」での学びをさらに深めることを目的とし、4年次の履修とする。スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は60時間とする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. スピリチュアルケアと死生観
3. ケアと倫理
4. 実習：傾聴活動①
5. 実習：傾聴活動②
6. 実習：傾聴活動③
7. 実習：傾聴活動④
8. 実習：傾聴活動⑤
9. 実習：傾聴活動⑥
10. 実習：傾聴活動⑦
11. 実習：傾聴活動⑧
12. 実習：傾聴活動⑨
13. 実習：傾聴活動⑩
14. 実習の振り返り
15. まとめ：苦悩とケア

準備学習(予習・復習)・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する(90分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う(90分)

テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房, 2008年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度(30%)・実習日誌(70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
- (B) スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
- (A) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
- (S) スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することのできる。

課題に対するフィードバックの方法

定期的の実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は、臨床実習Ⅰ(3年次)と臨床実習Ⅱ(4年次)を履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場(高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など)でのケア実習(実践・グループワーク・指導など)を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅲ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅲ)						学期	通年	
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-10-283	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会実践活動の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを3つ挙げ、レポート(2,000～3,200字以内)にまとめる。

授業の到達目標

様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会実践活動に結び付ける視点を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①: キリスト教について
3. 事前学習②: 教会の活動について
4. 現地実習①: 活動現場視察(自殺防止活動・於: 和歌山県白浜町三段壁周辺)
5. 現地実習②: 実践講義1(キリスト教の世界観)
6. 現地実習③: 実践講義2(キリスト教とケア)
7. 現地実習④: 礼拝出席
8. 実習の振り返り①
9. 事前学習③: 神道について
10. 現地実習⑤: 実践講義1(神道の世界観)
11. 現地実習⑥: 実践講義2(神道とケア)
12. 現地実習⑦: 伊勢神宮参拝
13. 実習の振り返り②
14. 全体の振り返り
15. まとめ: 宗教とケア

準備学習(予習・復習)・時間

各事前学習の前の個人学習(90分)と各実習の振り返り後の学びのまとめ(90分)

テキスト

講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等

藤敷庸一『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』いのちのこぼ社, 2019年・伊藤 聡『神道とは何か - 神と仏の日本史』中央公論新社, 2012年

学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 様々な宗教的世界観を理解する。
 (B) 様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
 (A) 自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結び付ける視点を身につけている。
 (S) 自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結び付ける視点を身につけ、それらを他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床宗教師資格取得を希望する者は必ず受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、宗教者によるケア実践活動の現場(キリスト教・神道)での実習を通じて、各宗教の世界観及び実践方法について学ぶことで自身のケア活動の姿勢や態度を内省し、現場での自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅳ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅳ)						学期	通年	
副題	-				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	N3-10-284	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、学術大会や研修会、ボランティア活動などに3回または3ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを3つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート(2,000～3,200字以内)にまとめる。

授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①
3. 事前学習②
4. 現地実習①
5. 現地実習②
6. 現地実習③
7. 現地実習④
8. 実習中間報告会
9. 現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる(90分)。現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる(90分)

テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等

木下大生(編集)、鴻巣麻里香(編集)『ソーシャルアクション! あなたが社会を変えよう!: はじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房, 2019年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
- (B) 現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
- (A) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
- (S) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床実習Ⅳは3年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床実習Ⅴ)/人間学実践演習(臨床実習Ⅴ)							学期	通年
副題	-				授業方法	実習	担当者	川口道雄	
ナンバリング	N4-10-285	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、研究会、学術大会、ボランティア活動などに3回または3ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを3つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート(2,000～3,200字以内)にまとめる。

授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養や態度を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス
2. 事前学習①
3. 事前学習②
4. 現地実習①
5. 現地実習②
6. 現地実習③
7. 現地実習④
8. 実習中間報告会
9. 現地実習⑤
10. 現地実習⑥
11. 現地実習⑦
12. 現地実習⑧
13. 実習の振り返り
14. 実習報告会①
15. 実習報告会②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる(90分)。現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる(90分)

テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等

木下大生(編集)、鴻巣麻里香(編集)『ソーシャルアクション!あなたが社会を変えよう! :はじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房, 2019年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
- (B) 現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
- (A) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
- (S) 現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床実習Ⅴは4年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅰ)/人間学実践演習(聖地巡礼Ⅰ)						学期	後期	
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-03-286	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート(2,000～3,200字)にまとめる。

授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画

1. 講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2. 聖地巡礼に向けての計画書作成①
3. 聖地巡礼に向けての計画書作成②
4. 聖地巡礼に向けての計画書作成③
5. 聖地巡礼に向けての計画書作成④
6. 聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7. 聖地巡礼経過報告①
8. 聖地巡礼経過報告②
9. 聖地巡礼経過報告③
10. 聖地巡礼経過報告④
11. 聖地巡礼経過報告⑤
12. 聖地巡礼後の報告書作成①
13. 聖地巡礼後の報告書作成②
14. 聖地巡礼後の報告書作成③
15. 総合報告会：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。(90分)計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90分)

テキスト

講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版,2014年 ②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書,2015年

学生に対する評価

レポート(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
 (B)聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
 (A)聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
 (S)聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

この科目は、3年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目(聖地巡礼Ⅱ)/人間学実践演習(聖地巡礼Ⅱ)						学期	後期	
副題	—				授業方法	実習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-03-287	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問・巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート(2,000～3,200字)にまとめる。

授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画

1. 講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2. 聖地巡礼に向けての計画書作成①
3. 聖地巡礼に向けての計画書作成②
4. 聖地巡礼に向けての計画書作成③
5. 聖地巡礼に向けての計画書作成④
6. 聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7. 聖地巡礼経過報告①
8. 聖地巡礼経過報告②
9. 聖地巡礼経過報告③
10. 聖地巡礼経過報告④
11. 聖地巡礼経過報告⑤
12. 聖地巡礼後の報告書作成①
13. 聖地巡礼後の報告書作成②
14. 聖地巡礼後の報告書作成③
15. 総合報告会：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

聖地について調べてまとめ、巡礼のための準備をする。(90分)計画または巡礼後の発表、質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90分)

テキスト

講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/中経出版,2014年 ②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書,2015年

学生に対する評価

レポート(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
- (B) 聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
- (A) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
- (S) 聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

この科目は、『聖地巡礼Ⅰ』を受講していなければ受講できない。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習 I C(臨床心理学演習)							学期	通年
副題	-				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N3-25-288	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	-

授業の目的と概要

3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味・関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめる。5. 以上の手順で、自身が焦点をあてる研究課題を明らかにする。この講義は4年次生の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か。
2. 興味関心と研究①
3. 興味関心と研究②
4. 興味関心と研究②
5. 興味関心と研究④
6. 興味関心と研究⑤
7. テーマ設定①
8. テーマ設定②
9. テーマ設定③
10. テーマ設定④
11. テーマ設定⑤
12. テーマに関する文献収集①
13. テーマに関する文献収集②
14. テーマに関する文献収集③
15. まとめ：研究テーマ発表

【後期】

1. テーマに関する課題の探索①
2. テーマに関する課題の探索②
3. テーマに関する課題の探索③
4. テーマに関する課題の探索④
5. テーマに関する課題の探索⑤
6. 目的に関する文献収集①
7. 目的に関する文献収集②
8. 目的に関する文献収集③
9. 目的に関する文献収集④
10. 目的に関する文献収集⑤
11. 研究計画書の作成①
12. 研究計画書の作成②
13. 研究計画書の作成③
14. 研究計画書の作成④
15. まとめ：研究計画書の発表

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする(90分)。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する(90分)。

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表(50%) 最終レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
 (B) 自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
 (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
 (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習ⅡC(臨床心理学演習)							学期	通年
副題	-				授業方法	演習	担当者	上野和久	
ナンバリング	N4-25-289	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	-

授業の目的と概要

4回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は4年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か
2. 研究計画書の見直し①
3. 研究計画書の見直し②
4. 研究計画書の見直し③
5. 研究計画書の見直し④
6. 研究計画書の見直し⑤
7. データ収集経過報告①
8. データ収集経過報告②
9. データ収集経過報告③
10. データ収集経過報告④
11. データ収集経過報告⑤
12. データ収集経過報告⑥
13. 研究経過報告発表会①
14. 研究経過報告発表会②
15. 研究経過報告発表会③

【後期】

1. 卒業論文作成について
2. データ分析①
3. データ分析②
4. データ分析③
5. データ分析④
6. データ分析⑤
7. 結果の整理と考察①
8. 結果の整理と考察②
9. 結果の整理と考察③
10. 結果の整理と考察④
11. 結果の整理と考察⑤
12. 結果の整理と考察⑥
13. 研究成果発表会①
14. 研究成果発表会②
15. 研究成果発表会③

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90分) 発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係するKeywordについて先行研究のデータを収集する。(90分)

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表 (50%) 最終レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
 (B) 自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
 (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
 (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

個別の指導は別途時間を設けて行う。全体での指導は、参加者の主体的な発言をもとに論文作成者の作成における視点を広げ、深めるような関係領域の講義やdiscussionをしたい。論文作成のためのエンカウンターワークショップ(担当者の造語です)のような形で行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習 I D(臨床心理学演習)							学期	通年
副題	-				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N3-25-290	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	-

授業の目的と概要

3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関する文献の収集・要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味・関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめる。5. 以上の手順で、自身が焦点をあてる研究課題を明らかにする。この講義は4年次生の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か。
2. 興味関心と研究①
3. 興味関心と研究②
4. 興味関心と研究②
5. 興味関心と研究④
6. 興味関心と研究⑤
7. テーマ設定①
8. テーマ設定②
9. テーマ設定③
10. テーマ設定④
11. テーマ設定⑤
12. テーマに関する文献収集①
13. テーマに関する文献収集②
14. テーマに関する文献収集③
15. まとめ：研究テーマ発表

【後期】

1. テーマに関する課題の探索①
2. テーマに関する課題の探索②
3. テーマに関する課題の探索③
4. テーマに関する課題の探索④
5. テーマに関する課題の探索⑤
6. 目的に関する文献収集①
7. 目的に関する文献収集②
8. 目的に関する文献収集③
9. 目的に関する文献収集④
10. 目的に関する文献収集⑤
11. 研究計画書の作成①
12. 研究計画書の作成②
13. 研究計画書の作成③
14. 研究計画書の作成④
15. まとめ：研究計画書の発表

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする(90分)。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する(90分)。

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表(50%) 最終レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
 (B) 自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
 (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
 (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習ⅡD(臨床心理学演習)							学期	通年
副題	-				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	N4-25-291	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	-

授業の目的と概要

4回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は4年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か
2. 研究計画書の見直し①
3. 研究計画書の見直し②
4. 研究計画書の見直し③
5. 研究計画書の見直し④
6. 研究計画書の見直し⑤
7. データ収集経過報告①
8. データ収集経過報告②
9. データ収集経過報告③
10. データ収集経過報告④
11. データ収集経過報告⑤
12. データ収集経過報告⑥
13. 研究経過報告発表会①
14. 研究経過報告発表会②
15. 研究経過報告発表会③

【後期】

1. 卒業論文作成について
2. データ分析①
3. データ分析②
4. データ分析③
5. データ分析④
6. データ分析⑤
7. 結果の整理と考察①
8. 結果の整理と考察②
9. 結果の整理と考察③
10. 結果の整理と考察④
11. 結果の整理と考察⑤
12. 結果の整理と考察⑥
13. 研究成果発表会①
14. 研究成果発表会②
15. 研究成果発表会③

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90分) 発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係するKeywordについて先行研究のデータを収集する。(90分)

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版, 2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表 (50%) 最終レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
- (B) 自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
- (A) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
- (S) テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅠA)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-292	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禪定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. 仏教とは、なんのためにあるのか。一般的な仏教のご紹介
3. 前世と来世の有無についての説明（生まれ変わる事）
4. 善業と悪業との結果についての説明
5. 仏陀の教に入門である三帰依についての説明
6. 仏法僧に帰依する時学ぶべきことについての説明
7. 十不善についての説明（身口意により不善）
8. 十不善の結果についての説明
9. 十善戒についての説明（身口意により善戒）
10. 六加行法についての説明
11. 七支分の中の第一の礼拝の支分と供養の支分についての説明
12. 第三懺悔の支分から第七の廻向までの支分についての説明
13. 十に縁起の説明（1）
14. 十に縁起の説明（2）
15. 学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
 (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
 (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
 (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目(チベット仏教入門ⅡA)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-293	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. 四聖諦（1）苦諦についての説明
3. 四聖諦（2）集諦についての説明
4. 四聖諦（3）滅諦と道諦についての説明
5. 三十七道品（2）四念住と四正断などについての説明
6. 三十七道品（2）八正道についての説明
7. 菩薩トクメーサンボが著した『三十七偈の菩薩の実践』を読む（1）煩惱の過失についての説明
8. 『三十七偈の菩薩実践』を読む（2）慈悲の心についての説明
9. 『三十七偈の菩薩実践』を読む（3）六波羅蜜についての説明
10. ツオンカバ大師が著した『ラムツォ ナムスム』を読む（1）出離についての説明
11. 『ラムツォ ナムスム』を読む（2）菩提心についての説明
12. 『ラムツォ ナムスム』を読む（3）空の見解についての説明
13. 極楽へ生まれ変わる原因についての説明（1）
14. 極楽へ生まれ変わる原因についての説明（2）
15. 学習発表会

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

テキスト

教室で指示する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	企画科目(仏教芸術実習仏画)							学期	通年
副題	-				授業方法	実技	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G1-02-294	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

基礎から仏画制作の技法を勉強し、線画と顔料による彩色画で仏・菩薩・明王・天部の姿を描く。密教の曼荼羅を構成する多様な尊像に関する知識を学び、仏教の世界観についての理解を深める。

授業の到達目標

仏画の描き方を身につけ、仏教の諸尊や仏教美術について理解を深める。

授業計画

【前期】

1. 講義内容の説明(授業の進め方、道具の使い方など)
2. 基礎1 手足・衣紋線の描き方
3. 基礎2 面相・頭部の描き方
4. 基礎3 頭光・瓔珞・持ち物の描き方
5. 基礎4 蓮華座・岩座・雲の描き方
6. 基礎5 墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習
7. 基礎6 明王・天部の全体を描く(1)
8. 基礎7 明王・天部の全体を描く(2)
9. 基礎8 仏・菩薩の全体を描く(1)
10. 基礎9 仏・菩薩の全体を描く(2)
11. 作品制作 白描の作品を描く(1)
12. 作品制作 白描の作品を描く(2)
13. 作品制作 紺地金泥の作品を描く(1)
14. 作品制作 紺地金泥の作品を描く(2)
15. 講義内容の総括

【後期】

1. 講義内容の説明(道具の使い方、彩色画の実例作品の紹介など)
2. 淡彩1 平塗りとぼかしの技法
3. 淡彩2 頭光・衣・身体の描き方
4. 淡彩3 面相・頭部の描き方
5. 淡彩4 瓔珞・持ち物の描き方
6. 淡彩5 蓮華座・岩座の描き方
7. 淡彩6 菩薩の全体を描く(1)
8. 淡彩7 菩薩の全体を描く(2)
9. 淡彩8 明王の全体を描く(1)
10. 淡彩9 明王の全体を描く(2)
11. 作品制作 彩色仏画(1)
12. 作品制作 彩色仏画(2)
13. 作品制作 彩色仏画(3)
14. 作品制作 彩色仏画(4)
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ技法に関して練習をしておくこと。(90分)

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。

参考書・参考資料等

中村幸真・中村涼應『模写で描く仏画入門』日本放送出版協会 1991年 中村涼應・中村幸真『模写で描く彩色仏画入門』日本放送出版協会 2000年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1975年

学生に対する評価

毎回の授業の書写作品(70%) 授業参加への積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解できる。
- (B) 仏画の基本事項を理解し、それを描写することができる。
- (A) 仏教や仏画に関することを理解し、完成度の高い作品を描ける。
- (S) 仏教や仏画に関することを理解し、尊像への理解とその表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

その他

受講生は年間を通して使用する面頬筆・彩色筆・紙を購入する(用具の発注は担当者が行う)。墨・硯・筆洗・雑巾・日本画絵具は受講生が各自で用意する。ただし、梅皿・念紙・金泥などの用具・資材は担当者が貸与する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画工房で国宝の曼荼羅の復元制作に携わった経験のある担当者が、その経験を活かし、仏像の基本知識に基づいた仏画制作の技術について講義する。

科目名	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅰ)						学期	前期	
副題	-				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G1-02-295	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本の伝統工芸並びに仏像彫刻に関する講義及び実習を通じて、社会や自身が仏教に求める宗教性について感じることを目的とする。具体的には、仏像彫刻に関する知識を学び、自ら、仏像を彫刻し、自身の心や変化を実感、体験する。

授業の到達目標

日本の伝統工芸及び仏像についての知識を深め、宗教性、自身のスピリチュアリティについての感性を深める。

授業計画

1. 仏像の歴史と成り立ち①
2. 仏像の歴史と成り立ち②
3. 制作活動：彫刻作成①
4. 制作活動：彫刻作成②
5. 制作活動：彫刻作成③
6. 仏像制作の実際①：木材の特徴・製法についての歴史・制作道具と仏像の構造
7. 仏像制作の実際②：木材の特徴・製法についての歴史・制作道具と仏像の構造
8. 制作活動：彫刻作成④
9. 制作活動：彫刻作成⑤
10. 制作活動：彫刻作成⑥
11. 仏像修復：伝統的各技法（木・漆・箔・金具・彩色など）①
12. 仏像修復：伝統的各技法（木・漆・箔・金具・彩色など）②
13. 制作活動：彫刻作成⑦
14. 制作活動：彫刻作成⑧
15. 講義の振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと（90分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付けている。
 (B) 日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付け、芸術文化についての自分の意見を述べるができる。
 (A) 日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べるができる。
 (S) 日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べるができ、かつ、表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

伝統工芸実習Ⅰ（彫刻）を受講ののちに、伝統工芸実習Ⅱ（彫刻）を受講すること。講義は、各月1日の集中講義形式とし1回につき5講義を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員による日本の伝統工芸に関する文化論について講義し、実習については、伝統工芸工場の技術者が技能について指導を行う。

科目名	企画科目(伝統工芸実習彫刻Ⅱ)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G1-02-296	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

伝統工芸実習Ⅰ(彫刻)の講義を受講したことをうけ、さらに社会や自身が仏教に求める宗教性について深めることを目的とする。具体的には、仏像彫刻に関する知識を学び、自ら、仏像を彫刻し、自身の心や変化を実感、体験する。

授業の到達目標

日本の伝統工芸及び仏像についての知識を深め、宗教性、自身のスピリチュアリティについての感性を深める。

授業計画

1. 日本の伝統工芸Ⅰ：日本の伝統工芸の実態①
2. 日本の伝統工芸Ⅰ：日本の伝統工芸の実態②
3. 制作活動：彫刻作成①
4. 制作活動：彫刻作成②
5. 制作活動：彫刻作成③
6. 仏像制作の過程と修復の実際①
7. 仏像制作の過程と修復の実際②
8. 仏像制作の過程と修復の実際③
9. 仏像制作の過程と修復の実際④
10. 仏像制作の過程と修復の実際⑤
11. 日本の伝統工芸Ⅱ：日本の伝統工芸の実態③
12. 日本の伝統工芸Ⅱ：日本の伝統工芸の実態④
13. 制作活動：彫刻作成④
14. 制作活動：彫刻作成⑤
15. 講義の振り返りとまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付けている。
 (B) 日本の伝統工芸についての基本的知識を身に付け、芸術文化についての自分の意見を述べることができる。
 (A) 日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べるができる。
 (S) 日本の伝統工芸などの文化、宗教性が自身のスピリチュアリティに及ぼす影響について述べるができ、かつ、表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

伝統工芸実習Ⅰ(彫刻)を受講ののちに、伝統工芸実習Ⅱを受講すること。講義は、各月1日の集中講義形式とし1回につき5講義を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員による日本の伝統工芸に関する文化論について講義し、実習については、伝統工芸工場の技術者が技能について指導を行う。

科目名	サンスクリット語Ⅱ／サンスクリット語上級						学期	通年	
副題	－			授業方法	講義	担当者	菊谷竜太		
ナンバリング	G2-07-297	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	－

授業の目的と概要

初等文法を終えた学習者を対象に古典サンスクリット語の文法知識をさらに一步踏み込んで概括しつつ韻律・シンタックスに関する基礎知識を修得する。精読する際には詩節を唱えてみることで実際に声に出してサンスクリットに親しむ感覚を身につける。

授業の到達目標

初等文法で習った文法規則を実際の古典資料と照らし合わせることによって連声や語形、韻律について正しく理解することができる。テキストやリーダーの指示どおりに文法事項やグロッサリー、注記を参照することで文献学の基礎を学び、作文や読誦を通じて実践的な知識をも身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 音韻論と連声 (サンディ)、問題演習
3. 名詞の変化① (-a-語幹)、問題演習
4. 名詞の変化② (-a-語幹)、問題演習
5. 名詞の変化③ (男性-i-および-u-語幹、中性、女性の-i-および-u-語幹)、問題演習
6. 名詞の変化④ (-i-および-u-語幹、単音節、-r-語幹、二重母音語幹)、問題演習
7. 名詞の変化⑤ (語根語幹、-as-, -is-, -us-語幹)、問題演習
8. 名詞の変化⑥ (-ant-, -vant-および-mant-語幹)、問題演習
9. 名詞の変化⑦ (-in-, -an-, -van-および-man-語幹)、問題演習
10. 名詞の変化⑧ (-vas-, -yas-語幹)、問題演習
11. 名詞の変化⑨ (-anc-語幹およびその他の語幹)、問題演習
12. 比較法、問題演習
13. 代名詞、問題演習
14. 数詞、問題演習
15. 試験と総括

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 現在語幹① (第一種活用・幹母音語幹、未完了過去、願望法・命令法)、問題演習
3. 現在語幹② (第二種活用・語根型語幹)、問題演習
4. 現在語幹③ (第二種活用・重複型語幹)、問題演習
5. 現在語幹④ (第二種活用・鼻音挿入型語幹)、問題演習
6. 現在語幹⑤ (未来語幹)、問題演習
7. アオリスト語幹、問題演習
8. 完了語幹・受動態、問題演習
9. 二次活用動詞① (使役活用と名詞起源動詞)、問題演習
10. 二次活用動詞② (意欲活用と強意活用)、問題演習
11. 準動詞 (動詞的形容詞、不定詞、絶対詞)、問題演習
12. 複合語① (動詞複合語と副詞的複合語、名詞複合語 (Dv))、問題演習
13. 複合語② (名詞複合語 (TP, KD, BV))、問題演習
14. シンタックス (統語論)、問題演習
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として指示された次の授業範囲について文法事項を調べ日本語訳を作成すること (90 分)。事後学習としてテキストと自分のノートとを読み直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

①E. D. Perry. A Sanskrit Peimer. ②C. R. Lanman. A Sanskrit Reader. (前期では①を中心に、後期ではもっぱら②を用いる。第1回の授業で担当者が必要分を取りまとめ専門の書店に発注する)

参考書・参考資料等

①W. D. Whitney. Sanskrit Grammar. ②同. The Roots, Verb-forms and Primary Derivates of the Sanskrit Language. ③J. S. Speijer. Sanskrit Syntax.

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに各授業における課題 (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

(C) テキストやリーダーに指示された文法事項を忠実に押さえ、グロッサリーや注記を正確に参照することができている。

(B) 連声 (サンディ) や語形を正しく押さえ、特定の韻律を比定することができている

(A) 韻文・散文の平易な文章について正しく理解し、散文で簡単な文章を作ることができる

(S) 韻文で簡単な文章を作ることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。原則的にサンスクリット語Ⅰ/サンスクリット語初級の履修を終えたものが対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。少しでもサンスクリット語に興味をもつ希望者の積極的な参加を求める。

科目名	チベット語B						学期	通年	
副題	-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G2-07-298	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランバ）を持つチベット人僧侶から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標

文字（ウチェン）と発音、あいさつ及び文字（ウメー）を修得し、チベット語の読み書き及び会話ができるようになる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 30基字の1～10の読み方と発音
3. 30基字の11～20の読み方と発音
4. 30基字の21～30の読み方と発音
5. 簡単なあいさつ
6. 30の子音字母と母音の結合1～15の読み方と発音
7. 30の子音字母と母音の結合16～30の読み方と発音
8. 簡単な会話
9. 反対字の読み方と発音
10. ཁを頭とする有頭字
11. ལを頭とする有頭字
12. རを頭とする有頭字
13. ལを足とする有足字
14. ཁを足とする有足字
15. ལを足とする有足字

【後期】

1. ལを足とする有足字
2. 前置字
3. 後置字
4. 再後置字
5. 文章の読み方と日常会話
6. 文章の読み方と日常会話（続）
7. 文章の読み方と日常会話（続）
8. 文章の読み方と日常会話（続）
9. 文章の読み方と日常会話（続）
10. 文章の読み方と日常会話（続）
11. 文章の読み方と日常会話（続）
12. 文章の読み方と日常会話（続）
13. 文章の読み方と日常会話（続）
14. 文章の読み方と日常会話（続）
15. 文章の読み方と日常会話（続）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180分）

テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット [マンダラの国]』（小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
 (B) チベット語の簡単な挨拶ができる。
 (A) チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
 (S) チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

科目名	梵字悉曇B						学期	通年	
副題	—				授業方法	実技	担当者	添野了	
ナンバリング	G1-01-299	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語（真言・陀羅尼や種子）を読み書きするための学問（声明業）あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者欽光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して、独自の書風（慈雲流）を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多 4 文字他
9. 別摩多 5 文字他
10. (ka) (kha) (ga) の 3 文字
11. (gha) (ña) の 2 文字
12. (ca) (cha) の 2 文字
13. (ja) (jha) (ña) の 3 文字
14. (ta) (tha) (da) の 3 文字
15. (dha) (ṇa) の 2 文字

【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の 2 文字
2. " (da) (dha) の 2 文字
3. " (na) (pa) の 2 文字
4. " (pha) (ba) の 2 文字
5. " (bha) (ma) の 2 文字
6. " (ya) (ra) (la) の 3 文字
7. " (va) (sa) (ṣa) の 3 文字
8. " (sa) (ha) の 2 文字
9. " 重字の 2 文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間

配布プリントに目を通し、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

テキスト

松本俊彰 『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕(応用編)』、高野山出版社、2003 年 テキストについては授業にて指示する。適宜、プリント配布。

参考書・参考資料等

静慈園

『梵字悉曇

慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997 年 児玉義隆

『梵字必携

書写と解説』、朱鷺書房、1991 年

学生に対する評価

授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を正しく書くことが出来る。
 (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
 (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
 (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	企画科目(古文書解読B)／古文書解読B						学期	前期	
副題	『大日本史』編纂関係文書を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-300	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、近世の水戸藩における『大日本史』編纂に関する文書や史料を読む。本年度は、主に佐々宗淳が延宝8年(1680)11月に実施した、南部の第2回史料探訪に関する報告書(『史館旧記』所収。昨年度講読分の続き)を読むことで、古文書の解読能力を高めるとともに、近世の歴史学の発達についても学ぶ。なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

①近世の古文書に関する読解能力を身につける。②古文書を通して、『大日本史』の編纂過程を説明できるようになる。③歴史研究の営みや史料批判について、基礎的な認識を得られるようになる。

授業計画

1. 古文書序説(古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など)
2. 河合正修『史館旧話』を読む①—徳川光圀と周囲の学者たち—
3. 河合正修『史館旧話』を読む②—徳川光圀と周囲の学者たち—
4. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む①
5. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む②
6. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む③
7. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む④
8. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑤
9. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑥
10. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑦
11. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑧
12. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑨
13. 「南部御用之覚」(『史館旧記』所収)を読む⑩
14. 史跡見学①
15. 史跡見学②

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に見える専門用語や文献について調べておくこと(90分)【復習】講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと(90分)

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000～2002年) ②佐藤進一『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) ③久保田収『近世史学史論考』(皇学館大学出版部、1968年) ④但野正弘『新版 佐々介三郎宗淳』(錦正社、1988年)

学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、50%)、期末試験(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
 (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
 (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
 (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

①本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次の授業に臨むこと。②『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入し、授業に持参すること。(類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意)。③本講義では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	宗教思想史 I B						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	G1-03-301	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画

1. インドが発する人類の思想的課題—M. K. ガンディーの思想を手懸かりに
2. インドの歴史地理、インダス文明
3. ヴェーダ
4. ウパニシャッド
5. 自由思想家たちとブッダの出現
6. ブッダの生涯とその教え
7. 仏教の発展：大乘仏教と密教
8. 叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9. 叙事詩②：『マハーバーラタ』
10. ヒンドゥー教の発展
11. 正統バラモン教哲学
12. ヒンドゥー教とイスラーム教
13. インドと日本
14. タゴール、アンベードカルの思想
15. ガンディー再び

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと (90分)。事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること (90分)。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教 インドという謎』講談社、2004年。授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート (80%)、授業中の発言等 (20%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
- (B) インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
- (A) インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
- (S) インド宗教思想史に関して独自の知見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席に換算する。

大 学 院

1.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[密教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	1	92101	密教学講義A(大)	北川真寛	2	8単位を超えて修了要件に 参加できない。	348
後期	火	1	92151	密教学講義B(大)	北川真寛	2		349
前期	木	3	94302	仏教学講義A(大)	前谷彰	2		350
前期	金	4	95403	仏教学講義B(大)	菊谷竜太	2		351
前期	月	3	91301	インド学講義(大)	徳重弘志	2		352
前期	木	3	94301	祖典演習(大)	川崎一洋	2		353

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究A(大)	T.ト'ライトライン	2	主要科目12単位必修	354
後期	金	1	95151	密教学特殊研究B(大)	T.ト'ライトライン	2		355
前期	金	2	95201	密教学特殊研究C(大)	T.ト'ライトライン	2		356
後期	金	2	95252	密教学特殊研究D(大)	T.ト'ライトライン	2		357
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A(大)	土居夏樹	2		358
前期	金	3	95301	密教学演習A(大)	南昌宏	2		359
後期	金	3	95351	密教学演習B(大)	南昌宏	2		360
前期	金	4	95401	密教史演習(大)	奥山直司	2		361
後期	木	3	94351	密教学講読(大)	川崎一洋	2		362
前期	月	1	91101	密教史講読(大)	松長潤慶	2		363
前期	木	1	94101	現代社会と宗教(大)	森崎雅好	2		364
前期	金	2	95202	密教と文化(大)	土居夏樹	2		365
前期	月	3	91302	事相研究I-1(大)	佐藤隆彦	2	僧侶コースは4単位必修 ※事相研究I及びIIでそれぞれ2単位以上修得すること	366
後期	月	3	91351	事相研究I-2(大)	佐藤隆彦	2		367
前期	木	2	94201	事相研究II-1(大)	T.ト'ライトライン	2		368
後期	木	2	94251	事相研究II-2(大)	T.ト'ライトライン	2		369

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究A(大)	前谷彰	2		370
前期	木	3	94303	仏教学特殊研究B(大)	坂口太郎	2		371
前期	木	4	94401	仏教学特殊研究C(大)	那須真裕美	2		372
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究(大)	坂口太郎	2		373
前期	水	2	93201	仏教学演習A(大)	前谷彰	2		374
後期	水	2	93251	仏教学演習B(大)	前谷彰	2		375
後期	木	3	94353	仏教学演習C(大)	前谷彰	2		376
後期	木	2	94252	仏教学演習D(大)	岡田英作	2		377
後期	月	3	91352	仏教学講読A(大)	溝端悠朗	2		378
前期	火	2	92201	仏教学講読B(大)	前谷彰	2		379
後期	金	4	95452	仏教学講読D(大)	菊谷竜太	2		380
後期	集中	集中	97051	仏教学講読E(大)	平岡宏一	2		381
前期	月	3	91303	仏教史講読A(大)	溝端悠朗	2		382
前期	木	2	94202	仏教史講読B(大)	櫻木潤	2		383

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	集中	集中	97052	仏教芸術の研究A(大)	内藤栄	2		384
後期	月	1	91151	アジア地域の宗教文化の研究(大)	松長潤慶	2		385
前期	月	2	91201	比較宗教の研究(大)	森本一彦	2		386
後期	木	1	94151	現代社会と仏教の研究(大)	森崎雅好	2		387
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究(大)	山脇雅夫	2		388
通年	論文	論文	99001	修士論文(密教学)	大学院委員長	0		—
前期	論文	論文	99003	修士論文(密教学)(前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

2.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

【仏教学専攻 博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース】

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	1	92101	密数学講義A (大)	北 川 真 寛	2	8単位を超えて修了要件に 参加できない。	348
後期	火	1	92151	密数学講義B (大)	北 川 真 寛	2		349
前期	木	3	94302	仏数学講義A (大)	前 谷 彰	2		350
前期	金	4	95403	仏数学講義B (大)	菊 谷 竜 太	2		351
前期	月	3	91301	インド学講義 (大)	徳 重 弘 志	2		352
前期	木	3	94301	祖典演習 (大)	川 崎 一 洋	2		353

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備考	頁
後期	火	2	92251	仏数学特殊研究A (大)	前 谷 彰	2	主要科目12単位必修	370
前期	木	3	94303	仏数学特殊研究B (大)	坂 口 太 郎	2		371
前期	木	4	94401	仏数学特殊研究C (大)	那 須 真 裕 美	2		372
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究 (大)	坂 口 太 郎	2		373
前期	水	2	93201	仏数学演習A (大)	前 谷 彰	2		374
後期	水	2	93251	仏数学演習B (大)	前 谷 彰	2		375
後期	木	3	94353	仏数学演習C (大)	前 谷 彰	2		376
後期	木	2	94252	仏数学演習D (大)	岡 田 英 作	2		377
後期	月	3	91352	仏数学講義A (大)	溝 端 悠 朗	2		378
前期	火	2	92201	仏数学講義B (大)	前 谷 彰	2		379
後期	金	4	95452	仏数学講義D (大)	菊 谷 竜 太	2		380
後期	集中	集中	97051	仏数学講義E (大)	平 岡 宏 一	2		381
前期	月	3	91303	仏教史講義A (大)	溝 端 悠 朗	2	382	
前期	木	2	94202	仏教史講義B (大)	櫻 木 潤	2	383	
前期	木	1	94101	現代社会と宗教 (大)	森 崎 雅 好	2	社会人コースは4単位必修	364
前期	金	2	95203	仏教と文化 (大)	土 居 夏 樹	2		365
前期	月	3	91302	事相研究 I -1 (大)	佐 藤 隆 彦	2	僧侶コースは4単位必修 ※事相研究 I 及び II でそれぞれ れ2単位以上修得すること	366
後期	月	3	91351	事相研究 I -2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		367
前期	木	2	94201	事相研究 II -1 (大)	T.ト'ライトライ	2		368
後期	木	2	94251	事相研究 II -2 (大)	T.ト'ライトライ	2		369

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	1	95101	密数学特殊研究A (大)	T.ト'ライトライ	2		354
後期	金	1	95151	密数学特殊研究B (大)	T.ト'ライトライ	2		355
前期	金	2	95201	密数学特殊研究C (大)	T.ト'ライトライ	2		356
後期	金	2	95252	密数学特殊研究D (大)	T.ト'ライトライ	2		357
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A (大)	土 居 夏 樹	2		358
前期	金	3	95301	密数学演習A (大)	南 昌 宏	2		359
後期	金	3	95351	密数学演習B (大)	南 昌 宏	2		360
前期	金	4	95401	密教史演習 (大)	奥 山 直 司	2		361
後期	木	3	94351	密数学講義 (大)	川 崎 一 洋	2		362
前期	月	1	91101	密教史講義 (大)	松 長 潤 慶	2		363

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備考	頁
後期	集中	集中	97052	仏教芸術の研究A (大)	内 藤 栄	2		384
後期	月	1	91151	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	松 長 潤 慶	2		385
前期	月	2	91201	比較宗教の研究 (大)	森 本 一 彦	2		386
後期	木	1	94151	現代社会と仏教の研究 (大)	森 崎 雅 好	2		387
前期	集中	集中	97001	教育学特殊研究 (大)	山 脇 雅 夫	2		388
通年	論文	論文	99002	修士論文 (仏教学)	大学院委員長	0		—
前期	論文	論文	99004	修士論文 (仏教学) (前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

3.文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

【密教学専攻】

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	金	1	95101	密教学特殊研究A (大)	T.ト'ライトライン	2	※密教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回履 修可)	354
後期	金	1	95151	密教学特殊研究B (大)	T.ト'ライトライン	2		355
前期	金	2	95201	密教学特殊研究C (大)	T.ト'ライトライン	2		356
後期	金	2	95252	密教学特殊研究D (大)	T.ト'ライトライン	2		357
後期	金	2	95251	密教史特殊研究A (大)	土居夏樹	2		358
前期	金	3	95301	密教学演習A (大)	南 昌 宏	2		359
後期	金	3	95351	密教学演習B (大)	南 昌 宏	2		360
前期	金	4	95401	密教史演習 (大)	奥 山 直 司	2		361
後期	木	3	94351	密教学講読 (大)	川 崎 一 洋	2		362
前期	月	1	91101	密教史講読 (大)	松 長 潤 慶	2		363
前期	月	5	91501	密教特殊演習C-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2		—
後期	月	5	91551	密教特殊演習C-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		—
前期	月	5	91502	密教特殊演習D-1 (大)	松 長 潤 慶	2		—
後期	月	5	91552	密教特殊演習D-2 (大)	松 長 潤 慶	2		—
前期	金	4	95402	密教特殊演習E-1 (大)	土 居 夏 樹	2		389
後期	金	4	95451	密教特殊演習E-2 (大)	土 居 夏 樹	2		390
前期	月	4	91401	密教特殊演習F-1 (大)	南 昌 宏	2		391
後期	月	4	91451	密教特殊演習F-2 (大)	南 昌 宏	2		392
前期	月	2	91202	密教特殊演習G-1 (大)	櫻 木 潤	2		393
後期	月	2	91251	密教特殊演習G-2 (大)	櫻 木 潤	2		394

【仏教学専攻】

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究A (大)	前 谷 彰	2	※仏教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回履 修可)	370
前期	木	3	94303	仏教学特殊研究B (大)	坂 口 太 郎	2		371
前期	木	4	94401	仏教学特殊研究C (大)	那 須 真 裕 美	2		372
後期	木	3	94352	仏教史特殊研究 (大)	坂 口 太 郎	2		373
前期	水	2	93201	仏教学演習A (大)	前 谷 彰	2		374
後期	水	2	93251	仏教学演習B (大)	前 谷 彰	2		375
後期	木	3	94353	仏教学演習C (大)	前 谷 彰	2		376
後期	木	2	94252	仏教学演習D (大)	岡 田 英 作	2		377
後期	月	3	91352	仏教学講読A (大)	溝 端 悠 朗	2		378
前期	火	2	92201	仏教学講読B (大)	前 谷 彰	2		379
後期	金	4	95452	仏教学講読D (大)	菊 谷 竜 太	2		380
後期	集中	集中	97051	仏教学講読E (大)	平 岡 宏 一	2		381
前期	月	3	91303	仏教史講読A (大)	溝 端 悠 朗	2		382
前期	木	2	94202	仏教史講読B (大)	櫻 木 潤	2		383
前期	木	4	94402	仏教特殊演習A-1 (大)	前 谷 彰	2		—
後期	木	4	94451	仏教特殊演習A-2 (大)	前 谷 彰	2		—

講 義 概 要
•
授 業 計 画

科目名	密教学講義A(大)						学期	前期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	D5-01-302	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. 中国・朝鮮密教
4. 密教の聖典 (1) —『大日経』—
5. 密教の聖典 (2) —『金剛頂経』—
6. 密教の聖典 (3) —論書—
7. 密教の成仏論
8. 密教の仏身論
9. 密教のさとり
10. 密教の秘密
11. 顕教の神変
12. 密教の神変
13. 顕教における心
14. 密教における心
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと (30分)。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと (60分)。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』(大法輪閣、1989年)、②金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫、1989年)、③勝又俊教『密教入門』(春秋社、1991年)、④松長有慶『密教』(岩波新書、1991年)など。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、講義参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想を理解できる。
- (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、必ず予習・復習をしておくこと。

科目名	密教学講義B(大)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	D5-01-303	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国などのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、日本密教、特に弘法大師空海によって確立された真言密教の思想や実践行を中心に概観することで、日本密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

日本密教の思想や専門用語を学び、特に真言密教の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・日本密教総論
2. 弘法大師の著作
3. 弘法大師の教え (1) 一即身成仏一
4. 弘法大師の教え (2) 一十住心思想一
5. 真言密教の曼荼羅 (1) 一胎藏曼荼羅一
6. 真言密教の曼荼羅 (2) 一金剛界曼荼羅一
7. 真言密教の実践法
8. 真言密教の莊嚴一法具・衣体一
9. 真言密教の行法一護摩行一
10. 真言密教の回向一十三仏信仰一
11. 密教における灌頂
12. 密教における灌頂儀礼
13. 天台密教・修験
14. 神仏習合
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと (30分)。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと (60分)。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』(大法輪閣、1989年)、②金岡秀友『密教の哲学』(講談社学術文庫、1989年)、③勝又俊教『密教入門』(春秋社、1991年)、④松長有慶『密教』(岩波新書、1991年)など。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、講義参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な真言密教の思想を理解できる。
- (B) 基本的な真言密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な真言密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な真言密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

配付資料を読んだり、テーマや思想について指名して答えてもらうので、必ず予習・復習をしておくこと。

科目名	仏教学講義(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-304	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

戸田義雄著『宗教と言語』を読み、言語理論と宗教現象について理解する。

授業の到達目標

『宗教と言語』を読むことによって、分析のための言語理論と宗教現象について考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. I 宗教言語の分析 1 哲学的分析を標榜する哲学運動
3. " 2 意味の経験的基準と意味の局面
4. " 3 ものの気付き方の体系
5. " 4 「説明の眼」と「心の眼」
6. " 5 関係枠
7. " 6 解釈活動の枠組みと実感
8. " 7 語体験と宗教意識
9. II 知覚世界と言語現象 1 思想と体験の形成力と 12 の言語
10. " 2 母国語の意味の場と意識の志向性
11. " 3 共同主語と宗教心理
12. III 宗教思想の構造 1 宗教経験表出の諸相 2 宗教的思考 3 宗教行為と価値志向
13. IV 言葉の成就 1 情動言語と命題方語
14. " 2 言いし事が成る。
15. " 3 書かれし事が成る。

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する (120分)

テキスト

戸田義雄『宗教と言語』(大明堂)

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

学生に対する評価

授業内容をどれだけ理解しているか、学期末のレポート (100%) によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な言語観を養っている。
- (B) 言語と宗教の関係性に関する思考能力を持っている。
- (A) 言語とは何かについて説明できる。
- (S) 宗教とは何かについて説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	仏教学講義B(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D5-02-305	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッダの生涯
8. 初期仏教② ブッダの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・シヨベン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
 (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
 (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	インド学講義(大)						学期	前期	
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	D5-01-306	実務経験の有無	無	関連DP	密1, 仏1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれているが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・上座部仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）
3. インドにおける仏教の歴史（2）
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド中期密教（1）：『大日経』系の密教
7. インド中期密教（2）：『金剛頂経』系の密教（『真実摂経』）
8. インド中期密教（3）：『金剛頂経』系の密教（『理趣経』）
9. インド後期密教（1）：父タントラ系の密教
10. インド後期密教（2）：母タントラ系・不二タントラ系の密教
11. チベットの密教（1）：前伝仏教期
12. チベットの密教（2）：後伝仏教期
13. チベットの密教（3）：宗派の概説
14. チベットの密教（4）：近代の仏教
15. 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

松長有慶、『密教の歴史』、平楽寺書店、1969年 ※入手が困難な場合、担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編、『初期密教—思想・信仰・文化—』、春秋社、2013年・高橋尚夫 他編、『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年・松長有慶 編、『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 上座部仏教、大乘仏教、密教の関係を正確に理解できている。
(B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を正確に理解できている。
(A) 主要な密教経典の特徴を正確に理解できている。
(S) インド・チベット密教史の流れを正確に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・遅刻3回で欠席1回とみなす。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	祖典演習(大)						学期	前期	
副題	『吽字義』講読1				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	D5-01-307	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書や先行研究を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。弘法大師の著作を通じて、密教の言語哲学について考察する。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
2. 梵字の基礎知識を学ぶ
3. 『大日経』の言語論①
4. 『大日経』の言語論②
5. 『大日経』の言語論③
6. 吽字の字相
7. 吽字の字義
8. 阿字の字義（略説）
9. 阿字の実義（本初不生の実義）
10. 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
11. 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
12. 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
13. 汗字の実義（六義よりの実践①）
14. 汗字の実義（六義よりの実践②）
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） / 弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所） / 竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容を理解することができる。
- (B) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その基礎となった仏教や密教の思想を理解し、弘法大師の思想の独自性を指摘することができる。
- (S) 弘法大師の著作に関して、新たな視点から新たな問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。できるだけ多くの注釈書や先行研究に目を通しておくこと。

科目名	密教学特殊研究A(大)							学期	前期
副題	『大日経』第七と『不思議疏』を読む(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D5-01-308	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『大日経』の6巻31品は經典の本文であり、最後の第七巻の5品は『大日経』の法門による供養次第を説く儀軌である。新羅の不可思議撰の『大毘盧遮那経供養次第法疏』（『不思議疏』、2巻）はその注釈書である。『大日経』の第七巻と『不思議疏』を平行して講読する。受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。

授業の到達目標

漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1. 『大日経』と『不思議疏』の行法体系
2. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」①「掃恭敬信序」
3. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」②「精勤修行序」
4. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」③「勤行制戒門」
5. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」④「正戒重禁門」
6. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」⑤「覚心得益門」
7. 「供養念誦三昧耶法門真言行学処品第一」⑥「生成仏門」
8. 「増益守護清浄行品第二」①「総序」
9. 「増益守護清浄行品第二」②「九方便」
10. 「増益守護清浄行品第二」③「入仏三昧耶」
11. 「増益守護清浄行品第二」④「法界生」
12. 「増益守護清浄行品第二」⑤「転法輪」
13. 「増益守護清浄行品第二」⑥「金剛甲冑」
14. 「増益守護清浄行品第二」⑦「ラン字」
15. 「増益守護清浄行品第二」⑧「無堪忍大護」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

『大日経』第七巻と高野版の『不思議疏』のコピーを配布

参考書・参考資料等

関連する他の漢訳儀軌、チベット訳『大毘盧遮那現等覺所屬供養儀軌』の和訳、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。この講義の内容は後期に続くため、「密教学特殊研究B(大)」を続けて受講することを推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	密教学特殊研究B(大)							学期	後期
副題	『大日経』第七と『不思議疏』を読む(後半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D5-01-309	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『大日経』の6巻31品は經典の本文であり、最後の第七巻の5品は『大日経』の法門による供養次第を説く儀軌である。新羅の不可思議撰の『大毘盧遮那経供養次第法疏』（『不思議疏』、2巻）はその注釈書である。『大日経』の第七巻と『不思議疏』を平行して講読する。受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。

授業の到達目標

漢文読解力、秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1. 「供養儀式品第三」① 「器界観」「道場観」
2. 「供養儀式品第三」② 「虚空蔵転妃」「結界」
3. 「供養儀式品第三」③ 「大鉤召」
4. 「供養儀式品第三」④ 「示三昧耶」「閻伽」「華座」
5. 「供養儀式品第三」⑤ 「不動尊」「金剛鎧」
6. 「供養儀式品第三」⑥ 「怖魔」「無能堪忍」
7. 「供養儀式品第三」⑦ 「五養」
8. 「持誦法則品第四」① 「有相念誦門」「無相念誦門」以下
9. 「持誦法則品第四」② 「意支念声真言門」以下
10. 「持誦法則品第四」③ 「先持門」「具支」以下
11. 「持誦法則品第四」④ 「五字嚴身門」
12. 「持誦法則品第四」⑤ 「秘密事業可解門」以下
13. 「真言事業品第五」① 「上求下化修供門」以下
14. 「真言事業品第五」② 「修業無間得益門」以下
15. 「真言事業品第五」③ 「無相最勝証請門」「流通」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

『大日経』第七巻と高野版の『不思議疏』のコピーを配布

参考書・参考資料等

関連する他の漢訳儀軌、チベット訳『大毘盧遮那現等覺所屬供養儀軌』の和訳、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 『大日経』第七巻と『不思議疏』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究A(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	密教学特殊研究C(大)						学期	前期	
副題	頼瑠の『阿字秘釈』の研究(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D5-01-310	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

阿字観は真言密教の代表的な観法で、『大日経』、『大日経疏』や秘密儀軌に由来するものである。今日に伝わる阿字観はさらに日本の伝統的な解説書・注釈書・次第に基づいて修練される。各種の経軌論の引用をしながら阿字観の高度な理解を説く頼瑠の『阿字秘釈』(3巻)は中世の阿字思想と観法に関する解説書である。『阿字秘釈』の学習を通じて阿字を持つ意義と伝統教学による阿字観の理解を深めることができる。前期は経軌の内容を紹介して『阿字秘釈』の上巻を読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『阿字秘釈』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、阿字観の実践を深めることができる。

授業計画

1. 観法について：目的と種類
2. 『大日経』『大日経疏』における阿字について
3. 『無畏三蔵禪要』の内容紹介：前半
4. 『無畏三蔵禪要』の内容紹介：後半
5. 『阿字観用心口決』の内容紹介：前半
6. 『阿字観用心口決』の内容紹介：後半
7. 『阿字秘釈』と頼瑠
8. 『阿字秘釈』上巻①：「通持門」
9. 『阿字秘釈』上巻②：念誦の種類
10. 『阿字秘釈』上巻③：「観字門」以下
11. 『阿字秘釈』上巻④：「引文生信」以下
12. 『阿字秘釈』上巻⑤：『大日経』の引用以下
13. 『阿字秘釈』上巻⑥：『大日経疏』の引用以下
14. 『阿字秘釈』上巻⑦：「問答決疑」以下
15. 『阿字秘釈』上巻⑧：『菩提心論』の引用以下

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『阿字秘釈』の承応二年の刊本(3巻本)のコピーを配布、『無畏三蔵禪要』、『阿字観用心口決』の江戸の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

藤田隆乗『頼瑠記阿字秘釈国訳』、北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『阿字秘釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。内容は後期に続くため、「密教学特殊研究D(大)」を続けて受講することを推薦する。授業は遠隔で行うこともある。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	密教学特殊研究D(大)							学期	後期
副題	頼瑠の『阿字秘釈』の研究(後半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D5-01-311	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

阿字観は真言密教の代表的な観法で、『大日経』、『大日経疏』や秘密儀軌に由来するものである。今日に伝わる阿字観はさらに日本の伝統的な解説書・注釈書・次第に基づいて修練される。各種の経軌論の引用をしながら阿字観の高度な理解を説く頼瑠の『阿字秘釈』(3巻)は中世の阿字思想と観法に関する解説書である。『阿字秘釈』の学習を通じて阿字を持つ意義と伝統教学による阿字観の理解を深めることができる。前期は経軌の内容を紹介して『阿字秘釈』の上巻を読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『阿字秘釈』の研究を通じて、真言密教の教相と事相を理解し、阿字観の実践を深めることができる。

授業計画

- 『阿字秘釈』中巻①:『心月輪秘釈』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻②:『心地観経』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻③:『起信論』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻④:『法華軌』の引用以下
- 『阿字秘釈』中巻⑤:『解字門』と「解経生信」
- 『阿字秘釈』中巻⑥:「釈義利」
- 『阿字秘釈』中巻⑦:「釈疏知義」
- 『阿字秘釈』中巻⑧:『即身義』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻①:『十住心論』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻②:『雑問答』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻③:『大日経』「具縁品」の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻④:『大疏』四の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑤:『阿字観頌』の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑥:『大日経』七の引用以下
- 『阿字秘釈』下巻⑦:『大疏』七の引用以下

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『阿字秘釈』の承応二年の刊本(3巻本)のコピーを配布、『無畏三蔵禅要』、『阿字観用心口決』の江戸の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

藤田隆乗『頼瑠記阿字秘釈国訳』、北尾隆心『密教冥想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観冥想入門』

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- 『阿字秘釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究C(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は遠隔で行うこともある。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	密教史特殊研究A(大)						学期	後期	
副題	『真言教相興起伝来』の研究				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-312	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山上で展開された教学研究の歴史は、同時に中院流の歴史でもある。しかしながら、その内容については不明な点が多く、特に中世から近世にかけての高野山上の動向は判然としていない。この講義では、『金剛峯寺諸院家析負輯』や『紀伊統風土記』において、宝性院仵遍(1454-1516)の作とされる『真言教相興起伝来』(写本・未翻刻)をとり上げ、諸本との校合を行ないながら、その内容を確認する。

授業の到達目標

高野山教学史に関する未翻刻史料を翻刻し、考察する力を身につける。

授業計画

1. 概論(講義の進め方についてのオリエンテーション)
2. 『真言教相興起伝来』1丁(翻刻)
3. 『真言教相興起伝来』1丁(内容確認)
4. 『真言教相興起伝来』2丁(翻刻)
5. 『真言教相興起伝来』2丁(内容確認)
6. 『真言教相興起伝来』3丁(翻刻)
7. 『真言教相興起伝来』3丁(内容確認)
8. 『真言教相興起伝来』4丁(翻刻)
9. 『真言教相興起伝来』4丁(内容確認)
10. 『真言教相興起伝来』5丁(翻刻)
11. 『真言教相興起伝来』5丁(内容確認)
12. 『真言教相興起伝来』6丁(翻刻)
13. 『真言教相興起伝来』6丁(内容確認)
14. 『真言教相興起伝来』7丁(翻刻)
15. 『真言教相興起伝来』7丁(内容確認)

準備学習(予習・復習)・時間

・担当箇所の資料(翻刻・考察)作成(120分) ・各発表の内容に関する質問を考えるとともに、自分自身の考えも構築する(60分)

テキスト

『真言教相興起伝来』※授業中に指示。(底本) 三寶院寄託 天保二年(1831)写本(校合本) 三寶院寄託 寛政七年(1795)写本 他2本。

参考書・参考資料等

・梅尾祥雲『日本密教学道史』、『梅尾祥雲全集』6、密教文化研究所、1982年。・『金剛峯寺諸院家析負輯』、『続真言宗全書』34・35、密教文化研究所、1976～1978年。・『紀伊統風土記』、『続真言宗全書』36～40、密教文化研究所、1979年。※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表(60%)、積極的な授業態度(20%)、学期末の課題(担当箇所の校訂テキストデータ)提出(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 写本資料の内容を、解読(文字おこし)することができる。
 (B) 写本資料の内容を、校合することができる。
 (A) 写本の内容について、諸資料から調査・検討することができる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえ、『真言教相興起伝来』の資料的価値を学術的に論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表時に質疑応答を行い、最終的な課題提出に向けて、修正点やさらに調査すべき点などを指摘する。

その他

・この授業は特殊研究であるが、受講生で担当を決めて発表資料を作り、発表をしてもらおう。・担当回に無断で欠席した者は、失格にする。・受講生の理解や希望に応じて、進捗や進め方を変更する場合がある。
 ・この講義の成果は、『高野山大学大学院紀要』に投稿する予定。

科目名	密教学演習A(大)							学期	前期
副題	漢訳経典を読む					授業方法	演習	担当者	南昌宏
ナンバリング	D5-25-313	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

漢訳経典を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典の読解を通じて、中国仏教の展開に関する基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。漢訳経典は、受講生の関心に応じて決める。授業計画は例である。

授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。 ○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 592 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 592 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 592 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 593 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 593 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 593 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 594 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 594 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 594 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 595 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 595 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 595 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 596 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 596 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 596 頁下段を読む

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにする(30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて調査・理解しておく(60分)。事後学修としてレポートをまとめる(90分)。

テキスト

コピーを配布する。主として『大正新修大蔵経』『大日本統蔵経』等を使用する。

参考書・参考資料等

水野弘元『仏教の基礎知識』(春秋社)など。

学生に対する評価

レポートまたは試験(50%)、発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
 (B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
 (A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
 (S) 自分の考えを論理的に発表することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。修士論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。

科目名	密教学演習B(大)							学期	後期
副題	漢訳経典を読む					授業方法	演習	担当者	南昌宏
ナンバリング	D5-25-314	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

漢訳経典を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典の読解を通じて、中国仏教の展開に関する基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持つるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。漢訳経典は、受講生の関心に応じて決める。授業計画は例である。

授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。 ○漢訳経典の内容を理解できる。 ○漢訳経典を批判的に読むことができる。
○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。 ○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 597 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 597 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 597 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 598 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 598 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 598 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 599 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 599 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 599 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 600 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 600 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 600 頁下段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 601 頁上段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 601 頁中段を読む
- 『釈摩訶衍論』(大正蔵) 601 頁下段を読む

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと(30分)、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと(60分)。事後学修としてレポートをまとめること(90分)。

テキスト

コピーを配布する。主として『大正新修大蔵経』『大日本統蔵経』等を使用する。

参考書・参考資料等

水野弘元『仏教の基礎知識』(春秋社)など。

学生に対する評価

レポートまたは試験(50%)、発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に音読できる。
(B) 未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
(A) テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
(S) 自分の考えを論理的に記述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。修士論文の作成に関し、具体的な疑問・要望があれば、授業内で対応する。

科目名	密教史演習(大)							学期	前期
副題	近代真言宗史の諸問題					授業方法	講義	担当者	奥山直司
ナンバリング	D5-01-315	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本授業の目的は、新時代の到来に対して真言宗の人々がどのように対応したかを、釈雲照（1827-1909）と土宜法龍（1854-1923）の活動を中心に検討することにある。雲照は慈雲の思想を継承して戒律主義運動を展開し、戒律学校目白僧園を主宰した。法龍は真言宗法務所課長、仁和寺門跡・御室派管長、高野派管長、古義真言宗各派聯合総裁などを歴任して、宗内改革を主導した。彼らの思想と行動に真言宗の可能性を探る。授業は一次資料の解説を中心とし、基礎力の養成を図る。

授業の到達目標

近代真言宗史の諸問題を理解し、自ら実証的、理論的に研究ができるようになる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 1. 釈雲照書簡の解説：明治仏教界関係（上）
3. 2. 釈雲照書簡の解説：明治仏教界関係（中）
4. 3. 釈雲照書簡の解説：明治仏教界関係（下）
5. 4. 釈雲照書簡の解説：釈興然インド派遣関係（1）
6. 5. 釈雲照書簡の解説：釈興然インド派遣関係（2）
7. 6. 釈雲照書簡の解説：釈興然インド派遣関係（3）
8. 7. 釈雲照書簡の解説：その他（1）
9. 8. 土宜法龍関係資料の整理（1）
10. 9. 土宜法龍関係資料の整理（2）
11. 10. 土宜法龍関係資料の読解：履歴
12. 11. 土宜法龍関係資料の読解：世界旅行関係（1）
13. 12. 土宜法龍関係資料の読解：世界旅行関係（2）
14. 13. 土宜法龍関係資料の読解：その他
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、資料の該当箇所を読解してくる（120分）。事後学修として、自らの読みを修正し、関連の知識を整理する（90分）。

テキスト

草繁全宜『釈雲照』、その他担当者が用意するもの。

参考書・参考資料等

奥山直司(2008)「近代日本仏教史の中の土宜法龍」『環』35

学生に対する評価

授業参加・予習復習状況（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 活字化された資料を正確に読むことができる。
- (B) 活字化された資料を読解し、内容を把握することができる。
- (A) 手書きの資料を正確に翻刻することができる。
- (S) 手書きの資料を翻刻し、内容を把握することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

ゆっくりと進むので気軽に出席し、原資料を用いた研究の楽しさを味わってもらいたい。

科目名	密教学講読(大)						学期	後期	
副題	『卍字義』講読 2				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	D5-01-316	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『卍字義』を、注釈書や先行研究を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。弘法大師の著作を通じて、密教の言語哲学について考察する。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 汗字の実義 (字門道よりの実践①)
2. 汗字の実義 (字門道よりの実践②)
3. 汗字の実義 (字門道よりの実践③)
4. 偈頌による表現 (凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義)
5. 偈頌による表現 (三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義)
6. 慶字の実義 (実義の要略、遮情言絶の実義)
7. 慶字の実義 (自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等撰持の実義)
8. 慶字の実義 (円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義)
9. 卍字の合説 (合説の要略、別相による統括、通相による統括)
10. 卍字の合説 (字相による統括、実義による統括)
11. 卍字の合説 (諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括)
12. 卍字合説の余義 (大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能滿希願の義趣、堅固大力の義趣)
13. 卍字合説の余義 (降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣)
14. 総括
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)所収の『卍字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 卍字義』(春秋社) / 弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『卍字義』の研究』(高野山大学密教文化研究所) / 竹村牧男『空海の言語哲学』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容を理解することができる。
- (B) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その基礎となった仏教や密教の思想を理解し、弘法大師の思想の独自性を指摘することができる。
- (S) 弘法大師の著作に関して、新たな視点から新たな問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。できるだけ多くの注釈書や先行研究に目を通しておくこと。

科目名	密教史講読(大)						学期	前期	
副題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-317	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業の到達目標

密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

授業計画

- 『付法傳』の全体像
- 『付法傳』の歴史的背景
- 『広付法傳』講読1 因起感通分第一叙意
- 『広付法傳』講読2 叙意
- 『広付法傳』講読3 第一祖大日如来金剛薩埵
- 『広付法傳』講読4 龍猛①
- 『広付法傳』講読5 龍猛②
- 『広付法傳』講読6 龍智
- 『広付法傳』講読7 金剛智①
- 『広付法傳』講読8 金剛智②
- 『広付法傳』講読9 金剛智③
- 『広付法傳』講読10 金剛智④
- 『広付法傳』講読11 金剛智⑤
- 『広付法傳』講読12 金剛智⑥
- 『広付法傳』講読13 金剛智⑦

準備学習(予習・復習)・時間

授業は漢文資料の演習を実施するので、週3時間の予習が必要(計90分以上)。

テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等

①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

学生に対する評価

予習状況(50%)、授業参加状況(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 付法傳を正確に読むことができる。
- (B) 付法傳の内容を理解できる。
- (A) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
- (S) 密教付法に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習時に個別に指導する。

その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	現代社会と宗教(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	D5-03-318	実務経験の有無	有	関連DP	密 2, 4, 仏 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言ひ、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
- (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
- (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教と文化(大)/仏教と文化(大)							学期	前期
副題	仏教/密教における死生観					授業方法	講義	担当者	土居夏樹
ナンバリング	D5-01-319	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4, 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 概論(講義の進め方等) | |
| 2. 凡夫の生死 | ① 苦としての生死 |
| 3. " | ② 五蘊と無我 |
| 4. " | ③ 縁起としての生死 |
| 5. " | ④ 輪廻の世界 |
| 6. 仏陀観の変遷 | ① 釈尊の生涯 |
| 7. " | ② 変容する釈尊 |
| 8. " | ③ 神変とマンダラ |
| 9. この身のままで仏と成る | ① 六大と人間 |
| 10. " | ② 真理の表現 |
| 11. " | ③ 心とマンダラ |
| 12. 生死の意味 | ① 因不可得 |
| 13. " | ② 縁起生から本不生へ |
| 14. " | ③ 「真に帰す」 |
| 15. まとめ — 〈私〉という存在— | |

準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく(60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる(120分)

テキスト

・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での積極的発言(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏陀観の変遷について説明ができる。
 (B) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
 (A) 弘法大師の死生観の特徴を説明できる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、密教の死生観を学術的に論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・学部生との合同授業のため、院生各位には授業中に質問を課す。積極的な下調べ、発言を期待する。

科目名	事相研究 I-1(大)							学期	前期
副題	一尊法次第				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D5-01-320	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第の伝受を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流三十三尊の伝授と研究を通じて秘密事相の理解を深めその意義や専門用語について説明できるようになる。また実修することが出来るようになる。

授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「事相研究 I-2」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究 I -2(大)							学期	後期
副題	中院流三十三尊法の研究					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	D5-01-321	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法開書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次尊法の伝受を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。前期に引き続き講義を行う。

授業の到達目標

中院流の諸尊法（三十三尊法）を理解し修法できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーションと全体の概説
2. 弥勒
3. 五字文殊、八字文殊
4. 地藏
5. 愛染
6. 不動
7. 降三世
8. 軍荼利
9. 大威徳
10. 金剛夜叉
11. 烏枢沙摩
12. 法華
13. 光明真言
14. 毘沙門天
15. まとめと講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

中院三十三尊（珠数屋四郎兵衛）

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流について基本的な用語を説明できる。
- (B) 中院流三十三尊について基本的な用語とその意味を説明できる。
- (A) 中院流三十三尊について専門的な用語とその意味を説明できる。
- (S) 中院流三十三尊について密教史の専門知識を事相を中心として理解するとともに説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講義は伝授形式であるので僧服で受講する事。受講資格は已灌頂者に限る。

科目名	事相研究Ⅱ-1(大)						学期	前期	
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D5-01-322	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿闍法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみ受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（莊嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勸請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

浄嚴の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『統真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅱ-2(大)」を続けて受講することを推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	事相研究Ⅱ-2(大)							学期	後期
副題	次第のルーツを探る					授業方法	講義	担当者	T.ド ライトリン
ナンバリング	D5-01-323	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界次第と一尊法の各種次第への理解を深める。後期では金剛頂経系の儀軌として『如意輪瑜伽』、『千手儀軌』、『五秘密儀軌』などを読み、その他に『観智儀軌』や『求聞持法』を読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 『金剛頂経』系の儀軌を読む① (『如意輪瑜伽』を読む)
2. 『金剛頂経』系の儀軌を読む② (『如意輪瑜伽』を読む)
3. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③ (『如意輪瑜伽』を読む)
4. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④ (『千手儀軌』を読む)
5. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤ (『千手儀軌』読む)
6. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥ (『千手儀軌』読む)
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦ (『千手儀軌』読む)
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧ (『五秘密儀軌』を読む)
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨ (『五秘密儀軌』を読む)
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩ (『五秘密儀軌』を読む)
11. その他の儀軌① (『観智儀軌』を読む)
12. その他の儀軌② (『観智儀軌』を読む)
13. その他の儀軌③ (『観智儀軌』を読む)
14. その他の儀軌④ (『求聞持法』前半を読む)
15. その他の儀軌⑤ (『求聞持法』後半を読む)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

浄厳の江戸初期の木版『秘密儀軌』のコピー、その他の資料のコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「事相研究Ⅱ-1(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。授業は途中から遠隔で行うこともある。

科目名	仏教学特殊研究A(大)							学期	後期
副題	-				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-324	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

漢訳語とサンスクリット語の異相について考察する。

授業の到達目標

原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できるようになる。

授業計画

1. 原語と翻訳語の異相全般について概略する。
2. 四摂事について
3. 四無量心について
4. 六波羅蜜行について
5. 自然智について
6. 善悪について
7. 智慧について
8. 清浄について
9. 一心について
10. 平等について
11. 法眼について
12. 法師について
13. 食について
14. 瞋について
15. 痴について

準備学習(予習・復習)・時間

課題は必ずこなす(週 120 分以上)

テキスト

必要に応じて担当者が紹介・コピー配布する。

参考書・参考資料等

担当者が必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポートによって評価(100%)する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 原語を扱うにあたって、サンスクリット語(初級程度)の読解力を持っていること。
- (A) 原語を扱うにあたって、サンスクリット語(中級程度)の読解力を持っていること。
- (S) 講義をとおして、「ことば」を厳密に解析する能力を身につけること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教学特殊研究B(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-325	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山金剛三昧院に伝来した古文書群は、鎌倉・室町時代の高野山のみならず、中世の政治史・寺院社会史などを考える上でも興味深い内容を持っている。本講義では、「六卷書第2」（『金剛三昧院文書』）の精読と討論を通して、金剛三昧院と鎌倉幕府および御家人との関係について考察する。なお、授業計画に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉時代の高野山と鎌倉幕府との関係を、多角的に理解できるようになる。②金剛三昧院に関する研究史の整理と、問題点の抽出方法を習得する。③『金剛三昧院文書』の持つ史料の価値について学問的に理解し、研究に活用できるようになる。

授業計画

1. 金剛三昧院文書の概要
2. 「六卷書第2」所収文書を読む①
3. 「六卷書第2」所収文書を読む②
4. 「六卷書第2」所収文書を読む③
5. 「六卷書第2」所収文書を読む④
6. 「六卷書第2」所収文書を読む⑤
7. 高野山霊宝館の見学
8. 「六卷書第2」所収文書を読む⑥
9. 「六卷書第2」所収文書を読む⑦
10. 「六卷書第2」所収文書を読む⑧
11. 「六卷書第2」所収文書を読む⑨
12. 「六卷書第2」所収文書を読む⑩
13. 「六卷書第2」の原本調査①
14. 「六卷書第2」の原本調査②
15. 「六卷書第2」の原本調査③

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、金剛三昧院・鎌倉幕府に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

中田法寿編『高野山文書 第5巻 金剛三昧院文書』(高野山文書刊行会、1936年)のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

原田正俊「高野山金剛三昧院と鎌倉幕府」(大隅和雄編『仏法の文化史』吉川弘文館、2003年) 原田正俊「室町幕府と高野山金剛三昧院—禅律系寺院の在り方—」(中尾堯編『中世の寺院体制と社会』吉川弘文館、2002年) 山家浩樹「実朝の追善」(『アジア遊学』241、2019年)

学生に対する評価

レポート(100%) ※4000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 金剛三昧院に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 金剛三昧院と『金剛三昧院文書』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
 (A) 金剛三昧院と鎌倉幕府および御家人について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 本講義の内容を踏まえて、金剛三昧院と鎌倉幕府および御家人について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。関係論文や配布資料に貼付した史料について、必ず予習しておくこと。講義は予習を前提として行なう。

科目名	仏教学特殊研究C(大)						学期	前期	
副題	インド大乘仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	M5-02-326	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

初期仏教以来、中心的な思想の一つに挙げられる「空」は、いずれの時代においても、また伝播した先のいずれの地域においても重要な課題として多々論じられ、様々に解釈されてきた。本講義は、これらの根幹となるインド仏教における空理解とその議論について学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方）
2. インド大乘仏教概観
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 緣起
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 戲論
11. 「ことばの否定」とは何か
12. 中観論師たちの思想と著作(1) パーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開
15. 総括（全体のまとめとレポート講評）

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫 1600）、講談社、2003年など。他は適宜授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (B) 空思想の特徴と変遷を理解できる
- (A) インド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に理解し、自分の言葉で説明できる
- (S) インド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に理解し、自分の専門分野や研究テーマ等と比較・検討して論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する

その他

分らない用語があれば自ら辞書や参考文献で調べる等、積極的に理解するよう努めること

科目名	仏教史特殊研究A(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D5-12-327	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山金剛三昧院や五坊寂靜院に伝来した古文書群は、鎌倉・室町時代の高野山のみならず、中世の政治史・寺院社会史などを考える上でも興味深い内容を持っている。本講義では、鎌倉時代の『五坊寂靜院文書』および「素浄外十五名連署陳状案」（『金剛三昧院文書』）の精読と討論を通して、高野山一心院・寂靜院と鎌倉幕府との関係について考察する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉時代の高野山と鎌倉幕府との関係を、多角的に理解できるようになる。②一心院・寂靜院に関する研究史の整理と、問題点の抽出方法を習得する。③『五坊寂靜院文書』『金剛三昧院文書』の持つ史料の価値について学問的に理解し、研究に活用できるようになる。

授業計画

- 『五坊寂靜院文書』『金剛三昧院文書』の概要
- 『五坊寂靜院文書』を読む①
- 『五坊寂靜院文書』を読む②
- 『五坊寂靜院文書』を読む③
- 『五坊寂靜院文書』を読む④
- 『五坊寂靜院文書』を読む⑤
- 『五坊寂靜院文書』を読む⑥
- 高野山霊宝館の見学
- 「素浄外十五名連署陳状案」を読む①
- 「素浄外十五名連署陳状案」を読む②
- 「素浄外十五名連署陳状案」を読む③
- 「素浄外十五名連署陳状案」を読む④
- 「素浄外十五名連署陳状案」を読む⑤
- 「素浄外十五名連署陳状案」の原本を調査する①
- 「素浄外十五名連署陳状案」の原本を調査する②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、一心院・寂靜院・鎌倉幕府に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

テキスト

中田法寿編『高野山文書 第5巻 金剛三昧院文書』（高野山文書刊行会、1936年）、『高野山文書 第6巻 旧学侶方一派文書』（高野山文書刊行会、1941年）のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

山陰加春夫『新編 中世高野山史の研究』（清文堂出版、2011年。初刊1997年） 坂口太郎「中世前期の保寿院流金玉方高野伝と高野山一心院」（『藝林』第70巻第1号、2021年）

学生に対する評価

レポート（100%）※4000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 一心院・寂靜院に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 一心院・寂靜院と『五坊寂靜院文書』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
 (A) 一心院・寂靜院と鎌倉幕府について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 本講義の内容を踏まえて、一心院・寂靜院と鎌倉幕府について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。関係論文や配布資料に貼付した史料について、必ず予習しておくこと。講義は予習を前提として行なう。

科目名	仏教学演習A(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-328	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解するとともに、論文の書き方を学ぶ。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 初期仏教思想概説
3. 「犀の一角の経」を読んで解説
4. 「犀の一角の経」を読んで解説
5. 「いやしい人の経」を読んで解説
6. 「いやしい人の経」を読んで解説
7. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
8. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
9. 「なまぐさの経」を読んで解説
10. 「なまぐさの経」を読んで解説
11. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
12. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
13. 「失の経」を読んで解説
14. 「失の経」を読んで解説
15. 「コラム3 中道」を読んで解説

準備学習(予習・復習)・時間

毎回レジュメを作成して発表（毎回180分以上）

テキスト

必要に応じて担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

レジュメのノルマを果たす（50%）、発表能力（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 仏教の基礎語彙を抑えている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング（ディスカッション・発表）を取り入れた授業である。

科目名	仏教学演習B(大)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-329	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解するとともに、論文の書き方を学ぶ。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「コラム3 中道」を読んで解説
3. 「コラム3 中道」を読んで解説
4. 「愛欲の経」を読んで解説
5. 「愛欲の経」を読んで解説
6. 「論争と議論の経」を読んで解説
7. 「論争と議論の経」を読んで解説
8. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
9. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
10. 「コラム4 非我」を読んで解説
11. 「コラム4 非我」を読んで解説
12. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッタグー青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム5 縁起」を読んで解説

準備学習(予習・復習)・時間

毎回レジュメを作成して発表（毎回180分以上）

テキスト

必要に応じて担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

レジュメのノルマを果たす（50%）、発表能力（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 (B) 仏教の基礎語彙を抑えている。
 (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
 (S) 仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング（ディスカッション・発表）を取り入れた授業である。

科目名	仏教学演習C(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-25-330	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

虚空蔵求聞持法の意義について考察する。

授業の到達目標

弘法大師の『三教指帰』「序文」では「谷不惜響 明星来影」と、音と光の神秘的体験について述べられているが、その真義について考察し、説明できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション 講義の手順と意義について説明する。
2. 『奈良・平安期における山林修行の意義』(担当者小論)を読んで、山林修行とは何かについて考える。
3. 同小論を読んでディスカッション (以下D s と略)
4. 『最澄の著作に見える自然智の概念』(担当者小論)を読む。
5. 同小論を読んでD s。
6. 『依憑天台宗』における「生知」をめぐる問題』(担当者小論)を読む。
7. 同小論を読んで、「生知」と「自然智」の違いについてD s。
8. 虚空蔵求聞持法とは何かについて考察する。
9. 『虚空蔵求聞持法の意義』(担当者小論)を読む。
10. 同小論を読んで、音と光の神秘的体験の実相を探る。
11. 『バラモン教における光の観念』(担当者小論)を読む。
12. 同小論を読んで、ウパニシャッドにおける梵我一如の実相についてD s。
13. 以上の作業を通して、バラモン教における解脱観と仏教のそれとを比較してD s。
14. 同D s。
15. 光の体験が解脱とどのような関係にあるかについて考察する。

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する (60分)

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか (50%)、学期末のレポート (50%) によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 奈良・平安仏教の基本的特徴に関する知識を持っている。
- (A) 山林修行の意義について語るができる。
- (S) 光の体験の真相について、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教学演習D(大)							学期	前期	
副題	インド仏教文献を読む					授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	D5-02-331	実務経験の有無	無	関連DP		1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教学を学ぶための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド仏教文献（『瑜伽師地論』『入菩提行論』の他、受講者希望の文献）を読み進めながら、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標

文献学に必要な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、インド仏教文献を読解できるようになる。インド仏教文献の読解結果を分析し、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 仏教を学ぶための基礎知識①
3. 仏教を学ぶための基礎知識②
4. 『瑜伽師地論』：概説と読解
5. 『瑜伽師地論』：読解
6. 『瑜伽師地論』：読解結果の分析
7. 『入菩提行論』：概説と読解
8. 『入菩提行論』：読解
9. 『入菩提行論』：読解結果の分析
10. インド仏教文献①：概説と読解
11. インド仏教文献①：読解
12. インド仏教文献②：概説と読解
13. インド仏教文献②：読解
14. インド仏教文献①②：読解結果の分析
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、インド仏教文献の読解箇所の文法分析、現代語訳の作成（120分）事後学修として、講義内容の要点をノートなどに整理すること（30分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①下田正弘・永崎研宣編『デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル—』文学通信、2019、②船山徹『仏典はどう漢訳されたのか—コーストラが經典になるとき—』岩波書店、2013。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教の基本的な思想・用語を理解している。
- (B) 基本的な文法事項を押さえてインド仏教文献を正確に読解できる。
- (A) 読解したインド仏教文献の内容を理解している。
- (S) インド仏教文献の読解結果を分析し、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

サンسكريット語やチベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある学生であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読A(大)						学期	後期	
副題	—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	D5-02-332	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

勅撰和歌集『新古今和歌集』の釈教歌を読む。釈教歌とは、仏教に関わる和歌の総称で、仏や経典の教えを詠む歌や、仏事に関わって信仰体験を詠む歌、仏教的な寓意を込めた歌などがある。これらは古くから詠まれてきたが、思想・文芸的な深まりを見せてくるのは、中世初頭の『新古今和歌集』前後からである。本講義では、『新古今和歌集』釈教部と関連する文献の読解を通じて、和歌文学の読み方や、その表現の特徴、古典常識などを学ぶ。

授業の到達目標

釈教歌の特徴、和歌の基礎知識、古典常識などを説明することができるようになる。

授業計画

1. ガイダンス／和歌とはどのような文学か
2. 勅撰和歌集の歴史
3. 和歌と末法思想
4. 『新古今和歌集』の成立
5. 和歌の表現とレトリック
6. 和歌と仏教
7. 『新古今和歌集』釈教部を読む①
8. 『新古今和歌集』釈教部を読む②
9. 『新古今和歌集』釈教部を読む③
10. 『新古今和歌集』釈教部を読む④
11. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑤
12. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑥
13. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑦
14. 『新古今和歌集』釈教部を読む⑧
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書も含めて読み(60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(90分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

久保田淳訳注『新古今和歌集 上・下』(角川ソフィア文庫、2007年) 田中裕・赤瀬信吾校注『新古今和歌集』(新日本古典文学大系、岩波書店、1989年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 和歌文学の基本的な知識や読み方を理解している。
 (B) 『新古今和歌集』とその成立・歴史的背景について理解している。
 (A) 和歌と仏教の関わりについて、自身の意見を述べている。
 (S) 釈教歌について、問題意識を持って論じている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

「日本文化特殊講義A」との合同科目。国語の教員免許取得を目指す学生・文学研究的な視点で論文を書くことを目指す学生は受講することが望ましい。私語厳禁。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	仏教学講読B(大)							学期	前期
副題	—				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D5-02-333	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『般若心経秘鍵』の講読を通して、弘法大師の真言観について考察する。

授業の到達目標

『般若心経秘鍵』の講読を通して、弘法大師の真言観について認識を深め、解析する力を身につける。

授業計画

1. 『般若心経秘鍵』の性格について解説する。
2. 1. 入法総通分の解説
3. 2. 分別諸乗分の解説
4. 3. 行人得益分の解説
5. 4. 総持明分の解説
6. 5. 秘藏真言分の解説
7. 6. 読誦の訓練
8. 7. 読誦の訓練
9. 8. 読誦の訓練
10. 9. 読誦の訓練
11. 10. 読誦の訓練
12. 11. 読誦の訓練
13. 12. 読誦の訓練
14. 13. 読誦の訓練
15. 14. 読誦の訓練

準備学習(予習・復習)・時間

課題は必ずこなす(週 120 分以上)

テキスト

必要に応じて担当者が紹介・コピー配布する。

参考書・参考資料等

担当が必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

読誦の仕方 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘鍵』の意味を解説できる。
- (B) 読誦に集中できる。
- (A) 音(声)と呼吸が合っている。
- (S) 読誦によって心を解放できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教学講読D(大)							学期	前期
副題	—					授業方法	講義	担当者	菊谷竜太
ナンバリング	D5-02-334	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乘思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乘思想① 般若思想① 般若経系聖典群
3. 大乘思想② 般若思想② 般若経注釈群
4. 大乘思想③ 浄土思想
5. 大乘思想④ 法華・華嚴・如来蔵思想
6. サンスクリット文化と仏教① 仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教② 菩薩の思想
8. 大乘思想⑤ 中観思想① ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乘思想⑥ 中観思想② 自律派と帰謬派
10. 大乘思想⑦ 唯識思想① マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乘思想⑧ 唯識思想② 有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③ 大僧院における詩作教師
13. 大乘思想⑨ 認識論と論理学① ナーガールジュナ
14. 大乘思想⑩ 認識論と論理学② ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①「シリーズ大乘仏教」全 10 巻、春秋社、2011-2014 年、②「仏教の思想」2・3・4 (角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』(法蔵館文庫)、2021 年、④船山徹『菩薩として生きる』(シリーズ実践仏教)、臨川書店、2020 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
 (A) いわゆる仏教四学派 (説一切有部・経量部・唯識・中観) の思想的特徴を説明できる。
 (S) 仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	仏教学講読E(大)						学期	後期	
副題	シャーティデーヴァの『入菩薩行論』を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	D5-02-335	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

王族シャンティデーヴァはインド仏教最大の名利ナーランダ僧院に入門する。高い境地の修行者であった彼だが、外からはその生活は寝て食べて排泄するだけに見えた。彼の境地が理解出来ぬ血気に逸るナーランダ僧院の若い僧侶達は、説法会を依頼して恥をかかせ、追い出そうとするが、説法会当日、その説法は今まで聞いた誰のものよりも分かり易く、大変感嘆したという。この説法の内容が『入菩薩行論』である。この典籍を精読し、ツォンカパの密教を理解する上で必要な波羅蜜乗の基本概念を学ぶ。

授業の到達目標

『入菩薩行論』の前半第六章までを読み、チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できるようになる。

授業計画

1. 第一章 菩提心の利益 (1) 菩提心の功德を説明する
2. 第一章 菩提心の利益 (2) 菩提心とは何かを考える
3. 第二章 罪の懺悔 (1) 因果応報について考える
4. 第二章 罪の懺悔 (2) 悪業を浄化する方法を知る
5. 第三章 菩提心の受持 (1) 菩提心を受持する用意
6. 第三章 菩提心の受持 (2) 菩薩戒を受けるということ
7. 第四章 不放逸 (1) なぜ不放逸はダメなのか
8. 第四章 不放逸 (2) 煩惱とどう向き合うか
9. 第五章 正知の守護 (1) 心との向き合い方
10. 第五章 正知の守護 (2) 沈み込みと高ぶりの対処法
11. 第五章 正知の守護 (3) 身体のこと、ふるまい
12. 第六章 忍辱 (1) 怒りの過失
13. 第六章 忍辱 (2) 怒りの解消法
14. 第六章 忍辱 (3) 仏教のアンガーコントロール
15. 第六章 忍辱 (4) 忍辱の功德

準備学習(予習・復習)・時間

復習としては講義におけるノート整理をしておくこと (60分)。復習した部分の中で問題を提起し、それについて考察したレポートを作成すること (60分)。

テキスト

講師が和訳したテキストを用意する。

参考書・参考資料等

運命を好転させる隠された教え チベット仏教入門 幻冬舎 2021年

学生に対する評価

授業についてのレポートを提出し、厳正に評価する。レポート (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『入菩薩行論』の各章の概要が説明できる。
- (B) 『入菩薩行論』の語句、専門用語も説明できる。
- (A) 『入菩薩行論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。
- (S) チベット語で『入菩薩行論』を読める。専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問を受ける。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山大学でのダライ・ラマ法王の金剛界マンダラ灌頂説法会の通訳、胎蔵マンダラ灌頂の通訳など、ダライ・ラマ法王の密教関係の通訳を10回以上務める。

科目名	仏教史講読A(大)						学期	前期	
副題	-				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	D5-04-336	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

『高野日記』を読む。この作品は南北朝期の歌僧・頓阿の手になるとされる紀行文学で、高野参詣と旧友との再会、草庵での老僧との邂逅や彼が語る弘法大師の伝承などから成る。この作品を、写本のくずし字を翻刻するところからはじめて読解し、和歌に対する理解や中世における高野山信仰への理解を深める。講義では受講生による輪読（口頭発表）を求める。

授業の到達目標

『高野日記』を題材に、古典籍を読み、解釈することができるようになる。

授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方、発表担当決定）／くずし字の読み方
2. 中世の紀行文学と和歌／発表・調査の進め方①
3. 和歌の読み方／発表・調査の進め方②
4. 『高野日記』を読む①（教員による発表例①）
5. 『高野日記』を読む②（教員による発表例②）
6. 『高野日記』を読む③（教員による発表例③）
7. 『高野日記』輪読①（受講生による発表①）
8. 『高野日記』輪読②（受講生による発表②）
9. 『高野日記』輪読③（受講生による発表③）
10. 『高野日記』輪読④（受講生による発表④）
11. 『高野日記』輪読⑤（受講生による発表⑤）
12. 『高野日記』輪読⑥（受講生による発表⑥）
13. 『高野日記』輪読⑦（受講生による発表⑦）
14. 『高野日記』輪読⑧（受講生による発表⑧）
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を翻刻して読み（60分）、事後学修として講義内容をまとめておくこと（90分）。発表担当箇所についての調査・準備を含む。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

『研究資料日本文学 日記・紀行文学』（明治書院、1984年）井上宗雄『中世歌壇史の研究 南北朝期（改訂新版）』（明治書院、1987年）その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

口頭発表（60%）、講義への取り組み（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『高野日記』の基本的な事項について理解している。
 (B) 『高野日記』について、翻刻して読解することができる。
 (A) 『高野日記』について、他文献を利用して解釈を深めることができる。
 (S) 『高野日記』を基にして、高野山に関する文学作品や信仰のあり方について考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

発表ごとに指導し、質疑応答・討議を通して理解を深める。

その他

4回以上理由もなく無断で欠席した者、口頭発表をしなかった者については、成績は評価しない。講義は発表と討議が中心である。自身の発表でなくとも、積極的な受講を求める。

科目名	仏教史講読B(大)						学期	前期	
副題	『日本三代実録』を読む				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D5-02-337	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『日本三代実録』は、『日本書紀』にはじまる律令国家が編さんした「六国史」の最後を飾る歴史書である。国史の到達点とみなされ、その記述は詳細であり、平安時代初期の記録としても貴重である。本講義では、『日本三代実録』の輪読を通して、漢文史料の基礎的読解力と、歴史学の研究手法を身につけるとともに、律令国家の完成期ともいえる9世紀半ばの日本社会のありようについて学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

『日本三代実録』を読み解くことを通じて、漢文史料の基礎的読解力をつけ、歴史学の研究手法を習得し、真言宗の成立期である9世紀半ばの日本社会のありようを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学から研究するための手法
2. 『日本三代実録』とはどのような史料か？
3. 『日本三代実録』の時代—律令国家の完成期—
4. 『日本三代実録』を読む①
5. 『日本三代実録』を読む②
6. 『日本三代実録』を読む③
7. 『日本三代実録』を読む④
8. 『日本三代実録』を読む⑤
9. 『日本三代実録』を読む⑥
10. 『日本三代実録』を読む⑦
11. 『日本三代実録』を読む⑧
12. 『日本三代実録』を読む⑨
13. 『日本三代実録』を読む⑩
14. 『日本三代実録』を読む⑪
15. 『日本三代実録』を読む⑫

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べる(90分) 事後学習：授業で取り上げた法令について関心を持ったテーマや人物について調べる(60分)。

テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系 日本三代実録 前篇』(吉川弘文館、1991年。初版は1934年)を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①遠藤慶太『六国史—日本書紀に始まる古代の「正史」』(中公新書、2016年)。②古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥撰閣政治』(岩波新書、2011年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表(50%)・予習・復習などの授業への参加度(50%)によって評価する。全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文史料を読み下すことができる。
- (B) 漢文史料を読み下し、その内容を解釈することができる。
- (A) 漢文史料を読み下し、解釈をした上で、内容を説明することができる。
- (S) 漢文史料を読み下して解釈し、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。②漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたい。③卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。

科目名	仏教芸術の研究A(大)							学期	後期
副題	仏教美術の成立と特徴				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	D5-12-338	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を習得する。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

授業の到達目標

仏教美術にも興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、自身の言葉で説明できるようになる。

授業計画

1. 釈迦の生涯と美術（釈迦八相を中心に）
2. 釈迦の生涯と美術（分舍利から舍利礼拝まで）
3. 仏像の誕生と仏像の種類（ガンダーラ）
4. 仏像の誕生と仏像の種類（マトゥラー）
5. 仏教の東漸（西アジア）
6. 仏教の東漸（中国、朝鮮半島）
7. 飛鳥時代から白鳳時代の美術（飛鳥時代）
8. 飛鳥時代から白鳳時代の美術（白鳳時代）
9. 奈良時代の美術（奈良時代前期）
10. 奈良時代の美術（奈良時代後期と古密教）
11. 正倉院宝物の世界（主な宝物について）
12. 正倉院宝物の世界（聖武天皇の持戒と宝物献納）
13. 密教美術の世界（彫刻）
14. 密教美術の世界（絵画）
15. 平安時代後期から鎌倉時代へ（仏師の系譜を中心に）

準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

テキスト

・『寧楽遺文 中巻 宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和37年） ・『校刊美術史料 寺院編 上中下』（中央公論美術出版、昭和47年） ※授業で使う部分を指示するので、購入もしくは図書館でコピーすること。

参考書・参考資料等

・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和62年） ・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和37年）
・内藤栄『舍利荘嚴美術の研究』（青史出版、平成22年）

学生に対する評価

レポート（50%）、出席（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
 (B)・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
 (A)・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
 (S)・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・美術館と博物館で30年以上学芸員を勤めており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において26年勤務してきた。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	アジア地域の宗教文化の研究(大)							学期	後期
副題	密教付法資料の研究				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D5-01-339	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業の到達目標

密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

授業計画

1. 『付法傳』の全体像
2. 『広付法傳』講読 14 不空①
3. 『広付法傳』講読 15 不空②
4. 『広付法傳』講読 16 不空③
5. 『広付法傳』講読 17 不空④
6. 『広付法傳』講読 18 不空⑤
7. 『広付法傳』講読 19 不空⑥
8. 『広付法傳』講読 20 不空⑦
9. 『広付法傳』講読 21 惠果①
10. 『広付法傳』講読 22 惠果②
11. 『広付法傳』講読 23 惠果③
12. 『広付法傳』講読 24 惠果④
13. 『広付法傳』講読 25 惠果⑤
14. 『広付法傳』講読 26 惠果⑥
15. 『広付法傳』講読 27 惠果⑦

準備学習(予習・復習)・時間

授業は漢文資料の演習を実施するので、週3時間の予習が必要(計90分以上)。

テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等

①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

学生に対する評価

予習状況(50%)、授業参加状況(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 付法傳を正確に読むことができる。
- (B) 付法傳の内容を理解できる。
- (A) 付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
- (S) 密教付法に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習時に個別に指導する。

その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	比較宗教の研究(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	D5-03-340	実務経験の有無	無	関連DP	密2, 仏2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

修士論文作成のための論文読解と資料読解のための能力を養成することを旨とする。日本における民俗宗教について、論文や歴史資料を講読することによって、日本の信仰の特徴について検討をする。授業中に受講者にテキストを音読するとともに、解説してもらう。

授業の到達目標

民俗宗教に関する論文や歴史資料を読むことを通して、日本の信仰の特徴を理解するとともに、読解力を高める。

授業計画

1. 民俗宗教について
2. 民俗宗教に関する論文を読む (1)
3. 民俗宗教に関する論文を読む (2)
4. 民俗宗教に関する論文を読む (3)
5. 民俗宗教に関する論文を読む (4)
6. 民俗宗教に関する論文を読む (5)
7. 民俗宗教に関する論文を読む (6)
8. 民俗宗教に関する論文を読む (7)
9. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (1)
10. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (2)
11. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (3)
12. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (4)
13. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (5)
14. 民俗宗教に関する歴史資料を読む (6)
15. 日本における民俗宗教の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

授業で扱う論文や資料について予習・復習をする (90分)。

テキスト

プリントを配付する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町、2012年、森本一彦『先祖祭祀と家の確立—「半檀家」から一家一寺へ』ミネルヴァ書房、2006年、日野西真定『お大師さんと高野山〔奥の院〕』慶友社、2011年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%) 評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論文や資料を読むことができる。
- (B) 論文や資料の内容を理解して、要約することができる。
- (A) 論文や資料の内容について、批評をすることができる。
- (S) 論文や資料の内容についての新しい解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中のディスカッションの中でフィードバックする。

その他

授業で講読する論文や歴史資料については、受講生の研究関心に合わせながら初回の授業で決定する。授業は受講生が論文や歴史資料を音読・解説をする形式で進めて行くので、必ず予習をすること。

科目名	現代社会と仏教の研究(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	D5-03-341	実務経験の有無	有	関連DP	密 2, 4, 仏 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1. 日本における自殺の現状
2. 世界における自殺の現状
3. 自殺についての理論①
4. 自殺についての理論②
5. 自殺についての理論③
6. 自殺と精神障害
7. 自殺と自傷
8. 自殺対策①：危機介入
9. 自殺対策②：予防的介入
10. 自殺対策③：事後の対応
11. 自殺とメディア
12. 自殺とインターネット
13. 自殺と文化
14. 自殺と社会
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自殺に関する基本的な知識を身につけている。
- (B) 自殺を志向する心理について理解している。
- (A) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
- (S) 自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	教育学特殊研究(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	講義	担当者	山脇雅夫	
ナンバリング	D5-17-342	実務経験の有無	無	関連DP	-	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義は、ジョン・デューイ著『学校と社会』を精読することによって、教育哲学的思考力を涵養することを旨とする。担当者による内容要約・発表をもとに、デューイの唱えた新教育の内容と吟味し、学校と社会との関係について自分の意見を構築する。

授業の到達目標

デューイの唱えた新教育の内容について理解する。学校と社会との関係について意見を構築する。

授業計画

1. イントロダクション。発表方法の確認と担当者の割り当て・
2. 第一章「学校と、社会の進歩」の発表
3. 第一章についてのディスカッション
4. 第二章「学校と、子どもの生活」の発表
5. 第二章についてのディスカッション
6. 第三章「教育における浪費」の発表
7. 第三章についてのディスカッション
8. 第四章「初等教育の心理学」の発表
9. 第四章についてのディスカッション
10. 第五章「フレーベルの教育原理」の発表
11. 第五章についてのディスカッション
12. 第六章「仕事の心理」の発表
13. 第六章についてのディスカッション
14. 第七章「注意の発達」の発表
15. 総括講義

準備学習(予習・復習)・時間

シラバスに予告された内容につき、最低1時間ほどを参考者等において調べておく(予習)。講義内容をまとめ、示された参考資料にあたっておく(復習)(計90分以上)。

テキスト

デューイ『学校と社会』(岩波文庫)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。課題レポート(70%)、議論への参加(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付け返却する。

その他

教職関係科目を履修していることが望ましい。

科目名	密教特殊演習E-1(大)							学期	前期
副題	-				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-343	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

高野山では、応永年間（1394-1427）に宝性院有快（1345-1416）、無量壽院長覚（1340-1416）といった2大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門2派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する90題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義の一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「大悲胎藏曼荼羅之事」① 書き下し・現代語訳
3. " " ② 問題点と先行研究の整理
4. " " ③ 関連資料1 出典
5. " " ④ 関連資料2 周辺資料
6. " " ⑤ 問題点の整理
7. " " ⑥ 考察
8. " " ⑦まとめ
9. 「初地即極事」① 書き下し・現代語訳
10. " " ② 問題点と先行研究の整理
11. " " ③ 関連資料1 出典
12. " " ④ 関連資料2 周辺資料
13. " " ⑤ 問題点の整理
14. " " ⑥ 考察
15. " " ⑦まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の資料作成（120分） ・演習後の資料修正（60分）

テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵（増福院寄託）・刊本

参考書・参考資料等

※『宗義決撰集』、『真言宗全書』第19巻、続真言宗全書刊行会 ※印融『大疏指南鈔鈎物』、高野山大学図書館蔵（真別所寄託）刊本

学生に対する評価

授業内の発表（50%）、学術論文の作成（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料の読解が問題なくできる。
- (B) 周辺資料を収集し、整理できる。
- (A) 先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
- (S) 演習の成果を学術論文にまとめることができる（1本）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で作成してきた資料の講評を実施する。

その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期すため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

科目名	密教特殊演習E-2(大)							学期	後期
副題	-				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D5-01-344	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	-

授業の目的と概要

高野山では、応永年間(1394-1427)に宝性院有快(1345-1416)、無量壽院長覚(1340-1416)といった2大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門2派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する90題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義の一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「四仏属心数事」① 書き下し・現代語訳
3. " " ② 問題点と先行研究の整理
4. " " ③ 関連資料1 出典
5. " " ④ 関連資料2 周辺資料
6. " " ⑤ 問題点の整理
7. " " ⑥ 考察
8. " " ⑦まとめ
9. 「瑞相三身事」① 書き下し・現代語訳
10. " " ② 問題点と先行研究の整理
11. " " ③ 関連資料1 出典
12. " " ④ 関連資料2 周辺資料
13. " " ⑤ 問題点の整理
14. " " ⑥ 考察
15. " " ⑦まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の資料作成(120分) ・演習後の資料修正(60分)

テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵(増福院寄託)・刊本

参考書・参考資料等

※『宗義決撰集』、『真言宗全書』第19巻、続真言宗全書刊行会 ※印融『大疏指南鈔鈎物』、高野山大学図書館蔵(真別所寄託)刊本

学生に対する評価

授業内の発表(50%)、学術論文の作成(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料の読解が問題なくできる。
- (B) 周辺資料を収集し、整理できる。
- (A) 先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
- (S) 演習の成果を学術論文にまとめることができる(1本)。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で、受講生の作成してきた資料の講評を実施する。

その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期するため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

科目名	密教特殊演習F-1(大)							学期	前期
副題	—					授業方法	演習	担当者	南昌宏
ナンバリング	D5-25-345	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本における密教と中国医学との関係・融合について考究する。密教医学の成立、日本における発展について考究する。

授業の到達目標

研究者として独立できる研究能力を修得する。日本語による論理的で分かりやすい文章の作成能力を修得する。学術論文を発表する

授業計画

- 『佛説奈女耆婆經』(1)「佛在世時……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(2)「枝葉繁茂……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(3)「王實愛此奈……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(4)「其國中有梵志居士……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(5)「又聰明博達……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(6)「王請梵志……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(7)「梵志見奈香美非凡……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(8)「寧有小裁可得乞不……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(9)「梵志更大愁惱……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(10)「卿若欲得……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(11)「梵志得歸種之……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(12)「日日長大……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(13)「如王家奈……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(14)「不滅於王……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(15)「爲無滅王……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

文献の精読(60分) 資料作成のための調査・研究(60分) 資料作成(60分) 事後の資料修正(60分)

テキスト

担当者・受講生が準備する。

参考書・参考資料等

『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版

学生に対する評価

資料作成(30%) 資料修正(30%) 論文作成(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 文献を十分に精読できる。
- 問題を発見する能力がある。
- 学術報告の作成能力がある。
- 学術論文の作成能力がある。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で対応する。 オフィス・アワーや、その他、時間外における面談、メール等のやりとりでも対応する。

その他

科目名	密教特殊演習F-2(大)							学期	後期
副題	—				授業方法	演習	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D5-25-346	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本における密教と中国医学との関係・融合について考究する。密教医学の成立、日本における発展について考究する。

授業の到達目標

研究者として独立できる研究能力を修得する。日本語による論理的で分かりやすい文章の作成能力を修得する。学術論文を発表する

授業計画

- 『佛説奈女耆婆經』(1)「乃捉取百牛之乳……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(2)「煎爲醍醐……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(3)「實乃甘美……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(4)「大如手拳……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(5)「適欲斫去……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(6)「遲迴未決而節中……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(7)「洪直調好……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(8)「周圍傍出……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(9)「梵志怪之……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(10)「乃作棧閣……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(11)「既清且香……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(12)「有一女兒……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(13)「名曰奈女……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(14)「宣聞遠國……」を読む。
- 『佛説奈女耆婆經』(15)「求媾奈女以爲夫人……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

文献の精読 (60分) 資料作成のための調査・研究 (60分) 資料作成 (60分) 事後の資料修正 (60分)

テキスト

担当者・受講生が準備する。

参考書・参考資料等

『密教大辞典』法蔵館 昭和7年初版

学生に対する評価

資料作成 (30%) 資料修正 (30%) 論文作成 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 文献を十分に精読できる。
- 問題を発見する能力がある。
- 学術報告の作成能力がある。
- 学術論文の作成能力がある。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で対応する。 オフィス・アワーや、その他、時間外における面談、メール等のやりとりでも対応する。

その他

科目名	密教特殊演習G-1(大)							学期	前期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D5-01-347	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

修士論文の成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらおう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みを深めるとともに、史料収集状況を確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①研究史の批判的な検討をすることができる。 ②関係史料の読み込みをさらに深める。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①年に1本は研究論文を書けるように、研究を進める。 ②学内の学会のほか、外部の学会や研究会に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の研究方法を理解し、研究史を批判的に検討することができる。
- (B) 関係史料を深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 学内外の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を書くための準備を進めることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	密教特殊演習G-2(大)							学期	後期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を執筆する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D5-01-348	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

春学期までの研究成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらおう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みをさらに深めるとともに、史料収集状況を再確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①通説を乗り越える道を模索する。 ②文献史料のより深い読み込みを学ぶ。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①研究論文の完成に向けて、研究を進める。 ②外部の学会や研究会に積極的に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究史を批判的に検討し、通説を乗り越える道を模索することができる。
- (B) 文献史料をより深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 外部の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を完成させることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

教員別索引

あ	有松孝雄	企画科目(仏画)	181	か	川崎一洋	祖典演習(大)	353	
		仏教芸術(別)	181			密数学講読(大)	362	
い	伊藤佳世子	英語 I	42	き	菊谷竜大	仏数学概論 I A	68	
う	上野和久	人間学基礎ゼミ I A	146			仏数学概論 A	68	
		人間学基礎ゼミ II A	147			仏数学概論 II B	69	
		企画科目(カウンセリング論 A)	169			仏数学概論 B	69	
		人間学専門講義(カウンセリング論 A)	169			仏数学特殊講義 J	112	
		企画科目(発達心理学 A)	170			仏数学特殊講義 K	113	
		人間学専門講義(発達心理学 A)	170			密数学演習 G	142	
		心理学 I B	290			サンスクリット語 II	336	
		心理学 II B	291			サンスクリット語上級	336	
		人間学演習 I C(臨床心理学演習)	327			仏数学講義 B(大)	351	
		人間学演習 II C(臨床心理学演習)	328			仏数学講読 D(大)	380	
お	大河内大博	人間学特殊ゼミ I F(スピリチュアルケア演習 I)	304	木	地茂典	企画科目(教的処理)	163	
		人間学専門講義(スピリチュアルケア演習 I)	304			教義講義(教的処理)	163	
		人間学特殊ゼミ II F(スピリチュアルケア演習 II)	305			企画科目(自然科学)	164	
		人間学専門講義(スピリチュアルケア演習 II)	305			教義講義(自然科学)	164	
	大柴清圃	密数学講読演習 J	124			情報処理	195	
		密数学講読演習 K	125	北	川真寛	密数学基礎ゼミ E 1	60	
	岡田英作	宗教科教育法 III	256			密数学基礎ゼミ E 2	61	
		仏数学特殊講義 C	278			密数学概論 I A	66	
		仏数学講読演習 C	283			密数学概論 A	66	
		密数学演習 I	288			真言宗の教え(別)	66	
		仏数学演習 D(大)	377			密数学概論 II B	67	
	岡本文音	伝統文化実習(茶道)	197			密数学概論 B	67	
		伝統文化(茶道)	197			祖典講読 I B	87	
	奥山直司	宗教学 I	203			祖典講読 I B 1	88	
		世界の宗教(別)	203			祖典講読 II B 2	89	
		宗教学 II	204			密数学講読演習 B	121	
		宗教思想史 I A	205			密数学演習 N	145	
		密教史概説 I C	266			空海の思想入門 B	264	
		密教史概説 C	266			真言密教講読演習 H	285	
		宗教思想史 I B	340			密数学講義 A(大)	348	
		密教史演習(大)	361			密数学講義 B(大)	349	
	小田龍哉	人間学特殊ゼミ I D(宗教学入門)	302	木	下忠恭	企画科目(心理検査法演習 I)	298	
		人間学専門講義(宗教学入門)	302			人間学専門講義(心理検査法演習 I)	298	
		人間学特殊ゼミ II D(世俗主義と宗教)	303			企画科目(心理検査法演習 II)	299	
		人間学専門講義(世俗主義と宗教)	303			人間学専門講義(心理検査法演習 II)	299	
か	学科主任	導入研修	41	く	窪寺俊之	企画科目(スピリチュアルケア概論)	317	
	加藤榮俊	企画科目(法式上級)	191			人間学専門講義(スピリチュアルケア概論)	317	
		法式上級	191	こ	高祖・辻	企画科目(宗教舞踊)	198	
		法式上級(別)	191			宗教芸能(宗教舞踊)	198	
	加藤善弘	法式	76		小林奈緒美	企画科目(発達心理学 B)	294	
		法式(別)	76			人間学専門講義(発達心理学 B)	294	
	亀位卓阿	英語 II	44			企画科目(家族心理学)	295	
	川口道雄	企画科目(臨床実習 IV)	323			人間学専門講義(家族心理学)	295	
		人間学実践演習(臨床実習 IV)	323			企画科目(華道)	196	
		企画科目(臨床実習 V)	324			伝統文化(華道)	196	
		人間学実践演習(臨床実習 V)	324		五	明優介	企画科目(心理統計学)	306
	川崎一洋	祖典講読 II A	90			人間学専門講義(心理統計学)	306	
		真言宗典講読 2(別)	90			企画科目(心理測定法)	307	
		祖典講読 III A 1	92			人間学専門講義(心理測定法)	307	
		祖典講読 IV A 2	93			企画科目(心理学基礎実験演習 I)	308	
		宗典講読 C	98			人間学専門講義(心理学基礎実験演習 I)	308	
		企画科目(巡礼・遍路 B)	103			企画科目(心理学基礎実験演習 II)	309	
		巡礼・遍路 B	103			人間学専門講義(心理学基礎実験演習 II)	309	
		企画科目(巡礼・遍路 C)	104	さ	齋藤天誓	梵字悉曇 A	193	
		巡礼・遍路 C	104			梵字悉曇(別)	193	
		密数学特殊講義 H	108		坂口太郎	企画科目(歴史学)	199	
		密数学特殊講義 I	109			歴史学	199	
		祖典講読 II E	272			総合科目(書誌学)	200	
		祖典講読 III E 1	273			書誌学	200	
		祖典講読 IV E 2	274			総合科目(古文書学)	201	
		真言密教特殊講義 L	280			古文書学	201	
		真言密教講読演習 J	286			企画科目(古文書解読 A)	202	

教員別索引

さ	坂口 太郎	古文書解説A	202	す	鈴木 晴久	教育原論	243
		日本文化特殊講義C	223			教職入門	244
		博物館概論	235			教育課程論	248
		博物館資料論	237			特別教育活動指導	250
		仏教学講読演習H	284			総合的な学習の時間・特別活動	250
		企画科目(古文書解説B)	339			国語科教育法Ⅰ	258
		古文書解説B	339			国語科教育法Ⅱ	259
		仏教学特殊研究B(大)	371		鈴木 裕範	企画科目(地域産業論)	174
		仏教史特殊研究(大)	373			人間学専門講義(地域産業論)	174
	櫻木 潤	密教学基礎ゼミB1	54		鈴木・佐々	教育実習の研究	262
		密教学基礎ゼミB2	55			教職実践演習(中・高)	263
		密教史概説Ⅱ	71	そ	添田 隆昭	空海の思想入門A	40
		密教史概説B	71			弘法大師空海の生涯(別)	40
		仏教学講読演習B	127		添野 了	梵字悉曇B	338
		密教学演習D	139	た	高田 綾子	キャリアアカウンセリングⅠ-Ⅰ	155
		宗教思想史ⅡA	206			キャリアデザインⅠ	155
		生涯学習概論	234			企画科目(キャリアカウセリソグⅠ-2)	156
		博物館教育論	241			キャリアデザインⅡ	156
		仏教学特殊講義Ⅰ	279			キャリアアカウンセリングⅡ-Ⅰ	157
		密教学講読演習C	281			キャリアデザインⅢ	157
		密教学演習L	289			企画科目(キャリアカウセリソグⅡ-2)	158
		仏教史講読B(大)	383			キャリアデザインⅣ	158
		密教特殊演習G-1(大)	393			キャリアアカウンセリングⅢ-Ⅰ	159
		密教特殊演習G-2(大)	394			キャリアデザインⅤ	159
	櫻木・坂口	博物館実習	242			企画科目(キャリアカウセリソグⅢ-2)	160
	佐々木 聡	密教学基礎ゼミD1	58			キャリアデザインⅥ	160
		密教学基礎ゼミD2	59		竹村 和也	現代の人権	207
		心理学ⅠA	150			教養講義(人権論)	207
		心の科学(別)	150			人権と福祉(別)	207
		心理学ⅡA	151			日本国憲法	225
		教育心理学	245	つ	辻・西山・	企画科目(詠歌)	78
		道徳教育の研究	249			布教B(詠歌)	78
		道徳教育指導論	249			企画科目(詠歌上級)	183
		教育方法論	251		辻 秀道	声明	75
		生徒指導・進路指導	252			声明(別)	75
		教育相談	253			企画科目(声明上級)	192
		企画科目(カウセリソグ論B)	310			声明上級	192
		人間学専門講義(カウセリソグ論B)	310			声明上級(別)	192
		企画科目(学校心理学)	316	て	テジジ'ン・ウセル	総合科目(チベツト仏教入門ⅠB)	179
		企画科目(学校心理学)	316			総合科目(チベツト仏教入門ⅡB)	180
	佐藤 隆彦	真言密教特殊講義M	118			チベツト語A	188
		真言密教特殊講義N	119			チベツト語(別)	188
		真言密教講読演習K	136			総合科目(チベツト仏教入門ⅠA)	331
		密教学演習B	137			総合科目(チベツト仏教入門ⅡA)	332
		企画科目(密教瞑想)	185			チベツト語B	337
		事相研究Ⅰ-1(大)	366	と	土居 夏樹	仏教学特殊講義B	111
		事相研究Ⅰ-2(大)	367			密教学演習E	140
		かなⅠ	80			宗教史Ⅰ	208
し	塩野三恵子	かなⅡ	227			宗教の歴史(別)	208
		条幅制作B(かな)	232			宗教史Ⅱ	209
		キャリア研修	161			祖典講読ⅠC	269
	就職担当	インターンシップ	162			祖典講読ⅠC1	270
		仏教学講読演習F	129			祖典講読ⅡC2	271
	徐 東 軍	仏教学講読演習G	130			密教史特殊研究A(大)	358
		企画科目(仏教芸術実習仏画)	333			密教と文化(大)	365
		社会福祉各論Ⅱ(地域福祉Ⅱ)	153			仏教と文化(大)	365
		社会福祉論	153			密教特殊演習E-1(大)	389
		地域福祉A(別)	153			密教特殊演習E-2(大)	390
		社会保障総論Ⅱ	154		徳重 弘志	サンスクリット語ⅠA	49
		社会保障論	154			サンスクリット語ⅠA	49
		社会保障B(別)	154			サンスクリット語(別)	49
		密教学基礎ゼミF1	62			密教史概説ⅠA	70
す	鈴木 晴久	密教学基礎ゼミF2	63			密教史概説ⅠA	70
		国語学Ⅰ	212			宗典講読A	96
		国語学Ⅱ	213			密教学講読演習H	122

教員別索引

と 徳重弘志	密教学講読演習 I	123	ま 前 谷 彰	仏教史概説 II D	268
	インド学講義 (大)	352		仏教史概説 D	268
富田向真	宗教科教育法 IV	257		仏教学講義 A (大)	350
T.ド ライトライン	宗典講読 B	97		仏教学特殊研究 A (大)	370
	真言密教特殊講義 D	116		仏教学演習 A (大)	374
	真言密教特殊講義 E	117		仏教学演習 B (大)	375
	真言密教講読演習 B	132		仏教学演習 C (大)	376
	真言密教講読演習 C	133		仏教学講読 B (大)	379
	真言密教講読演習 D	134	松 下 歩 睦	企画科目 (社会心理学)	311
	真言密教講読演習 E	135		人間学専門講義 (社会心理学)	311
	密教学特殊研究 A (大)	354	松 長 潤 慶	祖典講読 I A	87
	密教学特殊研究 B (大)	355		真言宗典講読 I (別)	87
	密教学特殊研究 C (大)	356		祖典講読 I A 1	88
	密教学特殊研究 D (大)	357		祖典講読 II A 2	89
	事相研究 II-1 (大)	368		密教学特殊講義 A	105
	事相研究 II-2 (大)	369		密教学講読演習 A	120
な 内 藤 栄	仏教芸術の研究 A (大)	384		密教学演習 F	141
中西雄泰	真言密教特殊講義 A	114		宗教科教育法 I	254
	密教儀礼の理論と実習 (別)	114		宗教科教育法 II	255
	真言密教特殊講義 B	115		密教学特殊講義 F	276
那須真裕美	仏教学特殊講義 A	110		密教学講読演習 G	282
	博物館資料保存論	238		密教史講読 (大)	363
	博物館情報・メディア論	240		アジア地域の宗教文化の研究 (大)	385
	仏教学特殊研究 C (大)	372	松 本 貴 子	日本文化 A	81
に 西 脇 仁	体育実技	194		日本文化 B	82
人間学科主	企画科目 (ボランティア)	101		人間学特殊ゼミ I B (日本文化)	83
	ボランティア	101		日本文化 C	83
の 野 田 悟	漢字 I	79		人間学特殊ゼミ II B (日本社会)	84
	中国文化講読演習 A	224		日本文化 D	84
	漢字 II	226		企画科目 (日本社会)	84
	篆刻	228		日本文化 E	85
	篆刻 I	229		日本文化 F	86
	篆刻 II	230		企画科目 (日本語留生中級 B)	186
	条幅制作 A (漢字)	231		企画科目 (日本語留生上級 B)	187
	書道史 (中国)	233	松 山 典 子	企画科目 (高野山国際観光入門)	184
	書道史	233	み 溝 端 悠 朗	密教学演習 K	143
	密教学特殊講義 D	275		密教学演習 M	144
	密教学特殊講義 G	277		人間学演習 I F	178
は 橋 本 久 仁 彦	企画科目 (コミュニケーション演習 I)	292		人間学演習 II F	178
	人間学実習 (コミュニケーション演習 I)	292		国文法 I	214
	企画科目 (コミュニケーション演習 II)	293		国文法 II	215
	人間学実習 (コミュニケーション演習 II)	293		日本文学史概説 I	216
橋 本 真 人	布教	77		日本文学史概説 II	217
	布教 A	77		日本文学 I	218
	布教 (別)	77		日本文学 II	219
土生川正賢	中国語 I	189		日本文化特殊講義 A	222
	中国語 II	190		国語科教育法 III	260
ひ 平 岡 宏 一	仏教学講読演習 I	131		仏教学講読 A (大)	378
	仏教学講読 E (大)	381		仏教史講読 A (大)	382
ふ 藤 井 知 枝	企画科目 (日本語留生中級 A)	50	密 学 科 主	密教学基礎ゼミ G 1	64
	日本語 A	50		密教学基礎ゼミ G 2	65
	企画科目 (日本語留生上級 A)	51		企画科目 (加行 I)	99
	日本語 B	51		加行 I	99
藤 本 善 光	企画科目 (寺院運営入門)	182		企画科目 (加行 II)	100
ま 前 谷 彰	仏教史概説 I A	72		加行 II	100
	仏教史概説 A	72		企画科目 (巡礼・遍路 A)	102
	積尊の生涯 (別)	72		巡礼・遍路 A	102
	仏教史概説 II B	73	南 昌 宏	漢文	46
	仏教史概説 B	73		漢文 I	47
	仏教学講読演習 A	126		漢文 II	48
	密教学演習 C	138		密教学基礎ゼミ A 1	52
	サンスクリット語 I B	265		密教学基礎ゼミ A 2	53
	サンスクリット語 B	265		哲学	210
	仏教史概説 I C	267		漢文学概論 I	220
	仏教史概説 C	267		漢文学概論 II	221

教員別索引

み	南 昌 宏	国語科教育法Ⅳ	261	も	森 本 一 彦	人間学演習Ⅱ A	177
		密教学演習 H	287			宗教学方法論	211
		密教学演習 A (大)	359			教育社会学	246
		密教学演習 B (大)	360	や	山 口 文 章	比較宗教の研究 (大)	386
		密教特殊演習 F-1 (大)	391			博物館経営論	236
		密教特殊演習 F-2 (大)	392		山 口 隆 介	博物館展示論	239
	宮 田 永 明	常用経典	74		山 添 正	企画科目 (臨床心理学面接演習Ⅰ B)	312
		常用経典 (別)	74			人間学専門講義 (臨床心理学面接演習Ⅰ B)	312
	宮 本 直 美	特別支援教育	247			企画科目 (臨床心理学面接演習Ⅱ B)	313
も		森 崎 雅 好	仏教学講読演習 D	128			人間学専門講義 (臨床心理学面接演習Ⅱ B)
	人間学特殊ゼミⅠ A (悲嘆学)		171	や	まただよこ	企画科目 (もの語り心理学)	318
		人間学専門講義 (悲嘆学 A)	171			人間学専門講義 (もの語り心理学)	318
		企画科目 (悲嘆学 A)	171		山 本 和 美	企画科目 (臨床心理学面接演習Ⅲ)	314
		人間学特殊ゼミⅡ A (自殺学)	172			人間学専門講義 (臨床心理学面接演習Ⅲ)	314
		人間学専門講義 (自殺学 A)	172		山 本 佳 世 子	企画科目 (死生観 B)	319
		企画科目 (自殺学 A)	172			人間学専門講義 (死生観 B)	319
		人間学特殊ゼミⅠ E (悲嘆学)	296		山 脇 雅 夫	教育学特殊研究 (大)	388
		人間学専門講義 (悲嘆学 E)	296	よ	米 田 弘 仁	祖典講読Ⅱ B	91
		企画科目 (深層心理学)	297			祖典講読Ⅲ B 1	94
		人間学専門講義 (深層心理学)	297			祖典講読Ⅳ B 2	95
		企画科目 (福祉心理学)	300	わ	和 田 圭 子	密教学特殊講義 B	106
		人間学専門講義 (福祉心理学)	300			密教学特殊講義 C	107
		人間学専門講義 (自殺学)	301				
		人間学専門講義 (自殺学)	301				
		企画科目 (臨床心理学面接演習Ⅳ)	315				
		人間学専門講義 (臨床心理学面接演習Ⅳ)	315				
		企画科目 (臨床実習Ⅰ)	320				
		人間学実践演習 (臨床実習Ⅰ)	320				
		企画科目 (臨床実習Ⅱ)	321				
		人間学実践演習 (臨床実習Ⅱ)	321				
		企画科目 (臨床実習Ⅲ)	322				
		人間学実践演習 (臨床実習Ⅲ)	322				
		企画科目 (聖地巡礼Ⅰ)	325				
		人間学実践演習 (聖地巡礼Ⅰ)	325				
		企画科目 (聖地巡礼Ⅱ)	326				
		人間学実践演習 (聖地巡礼Ⅱ)	326				
		人間学演習Ⅰ D (臨床心理学演習)	329				
		人間学演習Ⅱ D (臨床心理学演習)	330				
		企画科目 (伝統工芸実習彫刻Ⅰ)	334				
		企画科目 (伝統工芸実習彫刻Ⅱ)	335				
		現代社会と宗教 (大)	364				
		現代社会と仏教の研究 (大)	387				
	森 本 敦 子	英語Ⅰ (再履修)	43				
		英語Ⅱ (再履修)	45				
	森 本 一 彦	密教学基礎ゼミ C1	56				
		密教学基礎ゼミ C2	57				
		人間学基礎ゼミⅢ A	148				
		人間学基礎ゼミⅣ A	149				
		社会学Ⅱ	152				
		社会学	152				
		社会保障 A (別)	152				
		企画科目 (人文科学)	165				
		教養講義 (人文科学)	165				
		企画科目 (社会科学)	166				
		教養講義 (社会科学)	166				
		企画科目 (社会調査)	167				
		人間学実習 (社会調査)	167				
		企画科目 (高野文化圏論)	168				
		人間学専門講義 (高野文化圏論)	168				
		企画科目 (地域連携)	173				
		人間学専門講義 (地域連携)	173				
		地域福祉 B (別)	173				
		人間学実践演習 (学外研修①)	175				
		人間学実践演習 (学外研修②)	176				
		人間学演習Ⅰ A	177				

講義概要・授業計画 令和4年度(2022)

2022年4月1日発行

編集・発行 高野山大学
〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
Tel. (0736) 56-5027 (学務課教務係)
Fax. (0736) 56-5048
E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp
URL : <https://www.koyasan-u.ac.jp>
